墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

1997

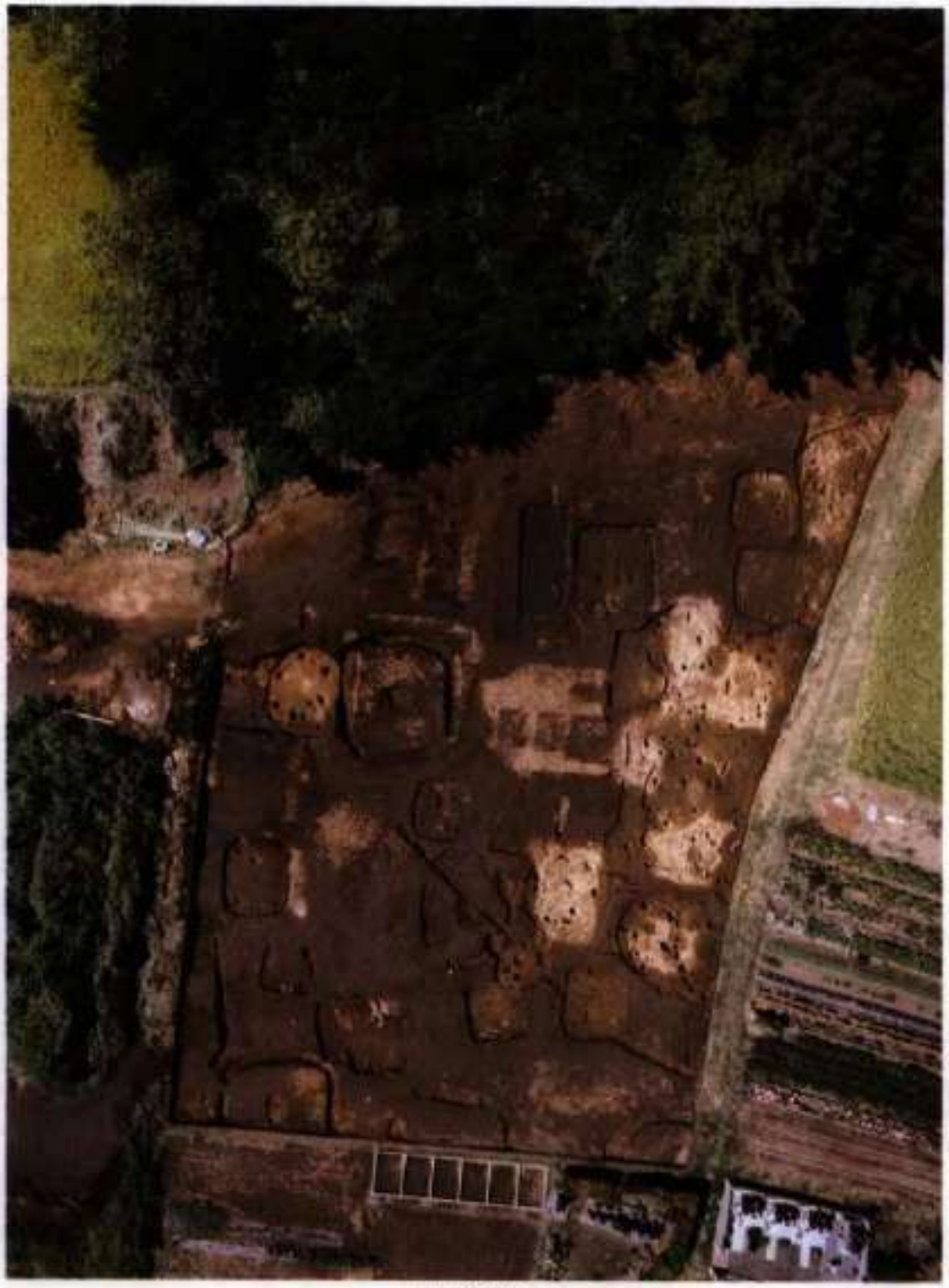
長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

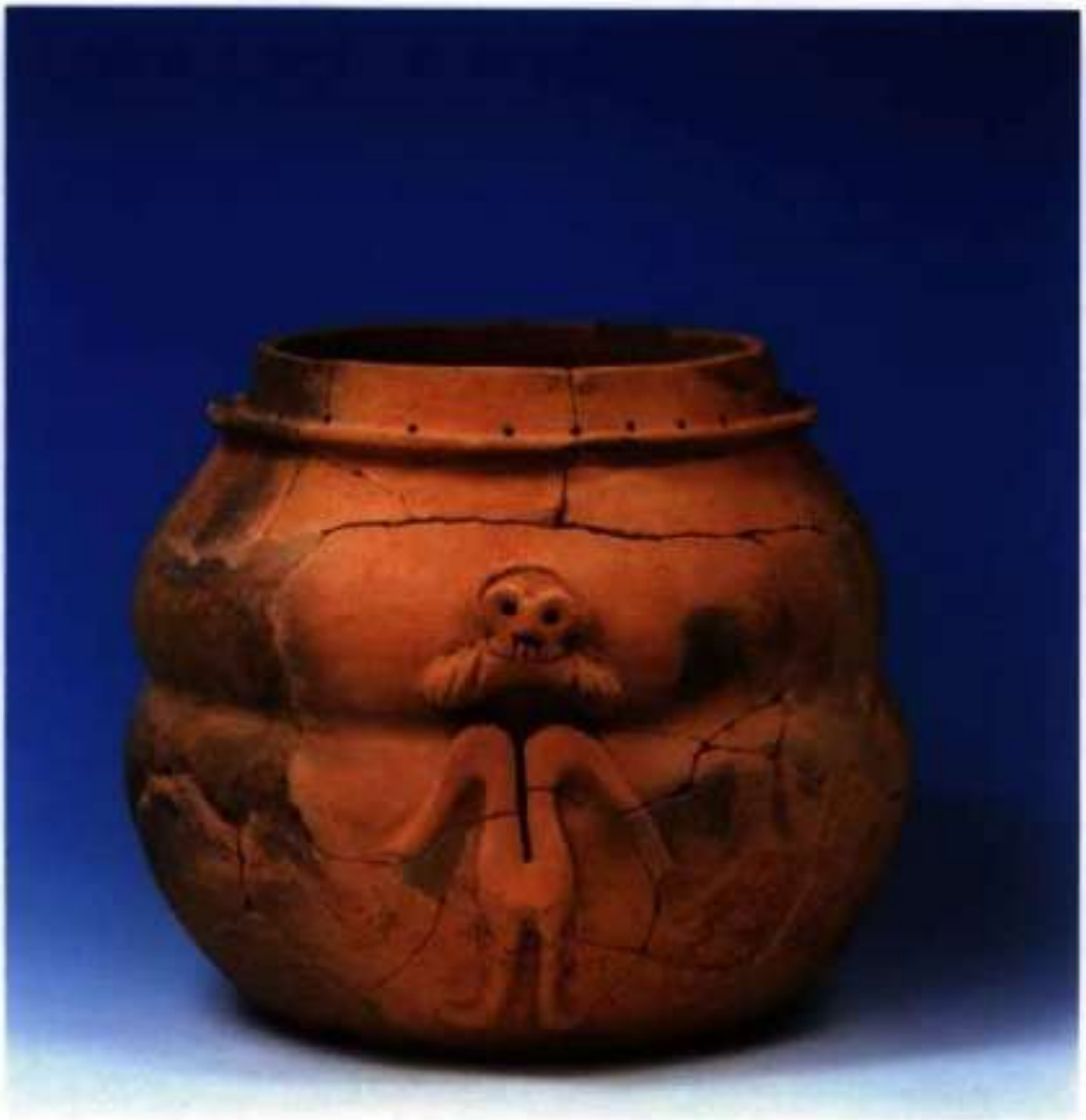
久保上ノ平遺跡

1997

長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会



調査地B区



有孔鍔付土器（40号住居址出土）

人の手をモチーフにもつ土器片（土器廃棄場出土）

40号住居址有孔鍔付土器出土状態

特殊遺構土器出土状態

久保上ノ平遺跡調査地（南方より）

序

本報告書は、久保上ノ平地籍に、南箕輪村が墓地公園の造成工事を、続いて南箕輪村土地開発公社が宅地造成工事を行うに当たり、平成7年4月から9月まで、遺跡の記録保存のため実施した緊急発掘調査の記録であります。発掘は墓地公園予定地の約1,000㎡、宅地開発予定地の約2,000㎡を対象として行いました。

調査の結果、この遺跡は縄文時代中期、弥生時代後期、奈良平安時代の三時期にわたる複合遺跡であることが明らかとなりました。縄文中期の遺構では、吉付浅鉢型土器を中心とした祭祀行為を思わせる土器配列、遺物には人の手を写実的に表現した土器破片、人体文様の付いた有孔鍔付土器など、特徴のあるものが出土しました。周溝墓が密集して発見されたことも特筆すべきことと思います。また、平安時代の住居跡からは灰釉陶器がまとまって出土しており、当時の生活を考察するのに大きな手掛かりを与えてくれることでしょう。このような特徴をもつもの以外にも、遺構・遺物が数多く、高い密度で出土しており、発掘・整理に神経を使い、たいへんな時間を必要としました。本報告書は記録性に重点を置いて記述・編集してありますので、村郷土館に保管してある出土品や発掘記録とともに、研究の資料として役立てていただければ幸いであります。

現地検討会にお招きした明治大学教授（現学長）の戸沢充則先生は「この遺跡の立地、地形からして地域の中核となる大規模な拠点的集落であると推定できる。集落はどのような広がりをもっているか、特殊遺構は集落全体の中でどう位置づくか、土器の配列はどうなっているかなど、全体として解明されて、そのもつ意味がわかってくるであろう」と、今後の調査、整理分析についてのご示唆をいただきました。今後の課題として取り組みたいと思います。

9月末、現場の作業を終了するに当たり、私は調査団の皆さんに「今、こうして地表に姿を現した遺構を眺めて思うことは、4～5,000年も前にこの土地に暮らしていた人々のことです。争いもなく、おおらかで、自然の恵みに感謝し、自然の偉大さへの畏れと慎みをもって生活していたことであろうと思います。祭祀跡と推測される特殊遺構をみて、その思いをさらに深くしました。また、周溝墓に眠っていた人達には、お騒がせをして申し訳ありませんでした。残してくれた物は、大切に保存し子孫に伝えてまいります」と挨拶しました。そのあと、特殊遺構と周溝墓に酒を献じ、調査団20余名で黙禱を捧げました。日の陰った発掘現場に静寂の一時が流れ、目をあげると、昔の人達も仰いでいたであろう南アルプスの山々が夕日に輝き、くっきりと聳えておりました。

試掘からはじまって、発掘、出土品の整理、復元、報告書の作成に携わっていただいた調査員、作業員の皆さん、本当にありがとうございました。発掘現場に何回となく足を運んでご指導いただいた県文化課・県立歴史館をはじめとする諸先生方、発掘に手を貸していただいた近隣の学芸員の方々、その他多くの皆さんにたいへんお世話様になりました。心から感謝申し上げます。

南箕輪村教育委員会

教育長　杉澤　崇

例　言

1　本書は長野県上伊那郡南箕輪村1164－1他7筆に所在する久保上ノ平遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は南箕輪村による墓地公園の造成と南箕輪村土地開発公社による宅地造成に伴い、南箕輪村教育委員会が行ったものである。

3　この遺跡の名称を当初、丸山遺跡として調査を行ったが、調査地の地字名から久保上ノ平遺跡と名称変更した。このことから本報告書では旧称を使用せず、久保上ノ平遺跡と記述している。

4　本報告書は発掘調査の結果を公開することに重点をおき、作成・編集した。

5　発掘調査は平成7年4月6日から平成7年9月20日まで行い、引き続いて整理作業及び報告書の執筆・編集を行った。

6　本書作成における作業は以下のように分担した。

遺構図の整理・トレース　　五十嵐正子・福澤京子・友松　諭

遺物の実測・トレース　　太田祥二・小澤よね子・飯塚美喜子・平澤克久・友松　諭

拓影図作成　　飯塚美喜子・松澤英太郎・友松　諭

写真図版作成　　松澤英太郎・友松　諭

7　本書の執筆・編集は友松　諭が行った。

8　本書で掲載した図版の縮尺は、遺構図1：40、1：60、1：80に統一した。

9　遺物実測図は1：3、1：4を基準にしているが、小個体の場合に2：3、1：2を用いた。

10　土器の復元は福沢幸一氏に委託し行った。

11　航空写真の撮影は㈱ジャスティックに委託し行った。

12　試掘調査から本書の作成までの間、下記の機関、個人の方々にご指導、ご協力を頂いた。

○機関　　長野県教育委員会・長野県立歴史館・南箕輪村久保区
南箕輪村文化財専門委員会

○個人　　赤松　茂・飯塚政美・伊藤　修・神村　透・唐木孝雄・小池　孚・小平和夫
柴　登巳夫・島田哲男・白鳥喜一郎・新谷和孝・戸澤充則・福島　永・松原和也
丸山敏一郎・三上徹也・宮下健司・宮脇正実　　（敬称略　五十音順）

13　本書で報告した各記録、出土遺物は南箕輪村教育委員会で保管している。

本文目次

口　絵
序
例　言

第1章　遺跡の立地と環境……1
　第1節　遺跡の位置……1
　第2節　自然環境……2
　第3節　歴史的環境……2
　第4節　基本層序……6
第2章　調査の経緯……8
　第1節　調査の契機と経過……8
　　調査日誌……11
　第2節　調査の体制……15
第3章　調査結果……16
　第1節　縄文時代の遺構と遺物……16
　(1)竪穴住居址……16
　　3号住居址　5号住居址　13号住居址　24号住居址　25号住居址
　　27号住居址　28号住居址　29号住居址　30号住居址　31号住居址
　　32号住居址　33号住居址　34号住居址　35号住居址　37号住居址
　　38号住居址　40号住居址　41号住居址
　(2)土器廃棄場……91
　(3)特殊遺構……91
　(4)配石遺構……108
　(5)土　坑……109
　第2節　弥生時代の遺構と遺物……111
　(1)竪穴住居址……111
　　4号住居址　16号住居址　18号住居址　19号住居址　23号住居址
　(2)周溝墓……123
　　1号周溝墓　2号周溝墓　3号周溝墓　4号周溝墓　5号周溝墓
　　6号周溝墓　7号周溝墓　8号周溝墓　9号周溝墓
　(3)溝址……131

第3節　奈良・平安時代の遺構と遺物 ……133
(1)竪穴住居址 ……133
1号住居址　2号住居址　6号住居址　8号住居址　9号住居址
10号住居址　11号住居址　12号住居址　15号住居址　17号住居址
20号住居址　21号住居址　22号住居址　26号住居址　36号住居址
39号住居址
第4節　その他の遺構と遺物 ……168
(1)竪穴住居址 ……168
7号住居址　14号住居址
(2)掘立柱建物址 ……168
1号掘立柱建物址　2号掘立柱建物址
(3)柱穴遺構 ……171
(4)溝状遺構 ……171
(5)遺構外出土遺物 ……171
第4章　総　括 ……174

引用参考文献
図　版

挿図目次

第1図　遺跡位置図……1
第2図　地形・地質区分図……3
第3図　周囲遺跡分布図……5
第4図　土層柱状図……7
第5図　調査範囲図……9
第6図　遺構全体図……10
第7図　3号住居址実測図……16
第8図　3号住居址出土土器拓影図……17
第9図　5号住居址実測図……17
第10図　5号住居址出土遺物実測図……18
第11図　5号住居址出土土器拓影図……18
第12図　13号住居址実測図……19
第13図　13号住居址出土遺物実測図①……20
第14図　13号住居址出土遺物実測図②……21
第15図　13号住居址出土土器拓影図……21
第16図　24号住居址実測図……22
第17図　24号住居址出土遺物実測図……23
第18図　25号住居址出土遺物実測図①……24
第19図　25号住居址実測図……25・26
第20図　25号住居址出土遺物実測図②……27
第21図　25号住居址出土遺物実測図③……28
第22図　25号住居址出土遺物実測図④……29
第23図　25号住居址出土土器拓影図……30
第24図　25号住居址出土遺物実測図⑤……31
第25図　27号住居址実測図……33
第26図　27号住居址出土遺物実測図①……34
第27図　27号住居址出土遺物実測図②……35
第28図　27号住居址出土遺物実測図③……36
第29図　27号住居址出土土器拓影図……37
第30図　27号住居址出土遺物実測図④……37
第31図　28・29号住居址実測図……38
第32図　28号住居址出土遺物実測図……39
第33図　28号住居址出土土器拓影図……40
第34図　29号住居址出土遺物実測図……40
第35図　30号住居址実測図……41
第36図　30号住居址出土遺物実測図①……42
第37図　30号住居址出土遺物実測図②……43
第38図　30号住居址出土遺物実測図③……44
第39図　31号住居址実測図……46
第40図　31号住居址出土遺物実測図……47
第41図　31号住居址出土土器拓影図……47
第42図　32号住居址出土遺物位置図……48
第43図　32号住居址出土遺物実測図①……49
第44図　32号住居址出土遺物実測図②……50
第45図　32号住居址出土遺物実測図③……51
第46図　32号住居址出土遺物実測図④……52
第47図　32号住居址出土遺物実測図⑤……53
第48図　32号住居址出土遺物実測図⑥……54
第49図　32号住居址出土遺物実測図⑦……55
第50図　32号住居址出土遺物実測図⑧……56
第51図　32号住居址出土遺物実測図⑨……57
第52図　33号住居址出土遺物実測図①……58
第53図　32・33号住居址実測図……59・60
第54図　33号住居址出土遺物実測図②……61
第55図　33号住居址出土土器拓影図……62
第56図　34号住居址炉址実測図……62
第57図　34号住居址実測図……63
第58図　34号住居址出土遺物実測図①……64
第59図　34号住居址出土遺物実測図②……65
第60図　34号住居址出土遺物実測図③……66
第61図　34号住居址出土遺物実測図④……67
第62図　34号住居址出土遺物実測図⑤……68

第63図　35号住居址実測図……69
第64図　35号住居址出土遺物実測図①……70
第65図　35号住居址出土遺物実測図②……71
第66図　37号住居址出土遺物実測図①……72
第67図　37・38号住居址実測図 ……73・74
第68図　37号住居址出土遺物実測図②……75
第69図　37号住居址出土遺物実測図③……76
第70図　37号住居址出土遺物実測図④……77
第71図　37号住居址出土遺物実測図⑤……78
第72図　37号住居址出土遺物実測図⑥……79
第73図　37号住居址出土土器拓影図……79
第74図　37号住居址出土遺物実測図⑦……80
第75図　37号住居址出土遺物実測図⑧……81
第76図　37号住居址出土遺物実測図⑨……82
第77図　37号住居址出土遺物実測図⑩……83
第78図　40号住居址実測図……84
第79図　40号住居址出土遺物実測図…85・86
第80図　41号住居址出土遺物実測図①……87
第81図　41号住居址出土土器拓影図……88
第82図　41号住居址実測図……89
第83図　41号住居址出土遺物実測図②……90
第84図　土器廃棄場出土有孔鍔付土器拓影図 ……91
第85図　土器廃棄場平面図……92
第86図　土器廃棄場出土遺物実測図①……93
第87図　土器廃棄場出土遺物実測図②……94
第88図　土器廃棄場出土石器実測図①……95
第89図　土器廃棄場出土石器実測図②……96
第90図　土器廃棄場出土石器実測図③……97
第91図　土器廃棄場出土石器実測図④……98
第92図　土器廃棄場出土石器実測図⑤……99
第93図　特殊遺構出土土器位置図① ……101
第94図　特殊遺構出土土器位置図② ……102
第95図　特殊遺構出土遺物実測図① ……103
第96図　特殊遺構出土遺物実測図② ……104
第97図　特殊遺構出土遺物実測図③ ……105
第98図　特殊遺構出土遺物実測図④ ……106
第99図　特殊遺構出土遺物実測図⑤ ……107
第100図　配石遺構実測図……108
第101図　配石遺構出土遺物実測図……109
第102図　土坑27出土遺物実測図……110
第103図　4号住居址出土遺物実測図……111
第104図　4号住居址実測図……112
第105図　16号住居址土層断面図……113
第106図　16号住居址実測図……114
第107図　16号住居址出土遺物実測図……115
第108図　18号住居址実測図……116
第109図　18号住居址出土遺物実測図……117
第110図　19号住居址実測図……118
第111図　19号住居址出土遺物実測図……119
第112図　23号住居址実測図……120
第113図　23号住居址出土遺物実測図①…121
第114図　23号住居址出土遺物実測図②…122
第115図　1号周溝墓実測図……123
第116図　2号周溝墓実測図……124
第117図　3号周溝墓実測図……126
第118図　4号周溝墓実測図……127
第119図　5号周溝墓実測図……128
第120図　6号周溝墓実測図……128
第121図　7号周溝墓出土遺物実測図……129
第122図　7号周溝墓実測図……129
第123図　8号周溝墓・囲溝址実測図……130
第124図　9号周溝墓実測図……132
第125図　1号住居址実測図……133
第126図　1号住居址出土遺物実測図……134
第127図　2号住居址実測図……134
第128図　2号住居址出土遺物実測図……134
第129図　6号住居址焼土範囲図……135
第130図　6号住居址実測図……136

第131図　6号住居址出土遺物実測図①…137
第132図　6号住居址出土遺物実測図②…138
第133図　8号住居址実測図……138
第134図　8号住居址出土遺物実測図……139
第135図　9号住居址出土遺物実測図……140
第136図　9・10号住居址実測図……141
第137図　7・9号住居址土層断面図……142
第138図　10号住居址カマド実測図……142
第139図　10号住居址出土遺物実測図……143
第140図　11号住居址出土遺物位置図……144
第141図　11号住居址実測図……145
第142図　11号住居址出土遺物実測図①…146
第143図　11号住居址出土遺物実測図②…147
第144図　12号住居址実測図……148
第145図　12号住居址出土遺物実測図……149
第146図　15号住居址実測図……150
第147図　15号住居址出土遺物実測図……151
第148図　17号住居址実測図……153
第149図　17号住居址出土遺物実測図……154
第150図　20号住居址実測図……155
第151図　20号住居址出土遺物実測図……156
第152図　21号住居址カマド実測図……156
第153図　21・22号住居址実測図 ……157
第154図　21号住居址出土遺物実測図……158
第155図　22号住居址出土遺物実測図……159
第156図　26号住居址実測図……160
第157図　26号住居址出土遺物実測図……162
第158図　36・39号住居址実測図 ……163
第159図　36号住居址土層断面図……164
第160図　36号住居址カマド実測図……164
第161図　36号住居址出土遺物実測図①…165
第162図　36号住居址出土遺物実測図②…166
第163図　39号住居址出土遺物実測図……167
第164図　1・2号掘立柱建物址、柱穴遺構実測図…169・170
第165図　遺構外出土土器拓影図……171
第166図　遺構外出土遺物実測図①……172
第167図　遺構外出土遺物実測図②……173

表　目　次

第1表　周辺遺跡一覧表……6
第2表　土器廃棄場出土土器量一覧表……99
第3表　土坑一覧表 ……177
第4表　縄文時代の遺構出土土器観察表 ……178
第5表　弥生時代の遺構出土土器観察表 ……180
第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表 ……181
第7表　土偶観察表 ……187
第8表　その他の土製品 ……187
第9表　縄文時代の遺構出土石器観察表 ……188
第10表　弥生時代の遺構出土石器観察表 ……190
第11表　弥生時代の遺構出土鉄器観察表 ……190
第12表　奈良・平安時代の遺構出土鉄製品観察表 ……191

第13表　出土鉄滓一覧表 ……191
第14表　遺構外出土石器観察表 ……191
第15表　遺構外出土鉄器観察表 ……191

図版目次

図版1　3号住居址　5号住居址　24号住居址　24号住居址炉址

図版2　25号住居址　25号住居址土層断面　25号住居址遺物出土状態　25号住居址炉址

図版3　27号住居址　27号住居址遺物出土状態　27号住居址土坑14遺物出土状態　28号住居址　28号住居址遺物出土状態

図版4　30号住居址　30号住居址炉址　30号住居址遺物出土状態　31号住居址　31号住居址炉址

図版5　32·33号住居址　32号住居址炉址　32号住居址遺物出土状態　33号住居址土坑17遺物出土状態　33号住居址遺物出土状態

図版6　34号住居址　34号住居址炉址　34号住居址遺物出土状態

図版7　35号住居址　37号住居址　37号住居址遺物出土状態

図版8　40·39·36号住居址　40号住居址遺物出土状態　40号住居址土層断面　41号住居址

図版9　特殊遺構　特殊遺構遺物出土状態

図版10　配石址　4号住居址　4号住居址炉址　4号住居址遺物出土状態

図版11　16号住居址　18号住居址　18号住居址炉址

図版12　18号住居址遺物出土状態　19号住居址　19号住居址炉址　23号住居址　23号住居址炉址　23号住居址遺物出土状態

図版13　1号周溝墓　2号周溝墓　3号周溝墓　4号周溝墓　5号周溝墓　6号周溝墓　7号周溝墓　9号周溝墓

図版14　1号住居址　2号住居址　6号住居址　6号住居址カマド周辺遺物出土状態　6号住居址遺物出土状態

図版15　8号住居址　9号住居址　9号住居址カマド袖部分　9号住居址遺物出土状態

図版16　10号住居址　10号住居址カマド　11号住居址　11号住居址カマド　11号住居址遺物出土状態

図版17　12号住居址　15号住居址　15号住居址カマド　15号住居址遺物出土状態

図版18　17号住居址　17号住居址カマド　20号住居址　20号住居址カマド　20号住居址遺物出土状態　21·22号住居址　21号住居址遺物出土状態　21号住居址カマド

図版19　21号住居址カマド　26号住居址　26号住居址カマド　36·39号住居址　36号住居址カマド　36号住居址遺物出土状態

図版20　36号住居址遺物出土状態　39号住居址カマド　土坑1　土坑1土層断面　掘立柱建物址、柱穴遺構

図版21　13号住居址出土土器　24号住居址炉址埋設土器　25号住居址炉址埋設土器　25号住居址出土土器

図版22　27号住居址出土土器　28号住居址出土土器

図版23　30号住居址出土土器　30号住居址炉址埋設土器　32号住居址出土土器

図版24　32号住居址出土土器　32号住居址炉址埋設土器

図版25　32号住居址出土土器　33号住居址出土土器　33号住居址出土器台　34号住居址出土土器

図版26　34号住居址炉址埋設土器　34号住居址出土土器　35号住居址出土土器　37号住居址出土土器

図版27　37号住居址出土土器

図版28　40号住居址出土土器　41号住居址出土土器　特殊遺構出土土器

図版29　特殊遺構出土土器　配石址出土土器

図版30　土坑27出土土器　25号住居址出土顔面把手　34号住居址顔面把手　34号住居址出土土偶　土器廃棄場出土土製品　土器廃棄場出土土偶　32号住居址　出土土偶　34号住居址出土土偶

図版31　4号住居址炉址埋設土器　4号住居址出土土器　16号住居址出土土器　16号住居址出土土製品　18号住居址炉址埋設土器　18号住居址出土土器　19号住居址炉址埋設土器　23号住居址出土土器　23号住居址炉址埋設土器

図版32　1号住居址出土土器　6号住居址出土土器　8号住居址出土土器　8号住居址出土転用硯　9号住居址出土土器　11号住居址出土土器　11号住居址出土陶器

図版33　11号住居址出土陶器　11号住居址出土土器　12号住居址出土土器

図版34　15号住居址出土土器　15号住居址出土陶器

図版35　17号住居址出土土器　20号住居址出土土器　21号住居址出土土器　22号住居址出土土器

図版36　26号住居址出土土器　36号住居址出土陶器　36号住居址出土土器

図版37　5号住居址出土石器　13号住居址出土石器　24号住居址出土石器　25号住居址出土石器　27号住居址出土石器　28号住居址出土石器　30号住居址出土石器　32号住居址出土石器

図版38　32号住居址出土石器　33号住居址出土石器　34号住居址出土石器　35号住居址出土石器　37号住居址出土石器　41号住居址出土石器

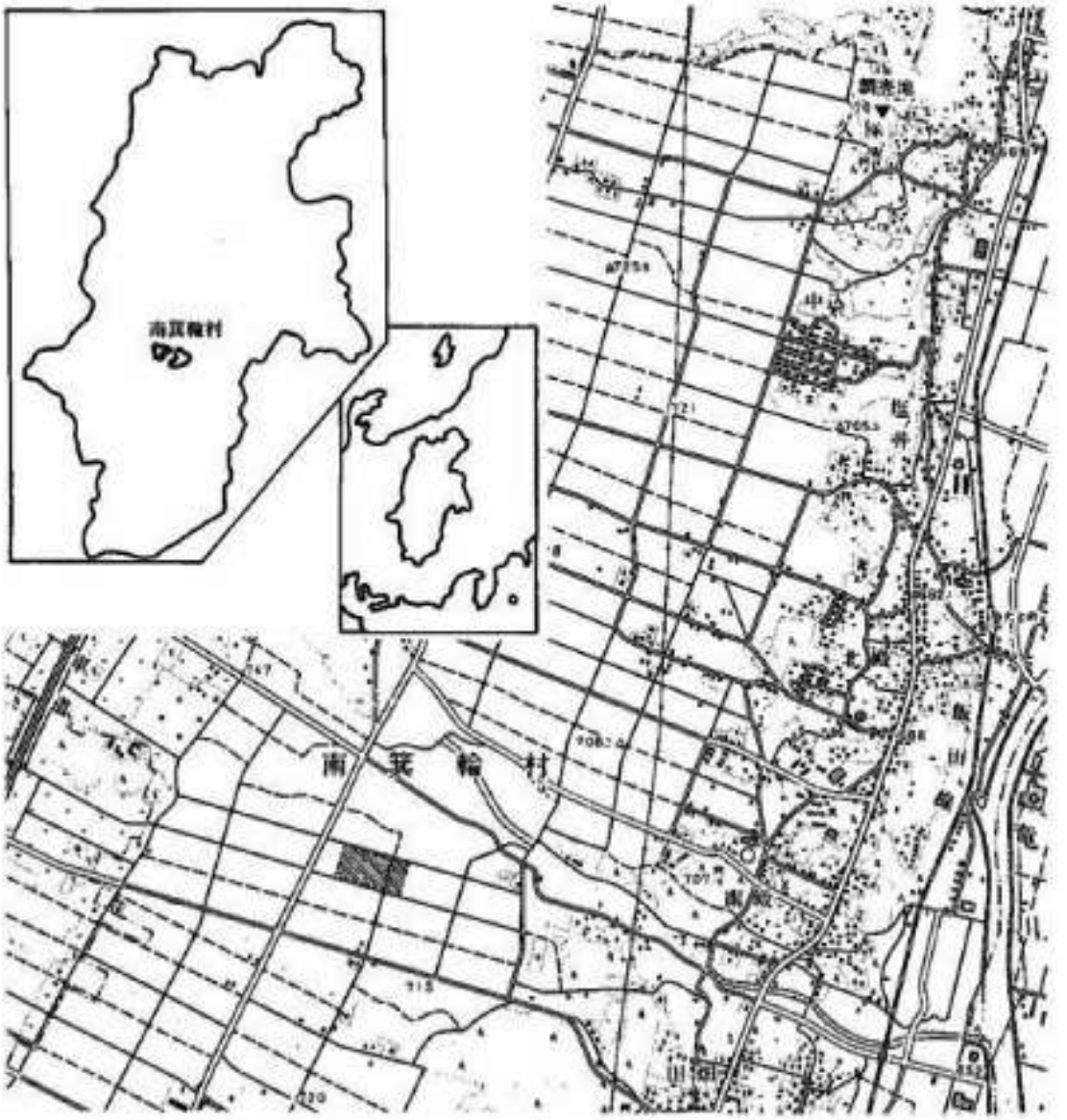
図版39　土器廃棄場出土石器　27号住居址出土石鏃　29号住居址出土石鏃　41号住居址出土石鏃　土器廃棄場出土石鏃　23号住居址出土不定形石器　34号住居址　出土石鏃　土器廃棄場出土　石匙　土器廃棄場出土不定形石器　16号住居址出土石器　18号住居址出土石器　19号住居址出土石鏃　23号住居址出土石器

図版40　12号住居址出土鉄製品　36号住居址出土鉄製品　39号住居址出土鉄製品　調査地内出土鉄滓　遺構外出土鉄製品　11号住居址出土鉄製品　6号住居址　出土鉄製品　20号住居址出土鉄製品　19号住居址出土鉄製品　7号周溝墓出土鉄製品

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置

久保上ノ平遺跡は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊那谷北部の天竜川右岸の段丘の突端、標高702.0ｍにあり、南箕輪村1164番地１他７筆(久保上ノ平)で、村の北端の集落のすぐ西に位置している。段丘上段から２段目の比較的狭い段丘面で、段丘の西は切り開かれた田畑が山麓まで続き、東は集落に続き水田が広がり、北には北沢川が流れている。遺跡からは眼下に天竜川



第１図　遺跡位置図　　1：25,000

により形成された沖積地に広がる水田地帯と、南アルプスの山麓を一望することができ、景観のたいへん良いところである。

第2節　自然環境

南箕輪村は長野県伊那盆地北部の広く開けた地域の天竜川右岸に位置している。地形的にみると西に位置する木曽山脈経ヶ岳山地群に属する経ヶ岳南東部の飛地を除いては、その麓を扇頂とする扇状地と天竜川により形成された沖積地からなっている。

扇状地は一部天竜川、小沢川の複合扇状地になっているが、ほとんどが大泉川により形成されたものである。山麓から段丘突端部までの幅は最大で約4.5km、標高は700ｍから900ｍに及び、東へ約2度のゆるやかな傾斜地となっている。古くは山林や原野だったが、現在では広大な農耕地域となっている。

扇状地扇端部は、雛壇状に段丘が形成されている。また、扇状地特有の湧水からなる小河川の侵食により形成された沢が10箇所みられる。

天竜川沿いに続く段丘は最大で標高差約40ｍを測り、一部には断層の影響を観察できるところがあるため、その地形形成は大泉川や天竜川等、河川の流出や侵食だけではないことが推定される。

自然水系としては西の山地より流れる大泉川・大清水川・戸谷川のほか、前述した段丘崖を源流とする北沢川・南沢川・滝ノ沢川等の小河川が天竜川に流れ込んでいる。

西の山麓から流れ出る河川は扇状地扇央部では伏流し水量は激減するが、扇端部付近で再び湧出する。また、扇端部には多くの湧水がみられる。この湧水は水量及び水温が比較的安定しているので、現在ではそれを利用したワサビ栽培が行われている。

これら扇端部からの湧水量と水質は、昭和3年に扇状地を横切る形でつくられた灌漑用水幹線水路の西天竜水路の完成とそれにともなう大規模な開田により変化したといわれる。

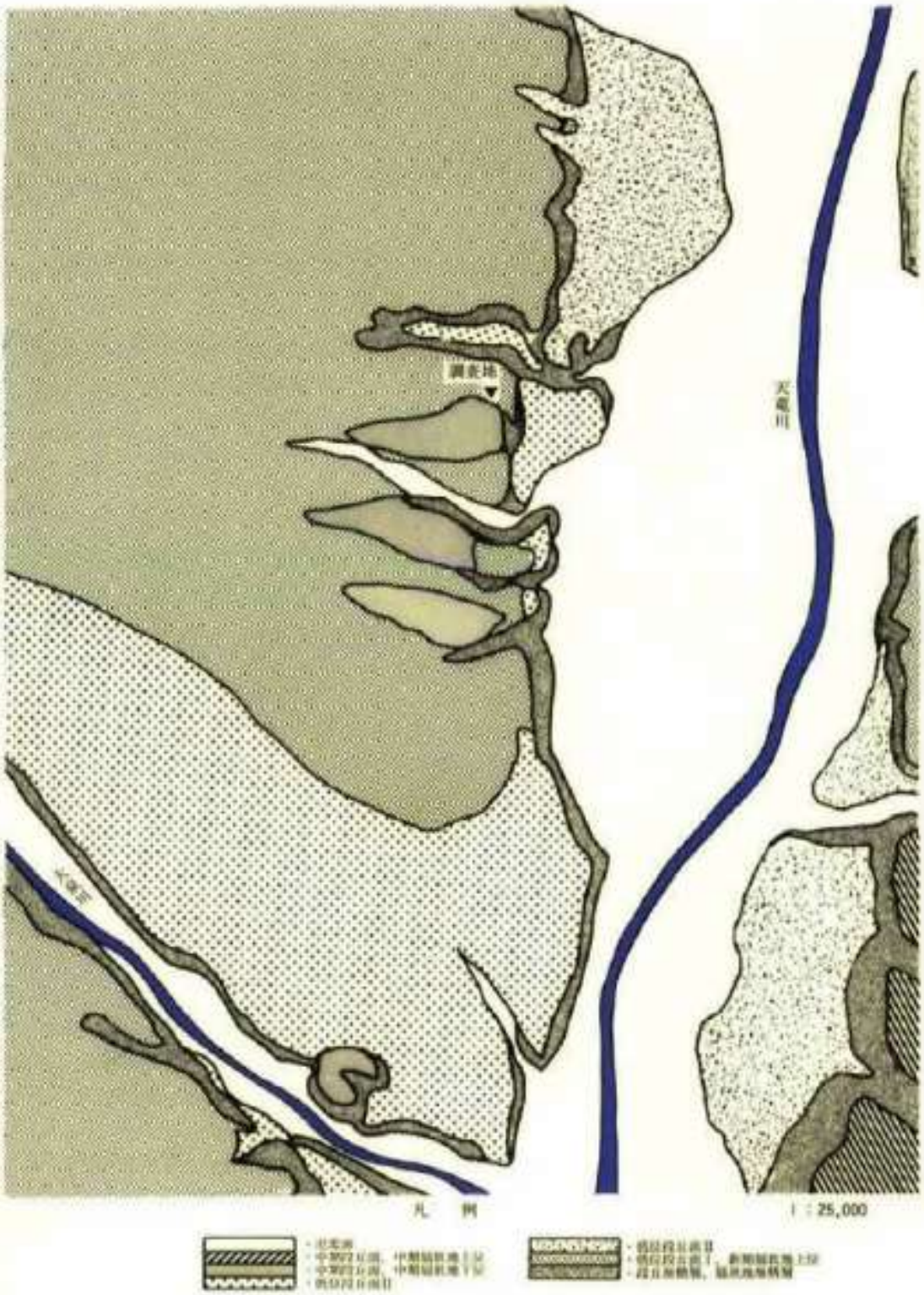
沖積地は昭和27年から29年にかけて実施された土地改良事業により水田地帯となったが、それ以前は天竜川により形成された自然堤防による後背湿地と扇状地扇端部からの湧水により、幾つもの沼が点在する大湿地帯であった。近年この地域は宅地化がすすんでいる。

第3節　歴史的環境

南箕輪村には現在確認されているもので49の遺跡があるが、そのほとんどは扇状地を東流する大泉川・戸谷川・大清水川の両岸と、扇状地扇端部の天竜川右岸段丘上に位置している。

他に天竜川沖積面に箕輪遺跡があり、北隣の箕輪町と地続きで大遺跡の一角を占めている。

これらの中でも著名なものは「神子柴遺跡」である。神子柴区大清水地籍に位置する同遺跡は



第2図　地形・地質区分図

昭和33年に発見され、神子柴型石器一括（重要文化財指定）の検出をみた。

縄文時代ではこれまでに天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根A遺跡・高根遺跡・南高根遺跡などの調査で遺構、遺物が確認されている。これらの調査では早期・前期の遺構は確認されていないが、神子柴遺跡の第3次調査で押型文土器の破片が出土している。また、大芝東遺跡・南高根遺跡・北高根A遺跡においても早期から前期にかけての土器片が出土している。住居址は天伯遺跡・大芝東遺跡・北高根A遺跡で確認されている。これらは前期末から後期にかけてのもので、量的には中期の遺構・遺物が多い。晩期では遺構の確認はないが、神子柴遺跡・南高根遺跡で土器片が出土している。

弥生時代では本村での遺跡の検出数は少なく、天伯遺跡・北高根A遺跡・北垣外遺跡でわずかにみられる。北垣外遺跡から中期の住居址が検出されているが、それはわずかでほとんどは後期にあたるものである。また、沖積地の箕輪遺跡からは水田の検出はできなかったものの、土器・打製石斧・石鏃等の遺物が出土している。

古墳時代では、子持勾玉と直刀が出土した丸山古墳が造られているほか、北垣外遺跡より扁円筒形土製品が出土し、古墳時代屋内祭祀関連の資料の追加をみた。また、天伯遺跡においては多くの住居址が検出され、そのなかから脚部を欠いてはいるが須恵器高坏が出土している。

なお、発掘調査によるものではないが、宮ノ上遺跡より初期土師器高台付壺や五鈴鏡など注目すべき遺物が出土している。

奈良・平安時代をみると、集落はさらに各河川の河岸段丘周辺でも西の山麓付近にまで広がるようになる。古代東山道との関連も含め、今後の検討課題の一つである。

また、宮の上遺跡からは平安時代中期の火葬焼骨が埋葬された、しっかりとした石組みによる墳墓がほぼ完全な形で出土している。焼骨を埋納してあった灰釉陶器短頸壺は完形で出土し、村指定文化財となっている。

中世には天竜川右岸の段丘縁辺にその地形を利用して、棚木城・中込城・倉田城・有賀城・内城などの城館が築かれている。

①久保上ノ平 ②久保下 ③岡垣外 ④天王原 ⑤向垣外 ⑥笠輪 ⑦山の神 ⑧内城 ⑨天伯 ⑩塩ノ井 ⑪上人塚 ⑫垣外 ⑬宮垣外 ⑭大島 ⑮御宮 ⑯北垣外 ⑰西垣外 ⑱荻河原 ⑲秋葉神社 ⑳宮ノ上 ㉑野場 ㉒田畑 ㉓神子塚

第3図　周囲遺跡分布図

第1表　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	地籍	時代						備考
			旧石	縄文	弥生	古墳	平安	中世	
1	久保上ノ平	久保		○	○	○	○		
2	久保下	久保				○			
3	南垣外	久保		○	○				
4	天王原	久保					○		
5	向垣原	塩ノ井		○	○	○	○		
6	芝輪	塩ノ井・久保木下・三日町		○	○	○	○	○	昭和57年－平成6年度調査
7	山の神	塩ノ井		○	○				
8	内城	北殿		○		○			
9	天伯	塩ノ井		○	○	○	○		昭和42年度調査
10	塩ノ井	塩ノ井			○				平成6年度調査
11	上人塚	塩ノ井		○			○		
12	垣外	塩ノ井		○					
13	東垣外	北殿			○	○			
14	大泉	大泉			○	○	○		
15	榮宮	北殿		○					
16	北垣外	北殿			○	○	○		平成2年度調査
17	西垣外	北殿		○	○		○		
18	荻河原	大泉		○					
19	秋葉神社	北殿		○	○				
20	宮ノ上	南殿		○		○			平成元年度調査
21	羽場	田畑		○					
22	田畑	田畑		○					
23	神子柴	神子榮	○	○			○		昭和33年度調査

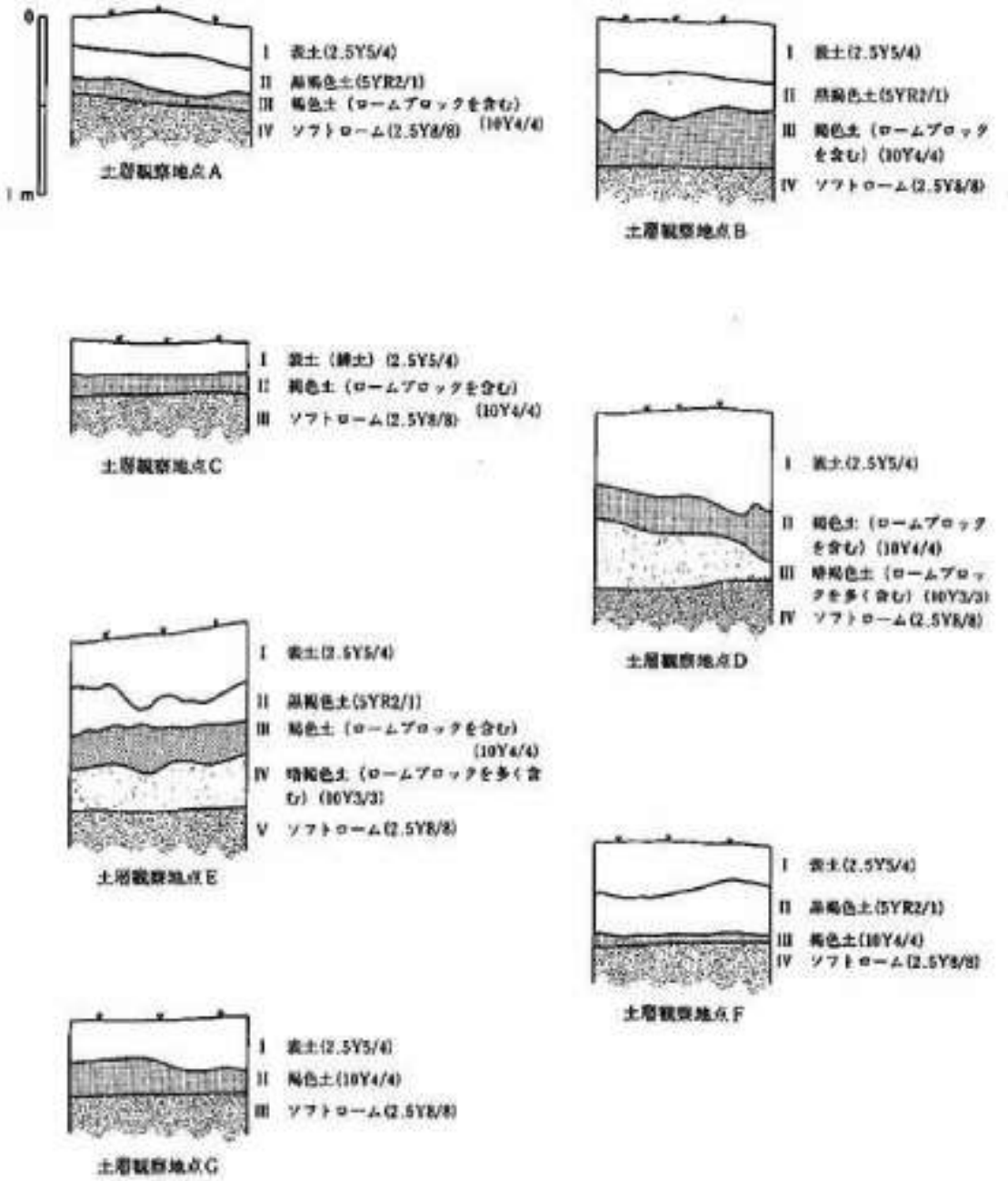
第4節　基本層序

久保上ノ平遺跡は西から東方向に傾斜している段丘面に位置している。調査地は長期間にわたり耕地として活用されており、土層堆積状態も場所により大きく異なっている。

基本層序を示すと思われるものはA地区土層観察地点Eに見られる。Ⅰ層が表土または耕土、Ⅱ層が黒褐色土、Ⅲ層が褐色土、Ⅳ層が暗褐色土、Ⅴ層がソフトローム層となる。

ソフトローム層から上の土層をみたとき、もっとも土壌の堆積がみられるのは調査地の中央部から西側にかけての一部である。このことから調査地では、北方向から南方向にかけて基盤層がなだらかにくぼんだ谷状となっていることが考えられる。

調査地東側の土層観察地点C・GではⅠ層の下層部とⅡ層の上層部に黒褐色土が斑状に含まれる部分がみられることから、耕地の造成及び耕作による撹乱が認められる（第4図・第6図参照）。


0
1 m
I 表土(2.5Y5/4)
II 黒褐色土(5YR2/1)
III 褐色土（ローム ブロックを含む）(10Y4/4)
IV ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点A
I 表土(2.5Y5/4)
II 黒褐色土(5YR2/1)
III 褐色土（ローム ブロックを含む）(10Y4/4)
IV ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点B
I 表土（耕土）(2.5Y5/4)
II 褐色土（ローム ブロックを含む）(10Y4/4)
III ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点C
I 表土(2.5Y5/4)
II 褐色土（ローム ブロックを含む）(10Y4/4)
III 暗褐色土（ローム ブロックを多く含む）(10Y3/3)
IV ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点D
I 表土(2.5Y5/4)
II 黒褐色土(5YR2/1)
III 褐色土（ローム ブロックを含む）(10Y4/4)
IV 暗褐色土（ローム ブロックを多く含む）(10Y3/3)
V ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点E
I 表土(2.5Y5/4)
II 黒褐色土(5YR2/1)
III 褐色土(10Y4/4)
IV ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点F
I 表土(2.5Y5/4)
II 褐色土(10Y4/4)
III ソフトローム(2.5Y8/8)
土層観察地点G

第4図　土層柱状図

第２章　調査の経緯

第１節　調査の契機と経過

天竜川右岸の段丘上に位置する遺跡は、天伯遺跡や北垣外遺跡にみられるように縄文時代から平安時代にかけての集落が分布しているが、大泉川・戸谷川などの天竜川支流の河岸段丘沿いに位置する遺跡と比較すると密度は非常に高い。

平成７年度に南箕輪村で墓地公園の造成を久保区の字上ノ平地籍において計画したため、村教育委員会は造成予定地が天竜川右岸段丘上に位置し、過去に大規模な圃場整備が行われていない、ほぼ自然の地形をとどめていることから、遺跡が埋蔵されていることを想定してトレンチによる試掘調査を平成６年12月に実施した。

調査の結果、平安時代の住居址数軒とこれに伴う遺物を確認したほか、縄文土器・石器等の遺物を採取した。

これらの結果をもとに、翌年の平成７年４月より墓地公園駐車場部分を除く約1,000㎡の発掘調査を行った。

この調査期間中に隣接する周知の遺跡において、南箕輪村土地開発公社による宅地造成計画が具体化したため、墓地公園予定地の調査に引き続き約3,000㎡の発掘調査を実施することとなった。

宅地造成予定地内の遺構の広がりを確認するため、墓地公園予定地に接していない約1,000㎡をグリットによる試掘調査を実施した結果、遺構が認められなかったため、宅地造成予定地の調査面積は2,000㎡とした。

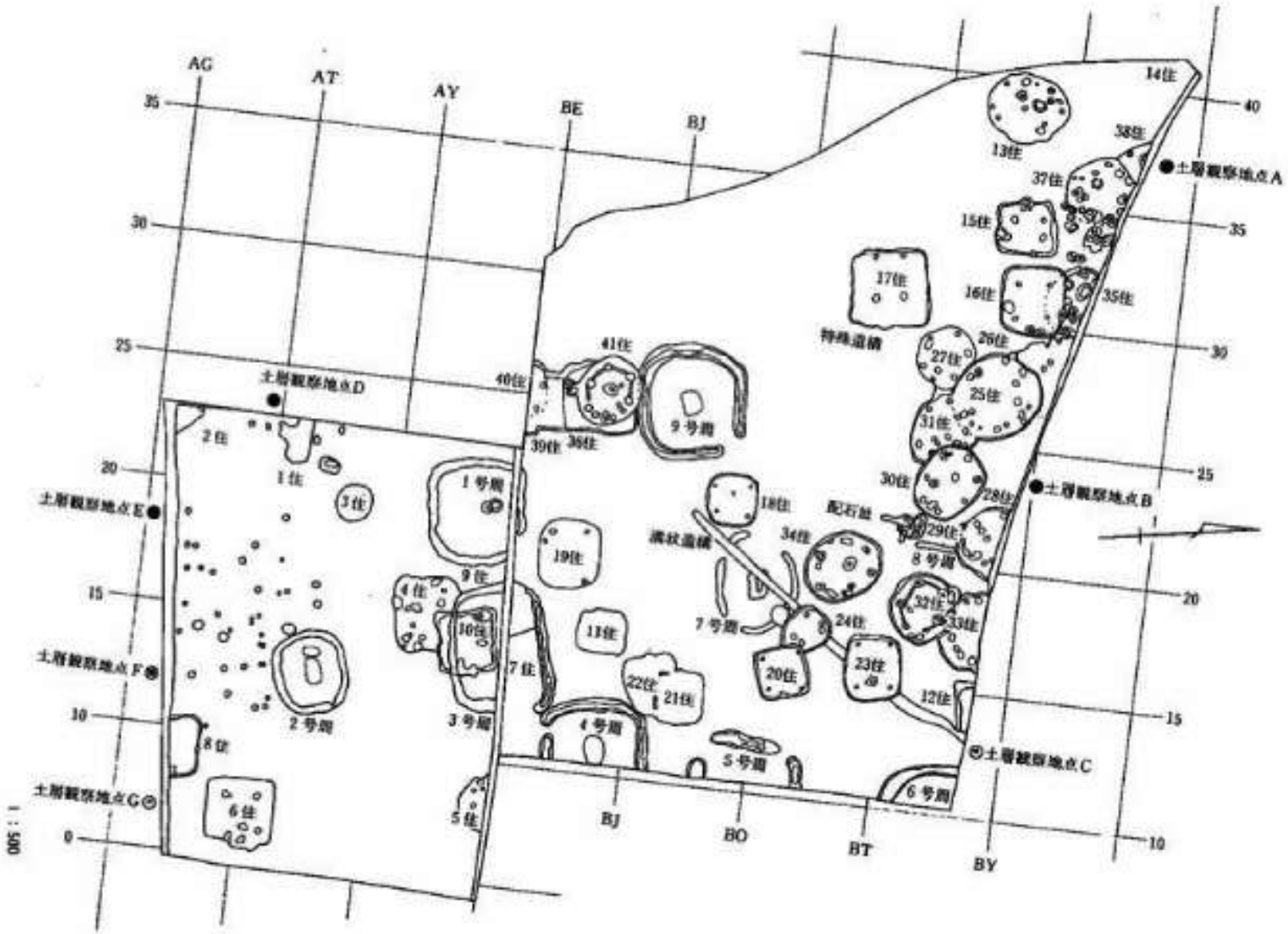
これにより調査を円滑にすすめるために墓地公園予定地をＡ地区、宅地造成予定地をＢ地区とし、各区ごとにグリットを設定した。グリットは２ｍ×２ｍとし、南東端南側から東西列をＡ～Ｙのアルファベット、南東端東側より南北列を算用数字で表した（第６図参照）。

Ｂ地区の調査は、Ａ地区の断面調査で確認した遺構の包含層上面まで重機で掘削し、弥生～平安時代の遺構の上面確認・検出と並行して、トレンチによる縄文時代の遺構の確認と検出を行った。

調査期間は、Ａ地区の調査を４月６日から５月26日まで行い、Ｂ地区の調査は５月31日から９月20日まで行った。

1：5,000

第5図　調査範囲図



第6図　遺構全体図

1：500

調査日誌

平成6年12月

12月1日　調査地の草刈りを行う。
12月5日　8本のトレンチの設定をする。
12月9日　テント・機材の搬入を行う。
12月12日　重機によりトレンチを掘削。続いて上面確認を行う。
掘削土中より土師器・縄文土器片が出土。
12月13日　トレンチの上面確認を行う。午前中に雨が降り始めたため作業を中止する。
12月14日　トレンチ4・5・6で住居址を確認する。続いてトレンチの上面確認を行う。
12月15日　トレンチ2・5で住居址を確認する。続いてトレンチの分層を行う。
12月19日　トレンチの分層と記録を行う。
12月20日　トレンチの分層と記録を行う。本日で試掘を終了する。
12月26日　県教育委員会文化課指導主事、村保健福祉課長、村教育委員会教育長及び担当者で現場の視察を行う。

平成7年4月

4月6日　重機による表土剝ぎと上面確認を行う。住居址3軒を確認。
4月7日　グリットの設定と上面確認を行う。住居址3軒を確認。
4月10日　上面確認を行う。住居址3軒を確認。
4月11日　上面確認と並行して南側壁面の調整及び分層を行う。
4月12日　雨天のため作業中止。
4月13日　上面確認を行う。住居址1軒と柱穴群を確認。
4月14日　上面確認を行うが、午後になり雨天のため作業中止。
4月17日　上面確認と並行して4号・8号・10号住居址の検出にはいる。
4月18日　ほぼ上面確認を終了する。1号・3号・6号住居址の検出にはいる。
4月19日　雨天のため作業中止。
4月20日　9号住居址の検出にはいる。
4月21日　2号・5号住居址の検出にはいる。
4月24日　6号住居址の検出にはいる。
4月25日　雨天のため作業中止。
4月26日　各遺構の検出を行う。
4月27日　各遺構の検出及び記録を行う。
4月28日　各遺構の検出及び記録を行う。
4月30日　現地説明会を行う。

平成7年5月

5月1日　雨天のため作業中止。
5月2日　雨天のため作業中止。
5月8日　各遺構の検出と記録。
5月9日　各遺構の検出と記録。周溝墓を2

基確認する。

5月10日　周溝墓と柱穴群の検出にはいる。

5月11日　各遺構の検出と記録を行う。

5月12日　各遺構の検出と記録を行う。午後は天候不順のため作業中止。

5月15日　雨天のため作業中止。

5月16日　雨天のため作業中止。

5月17日　一日中、天候不順であったが調査を行う。

5月18日　住居址の検出をほぼ終了。記録を行う。

5月19日　あらたに周溝墓1基を確認。検出にはいる。

5月22日　雨天のため作業中止。

5月23日　遺構の記録を行う。

5月24日　遺構及び調査地北側の土層断面を記録する。

5月25日　遺構の記録を行う。

5月26日　遺構遺の記録と調査地の片付けを行い、検出遺構の全景写真を撮って調査を終了する。午後に北に隣接する宅地造成予定地西側の試掘を行う。

5月30日　宅地造成予定地をB地区とし、畑地の表面採集を行う。縄文土器片の他、各種陶磁器片を採取する。

5月31日　重機によりB地区畑地部分の表土剥ぎと上面確認を行う。

平成7年6月

6月1日　重機での表土剥ぎと上面確認を行う。A地区で確認した周溝墓のつづきと、あらたに2基の周溝墓を確認する。

6月2日　重機による表土剥ぎと上面確認を行う。周溝墓2基と住居址4軒を確認する。

6月5日　重機による表土剥ぎと上面確認を行う。調査地北西部で多量の縄文土器片が出土する。

6月6日　重機による表土剥ぎと上面確認を行う。

6月7日　重機による表土剥ぎと上面確認を行う。

6月8日　上面確認を行う。午後にグリットの設定をして、上面確認で出土した遺物の取り上げを行う。

6月9日　雨天のため作業中止。

6月12日　上面確認を行う。住居址2軒を確認する。

6月13日　雨天のため作業中止。

6月14日　上面確認を行う。住居址2軒と柱穴を確認する。

6月15日　上面確認と並行してトレンチを4本設定し、うち3本を掘削する。13号住居址の一部で床面を確認する。

6月16日　トレンチの掘削。黒土層中で住居址を1軒確認する。

6月19日　トレンチをあらたに4本設定して掘削する。縄文土器が集中して出土した部分の写真撮影をする。

6月20日　トレンチの掘削。ロームマウンドを確認する。17号住居址の検出にはいる。

6月21日　トレンチの掘削。住居址1軒を確認

する。また、規則的な配列がされた縄文土器2個体が2箇所で出土する。

6月22日　トレンチの掘削。配列がされた縄文土器からほど近いところで底が打ち抜かれた台付浅鉢型土器が出土する。

6月23日　雨天のため作業中止。

6月26日　トレンチの掘削。あらたに周溝墓1基を確認する。天候不順のため午前中で作業を中止する。

6月27日　周溝墓の上面確認と住居址の検出にはいる。

6月28日　遺構の検出を行う。11号住居址は火災家屋であることがわかる。

6月29日　遺構の検出を行う。住居址の土層断面の記録をとる。

6月30日　遺構の検出を行う。土器の配列された遺構の調査を行う。

平成7年7月

7月3日　雨天のため作業中止。

7月4日　雨天のため作業中止。

7月5日　雨天のため作業中止。

7月6日　雨天のため作業中止。

7月7日　連日の雨天により遺構の検出は中止する。トレンチ掘削時の排土を移動する。

7月10日　各遺構の検出と記録を行う。トレンチの分層と記録をする。
雨により住居址内に流れこんだ泥を取り除く作業をする。

7月11日　各遺構の検出と記録を行う。

7月12日　雨天のため作業中止。

7月13日　各遺構の検出と記録を行う。

7月14日　雨天のため作業中止。

7月17日　雨天のため作業中止。

7月18日　各遺構の検出と記録を行う。午前中に小学校で見学。

7月19日　各遺構の検出と記録を行う。午後に村理事者視察。

7月20日　雨天のため作業中止。

7月21日　雨天のため作業中止。

7月24日　各遺構の検出と記録を行う。遺物の取り上げをはじめる。

7月25日　各遺構の検出と記録を行う。

7月26日　各遺構の検出と記録を行う。12号住居址南であらたに2軒の住居址を確認。

7月27日　各遺構の検出と記録を行う。

7月28日　一時雨天となるが、作業をつづける。

7月29日　各遺構の検出と記録を行う。

平成7年8月

8月1日　各遺構の検出と記録を行う。

8月2日　各遺構の検出と記録を行う。8号周溝墓上面確認。

8月3日　各遺構の検出と記録を行う。午前中に伊那北高校歴史部見学。

8月4日　各遺構の検出と記録を行う。

8月7日　各遺構の検出と記録を行う。調査地北側でトレンチにより縄文の住居址1軒を確認する。

8月8日　各遺構の検出と記録を行う。昨日のトレンチの拡張をする。

8月9日　各遺構の検出と記録を行う。トレンチの拡張を引き続き行う。
住居址2軒をあらたに確認する。

8月10日　各遺構の検出と記録を行う。午後、雨天のため作業中止。

8月11日　各遺構の検出と記録を行う。トレンチによりあらたに確認した住居址は7軒となる。特殊遺構より人の手をかたどった土器片が出土する。

8月17日　各遺構の検出と記録を行う。県立歴史館主事の三上氏、調査指導のため視察。

8月18日　各遺構の検出と記録を行う。

8月21日　各遺構の検出と記録を行う。

8月22日　各遺構の検出と記録を行う。

8月23日　各遺構の検出と記録を行う。トレンチによる遺構の確認を終了し、検出にはいる。

8月24日　各遺構の検出と記録を行う。

8月25日　各遺構の検出と記録を行う。

8月26日　各遺構の検出と記録を行う。

8月27日　各遺構の検出と記録を行う。B地区の遺物を郷土館へ搬入する。

8月28日　各遺構の検出と記録を行う。特殊遺構の配列された土器の取り上げ。

8月29日　各遺構の検出と記録を行う。

8月30日　各遺構の検出と記録を行う。

8月31日　雨天のため作業中止。

平成7年9月

9月1日　各遺構の検出と記録を行う。

9月2日　各遺構の検出と記録を行う。

9月4日　各遺構の検出と記録を行う。

9月5日　各遺構の検出と記録を行う。

9月6日　各遺構の検出と記録を行う。

9月7日　各遺構の検出と記録を行う。

9月8日　各遺構の検出と記録を行う。7号周溝墓南より36号住居址を確認する。

9月9日　各遺構の検出と記録を行う。明治大学戸沢教授、村教育委員会関係者他、遺跡を視察。

9月11日　各遺構の検出と記録を行う。

9月12日　各遺構の検出と記録を行う。37号住居址を確認する。

9月13日　各遺構の検出と記録を行う。38号住居址を確認する。

9月15日　雨天のため作業中止。

9月16日　雨天のため作業中止。

9月18日　各遺構の検出と記録を行う。39・40・41号住居址を確認する。

9月19日　各遺構の検出と記録を行う。40号住居址より人体文のみられる有孔鍔付土器が出土する。

9月20日　各遺構の検出と記録を行う。本日で作業終了のため片付けを行う。

9月21日　調査地B地区の航空撮影を行う。

第2節　調査の体制

○試掘調査　調査担当者　友松　諭（南箕輪村教育委員会社会教育係学芸員）
調査補助員　唐澤孝男（南箕輪村教育委員会社会教育係主査）
調査作業員（五十音順）
伊藤亮平　小澤よね子　春日　正　唐澤容子　山田武志

○発掘調査　調査団長　杉澤　崇（南箕輪村教育委員会教育長）
調査担当者　友松　諭（南箕輪村教育委員会社会教育係学芸員）
調　査　員　福沢幸一
調査作業員（五十音順）
有賀　悟　飯塚美喜子　五十嵐正子　池上今朝人　伊藤　忍
伊藤順子　伊藤亮平　宇治由一　太田祥二　小澤よね子
工藤　洋　工藤　学　倉田しげ子　倉田睦子　桑澤正典　小松孝臣
清水よし子　城倉三成　征矢謙吾　征矢志づ子　田中真人
中坪ひとみ　馬場啓司　原　公夫　原　春子　平澤克久　福澤京子
福村恵美子　藤澤のり子　伯耆原　正　堀　五百治　堀　千恵子
本田秀明　松澤英太郎　山田武志

○事務局（平成8年度）
杉澤　崇（南箕輪村教育委員会教育長）
唐澤雄男（南箕輪村教育委員会教育次長）
唐澤由江（南箕輪村教育委員会社会教育係長）
唐澤孝男（南箕輪村教育委員会社会教育係主査）
有賀秀樹（南箕輪村教育委員会公民館主事）
松澤英太郎（南箕輪村社会教育指導員）

第3章　調査結果

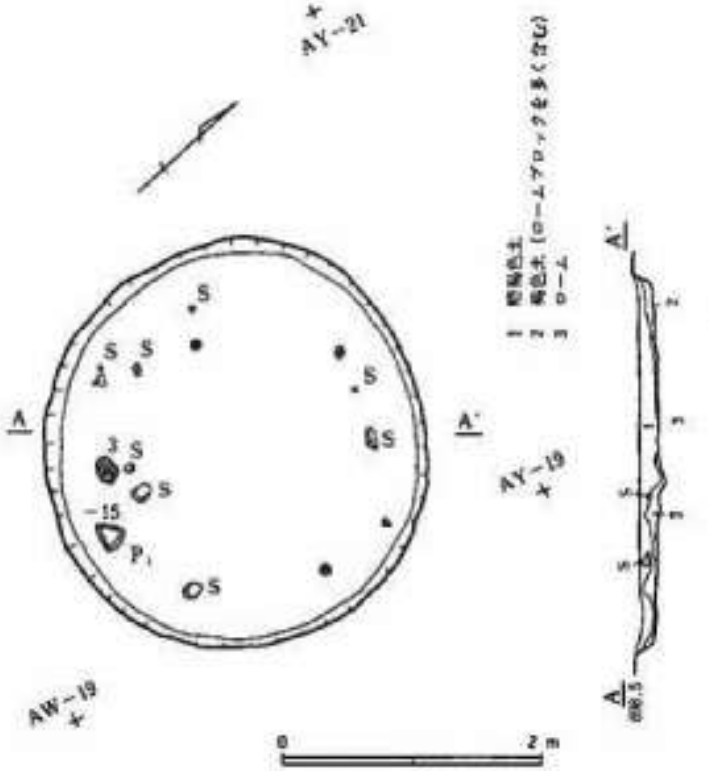
第1節　縄文時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居址

3号住居址（第7図）

A地区で検出した。長軸3.1m、短軸2.9mの不整楕円形を呈する。壁残高は15cm～12cmである。周溝、炉址は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められているが、貼り床は全体的に軟弱である。ピットは1基検出したのみで他には検出できなかった。このピットが主柱穴になるのかは判然としない。

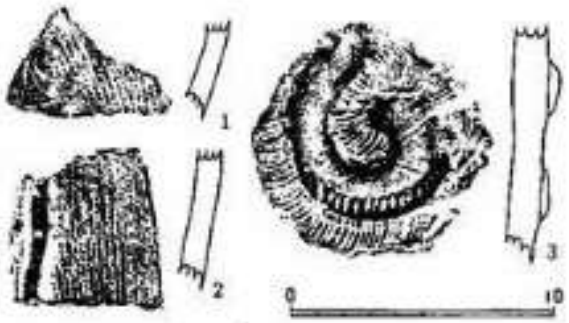
遺物は少なく、覆土中層より縄文土器片（図8－1－3）が散点出土しているのみである。よって本址の時期は判然としないが、縄文時代中期中葉であることが考えられる。



第7図　3号住居址実測図

5号住居址（第9図）

A地区で検出した。住居址の約3分の2程は調査区外になるため全容は不明であるが、不整楕円形を呈すると思われる。壁残高は15cm～6cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム

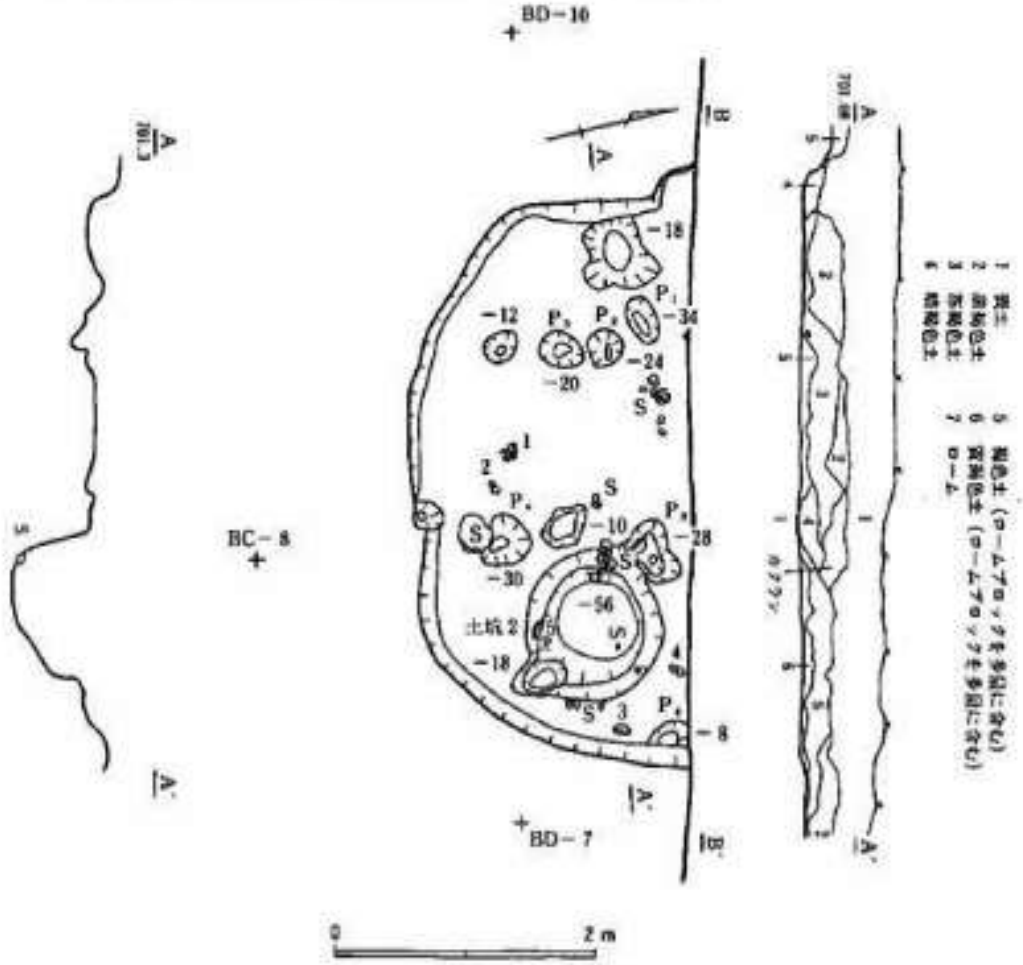


第8図　3号住居址出土土器拓影図

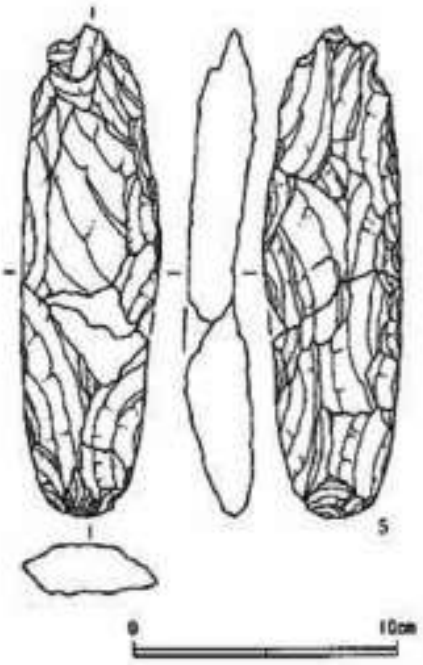
層まで掘り込まれ堅く叩き締められているが、部分的に軟弱な箇所がみられる。西壁に張り出した部分がみられるが、床面のレベルとほぼ同じであることから本住居址に伴うものであると思われる。ピットは5基検出した。位置的にみて建替えの行われた可能性が考えられるが、主柱穴の新旧関係は判然としない。住居址中央部よりやや東側の比較的張床の良好な部分の床下に長軸112cm、短軸108cm、深さ56cmの土坑2があり、この覆土中層から拳大の黒曜石が出土している。

炉址は調査区内からは検出できなかった。遺物は土器片（図11－1～4）が覆土中層及び床面直上より出土しているが、数は少ない。他に打製石斧（図10－5）が出土している。

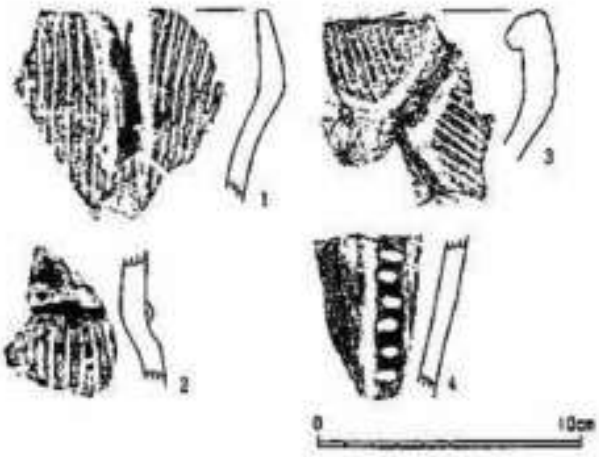
本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると思われる。



第9図　5号住居址実測図



第10図　5号住居址出土遺物実測図



第11図　5号住居址出土土器拓影図

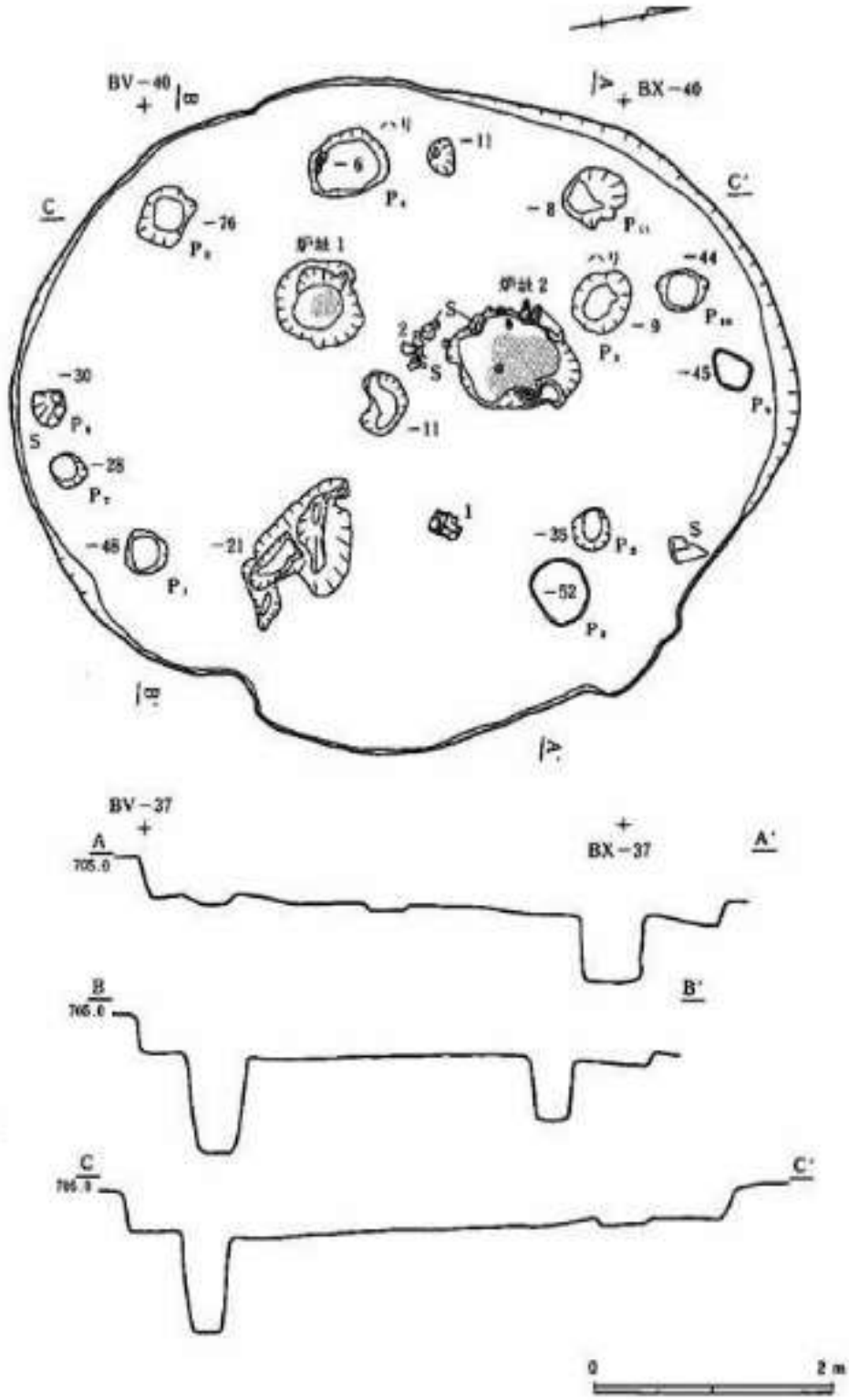
13号住居址（第12図）

B区で検出した。長軸6.6m、短軸5.58mの不整楕円形を呈する。主軸はN－4°－Eを示す。壁残高は33cm－13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。東側に張り出し部分がみられるが、床面とのレベルがほぼ同一であることから本址に伴うものと思われる。ピットは11基検出した。本址には炉址が2基認められることから、主柱穴には新旧関係のあることが考えられ、位置的にみて、P_1－P_5が旧柱穴であると思われる。新しい主柱穴はP_6－P_{11}と思われるが、旧柱穴を再利用していることが考えられる。このうちP_5とP_6は底部に貼り床を有する。

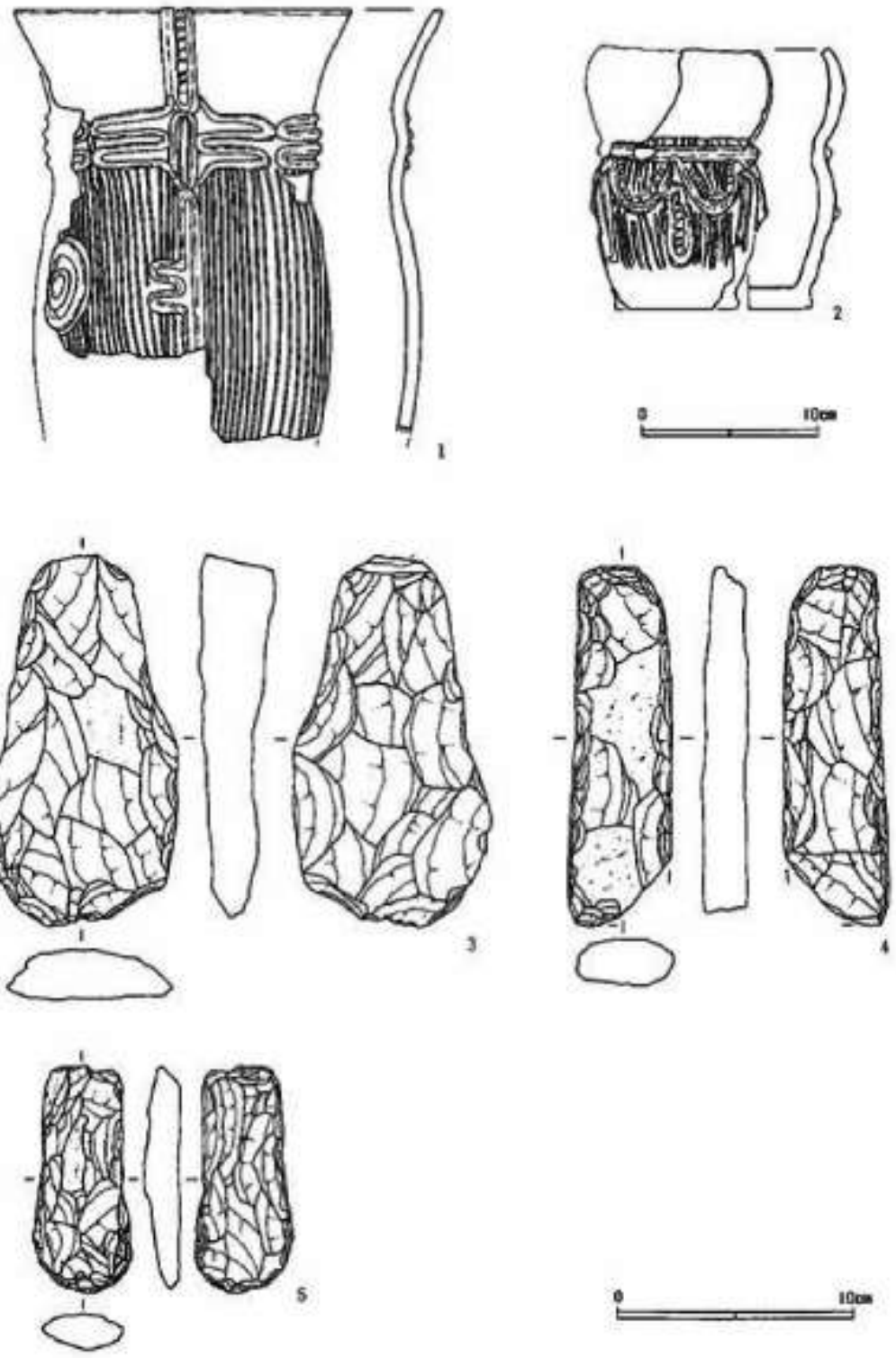
炉址は2基検出した。炉址1は長軸78cm、短軸69cmの不整楕円形で、深さ15cmに掘りくぼめた地床炉である。内部には焼土が認められる。炉址2は住居址中央よりやや北側に位置し、長軸111cm、短軸78cmの不整楕円形で深さ14cmに掘りくぼめた石囲炉と思われる。内部には焼土が認められ、炉石が抜き取られた跡がみられる。この2つの炉址はほぼ同一のレベルにある。ピットの位置及び2つの炉址等から、この住居址は拡張または重複していることが考えられる。

遺物は炉址2の周囲から深鉢型土器（図13－1・2）、覆土上層及び中層より土器片（図15－1～15）が出土したほか、覆土中層より石斧（図13－3～5）、また、P_1より石斧（図14－8）、P_{11}より石斧（図13－3、図14－7）の石器が出土している。

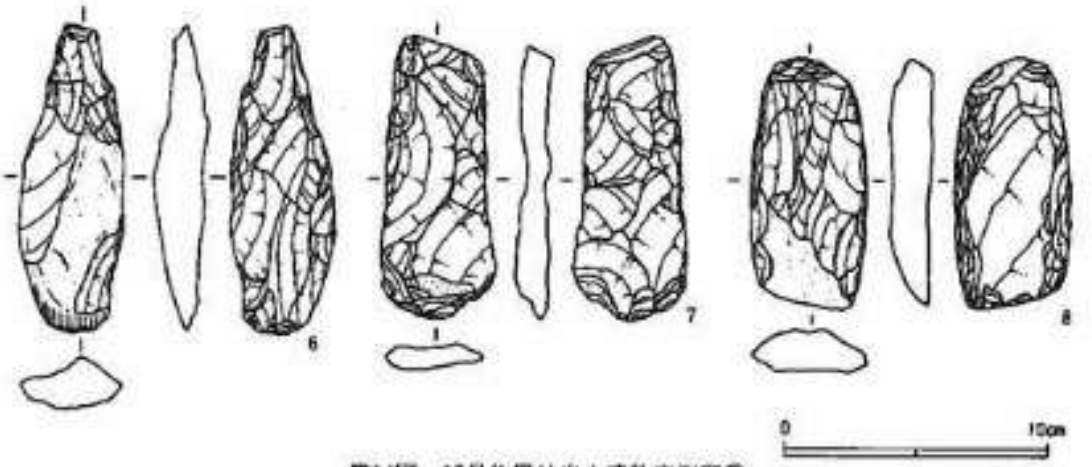
本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものであると思われる。



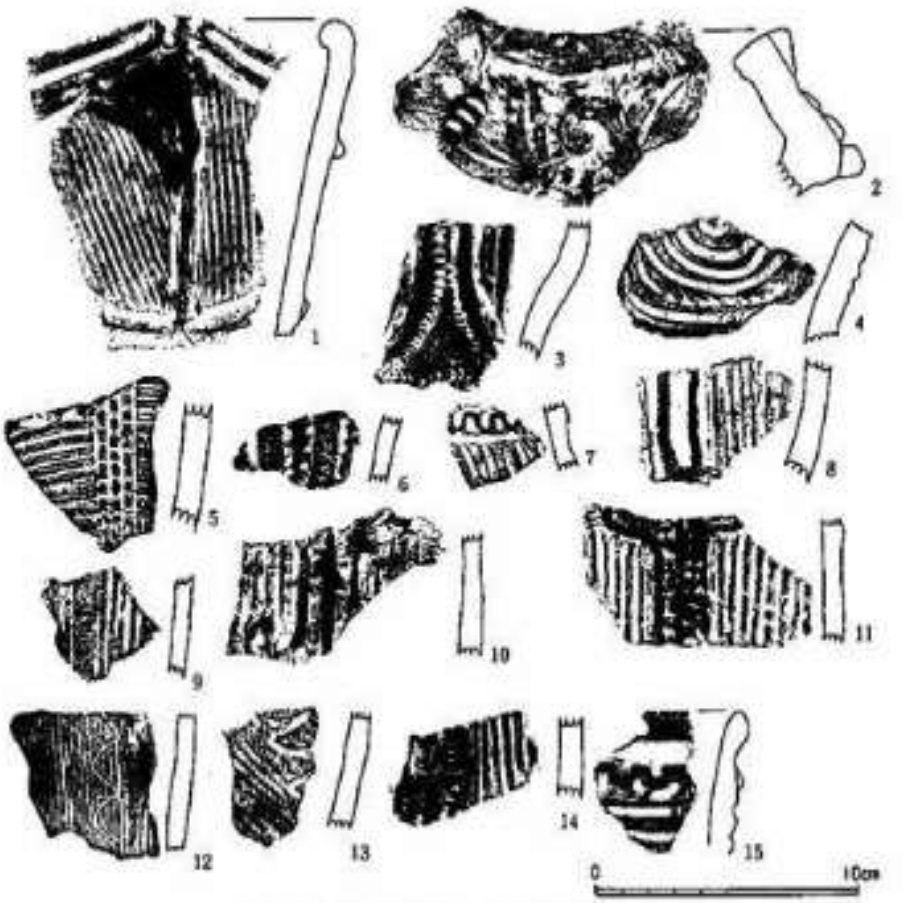
第12図　13号住居址実測図



第13図　13号住居址出土遺物実測図①



第14図　13号住居址出土遺物実測図②



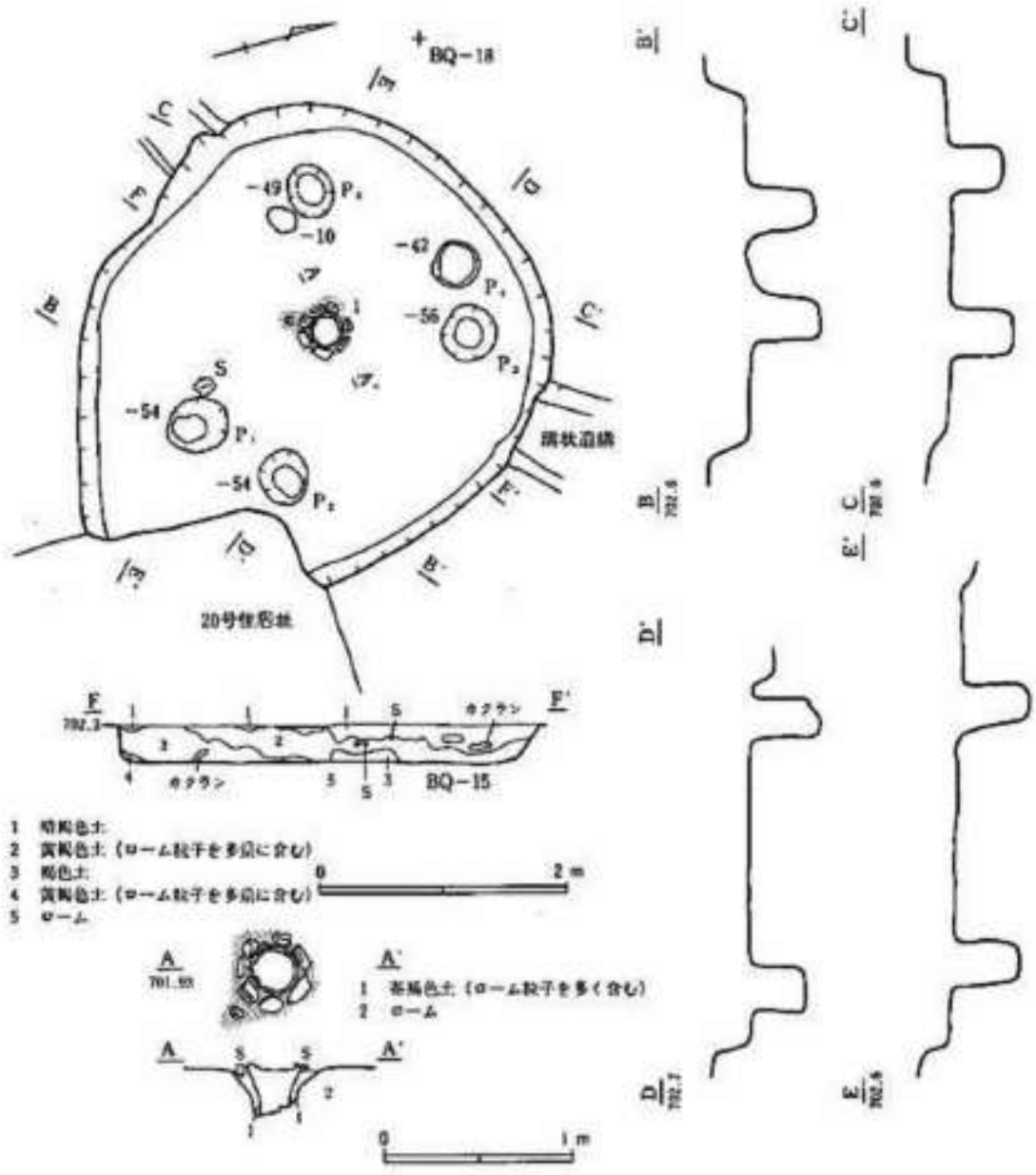
第15図　13号住居址出土土器拓影図

24号住居址（第16図）

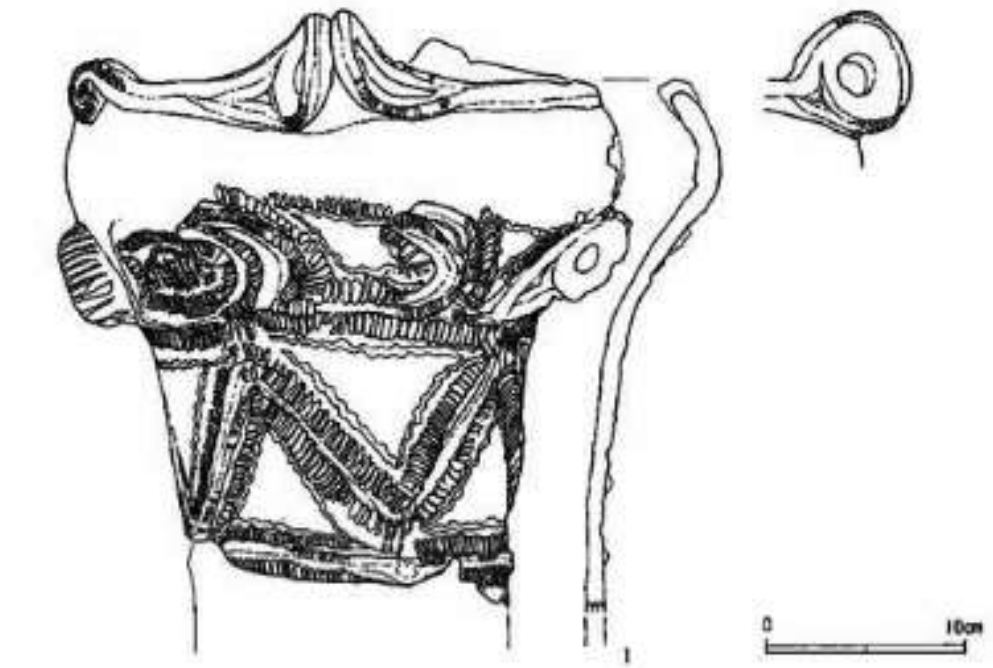
B地区で検出した。溝状遺構に南北の壁の一部と、20号住居址に東側壁と床面の一部を破壊されている。長軸4.2m、短軸3.5mの不整楕円形を呈する。主軸はN－41°－Wを示す。壁残高は36.5

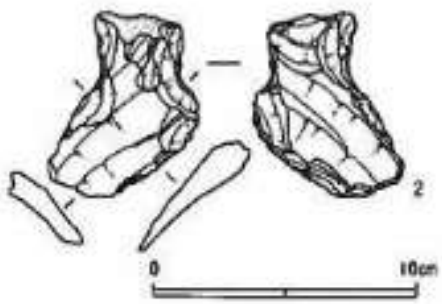
cm～27cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは5基検出したが、これらが主柱穴と思われる。炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置しており、底部を欠いた深鉢型土器（図17－1）を埋設している。焼土は炉石の周囲にみられ、埋設土器内部の覆土には認められない。

遺物は少なく、覆土中層より石匙（図17－2）が出土しているのみである。本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



第16図　24号住居址実測図





第17図　24号住居址出土遺物実測図

25号住居址（第19図）

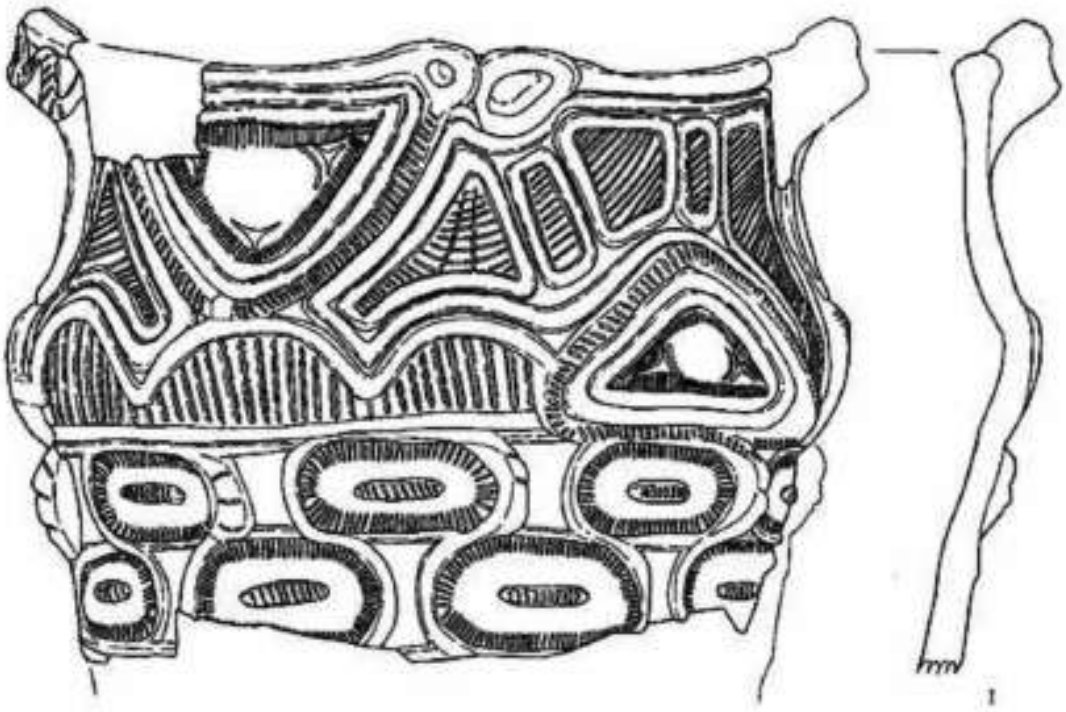
B地区で検出した。26号住居址及び土坑12に北側壁の一部、27号住居址に南西側壁の一部、31号住居址に南側壁の一部をそれぞれ破壊されている。長軸7.5m、短軸6.8mの不整楕円形を呈する。主軸はN－37°－Wを示す。壁残高は34cm～14cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。

ピットは19基検出した。主柱穴はP_1～P_{11}と思われ、P_1とP_6を結ぶ線を軸として左右に4箇所の配置になると考えられる。P_7はP_8との関連が考えられる。また、P_{12}～P_{14}・P_{16}の位置から本址は拡張された可能性があると思われる。P_{18}・P_{19}は位置的にみて31号住居址に伴うものであると思われる。P_1・P_{11}・P_{13}・P_{17}は断面形が袋状となっている。

炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址のほぼ中央に位置する。埋設土器の内部は下層及び中層に焼土が認められ、その間には黒褐色土が堆積している。炉址の周囲及び、炉址北東側

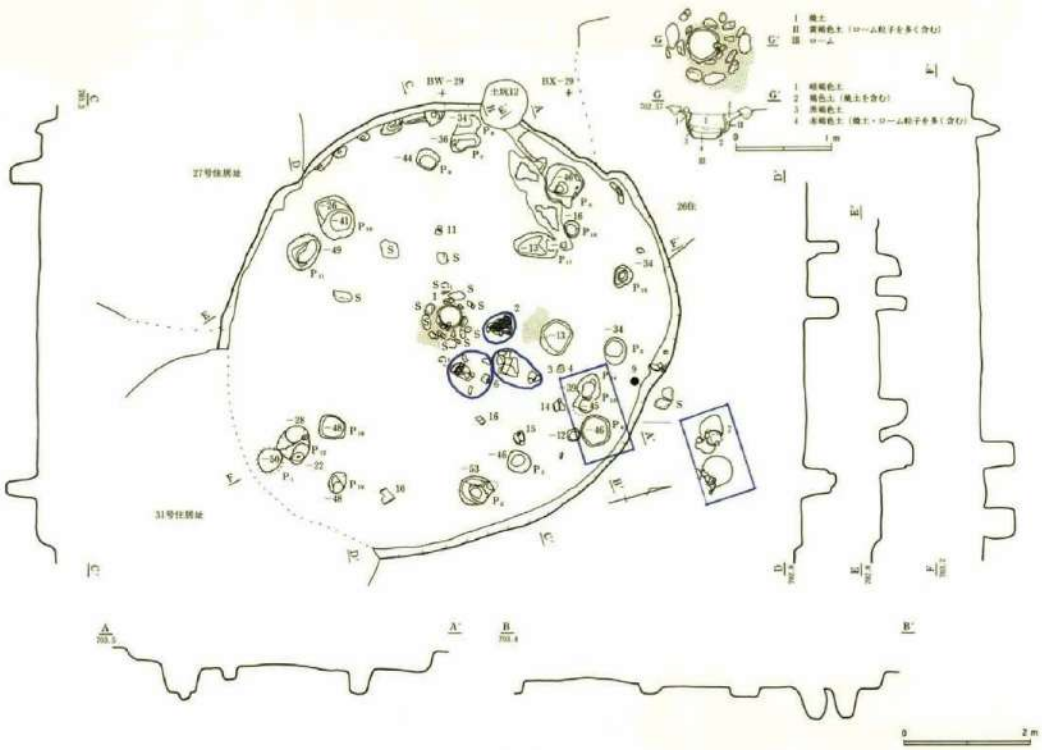
の床面にも焼土が認められる。埋設土器は下部分を打ち欠いた深鉢型土器（図18－1）を埋設している。遺物は炉址周囲の床面直上より深鉢型土器（図20－2・3、図21－6・7）、覆土中層及び下層より深鉢型土器（図22－9）、有孔鍔付土器片（図22－10）、土器片（図22－11～13、図23－1－9）、覆土中層より石器（図24－15～20）、北側壁付近の覆土中層より顔面把手付土器の把手部分（図22－14）が出土している。

本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

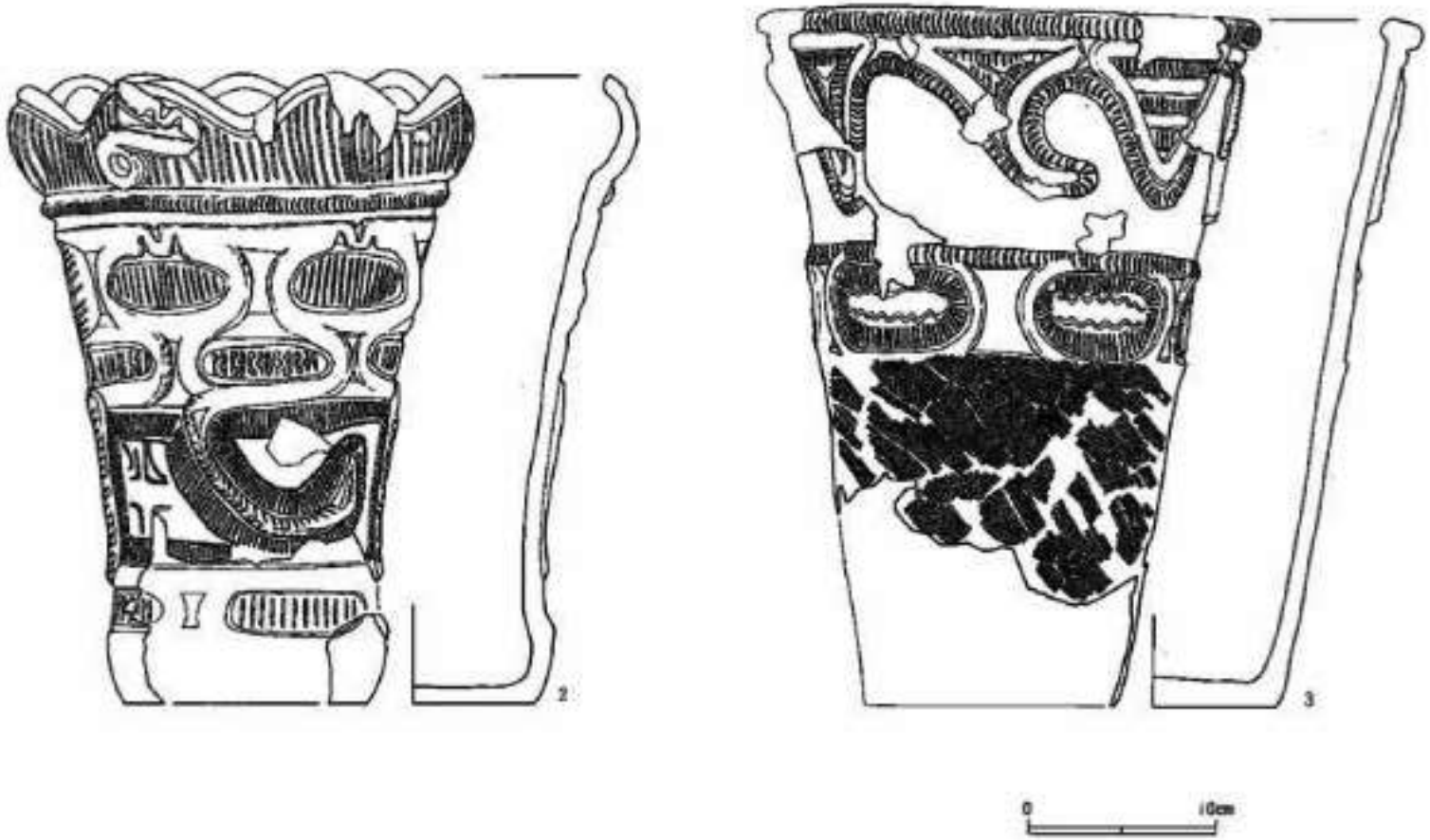


0　10cm

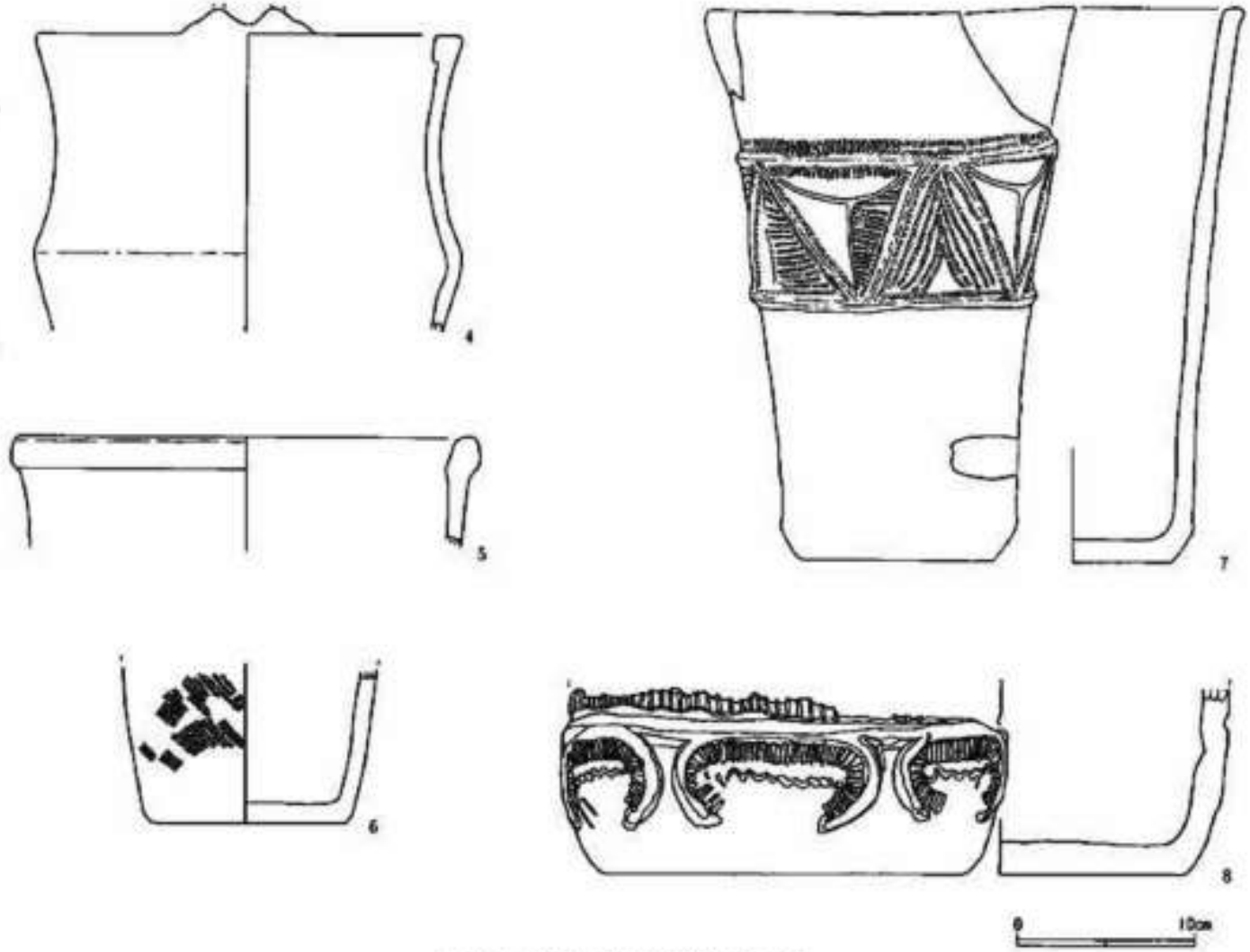
第18図　25号住居址出土遺物実測図①



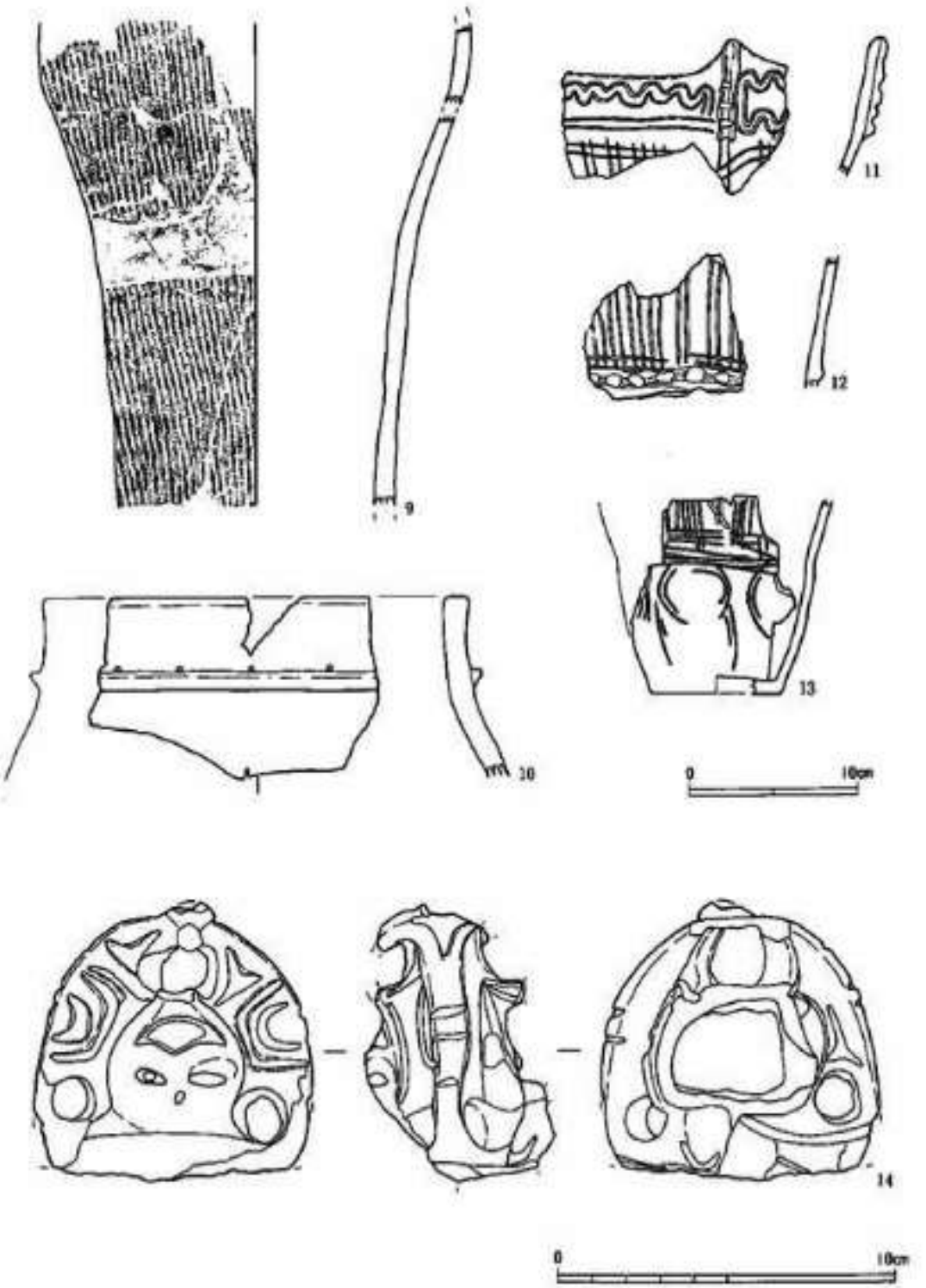
第19図　25号住居址実測図



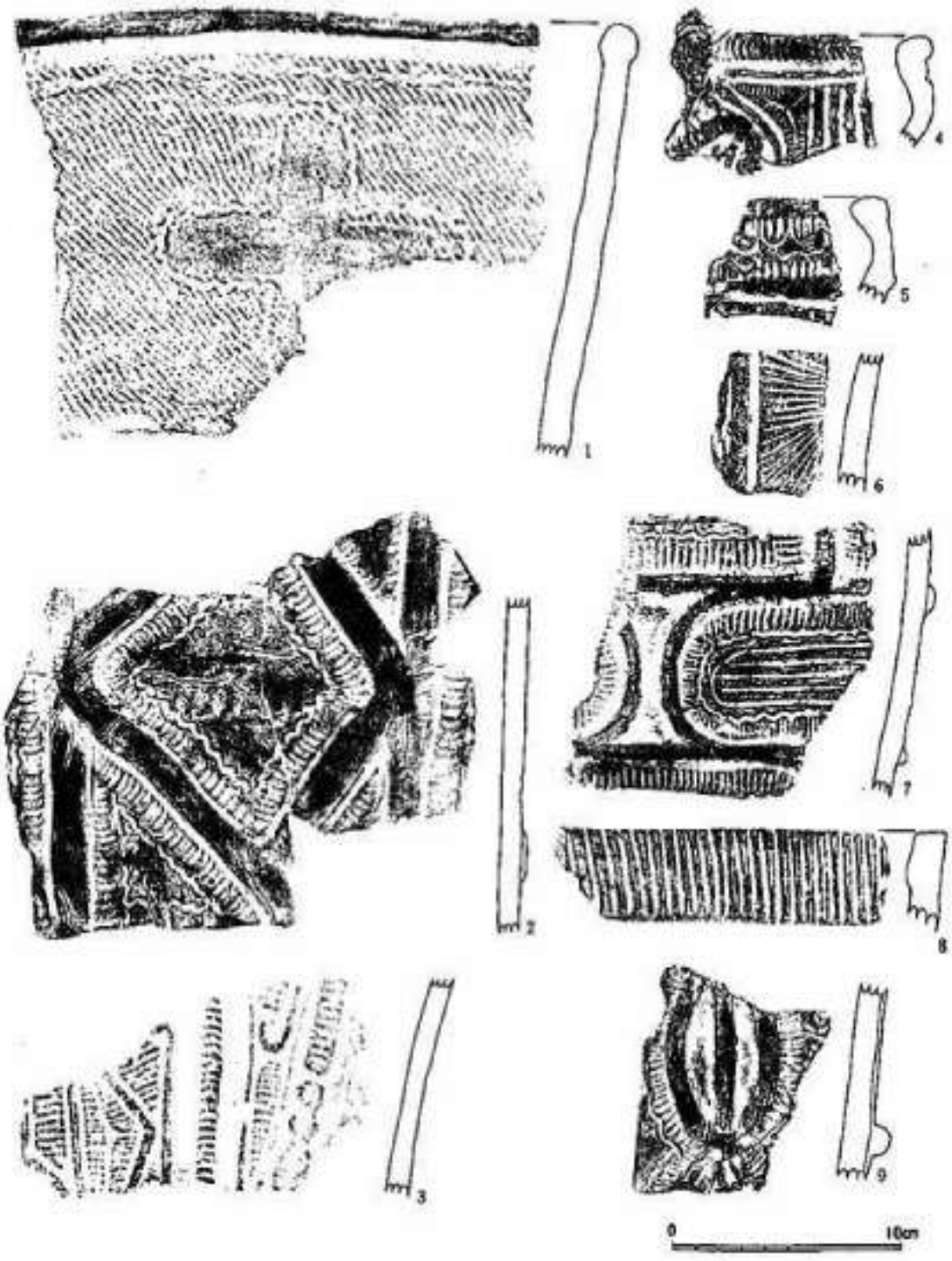
第20図　25号住居址出土遺物実測図②



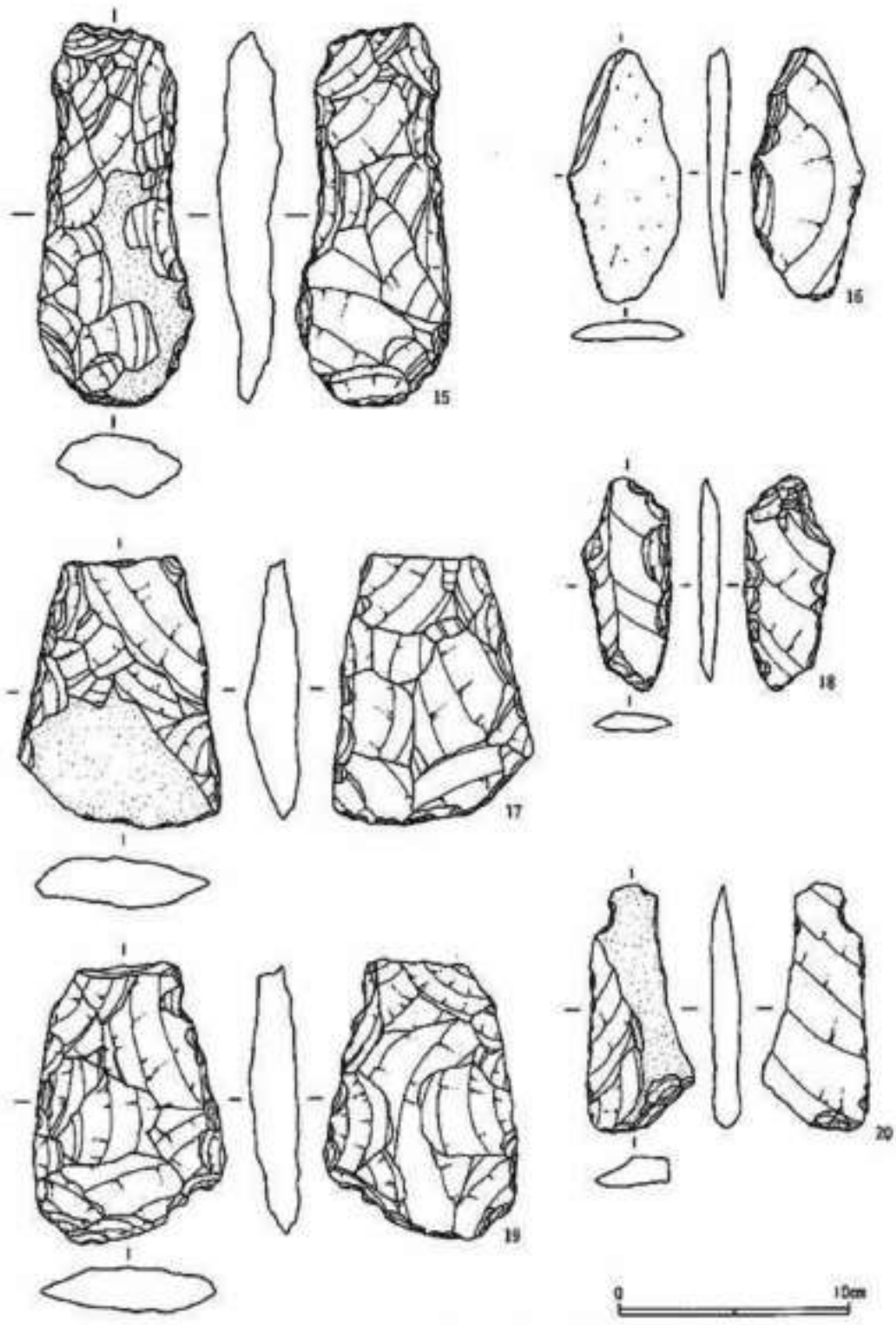
第21図　25号住居址出土遺物実測図③



第22図　25号住居址出土遺物実測図④



第23図　25号住居址出土土器拓影図



第24図　25号住居址出土遺物実測図⑤

27号住居址（第25図）

B地区で検出した。25号住居址の南西側の壁の一部を破壊している。発掘中に東側壁を掘削してしまったためプランははっきりしないが、長軸5.0mの不整楕円形を呈すると思われる。主軸はN－51°－Wを示す。壁残高は18cm～11cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており東側の一部を除き締まりは全体的に良好である。ピットは5基検出したが、主柱穴はP_1～P_4であると思われる。P_3、P_4は断面形が袋状となっている。住居址北側にある土坑14の内部には正位に置かれた深鉢型土器がみられた。

炉址は地床炉で、住居址中央よりやや北西よりのP_3とP_4の間に位置している。長軸68cm、短軸51cm、深さ14cmの不整楕円形に掘りくぼめている。炉址内部及び周囲に焼土はみられない。炉址の縁辺には4個の石がみられるが、火熱を受けた跡が認められず、炉址に伴うものか判然としない。

遺物は炉址周囲の床面直上より深鉢型土器（図26－4・5、図28－11）、及び浅鉢型土器（図27－8・9）、土坑14より深鉢型土器（図26－1）、床面直上より石鏃（図30－14）、覆土中層より石匙（図30－12）、石斧（図30－13）等が出土している。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

28号住居址（第31図）

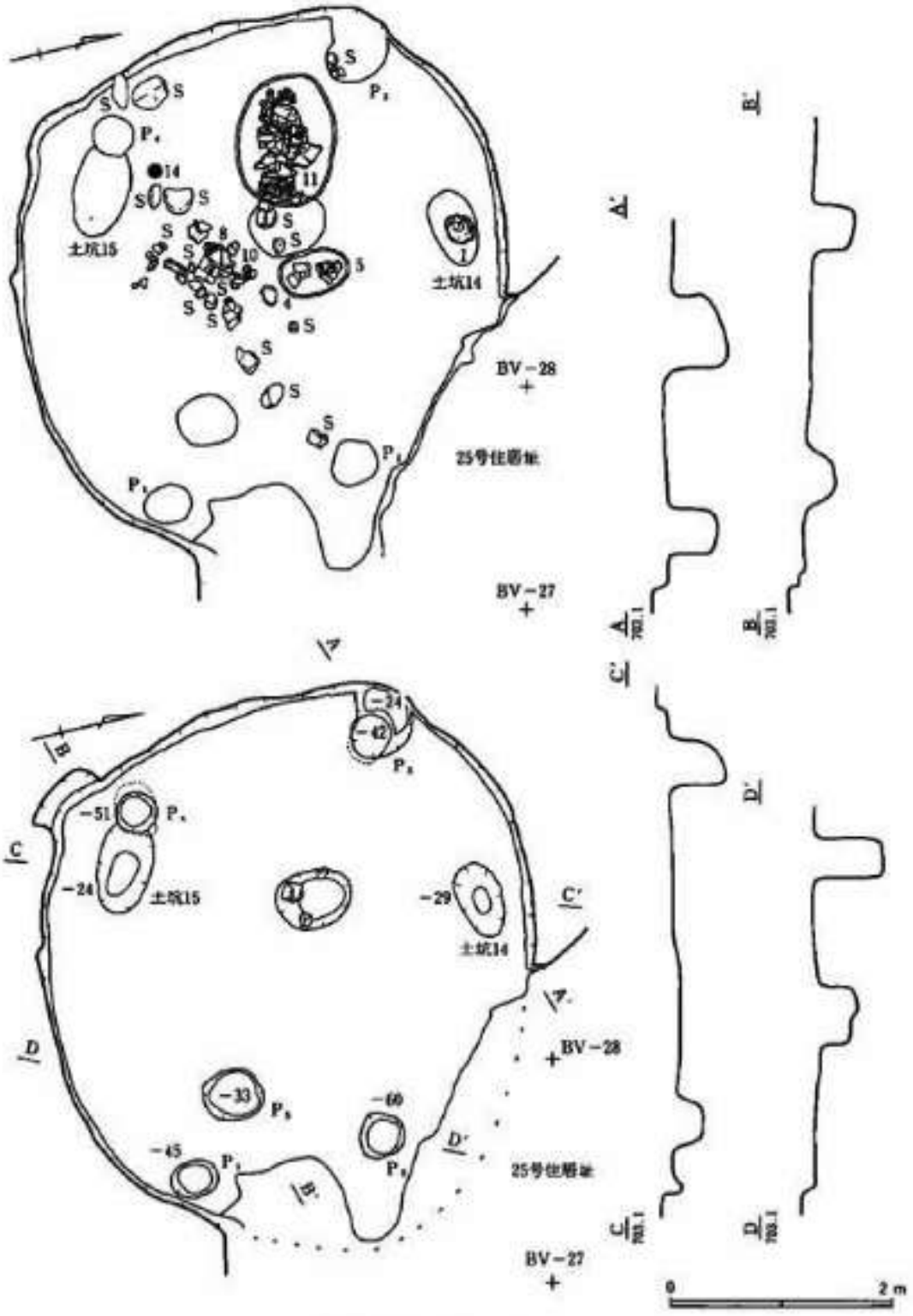
B地区で検出した。29号住居址を破壊している。また、囲溝址に南側壁の一部を破壊されている。住居址の2分の1程は調査区外に入るためプランは判然としないが、南北方向に主軸をおく不整楕円形を呈すると思われる。壁残高は22cm～13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており締まりは全体的に良好である。ピットは7基検出したが、主柱穴はP_1～P_4であると思われる。P_4は底部が貼り床となっている。

炉址は石囲炉で2分の1程の検出であったため全容は判然としないが、深さ15cmに掘りくぼめている。炉石には部分的に火熱の跡が認められる。炉址の底部には焼土がみられる。また、P_3付近の床面にも焼土がみられる。遺物は炉址周囲から深鉢型土器（図32－1・2）、覆土中層より石斧（図32－3－5）が出土している。

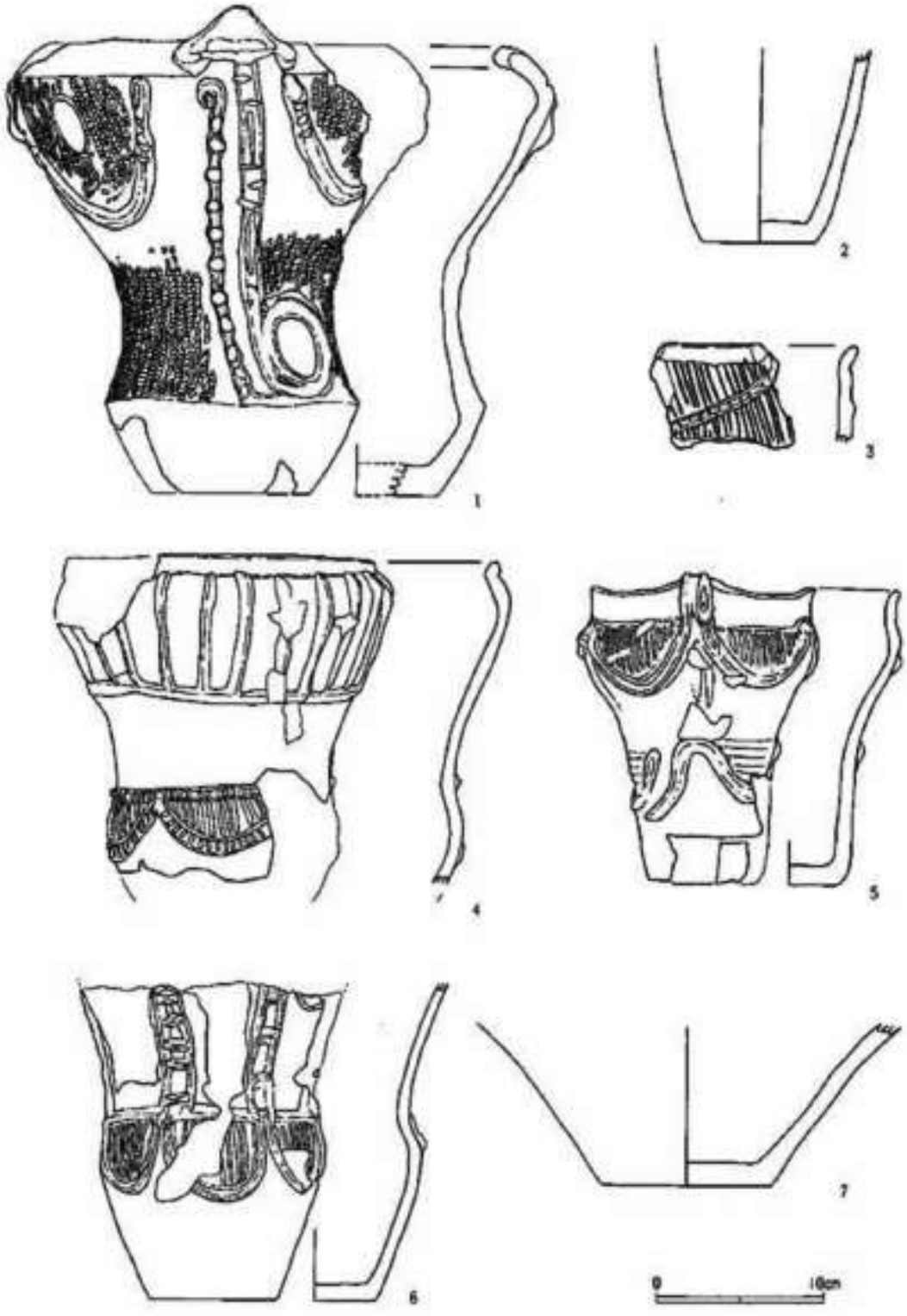
本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

29号住居址（第31図）

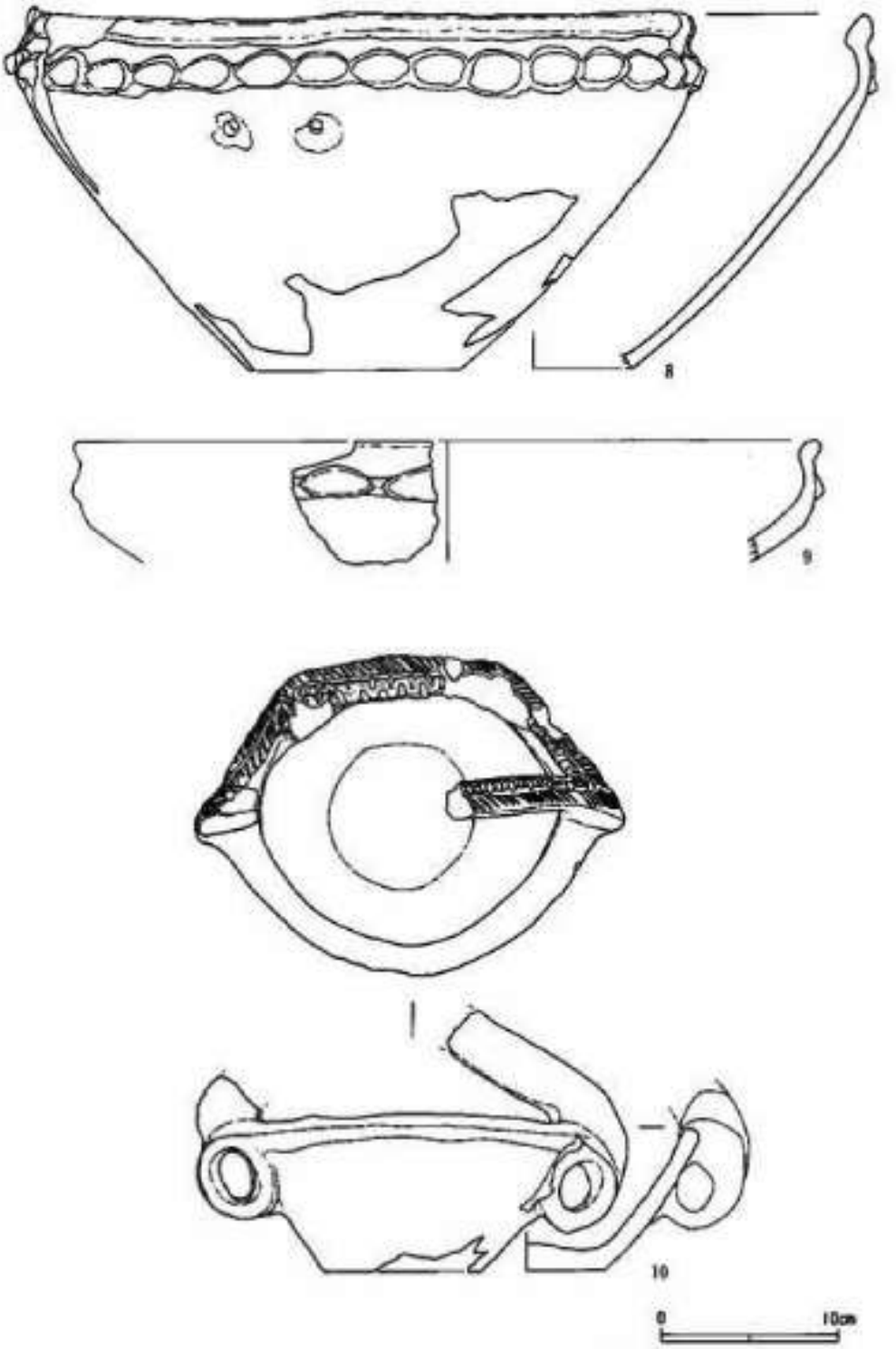
B地区で検出した。28号住居址の南壁付近から床面のみが検出できたためプランは不明である。遺物は覆土中層より土器片（図34－1）と石鏃（図34－2）が出土しているが、本住居址に伴うものかは判然としない。よって本址の時期は不明である。



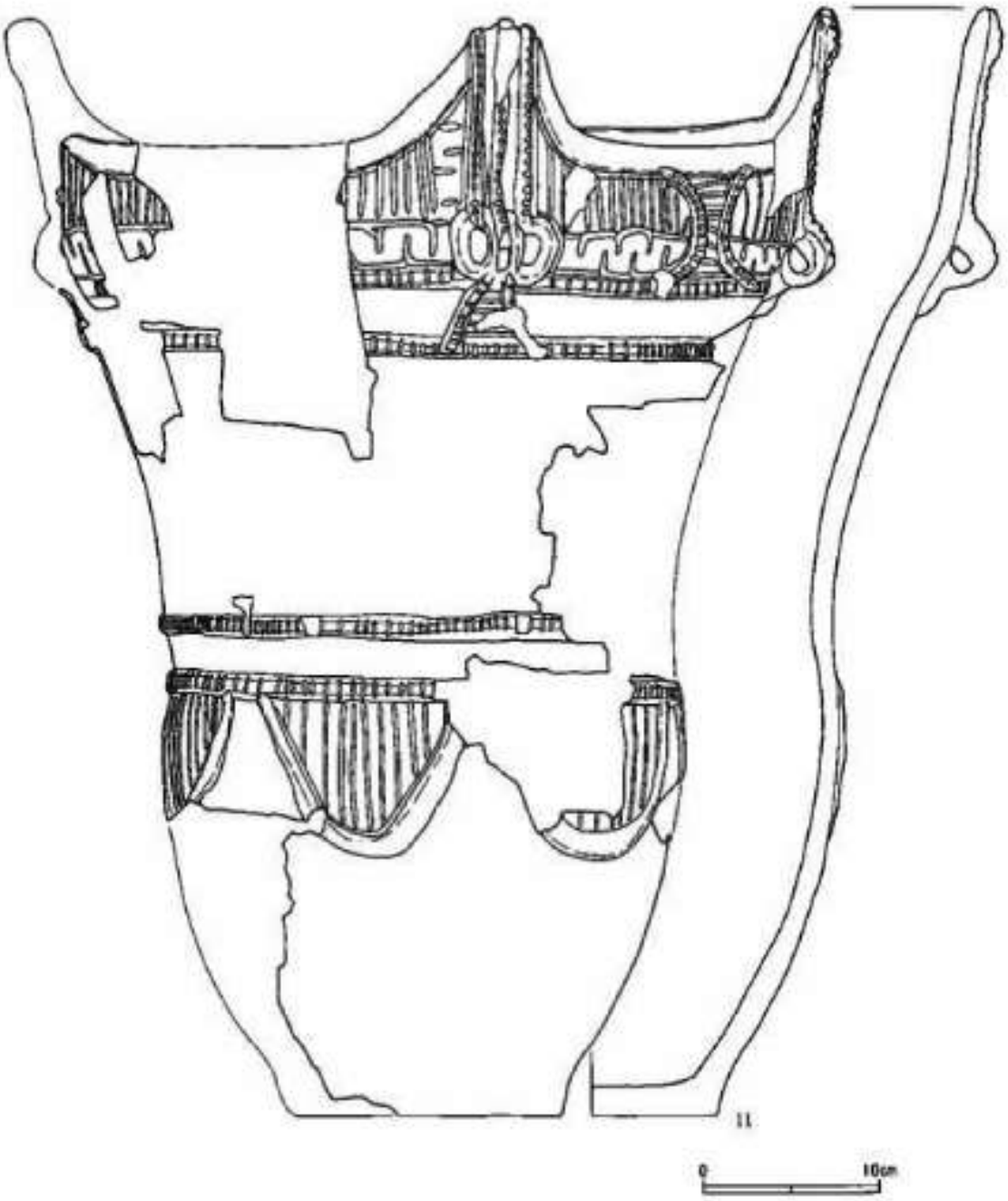
第25図　27号住居址実測図



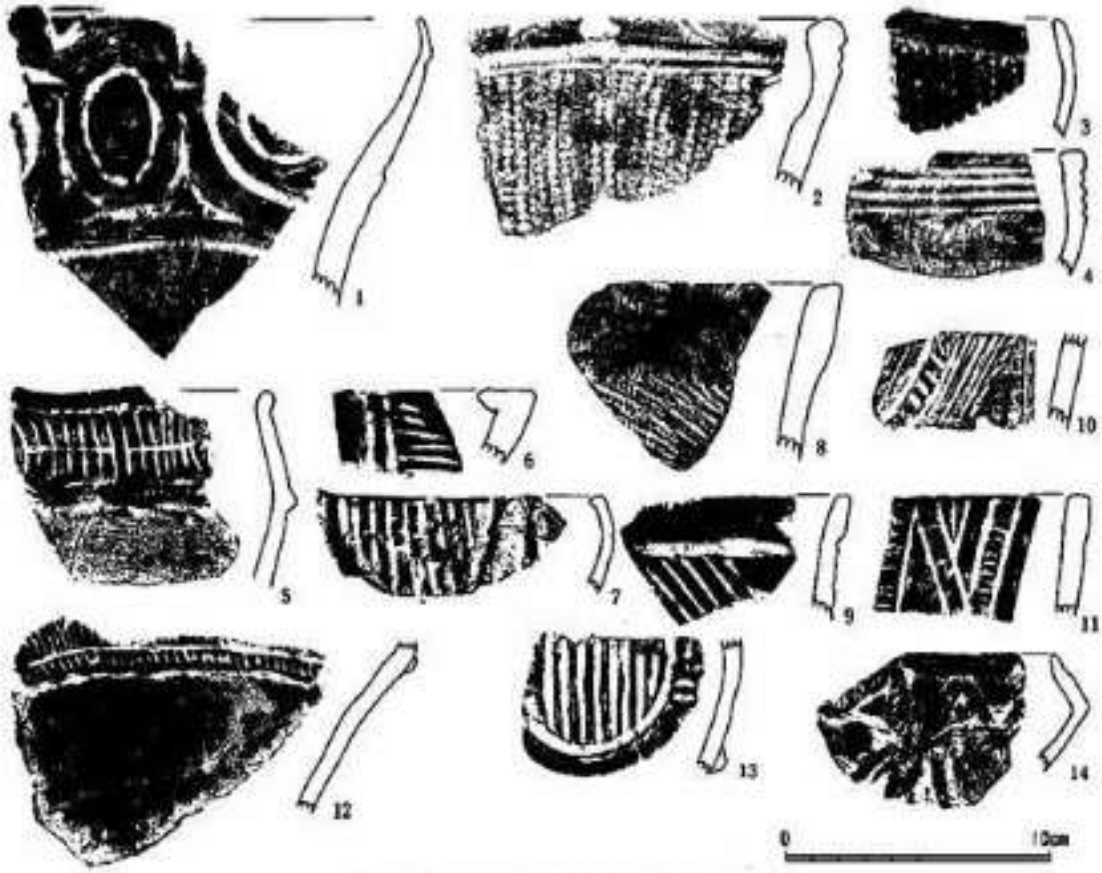
第26図　27号住居址出土遺物実測図①



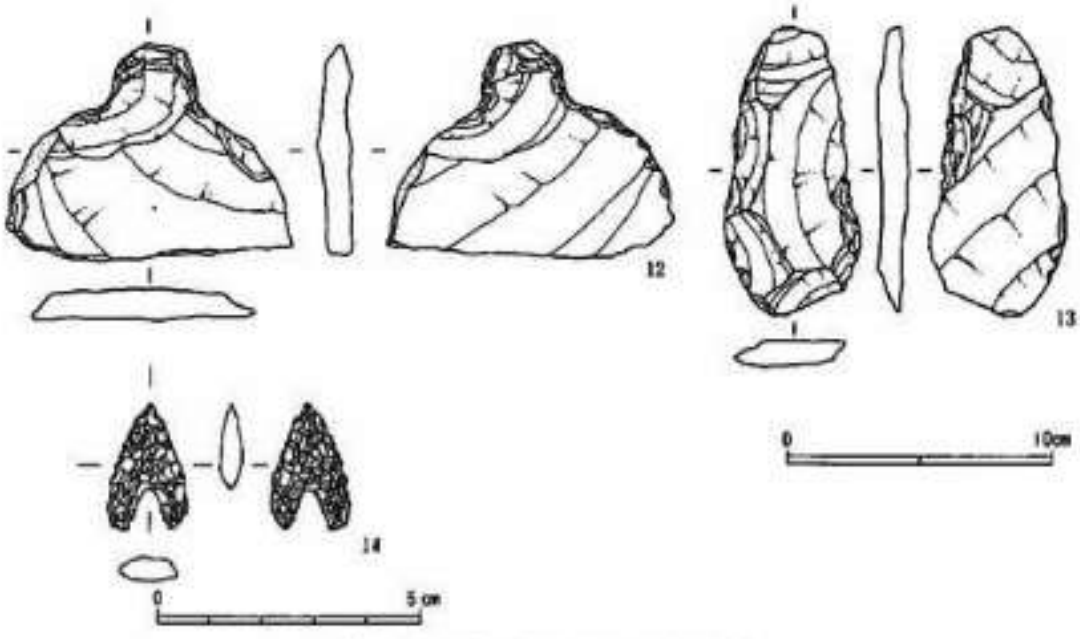
第27図　27号住居址出土遺物実測図②



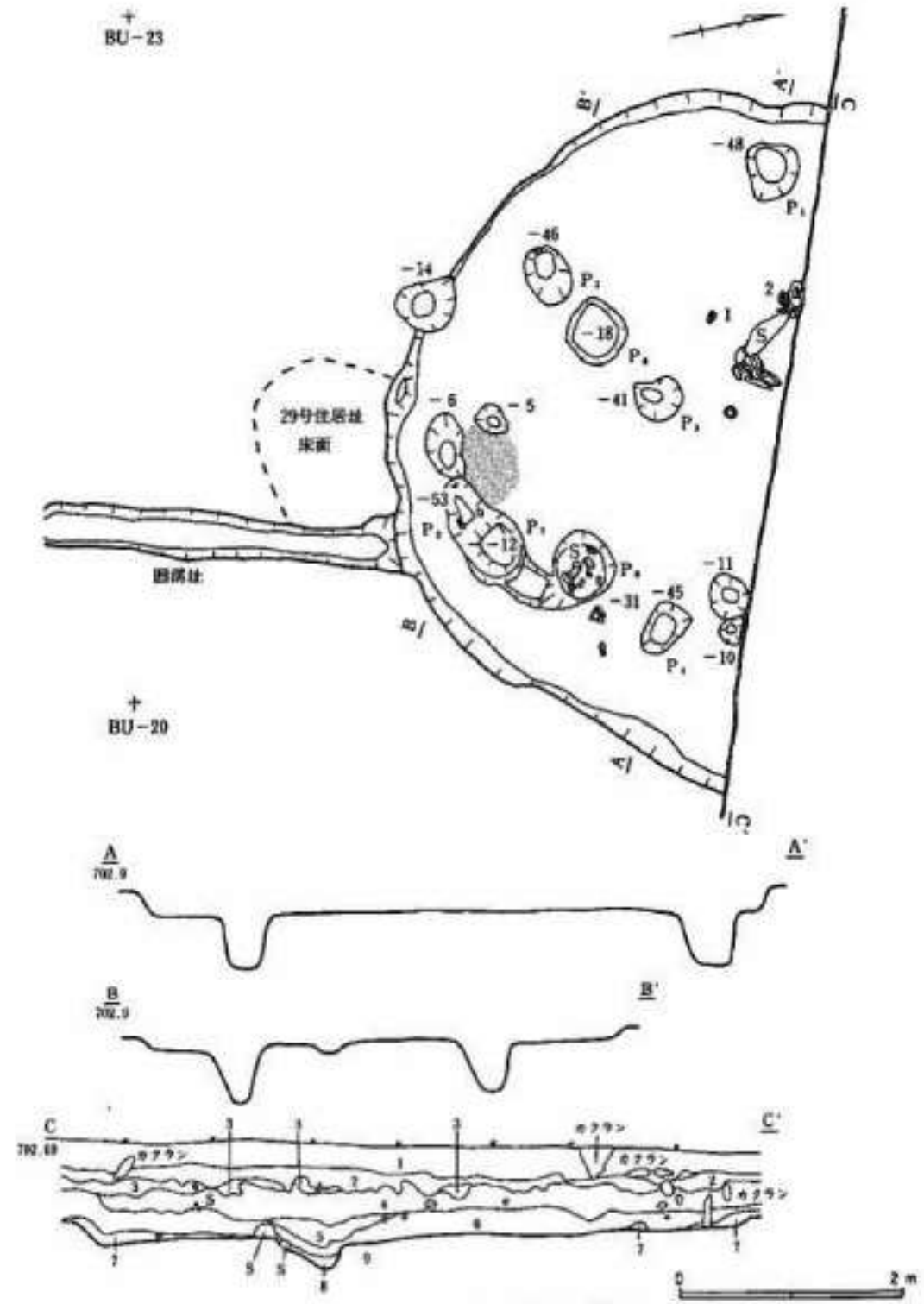
第28図　27号住居址出土遺物実測図③



第29図　27号住居址出土土器拓影図

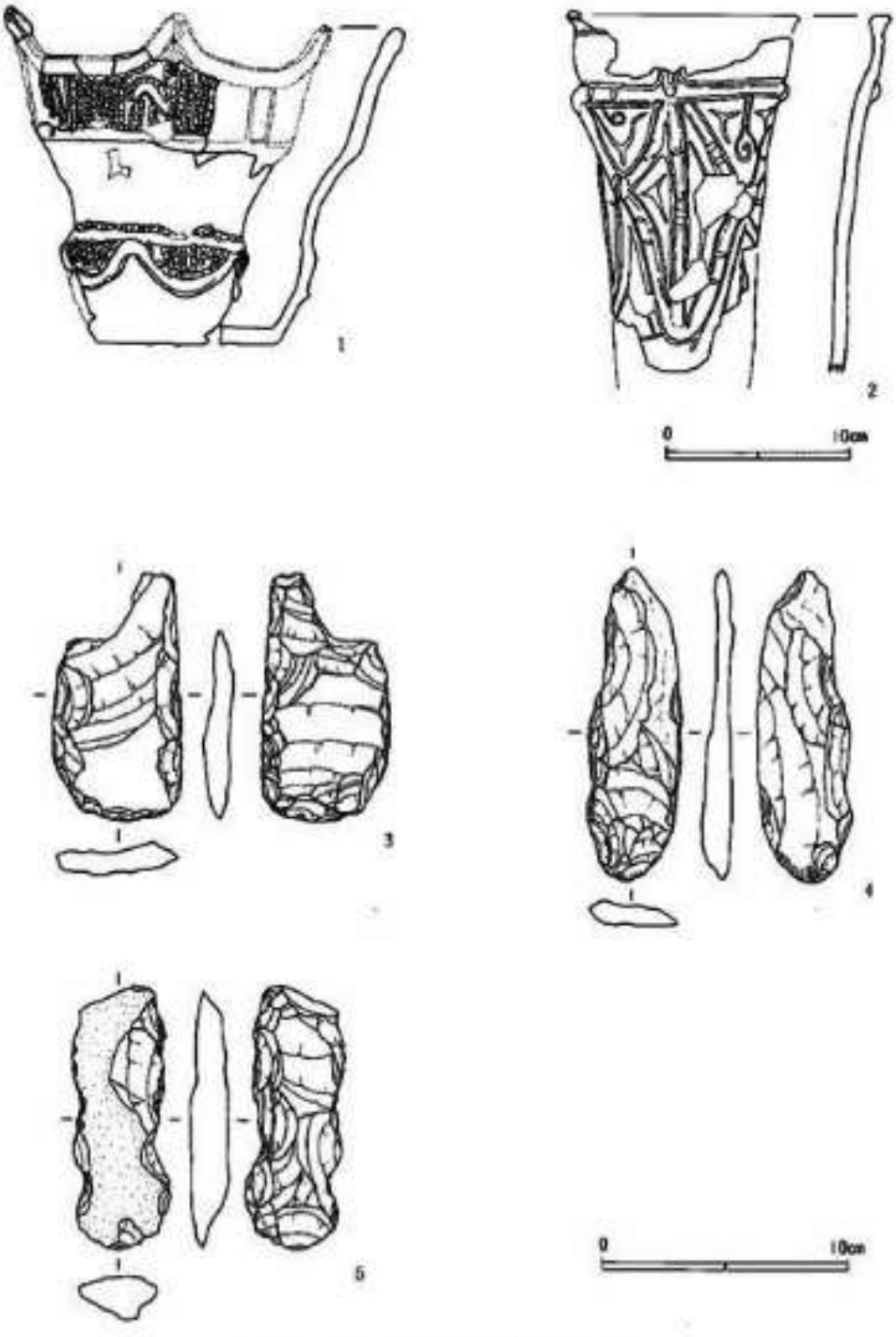


第30図　27号住居址出土遺物実測図④

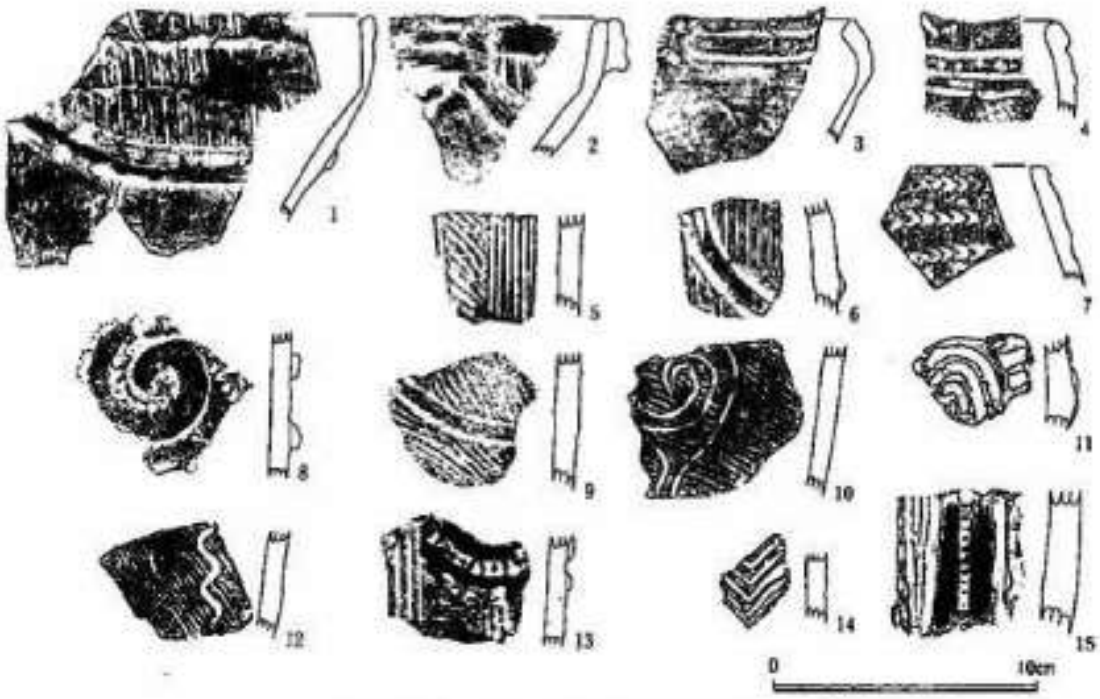


1 表土
2 黒褐色土
3 暗褐色土（ローム粒子を少量含む）
4 黒色土（ローム粒子を多く含み、炭が混じる）
5 暗褐色土（炭を少量含む）
6 褐色土（ローム粒子を少量含む）
7 暗褐色土
8 赤褐色土（焼土を多く含む）
9 ローム

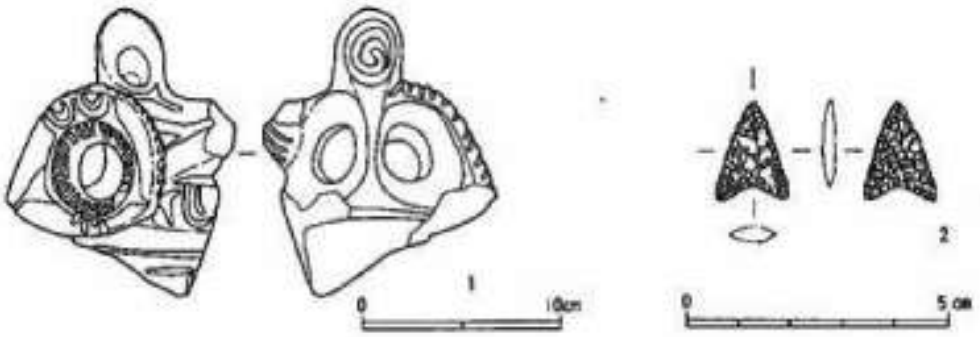
第31図　28・29号住居址実測図



第32図　28号住居址出土遺物実測図



第33図　28号住居址出土土器拓影図

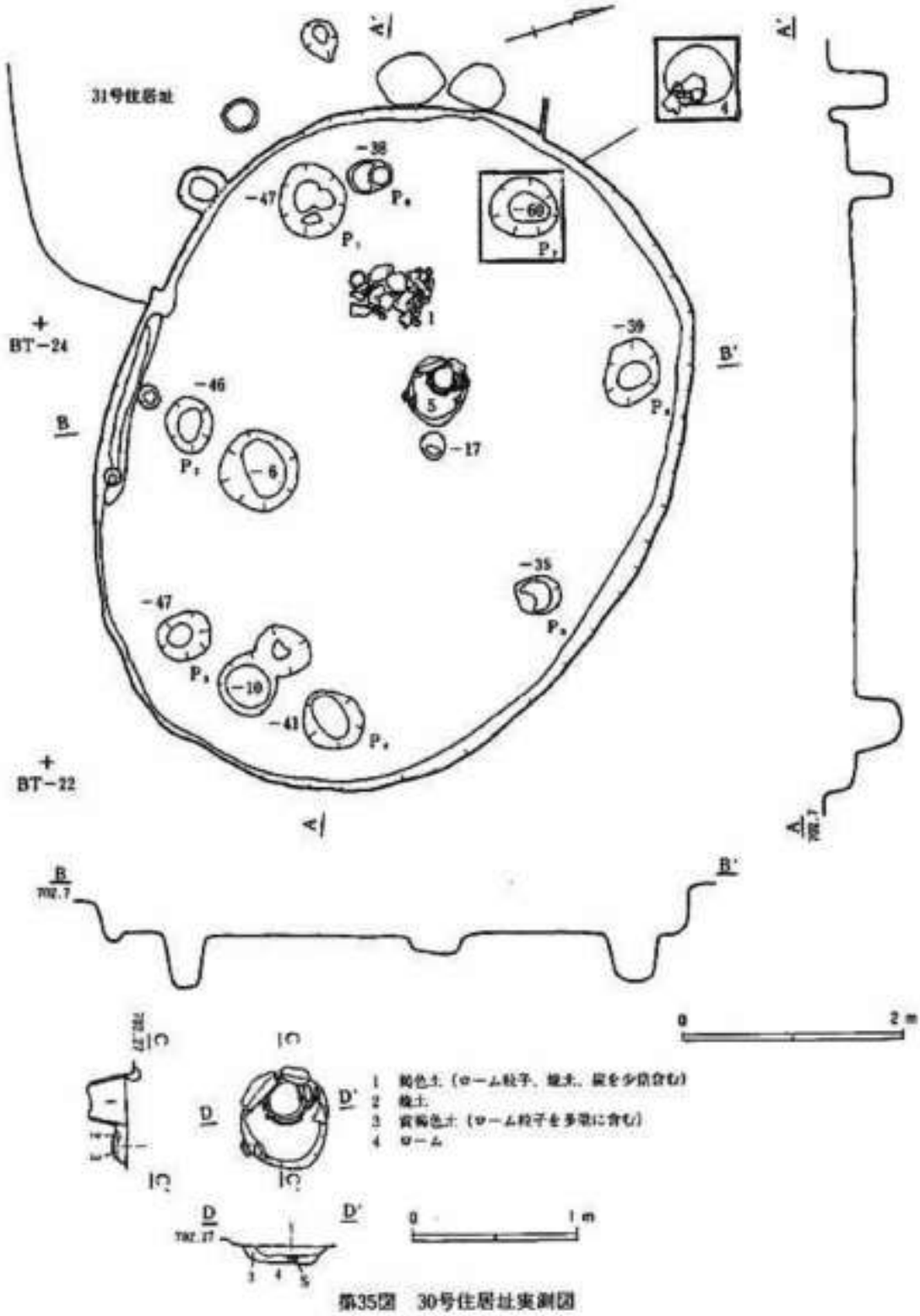


第34図　29号住居址出土遺物実測図

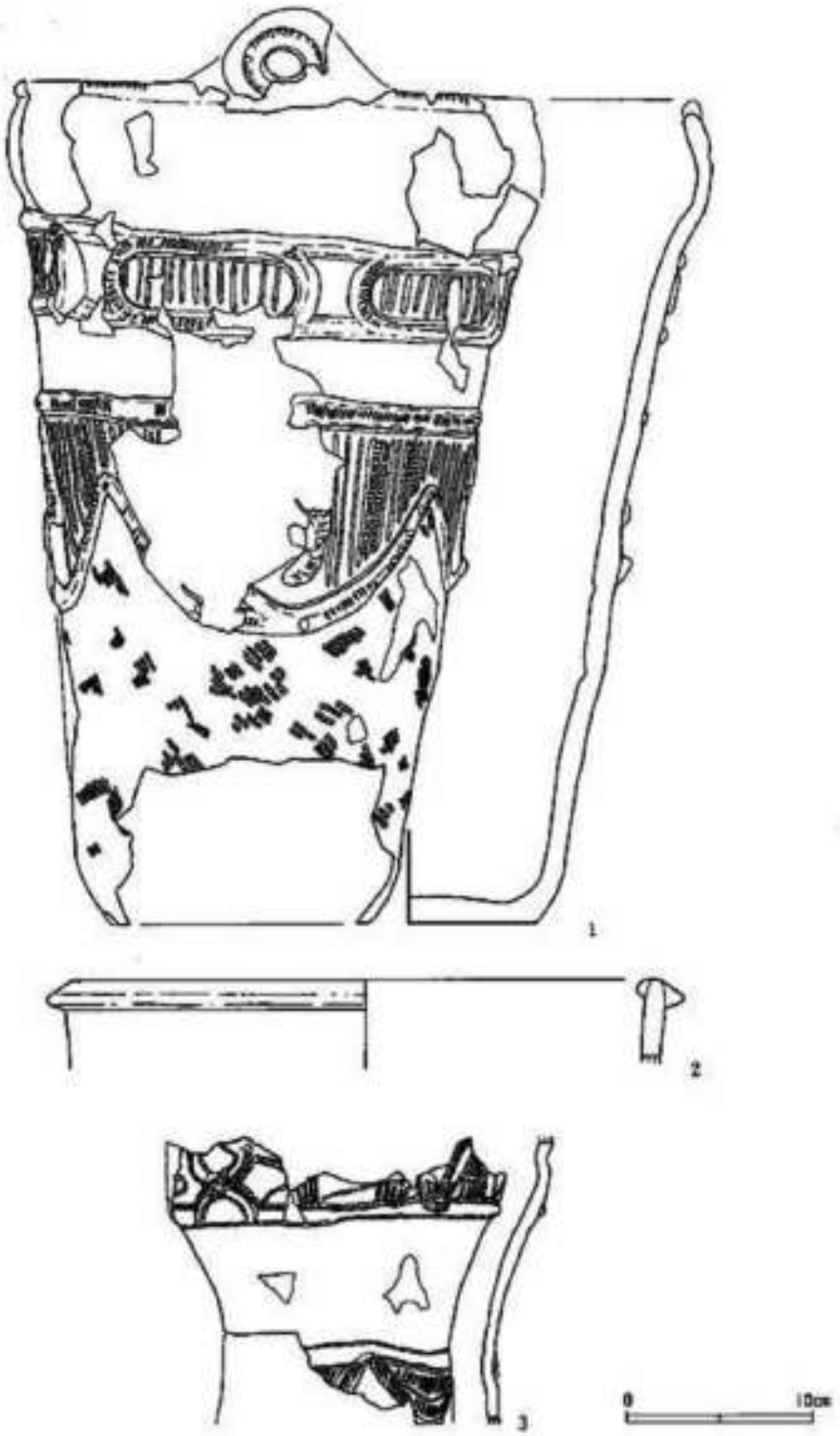
30号住居址（第35図）

B地区で検出した。31号住居址に西側壁の一部を破壊されている。長軸6.3m、短軸5.05mの楕円形を呈する。主軸はN－40°－Wを示す。壁残高は43cm～20cmを測る。周溝は南側壁下にわずかにみられ、長さ1.8m、幅21cm～22cm、深さ8cm～9cmである。床面はローム層まで掘り込まれ軟く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは8基検出した。主柱穴はP_1～P_7であると思われる。P_3とP_4の中間点とP_7を結ぶ線を軸として左右に2本ずつの配置になっている。P_8は位置的にみて31号住居址に伴うものであると考える。P_2の東側には長軸74cm、短軸72cm、深さ10cmの不整円形に掘り込まれ貼り床を有するピット状のくぼみがみられる。

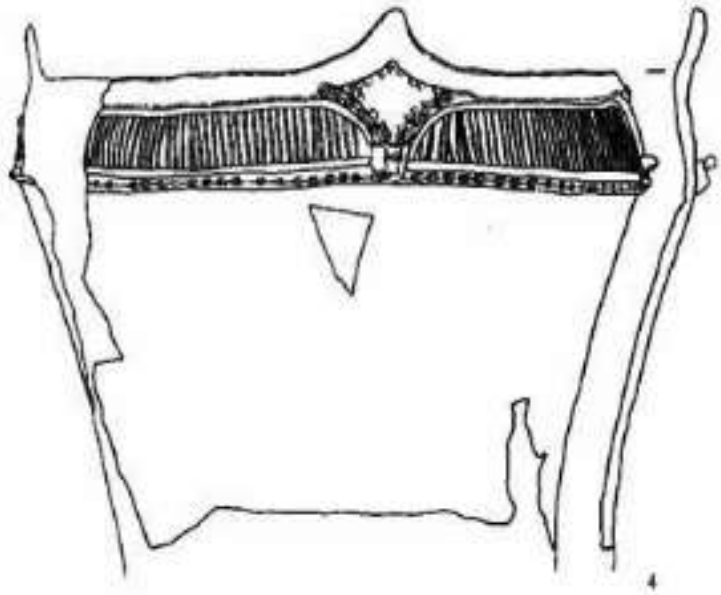
炉址は炉石を有する土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置している。長軸62cm、短軸

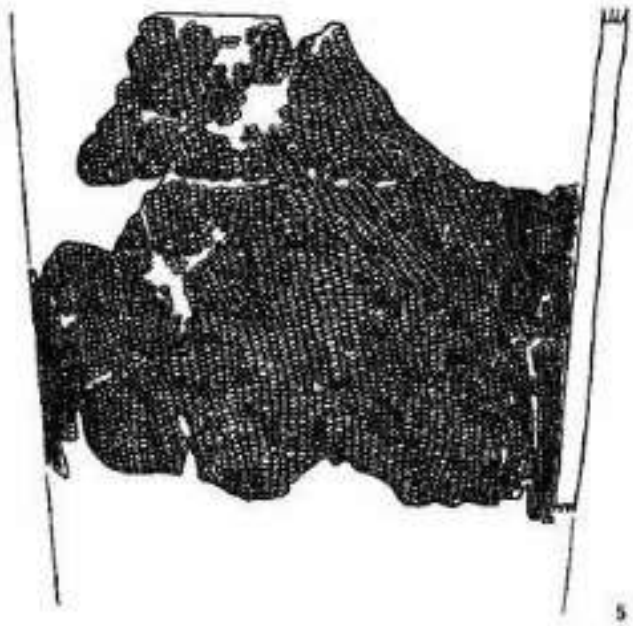


第35図　30号住居址実測図



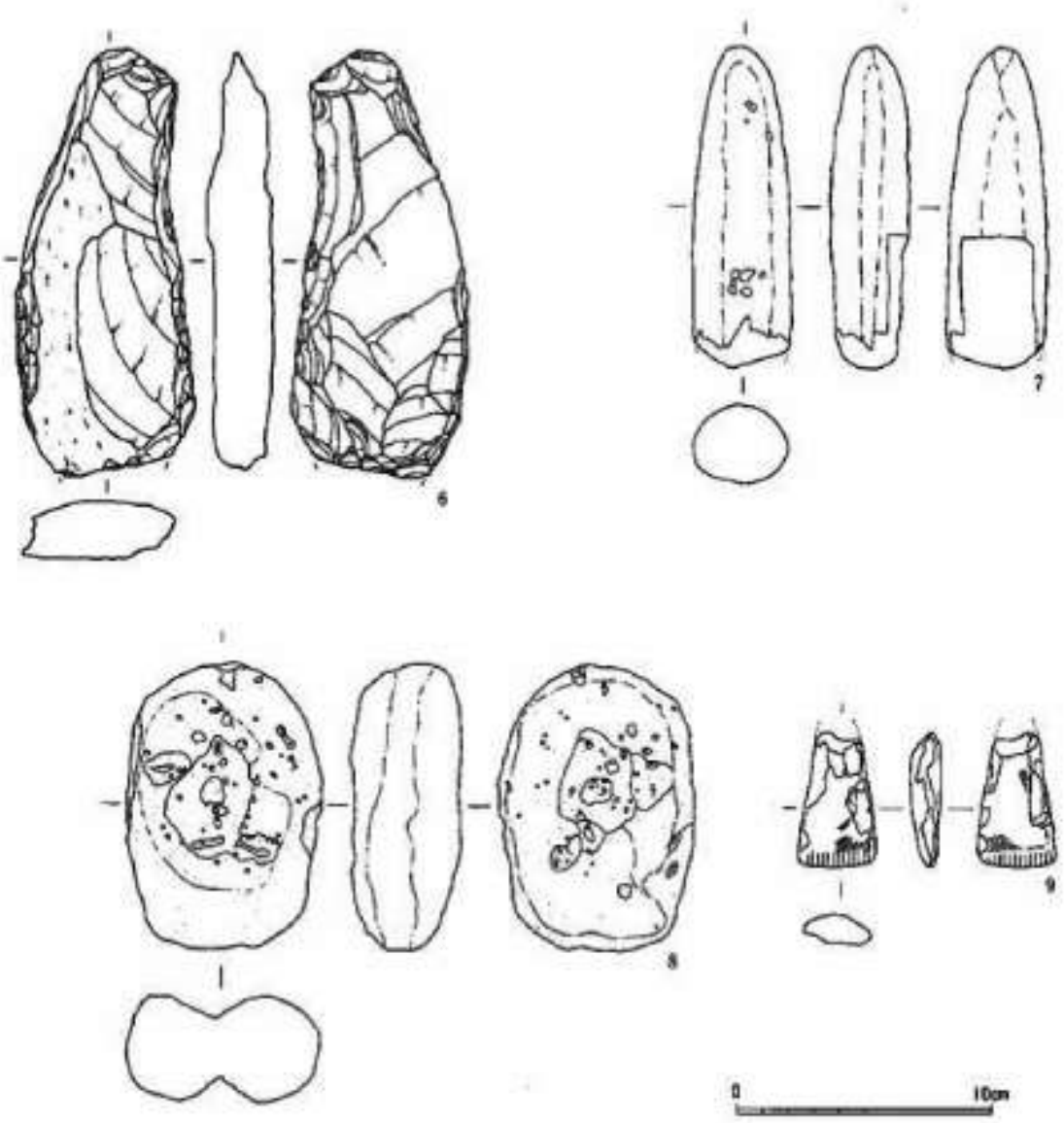
第36図　30号住居址出土遺物実測図①





0 10cm

第37図　30号住居址出土遺物実測図②



第38図　30号住居址出土遺物実測図③

52cmの不整楕円形に掘りくぼめ、その北隅に上部と下部を打ち欠いた深鉢型土器（図37－5）の胴部を埋設している。炉址及び埋設土器の内部には焼土はあまりみられない。また、炉石においても火熱の跡は認められない。

遺物はP_1と炉址の間の床面直上から深鉢型土器(図36－1)が出土しているほか、覆土中層より石斧（図38－6・7・9）、凹石（図38－8）等が出土している。本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

31号住居址（第39図）

B地区で検出した。25号住居址の南側壁の一部と30号住居址の西側壁の一部を破壊している。発掘中に25号住居址と30号住居址との切り合い部分の壁を掘り崩してしまったため、プランははっきりとしないが、北西方向に主軸を示す、楕円形を呈していると思われる。壁残高は30cm～13cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められている。全体的に締まりは軟弱で壁付近になる程弱くなる。はっきりとした貼り床は炉址の北側の一部でしか確認できなかった。

ピットは14基検出した。主柱穴はP_1～P_7であると思われる。このうちP_1・P_2・P_7・P_{11}は断面形が袋状になっている。P_8～P_{13}は深さ60cm～34cmで規則性はみられないが、炉址を囲むような位置となっているため本址は拡張されていることが考えられる。P_{13}は位置的にみて25号住居址に伴うものであると思われる。

炉址は石囲炉と思われ、住居址中央よりやや北側に位置している。床面からほんのわずかに掘りくぼめたもので、床面とのレベル差はほとんどみられない。炉址の周囲には焼土が広がっている。一部のみ貼り床がみられることや、焼土が拡散していることから、炉址の一部は破壊されていることが考えられる。残存する炉石には部分的に火熱の跡が認められる。遺物は少なく、床面及び床面直上よりの出土はなく、覆土中層より土器片（図40－1・2）が出土しているのみである。本住居址の時期は遺物、周囲の住居址との切り合い関係等から縄文時代中期後葉であると思われる。

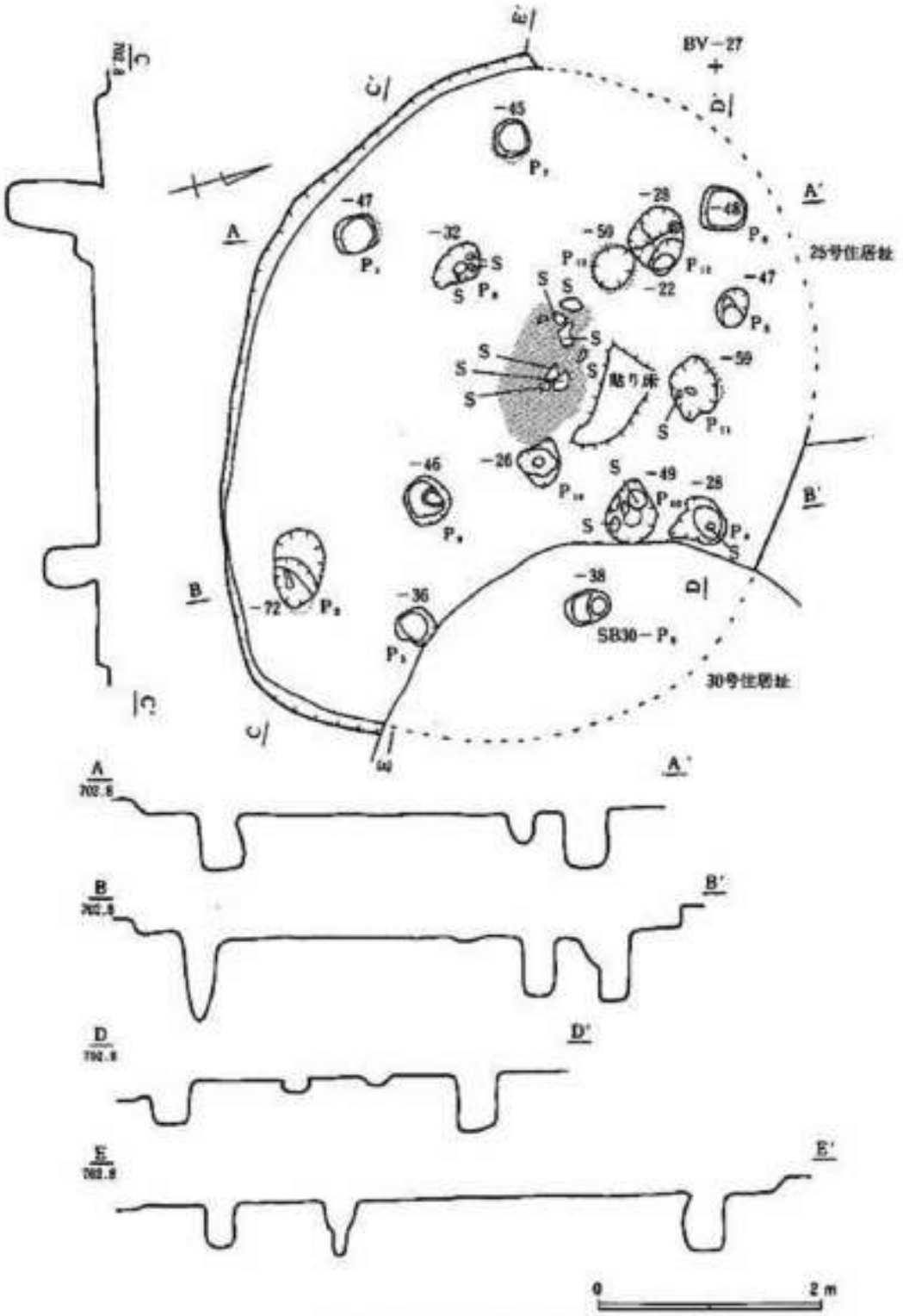
32号住居址（第42図・第53図）

B地区で検出した。33号住居址と土坑16に北側壁の一部を破壊されている。長軸6.0m、短軸4.8mの不整楕円形を呈する。壁残高は48cm～28cmである。周溝は壁下よりの検出はできなかったが、各ピットを結ぶ形で検出した。南北側の一部と東側で一部途切れている。深さ6cm～2cm、幅13cm～12cmである。

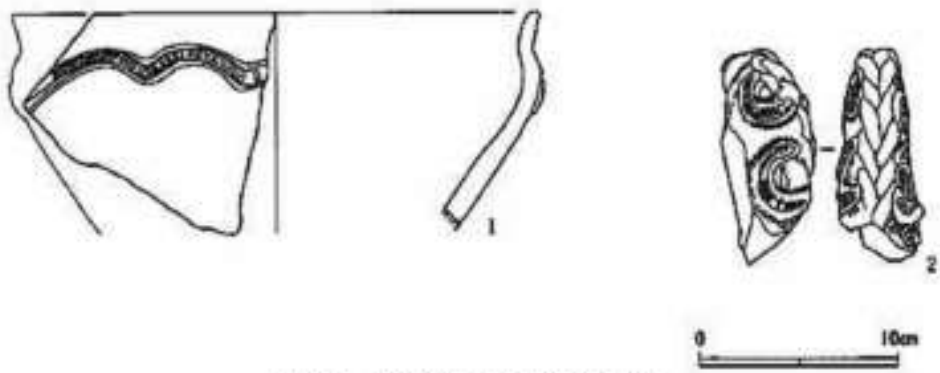
床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは10基検出した。主柱穴は周溝の検出位置から新旧の関係があるとみられ、新しい主柱穴はP_1～P_6、古い主柱穴はP_7～P_{10}であると思われる。P_3・P_6はそれぞれ、2つのピットが重複していることが考えられ、住居址の中心に近いものが古い主柱穴の1つになると思われる。これらのピット内部壁面及び底部には小石が多くみられる。

炉址は土器埋設炉で、住居址中央よりやや西側に位置している。長軸108cm、短軸81cmの不整楕円形にほぼ垂直に掘り込んだ深さ13cm～11cmの土坑状のくぼみに下部を打ち欠いた深鉢型土器（図46－10）を埋設している。住居址のプランに新旧関係がみられることから炉址においても新旧関係があるものと推測できるが、判断できるものがみられず判然としない。

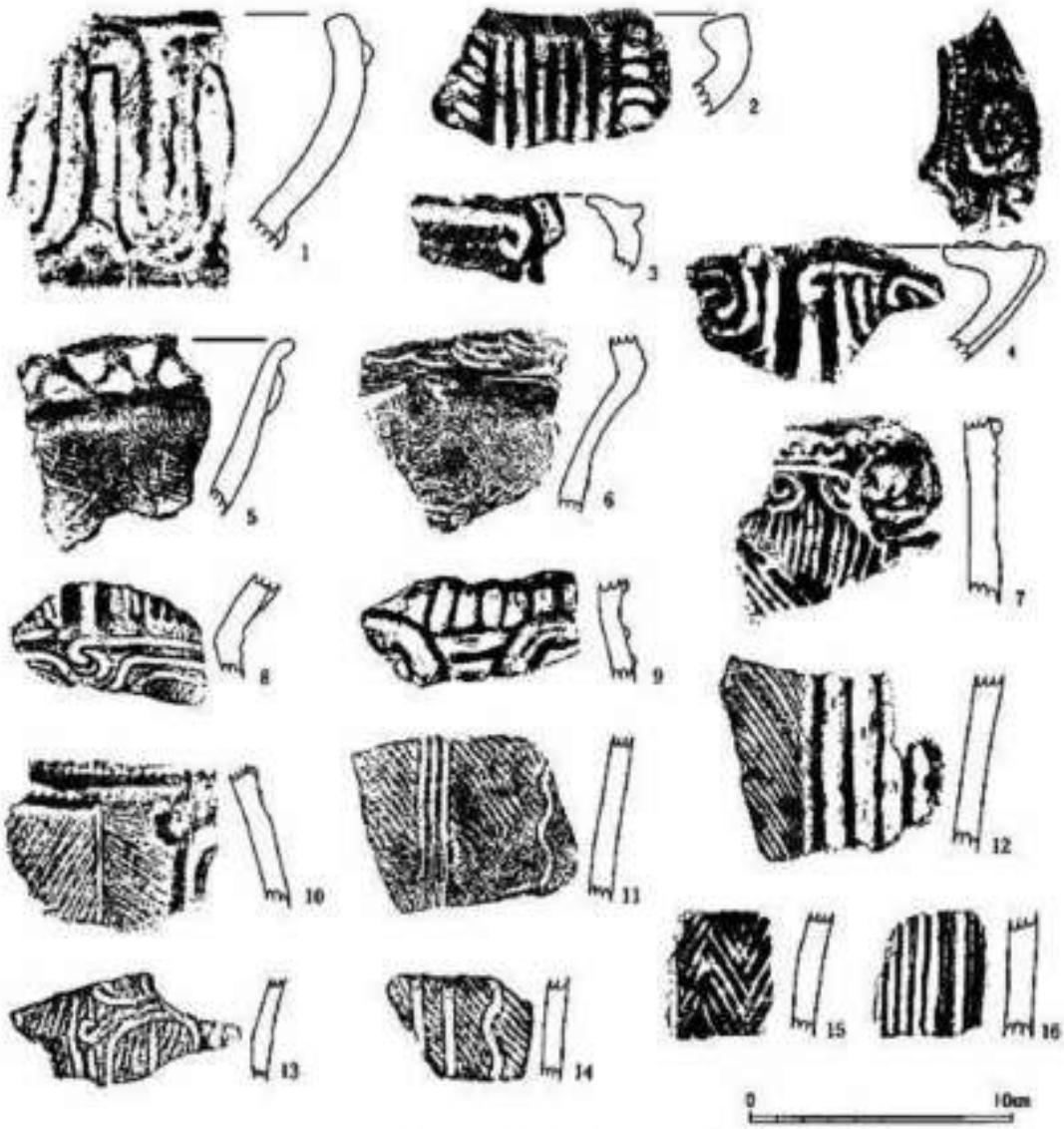
遺物は住居址覆土の中層よりまとまった状態で多量の土器（図43－1、図44－2・3、図45－4～7、図46－11～13、図47－14・15）と石斧（図49－18～23、図51－30～31）、石匙（図50－25・26）、石



第39図　31号住居址実測図

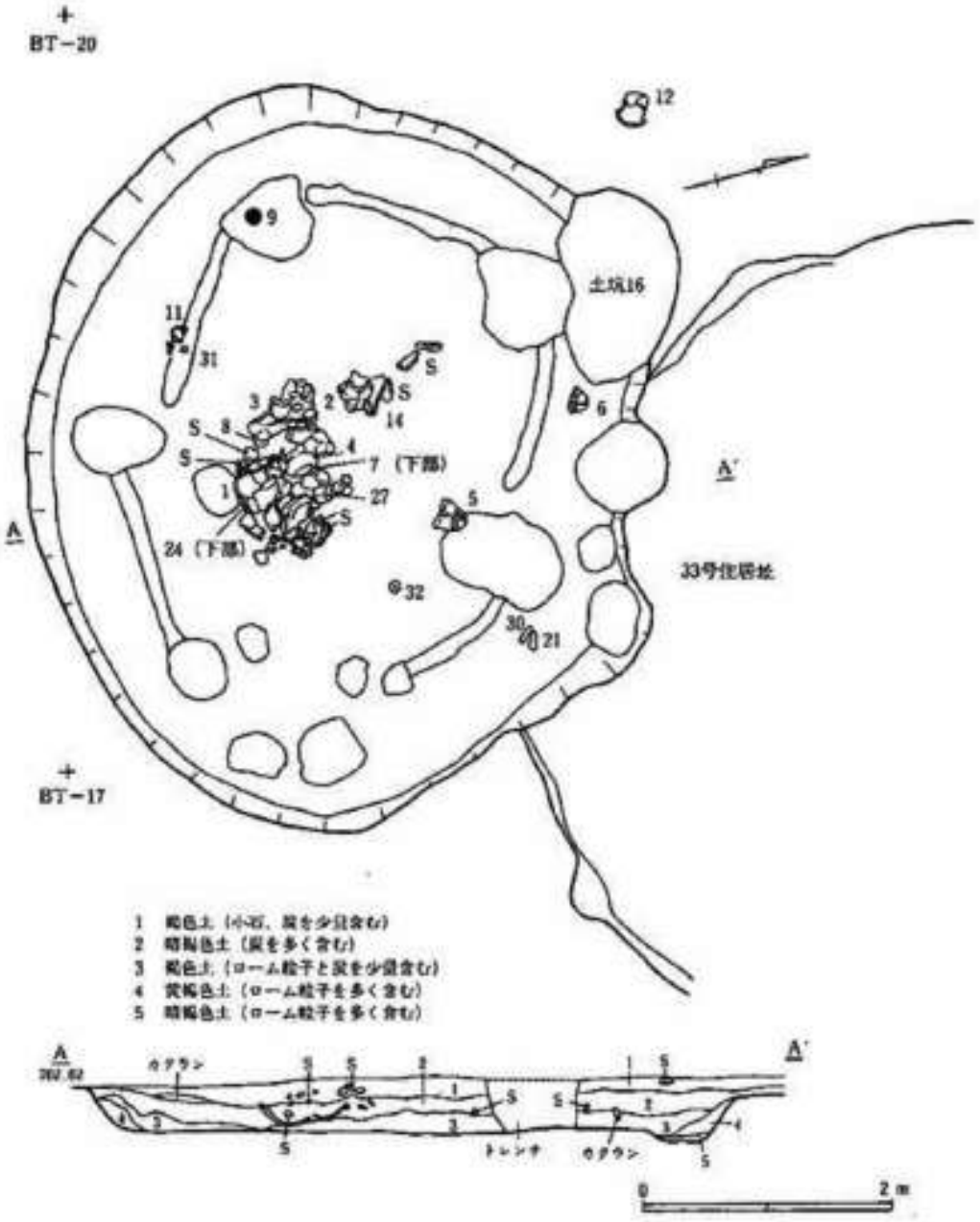


第40図　31号住居址出土遺物実測図

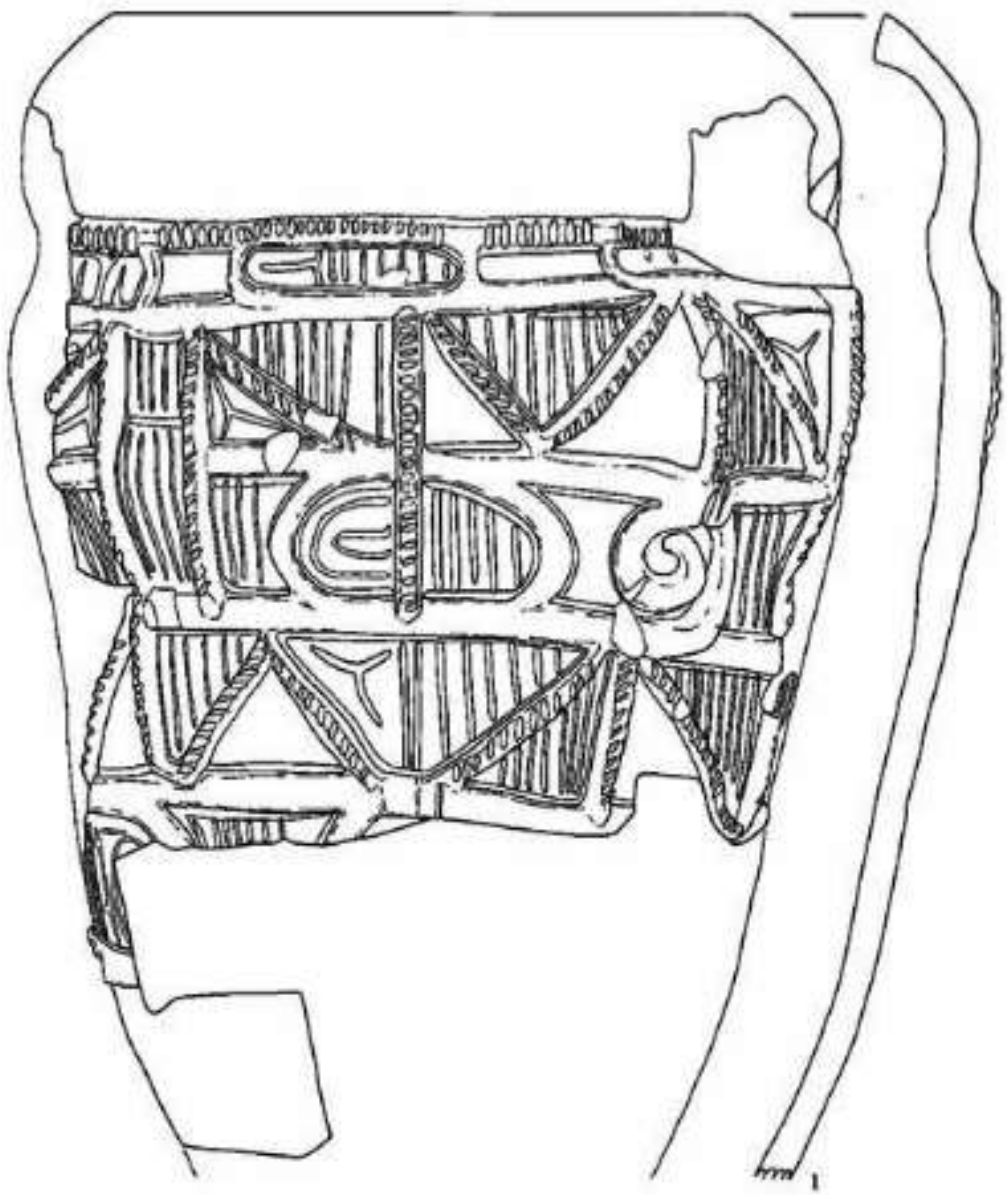


第41図　31号住居址出土土器拓影図

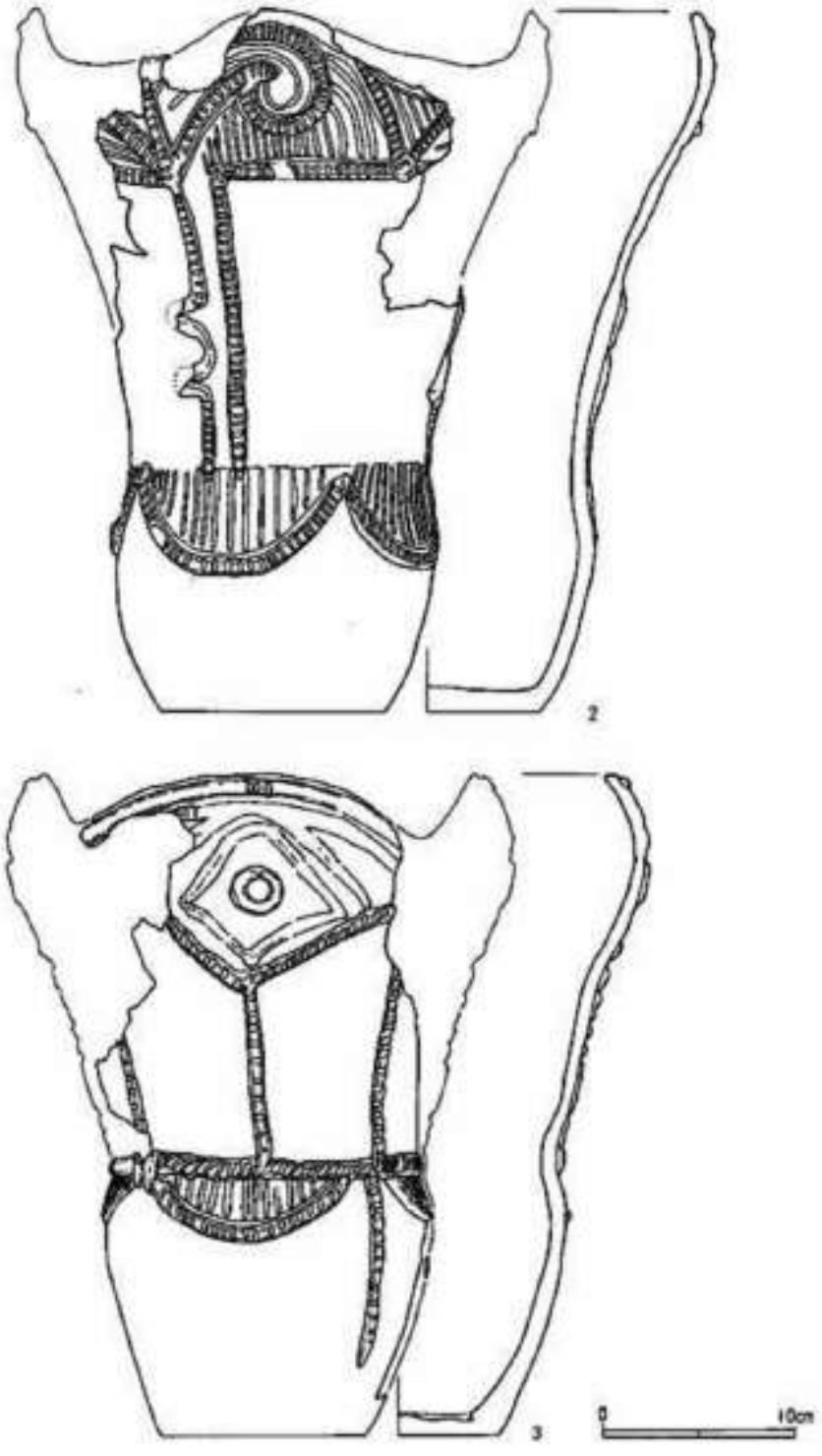
錘（図50－27）、横刃型石器（図50－28・29）、凹石（図51－32）等の石器、土偶の脚部（図48－15～17）が出土している。床面からは浮いた状態で出土しており、吹上パターン状の廃棄遺物と思われる。土器は完形品がなく、いずれかの部分が欠けている。出土した土偶の脚部はいずれも覆土上層からの出土で、（図48－15・16）は胎土、焼成、文様から同一個体と考えられる。本住居址に伴うと思われる遺物はP1の覆土より出土した深鉢型土器（図45－9）と西側壁下より出土した土器底部（図46－11）、炉址の埋設土器（図46－10）がある。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



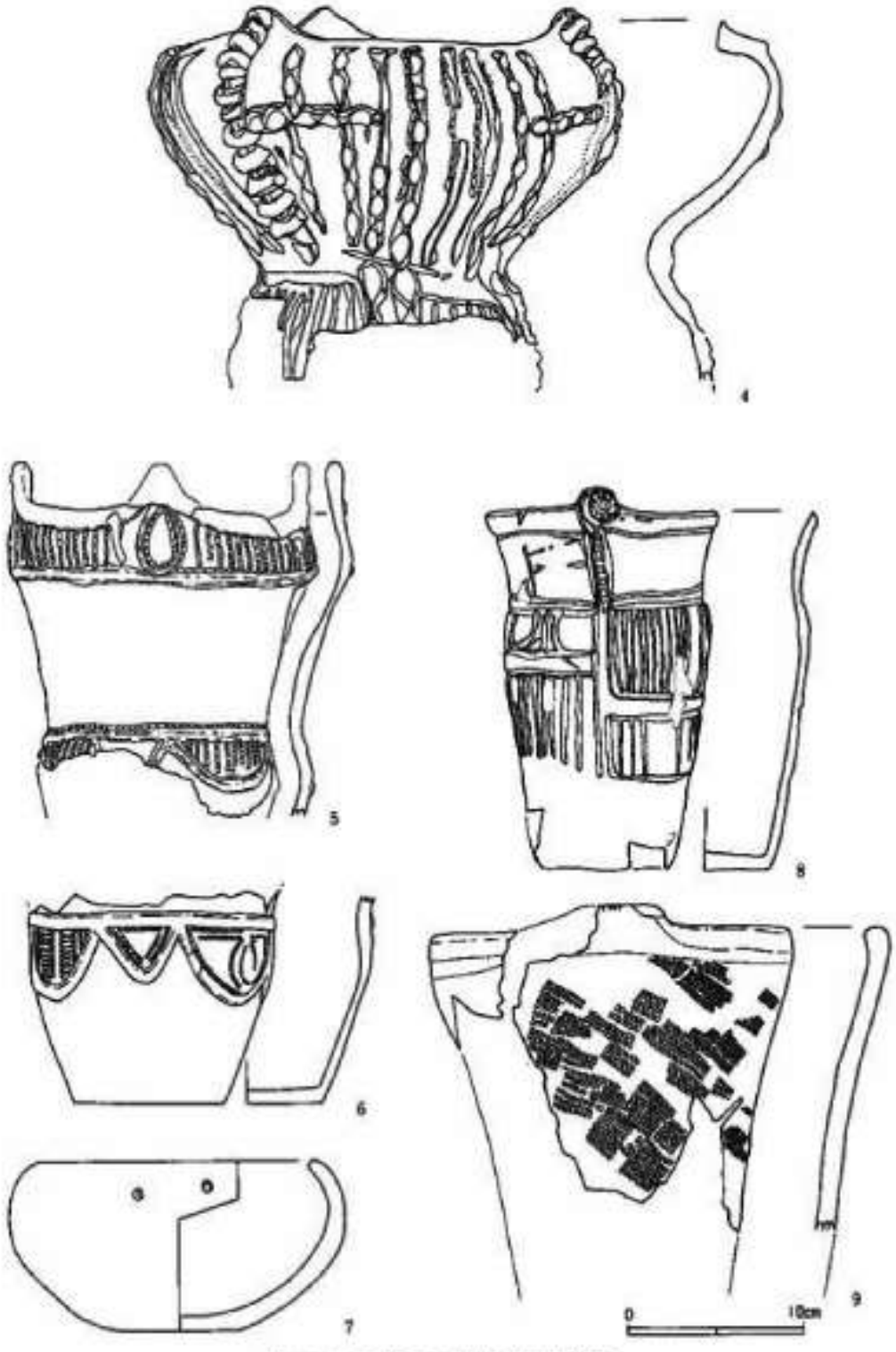
第42図　32号住居址出土遺物位置図



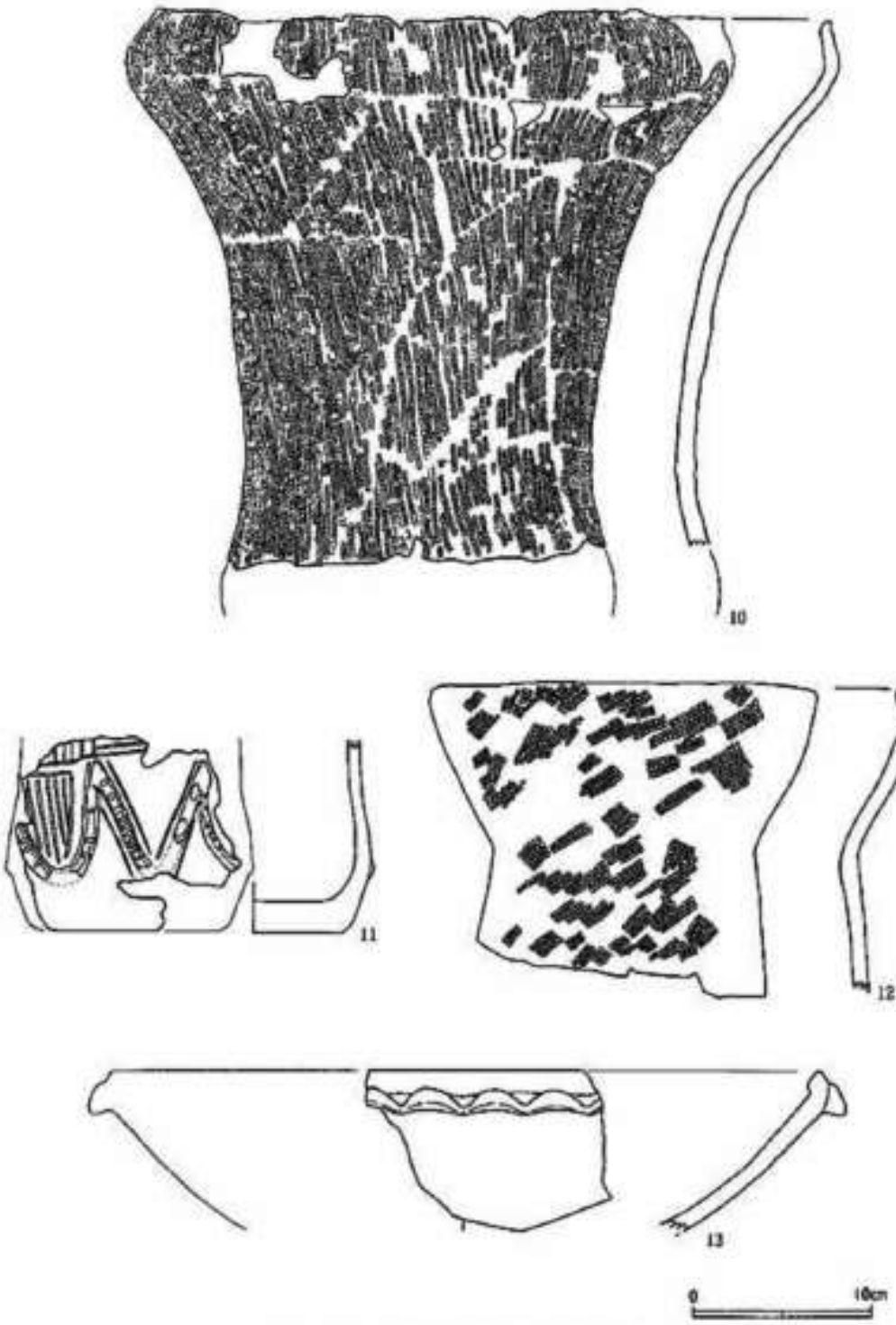
第43図　32号住居址出土遺物実測図①



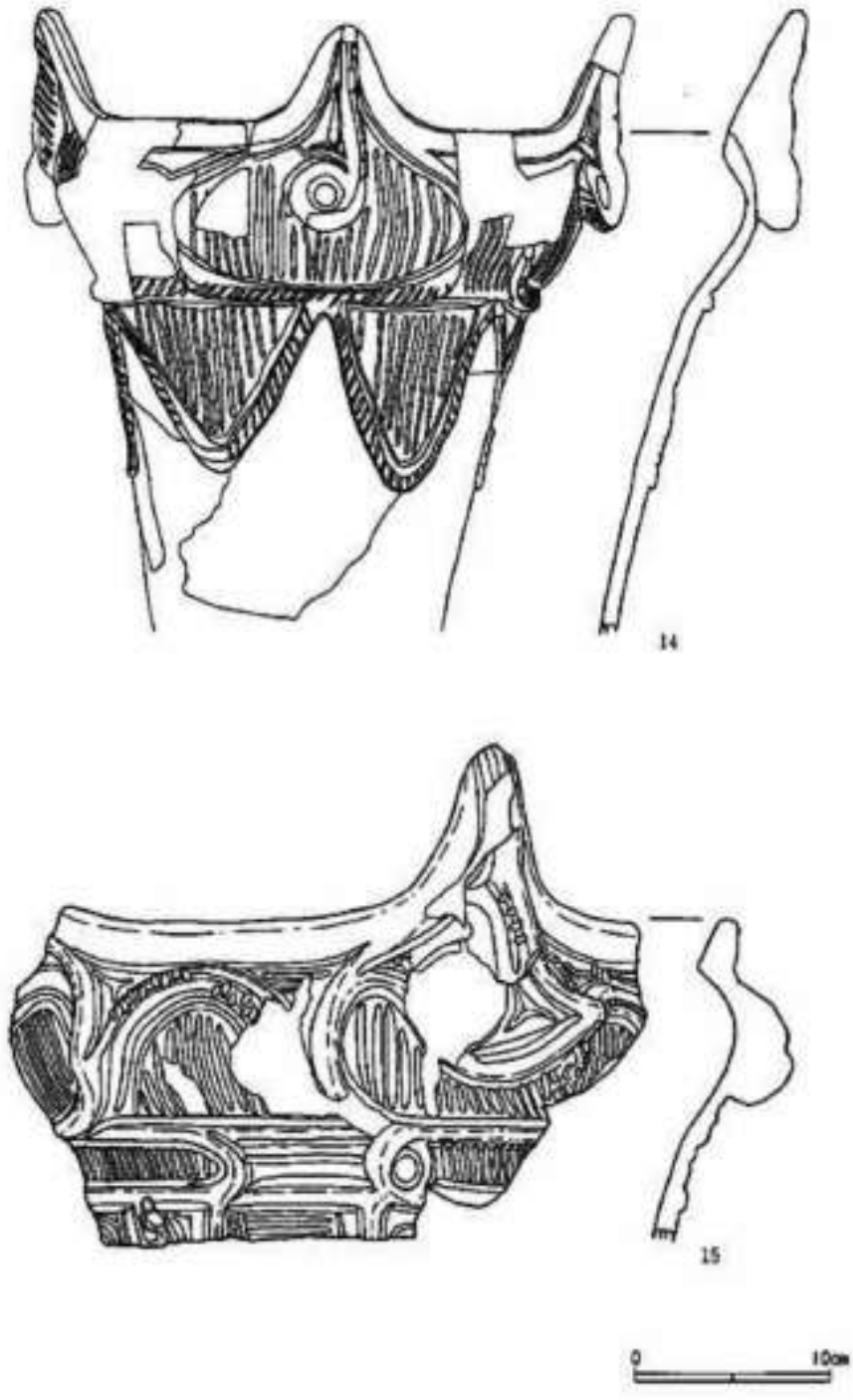
第44図　32号住居址出土遺物実測図②



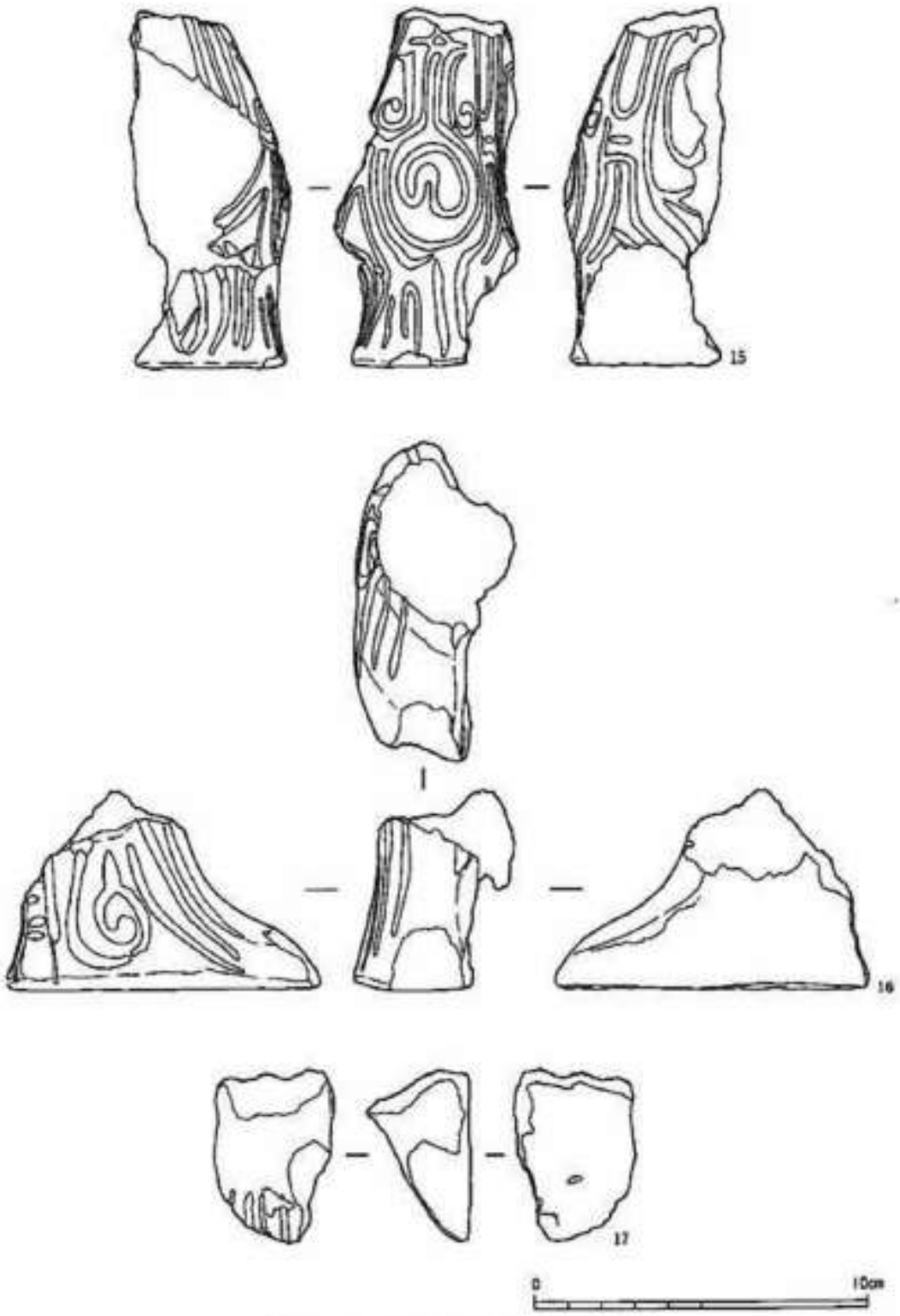
第45図　32号住居址出土遺物実測図③



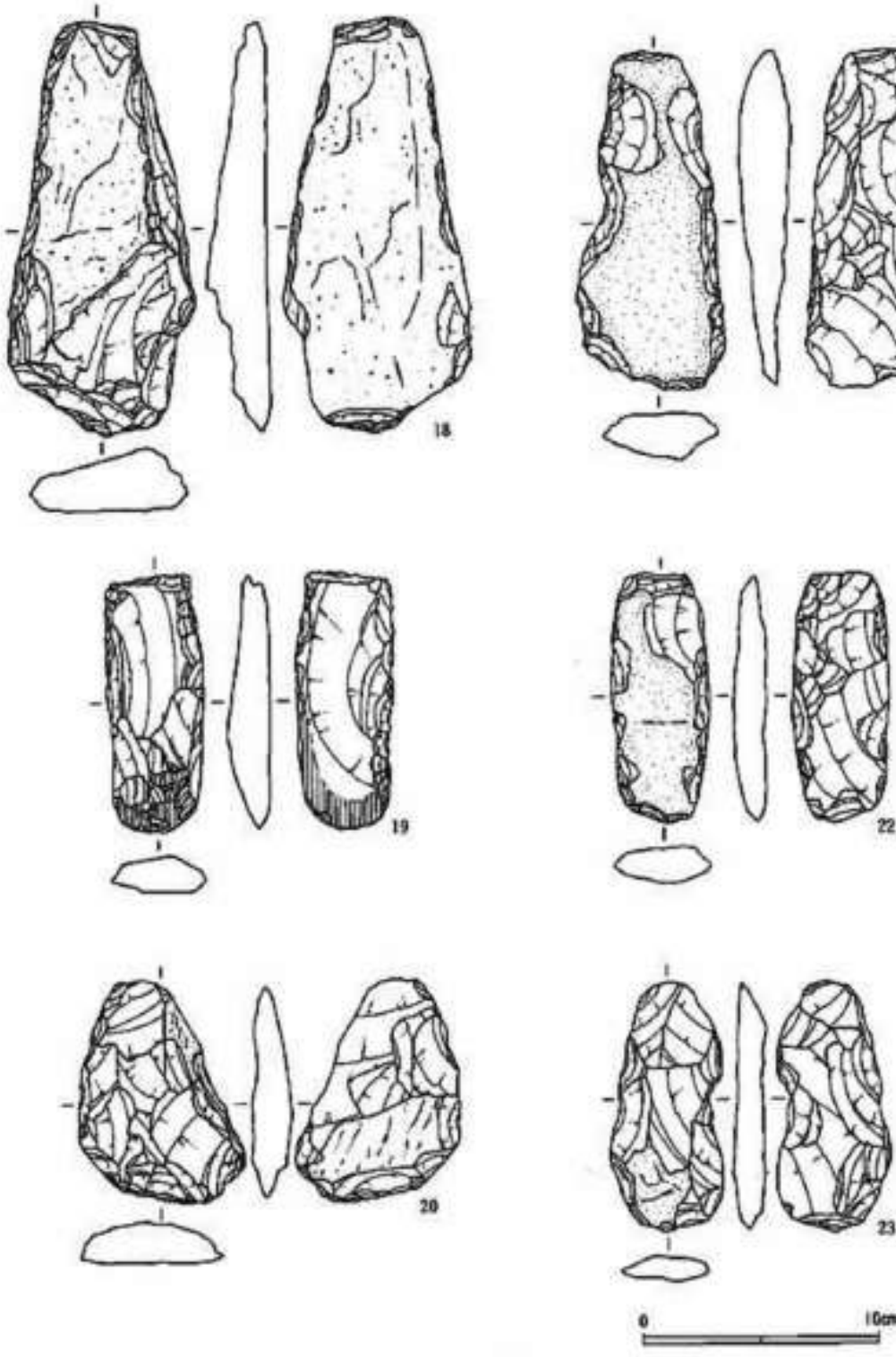
第46図　32号住居址出土遺物実測図④



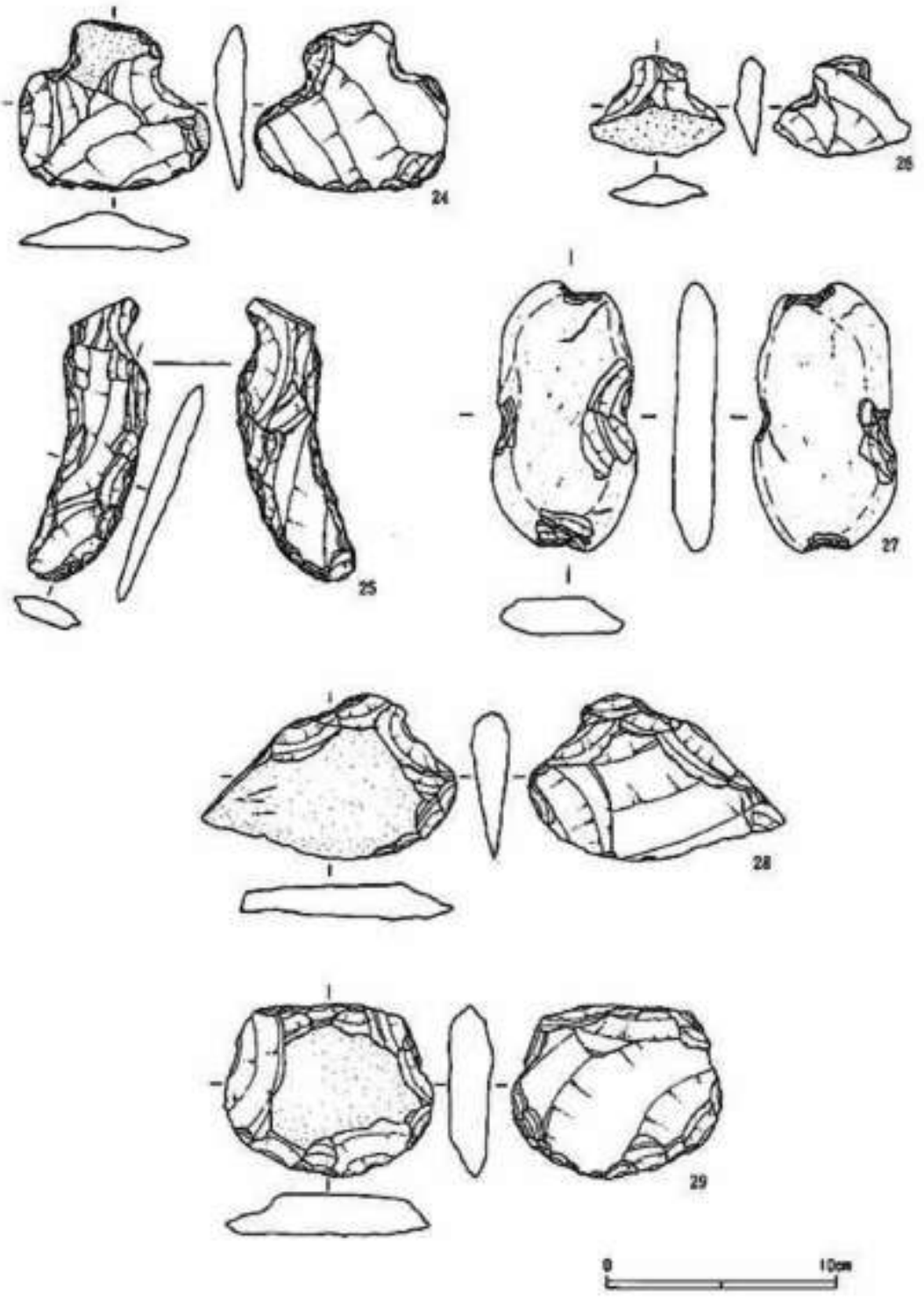
第47図　32号住居址出土遺物実測図⑤



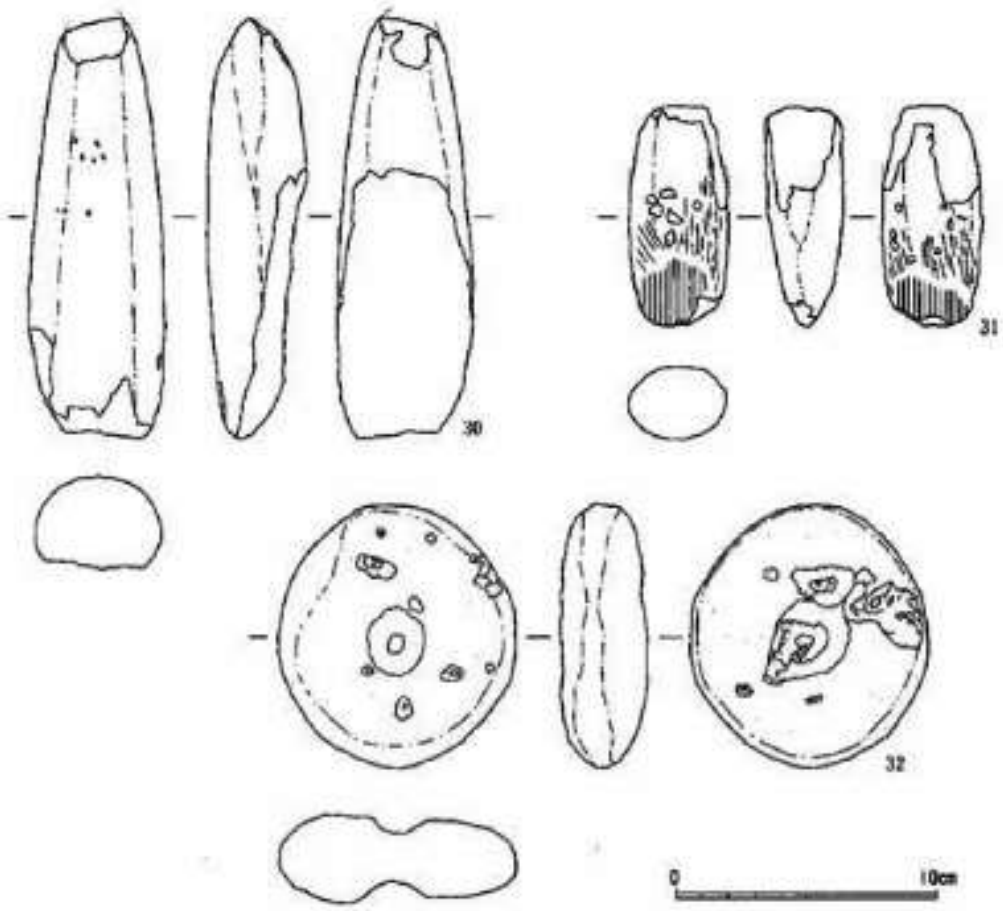
第48図　32号住居址出土遺物実測図⑥



第49図　32号住居址出土遺物実測図⑦



第50図　32号住居址出土遺物実測図⑧



第51図　32号住居址出土遺物実測図⑨

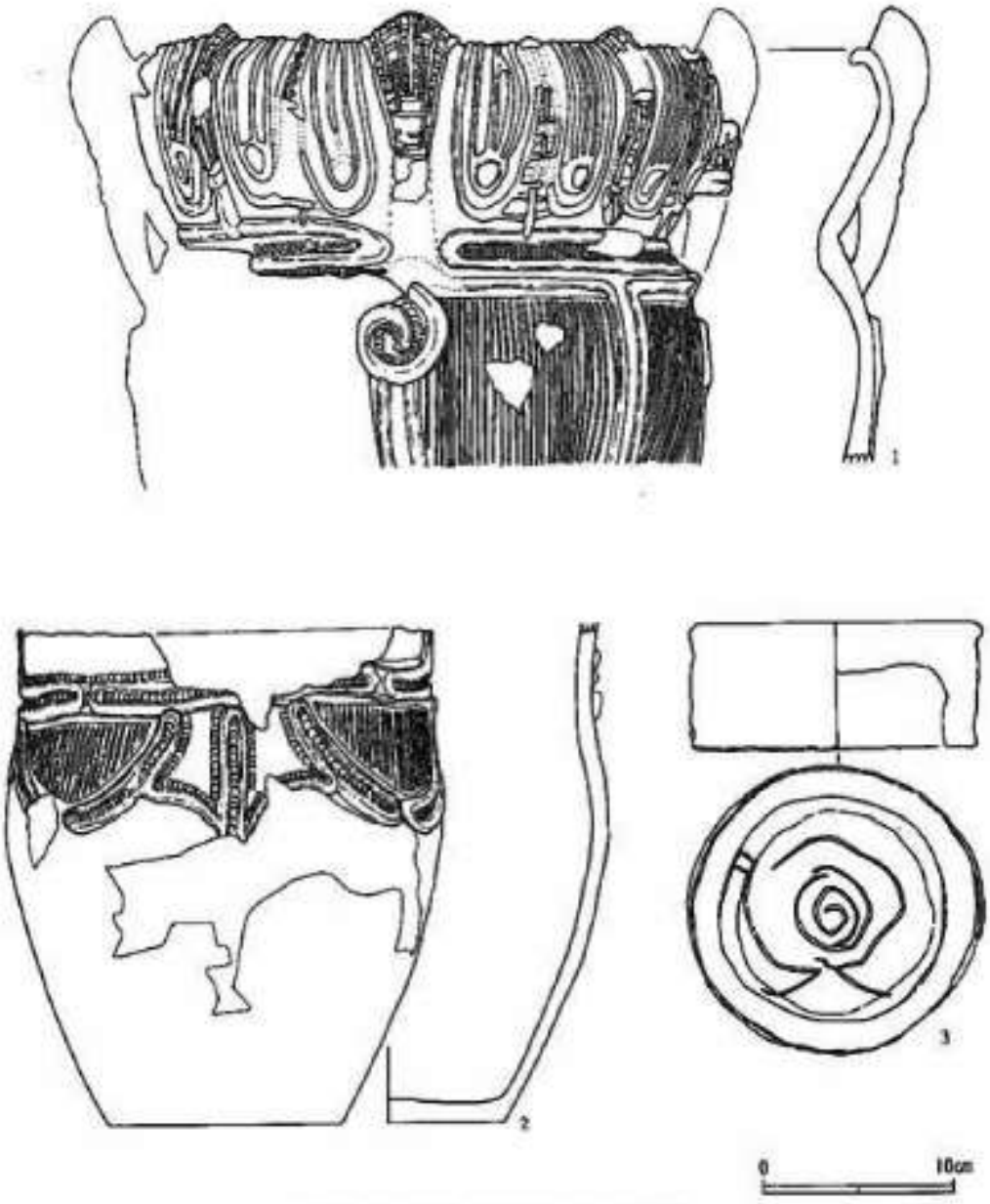
33号住居址（第53図）

B地区で検出した。32号住居址の北側壁の一部を破壊している。また、32号住居址を検出する際に南側の壁と床の一部を掘削してしまった。住居址の2分の1程は調査区外になるため、プランは判然としないが不整楕円形を呈するものと思われる。壁残高は18cm～6cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており締まりは全体的に良好である。検出した住居址中央より西側の床面は攪乱により破壊されていた。

ピットは10基検出した。主柱穴はP_1－P_4であると思われる。P_3とP_{10}の間に長軸66cm、短軸51cmの歪んだ不整円形の土坑17がある。この土坑は断面形が袋状となっている。また、P_1・P_2も断面形が袋状となっている。

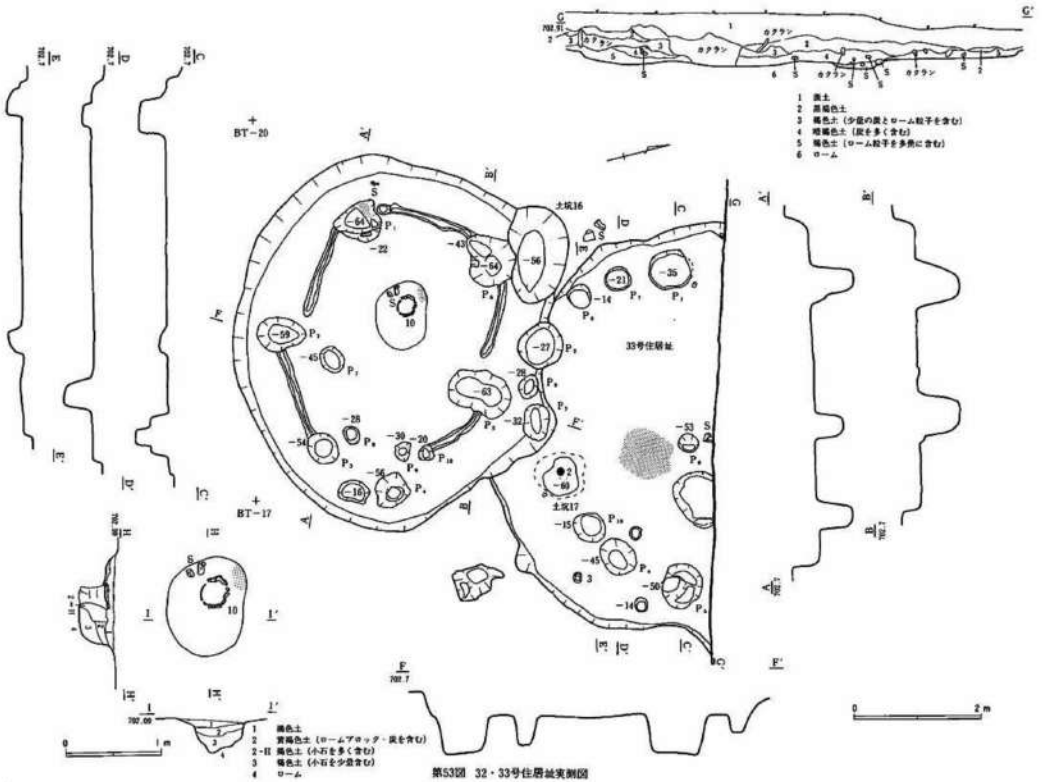
炉址は一部が調査区外に入るため全容は不明であるが、深さ15cm程の掘り込みをもつ石囲炉である。炉址の底部及び炉址より北西側の床面に焼土がみられる。炉石にはわずかに火熱の跡が認められる。

遺物は土坑17の底部より深鉢型土器（図52－28）と、東側壁下の床面直上よりほぼ完形で裏側に沈線による渦巻き状の文様が施された器台（図52－3）が出土している。また、覆土上層及び中層

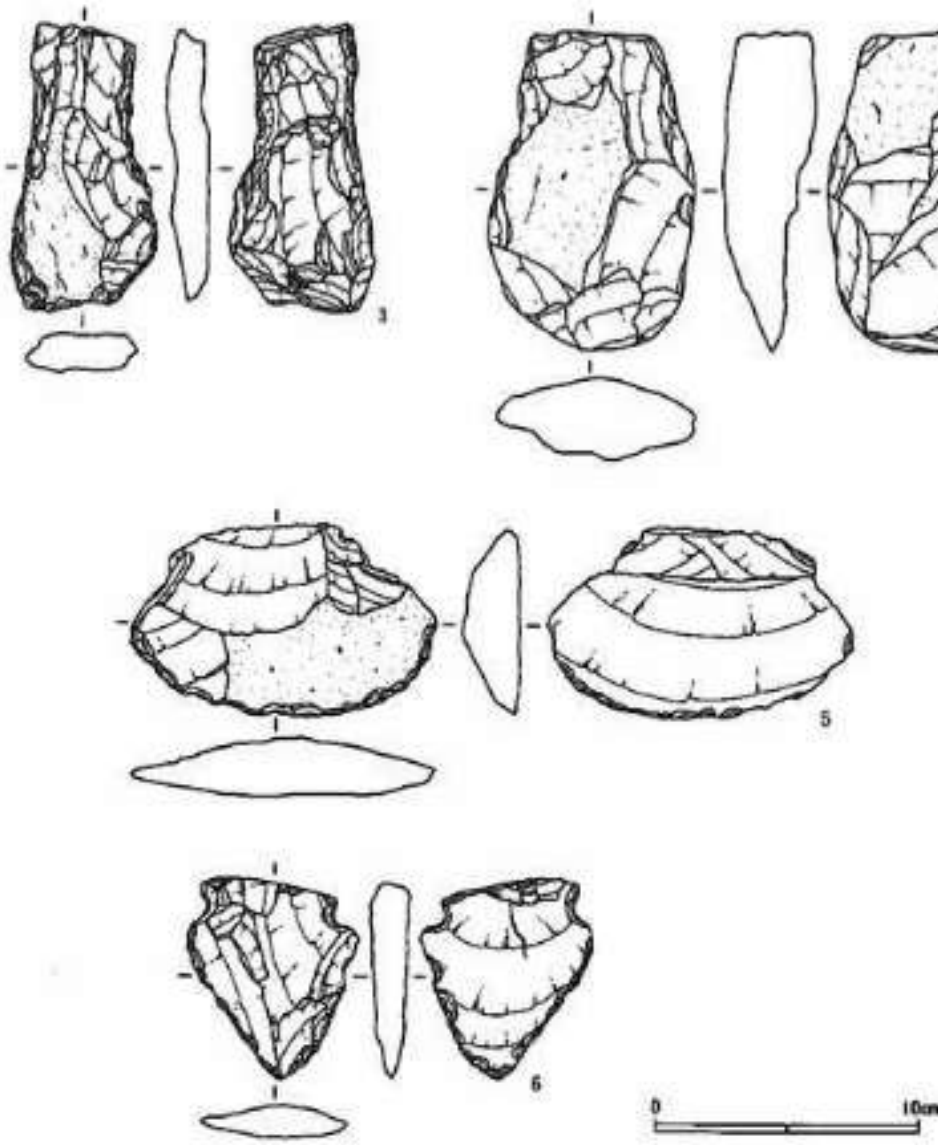


第52図　33号住居址出土遺物実測図①

より石斧（図54－3・4）、石匙（図54－6）、横刃型石器（図54－5）が出土しているが、本址に伴うものであるかは判然としない。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期後葉であると思われる。



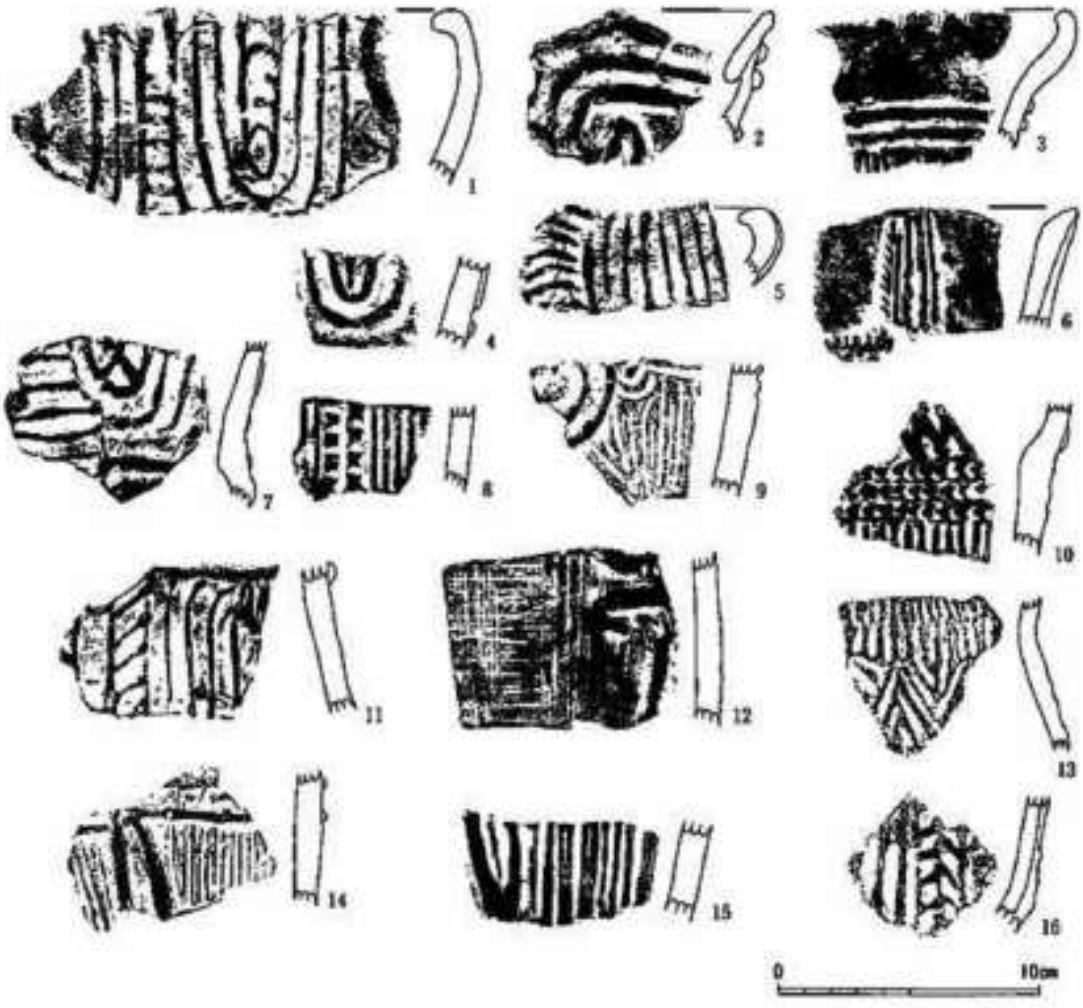
第53図 32・33号住居址実測図



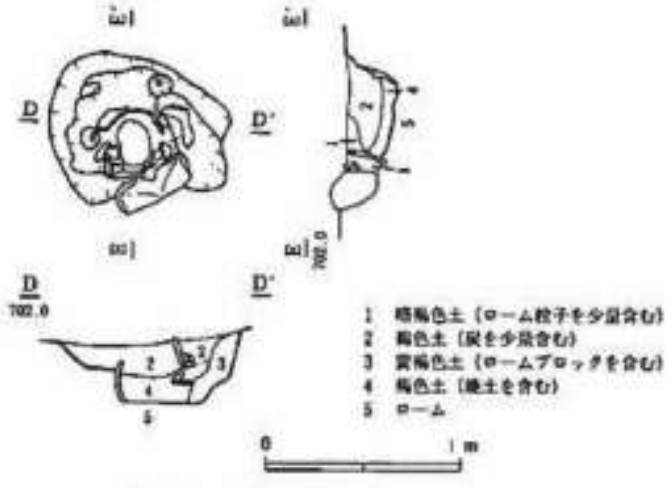
第54図　33号住居址出土遺物実測図②

34号住居址（第57図）

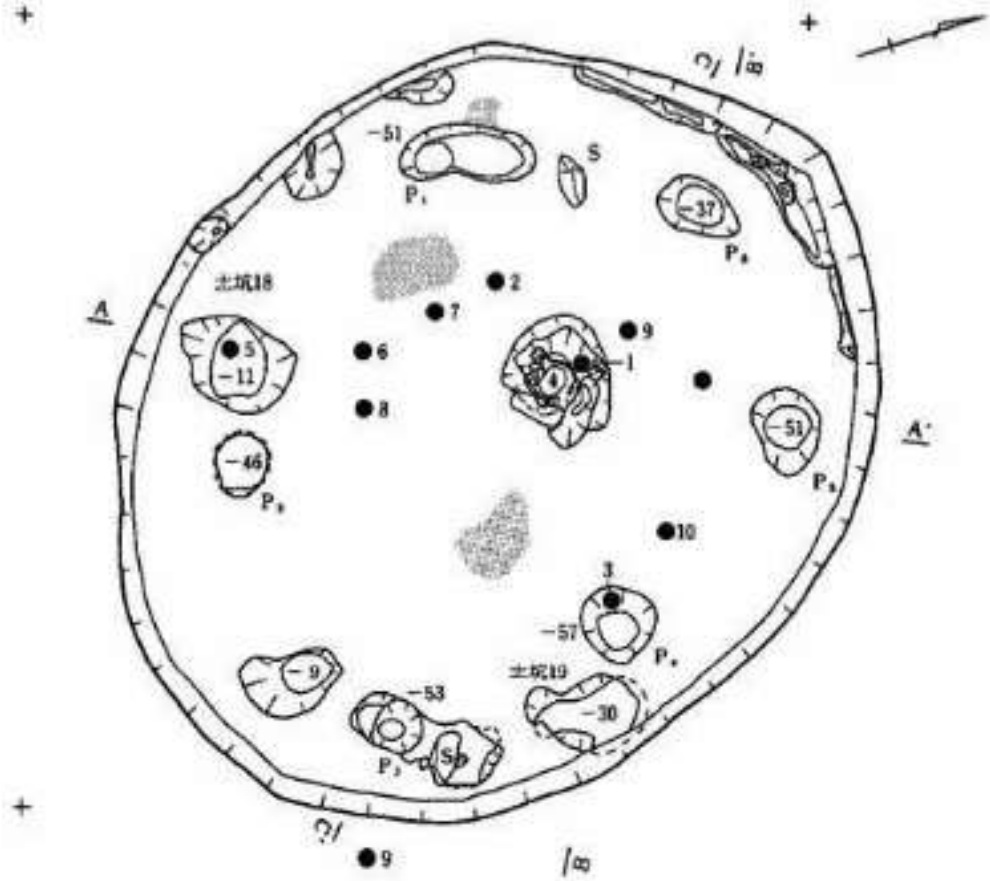
B地区で検出した。長軸6.3m，短軸5.3mの楕円形を呈する。主軸はN－34°－Wを示す。壁残高は34cm～12cmである。周溝は北西側の壁下にみられるのみで、他では認められなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは6基検出した。これらが主柱穴であると思われる。深さは57cm～37cmで、P_3とP_4を結ぶ線を軸に左右2箇所の配置になっている。P_2は断面形が袋状となっている。P_3の西側に土坑18とP_4と東側壁の間に土坑19がみられる。それぞれ平面形は不定形で、土坑18の深さは11cm，土坑19の深さは30cmであり、断面形は部分的に袋状となっている。またP_3と土坑19の間には深さ20cm程のほぼ垂直に掘りくぼめた部分があり、内部に長さ45cmの縦長の砂岩がみられるが、立石であっ

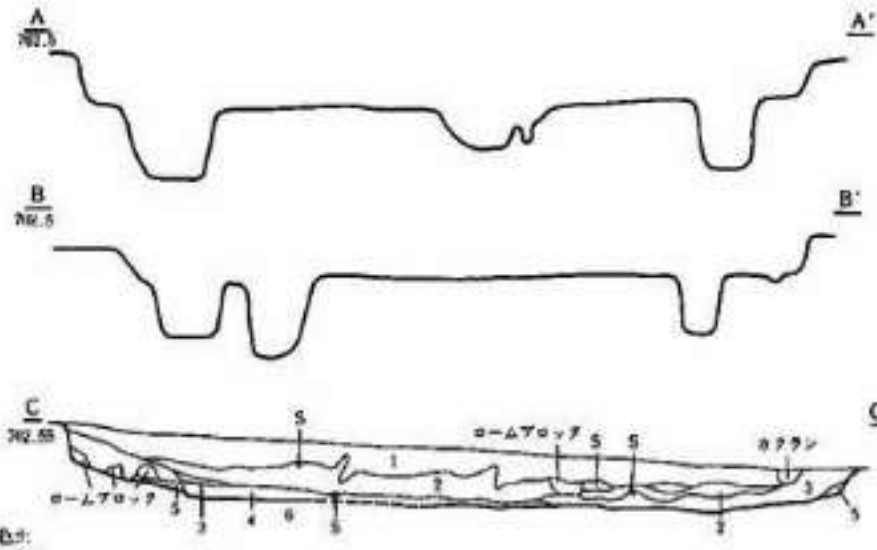


第55図　33号住居址出土土器拓影図



第56図　34号住居址炉址実測図

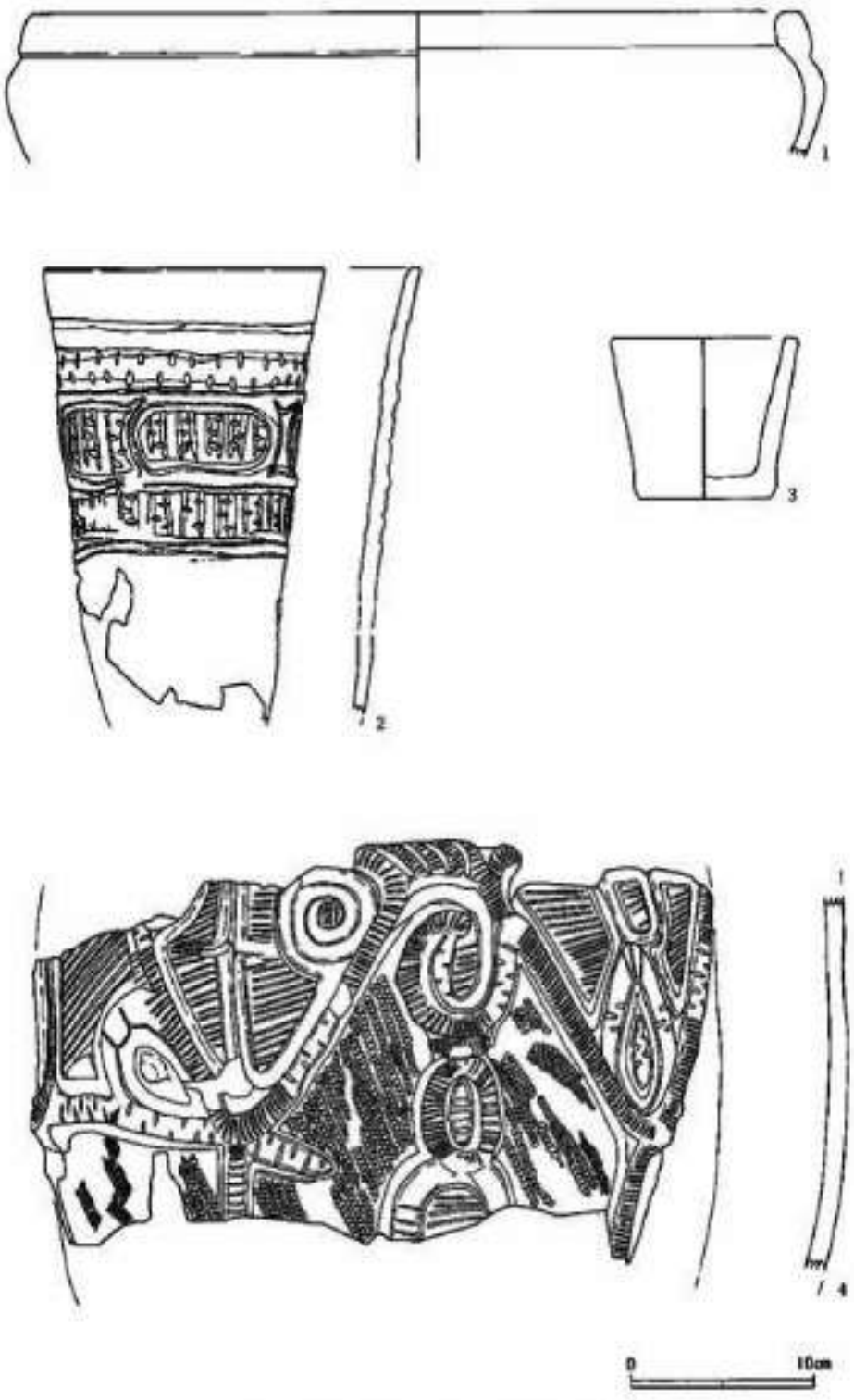




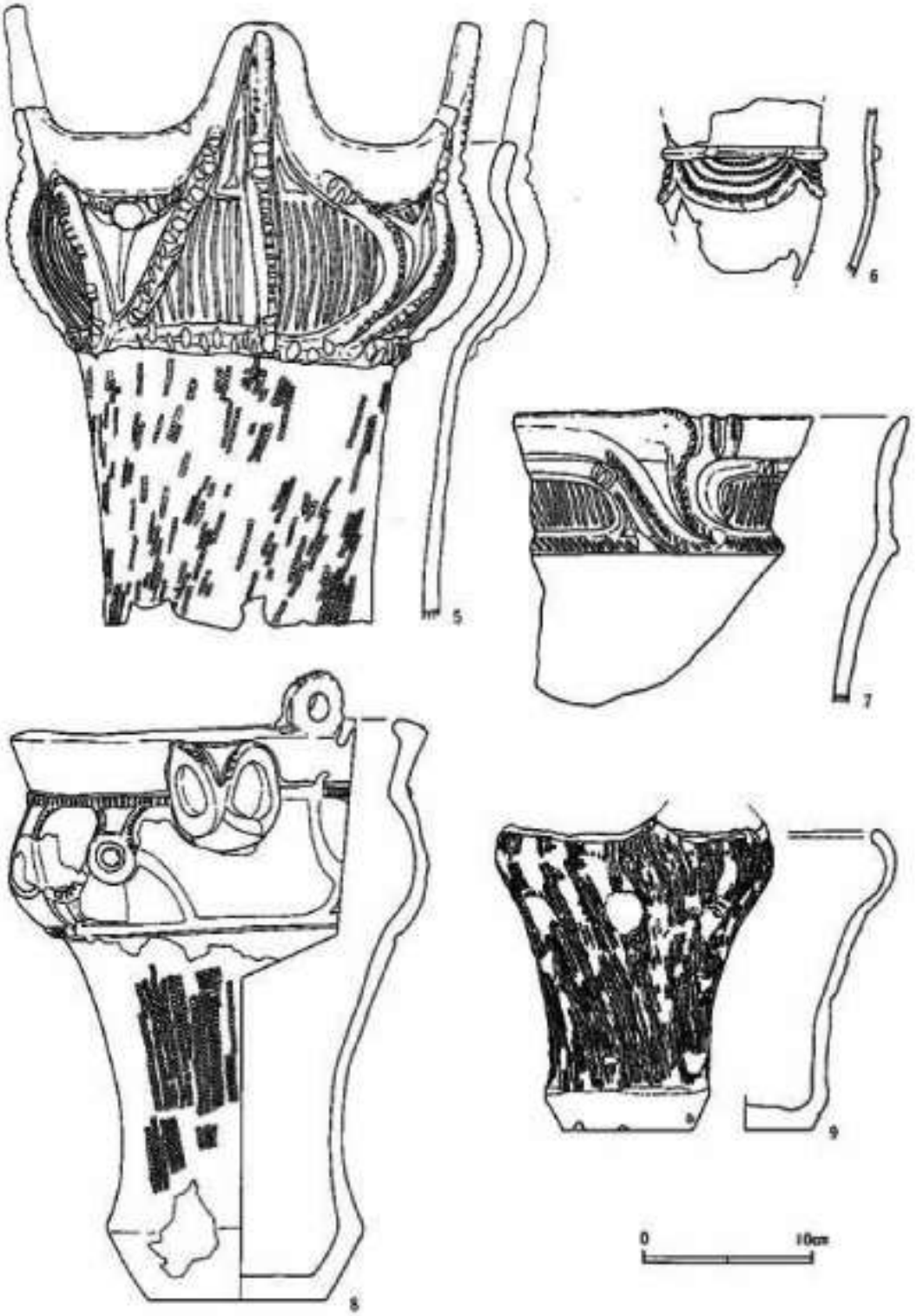
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土（ローム粒子を少量含む）
4 黄褐色土（ローム粒子を多量に含む）
5 暗褐色土（ローム粒子を多量に含む）
6 ローム

0 2m

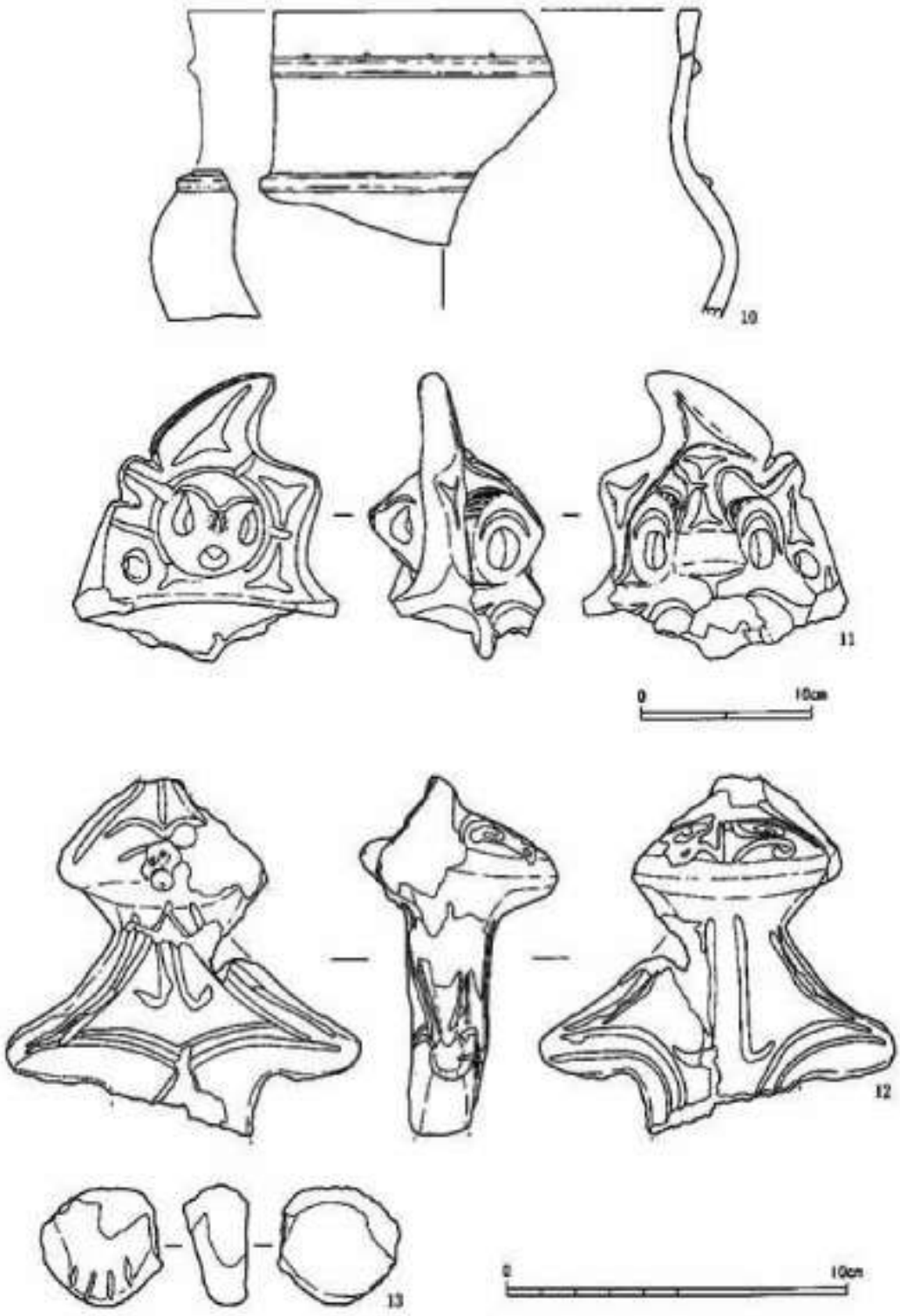
第57図　34号住居址実測図



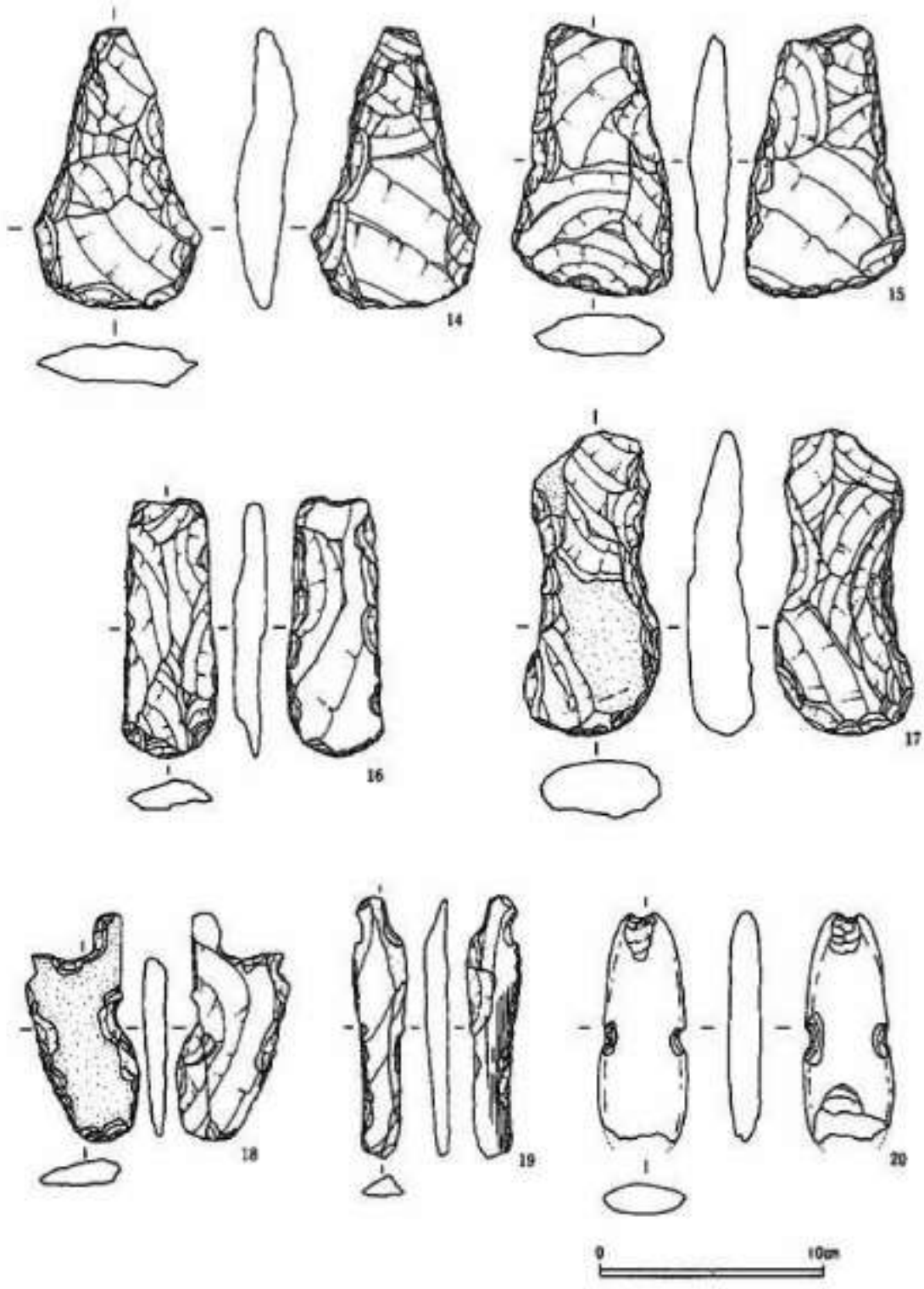
第58図　34号住居址出土遺物実測図①



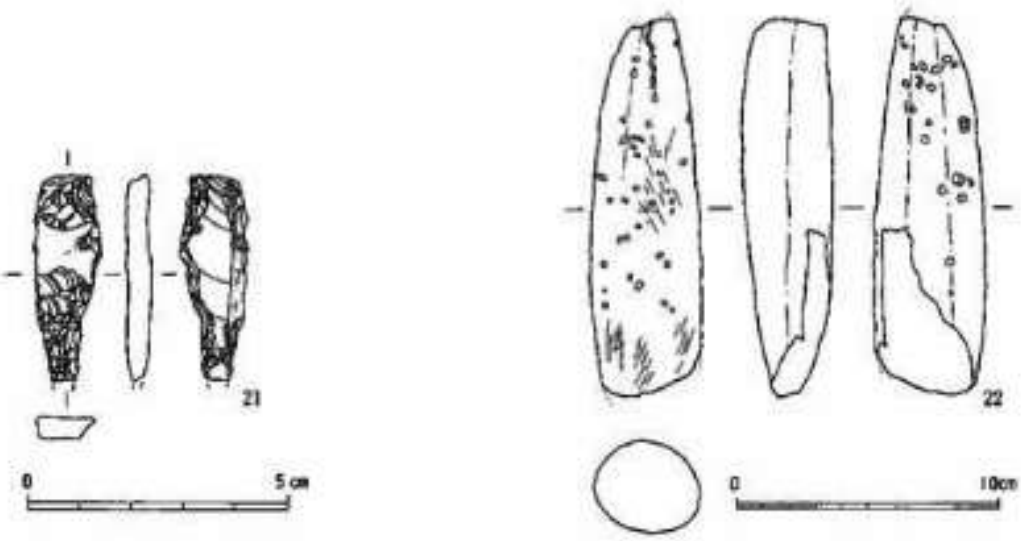
第59図　34号住居跡出土遺物実測図②



第60図　34号住居址出土遺物実測図③



第61図　34号住居址出土遺物実測図④



第62図　34号住居址出土遺物実測図⑤

た可能性がある。

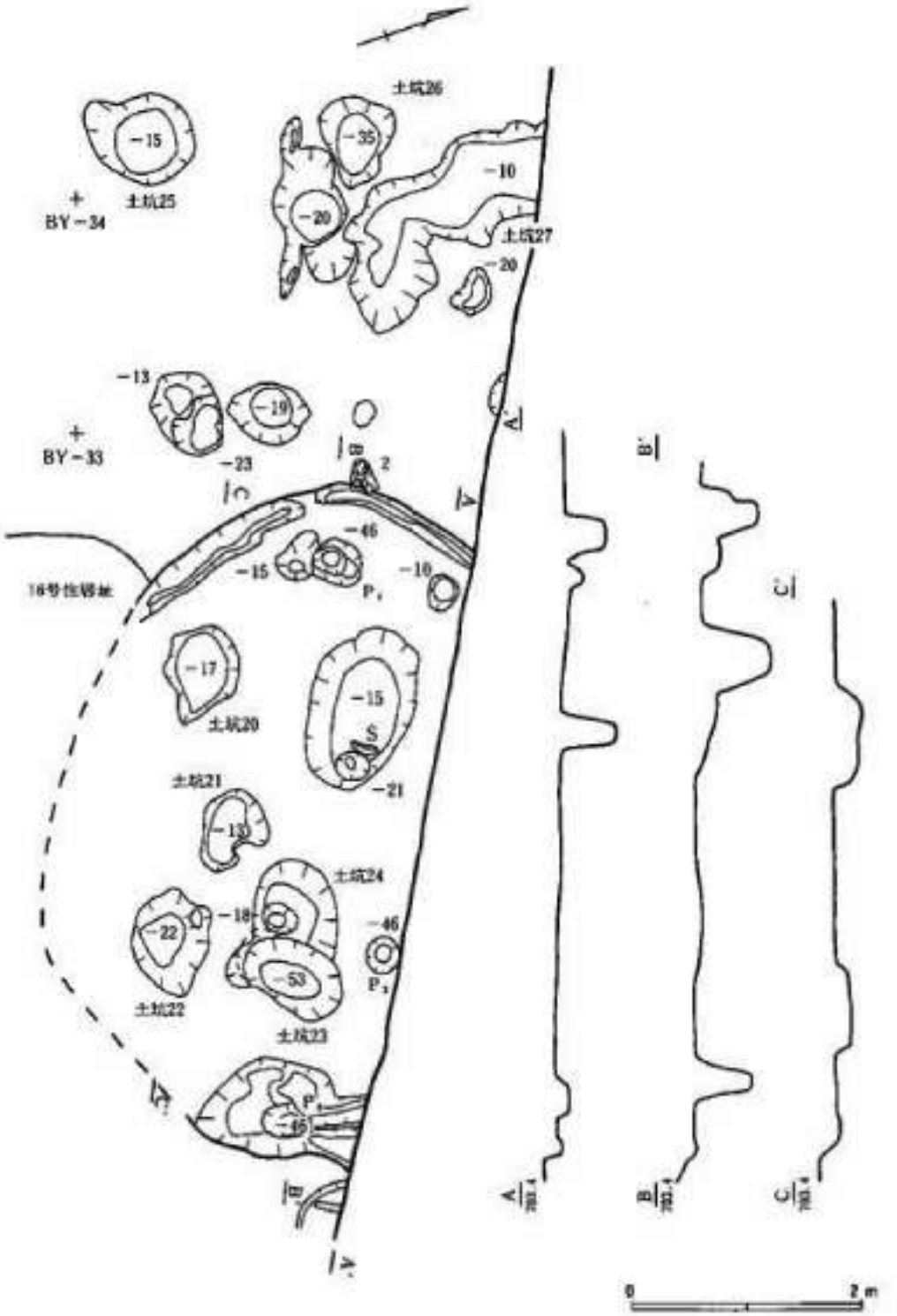
炉址は炉石を有する石囲土器埋設炉で、住居址中央よりやや北側に位置している。長軸95cm、短軸72cmの不整楕円形に掘り込んだくぼみの内部に上部と下部を欠いた深鉢型土器の胴部（図58－4）を埋設している。炉址の縁辺部は炉石が抜き取られた跡がみられる。炉址及び埋設土器の内部に堆積している土層にはあまり焼土はみられず、埋設土器内部の覆土下層にわずかに認められる程度である。また、炉址の東側の床面にも焼土が部分的にみられる。残存する炉石には火熱の跡は認められない。

遺物は炉址内部より浅鉢型土器（図58－1）、炉址周囲の床面直上より深鉢型土器（図58－2、図59－6～8）、土坑18の覆土より深鉢型土器（図59－5）、P_4の覆土より深鉢型土器（図58－3）が出土している。また住居址覆土中層より土偶（図60－12・13）、有孔鍔付土器片（図60－10）、石斧（図61－14－17、図62－22）、石匙（図61－18・19）、石錐（図61－20）、石錘（図62－21）等の石器が出土している。他に住居址外であり、本址に伴うものか判然としないが、南東側壁付近より顔面把手付土器の把手部分（図60－11）が出土している。

本址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。

35号住居址（第63図）

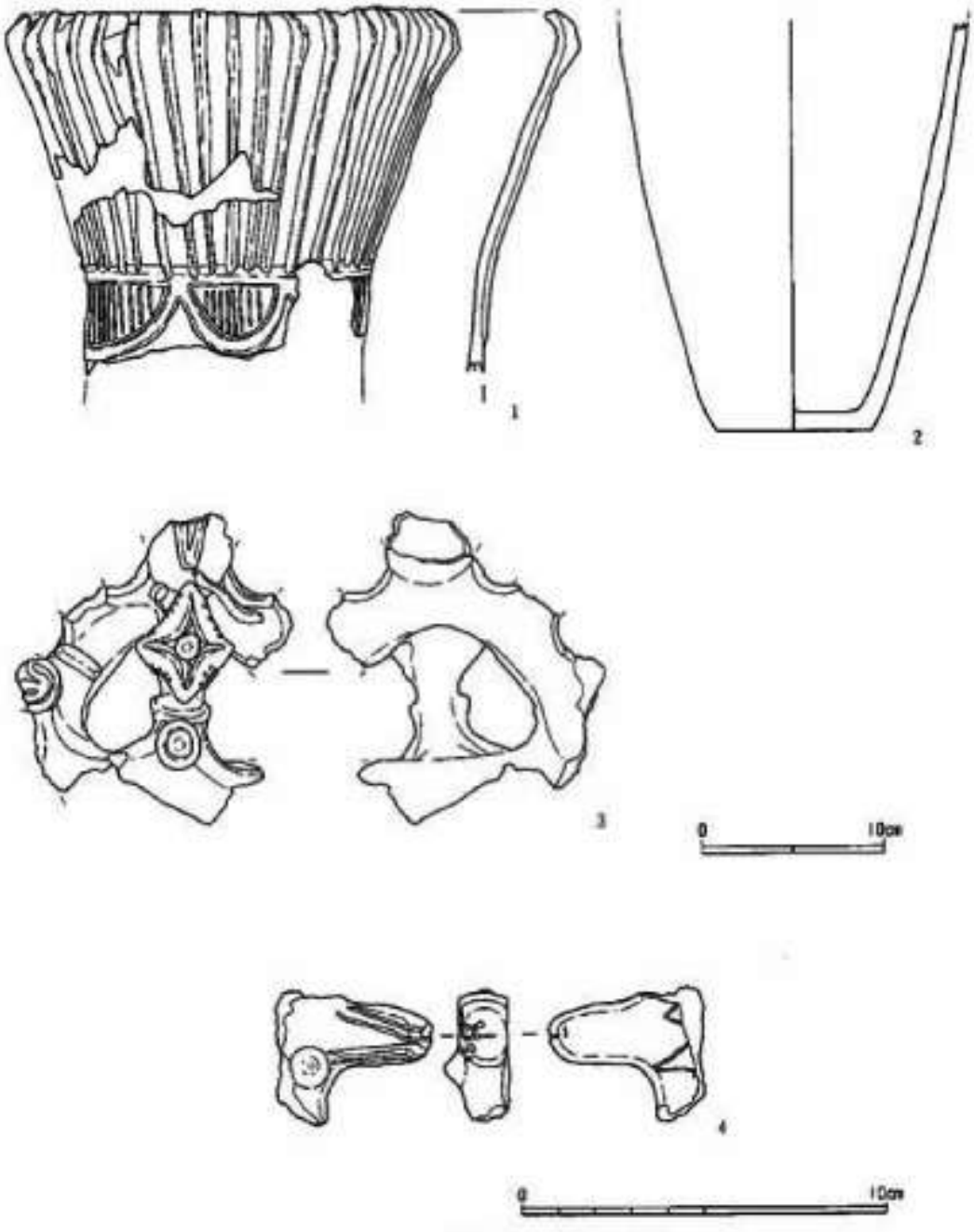
B地区で検出した。16号住居址に南側の壁及び床面を破壊されており、一部調査区外になるためプランは判然としないが、長軸5.9mの不整楕円形を呈していると思われる。壁残高は西側で22cm、東側で6cmである。周溝は東側壁下の一部と西側壁下にみられる。ピットは3基検出した。主柱穴は判然としないが、位置的にみてP_1とP_2のであると思われる。P_3は深さ46cmで、性格は判然としないが、本址に関連するものであると思われる。



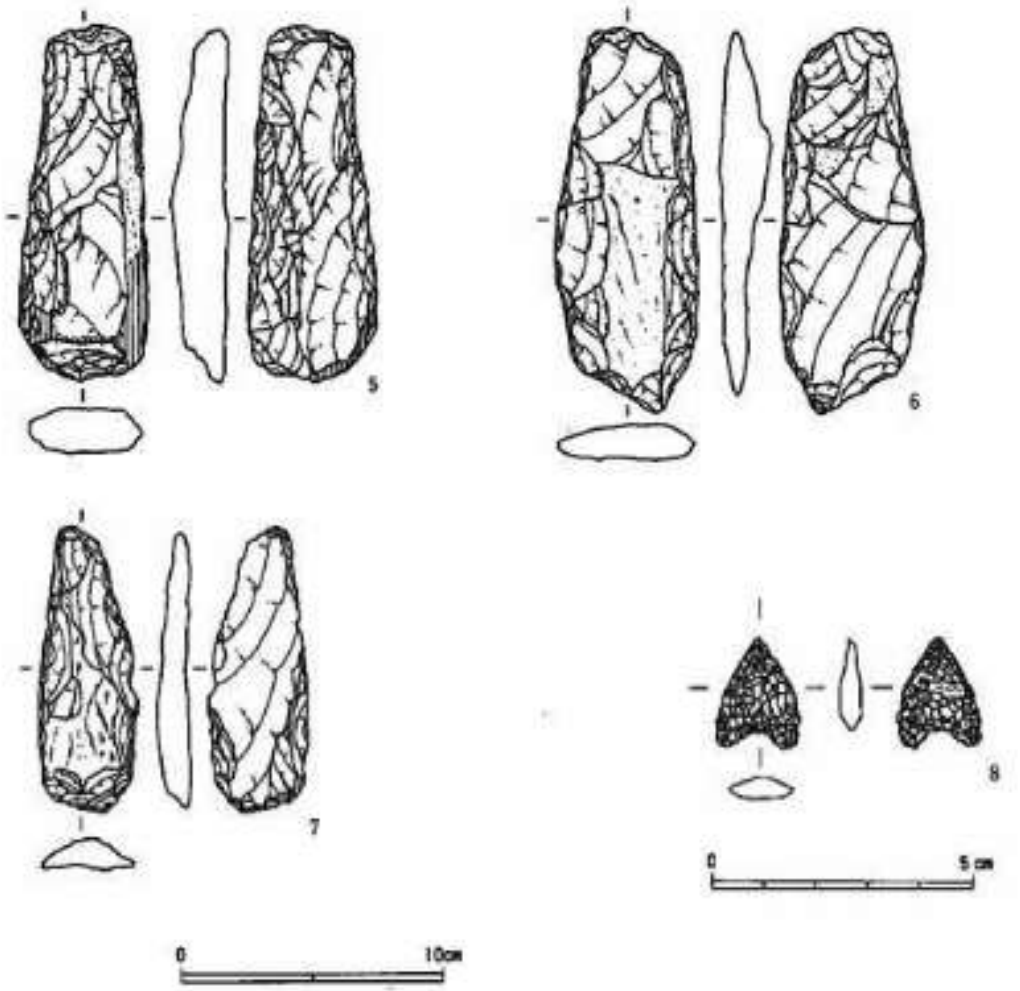
第63図　35号住居址実測図

炉址ははっきりとした跡がみられないが、P_1の東側に位置する土坑の覆土中に少量ではあるが炭が認められたため、これが炉穴であった可能性がある。

遺物は覆土下層より深鉢型土器（図64－1・2）、吊り手型土器の吊り手部分（図64－3）、覆土上層より土偶（図64－4）、覆土上層及び中層より石斧（図65－5～7）、石鏃（図65－8）が出土している。本住居址の時期は遺物等から縄文時代中期中葉であると思われる。



第64図　35号住居址出土遺物実測図①



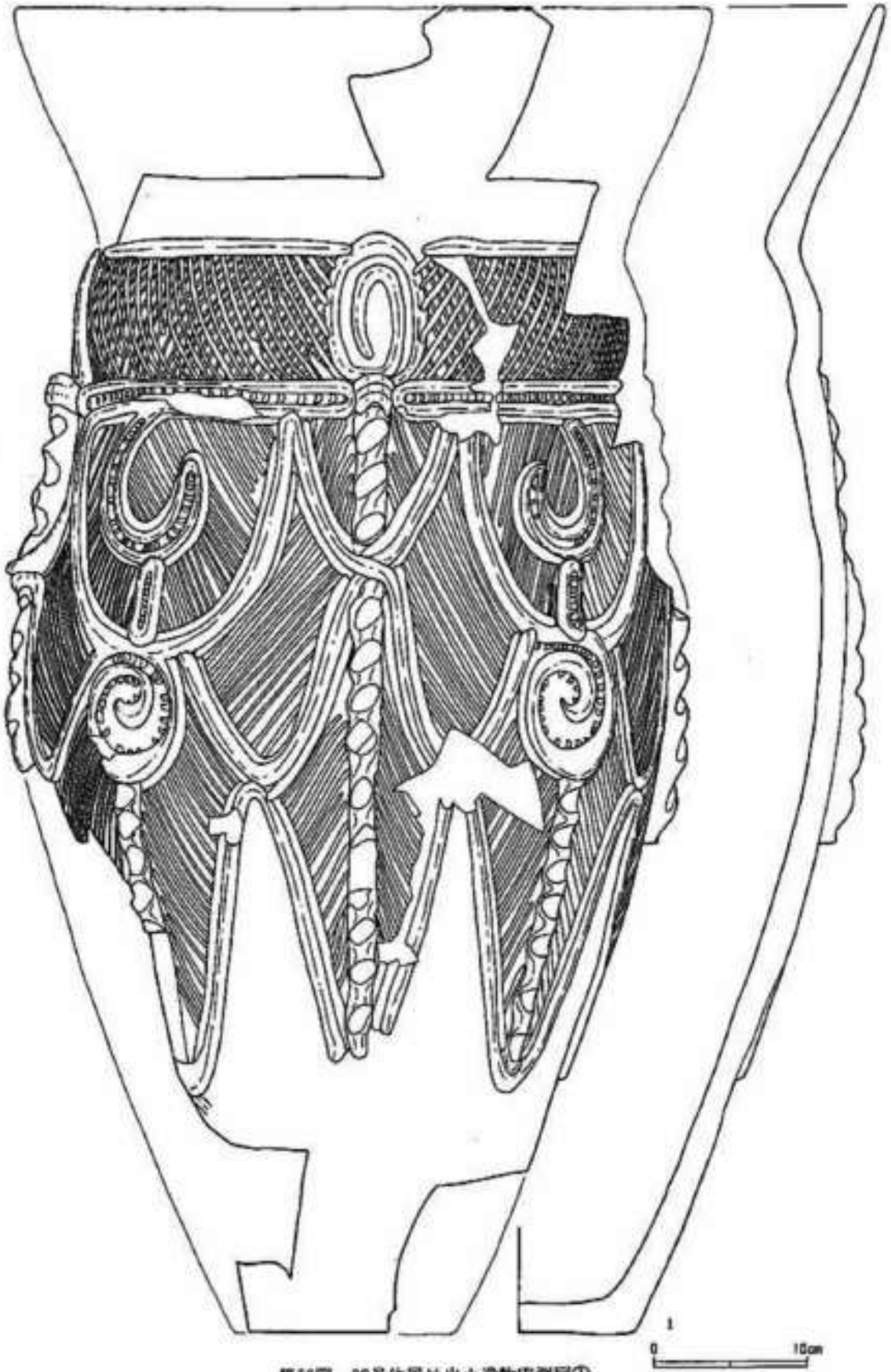
第65図　35号住居址出土遺物実測図②

37号住居址（第67図）

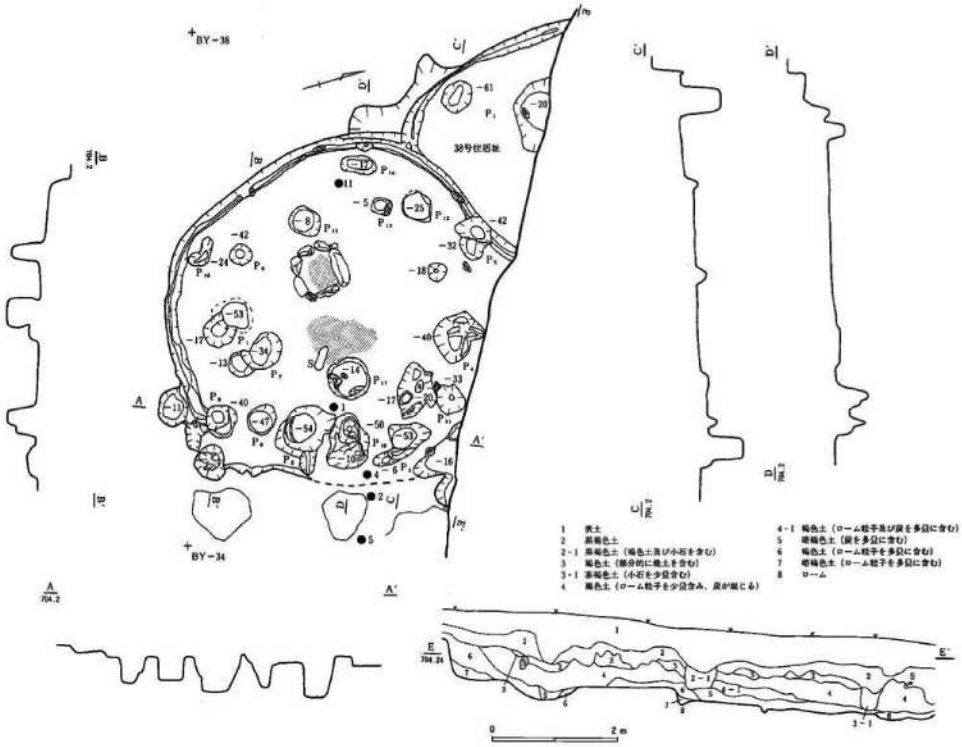
B地区で検出した。覆土及び床面に焼土及び炭が多くみられることから、火災により廃屋となり埋没した住居址であると考える。38号住居址の南東部分の壁と床面を破壊しており、住居址の北側部分が調査区外にはいるためプランは判然としないが、不整楕円形を呈しているものと思われる。主軸はN－85°－Eを示すものと思われる。壁残高は48cm～13cmである。東側の壁は検出できなかった。周溝は検出できた壁下の全域にみられ、幅21～6cm、深さ6～2cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。

ピットは17基検出した。主柱穴は判然としないが新旧関係のあることが考えられ、P_1・P_2・P_3・P_4・P_5・P_7・P_8・P_{10}において重複がみられるため建替えの行われた可能性が考えられる。P_1とP_{14}は断面形が袋状となっている。

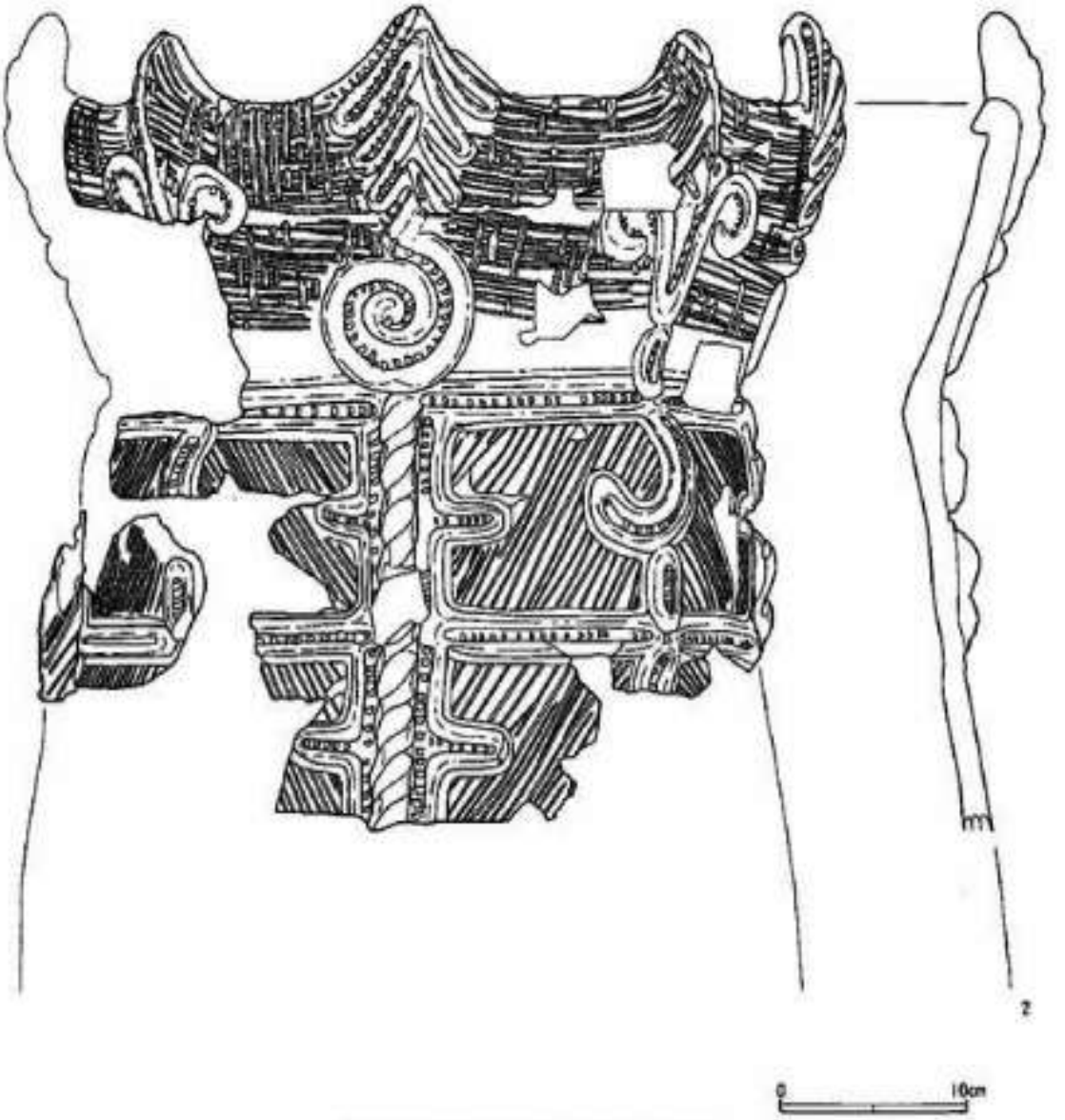
炉址は石囲炉で住居址中央よりやや西側に位置している。長軸90cm、短軸87cmの不整隅丸方形で、深さ16cmに掘りくぼめた縁辺に8個の砂岩を方形に配置している。炉址の底部及び炉址東側



第66図　37号住居址出土遺物実測図①



第67図　37・38号住居址実測図

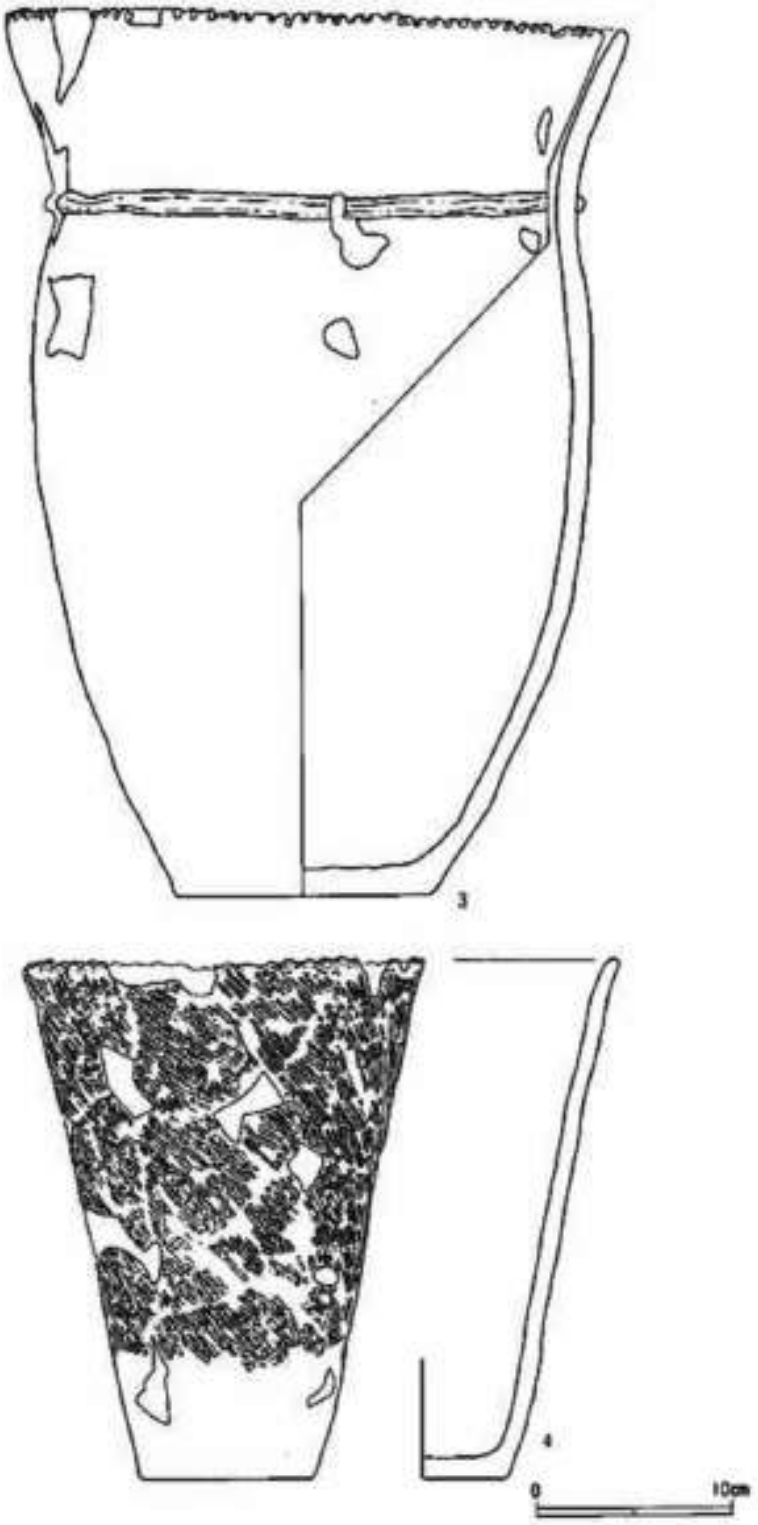


第68図　37号住居址出土遺物実測図②

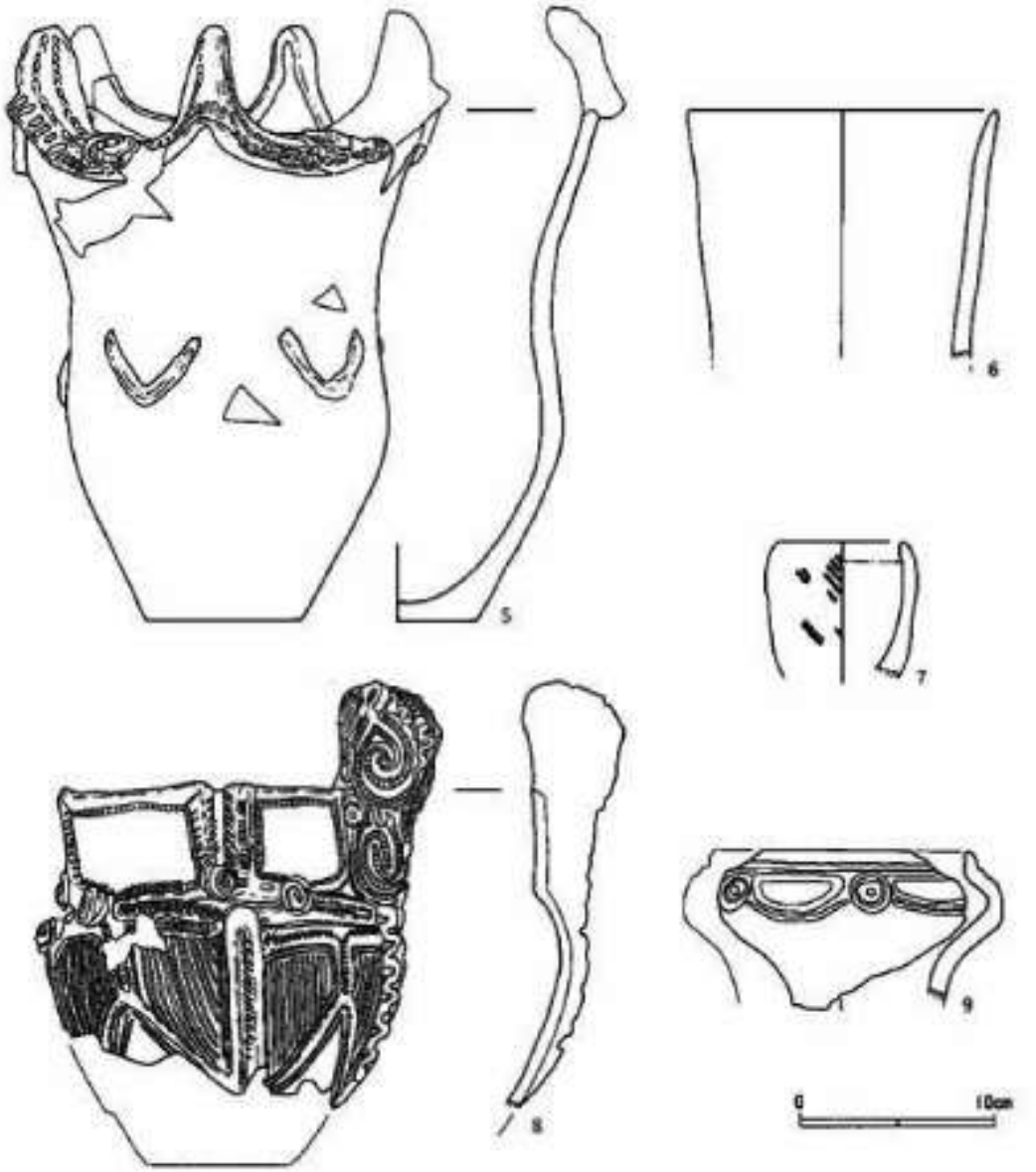
の床面には焼土が認められる。炉石には火熱の跡が認められる。

遺物は覆土下層より深鉢型土器（図66－1、図68－2、図69－3・4、図70－5－9、図72－13）、浅鉢型土器（図71－11・12）、床面より浅鉢型土器（図71－11）、覆土中層及び下層より、石斧（図74－14）、石匙（図74－15－17・19）、横刃型石器（図74－18）、石錐（図74－20）、凹石（図75－21－23）、石皿（図76－24、図77－25）の他、多量の土器片（図73－1－13）が出土している。

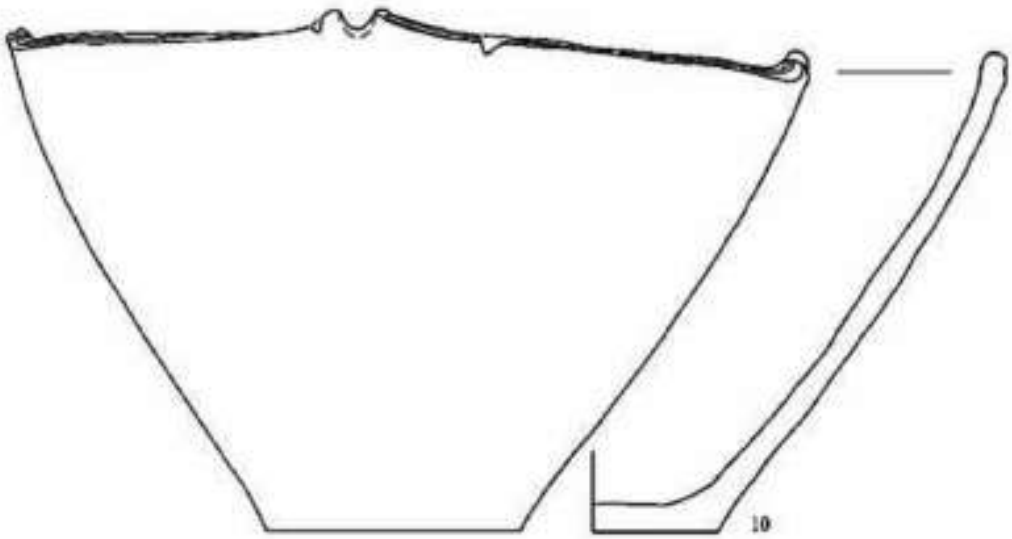
本住居址の時期は遺物などから縄文時代中期後葉であると思われる。

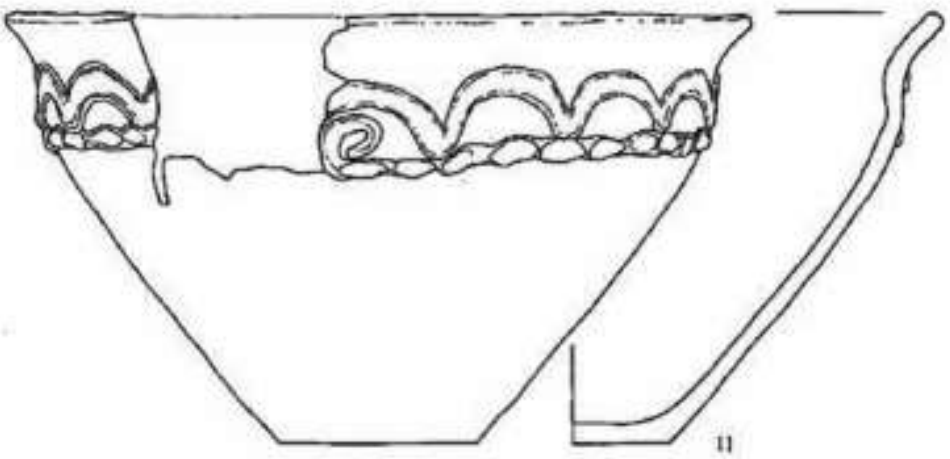


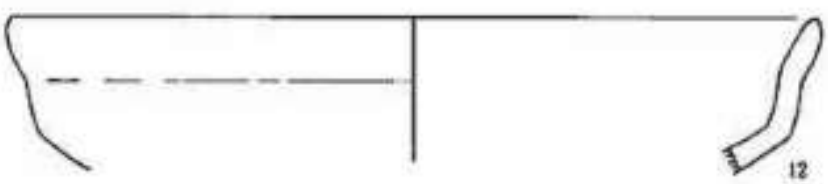
第69図　37号住居址出土遺物実測図③



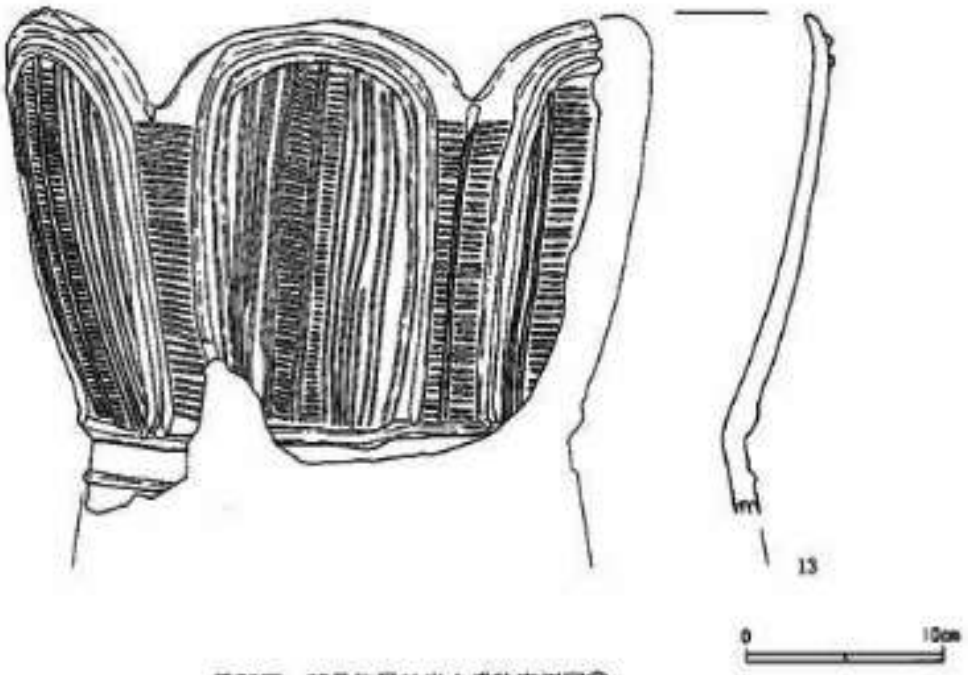
第70図　37号住居址出土遺物実測図④



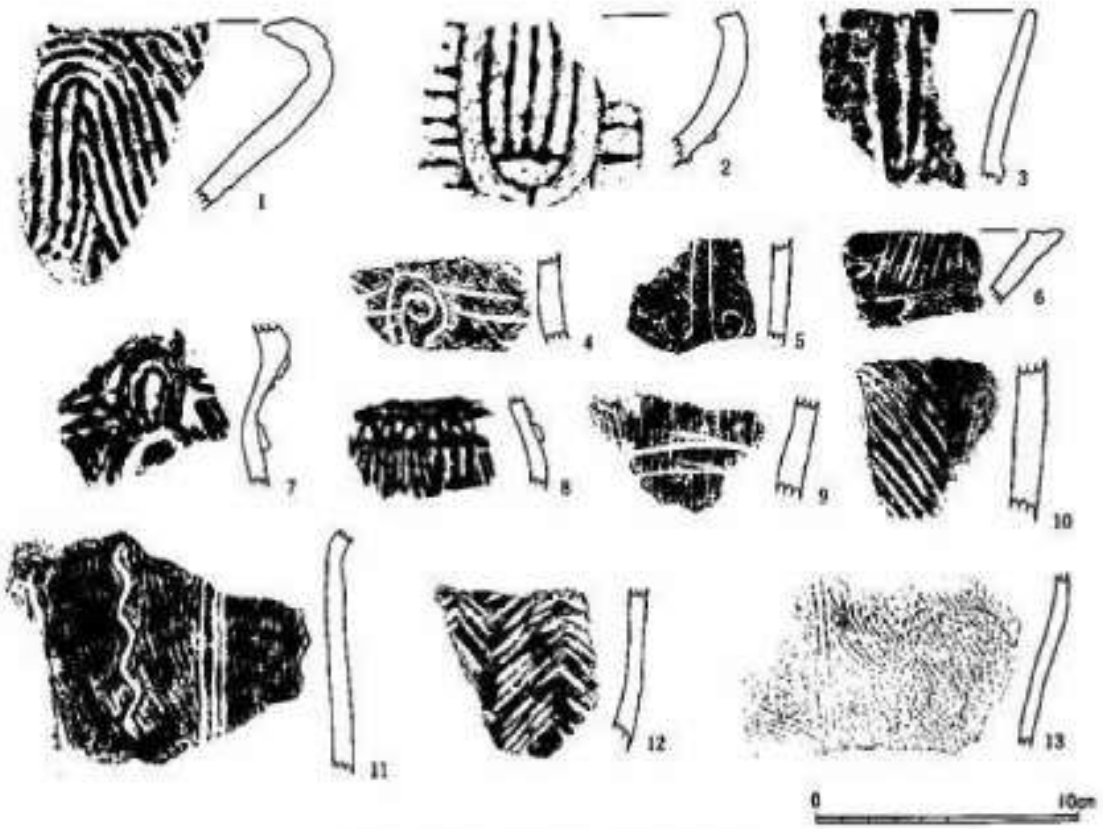




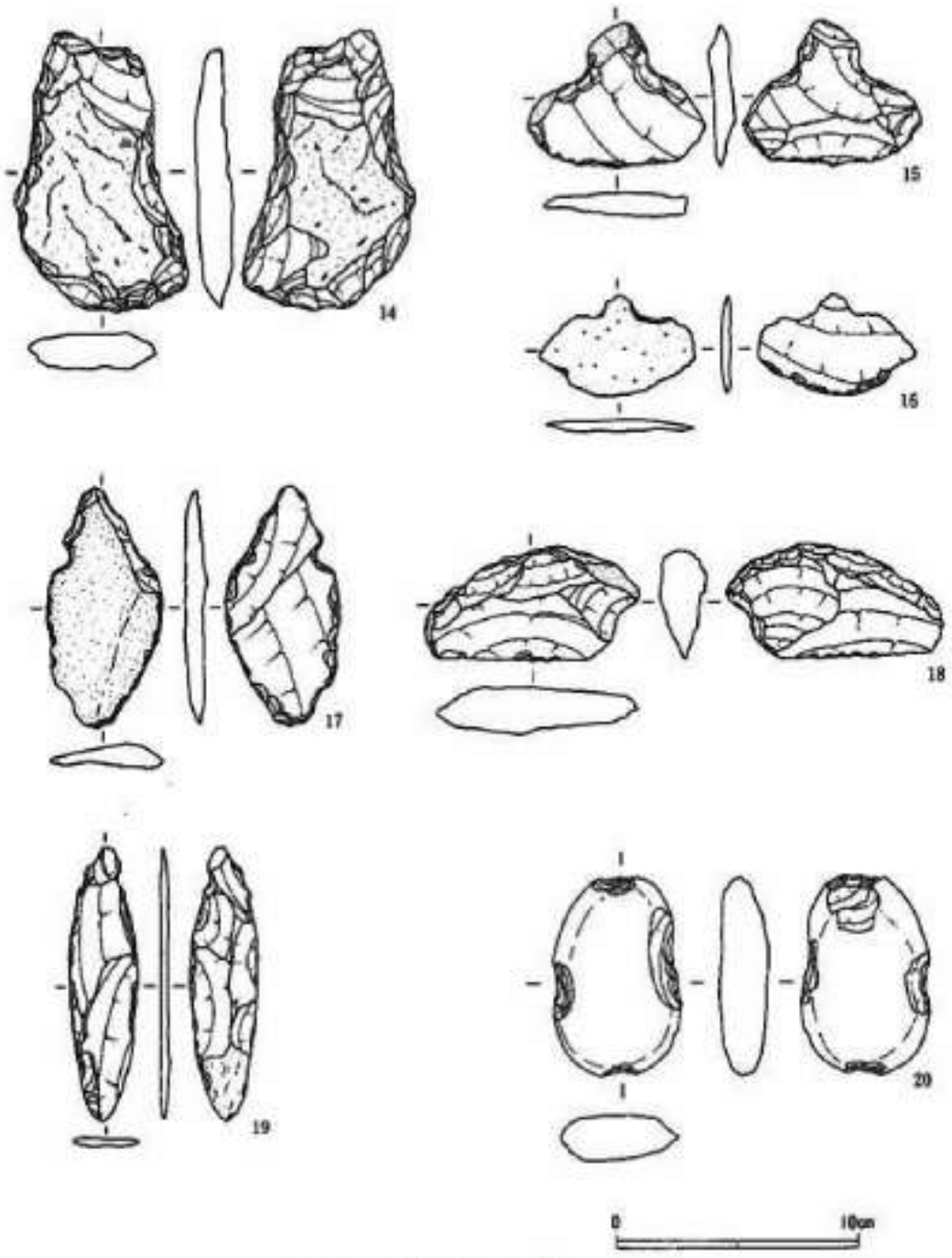
第71図　37号住居址出土遺物実測図⑤



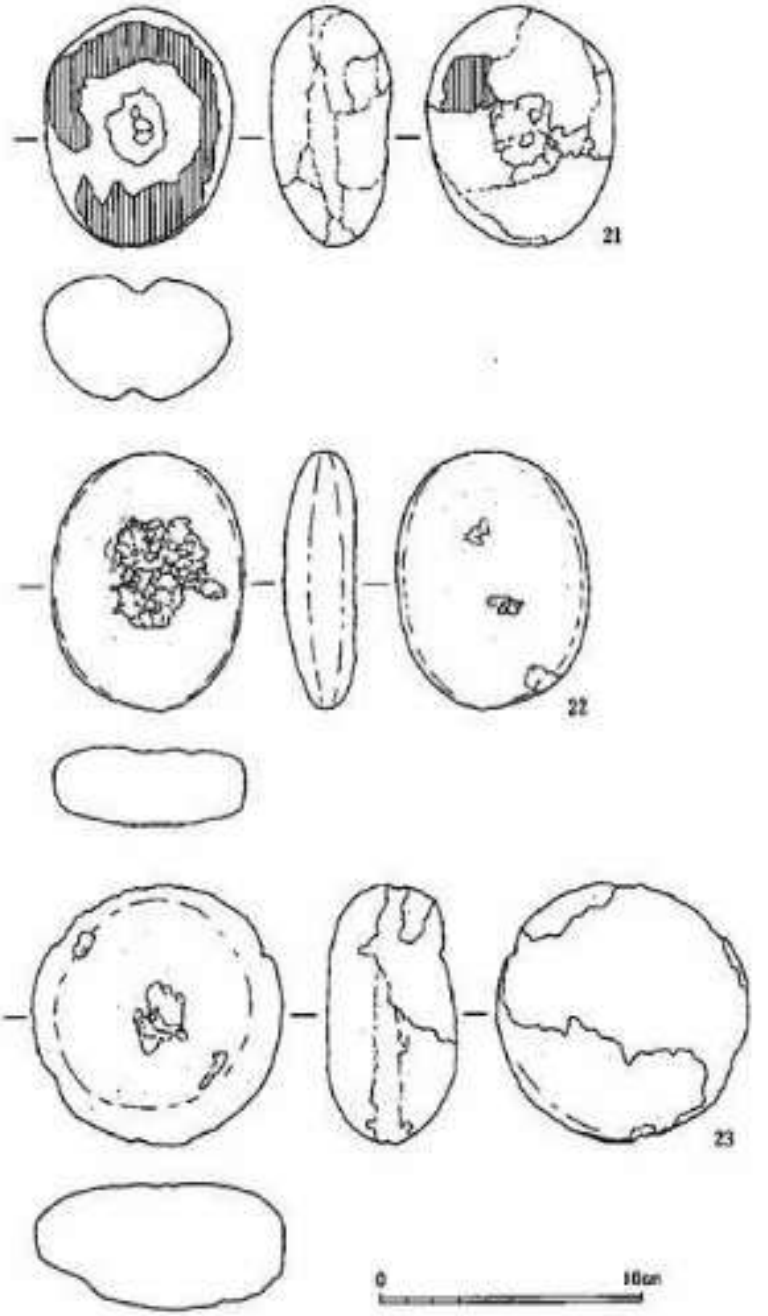
第72図　37号住居址出土遺物実測図⑥



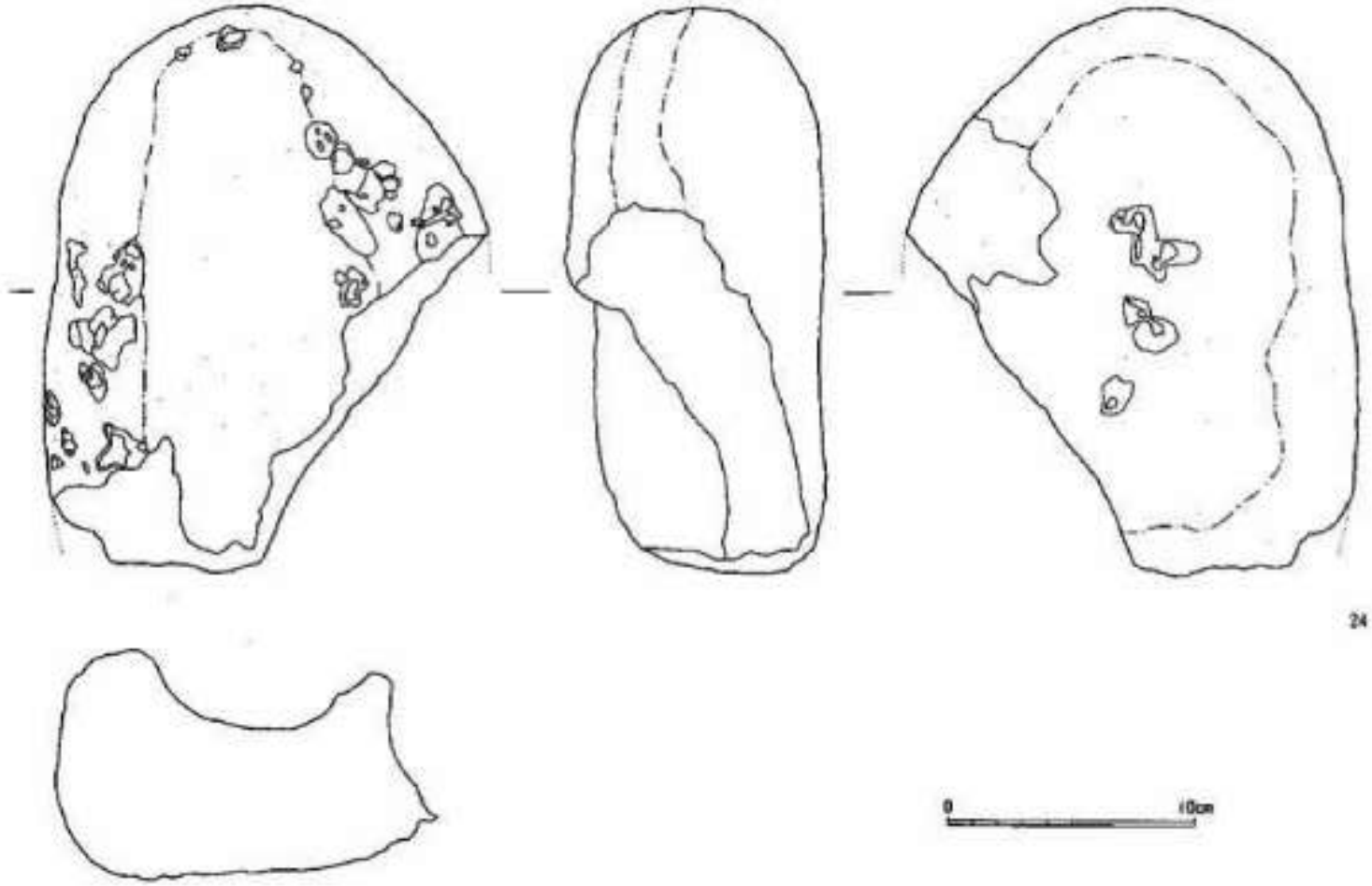
第73図　37号住居址出土土器拓影図



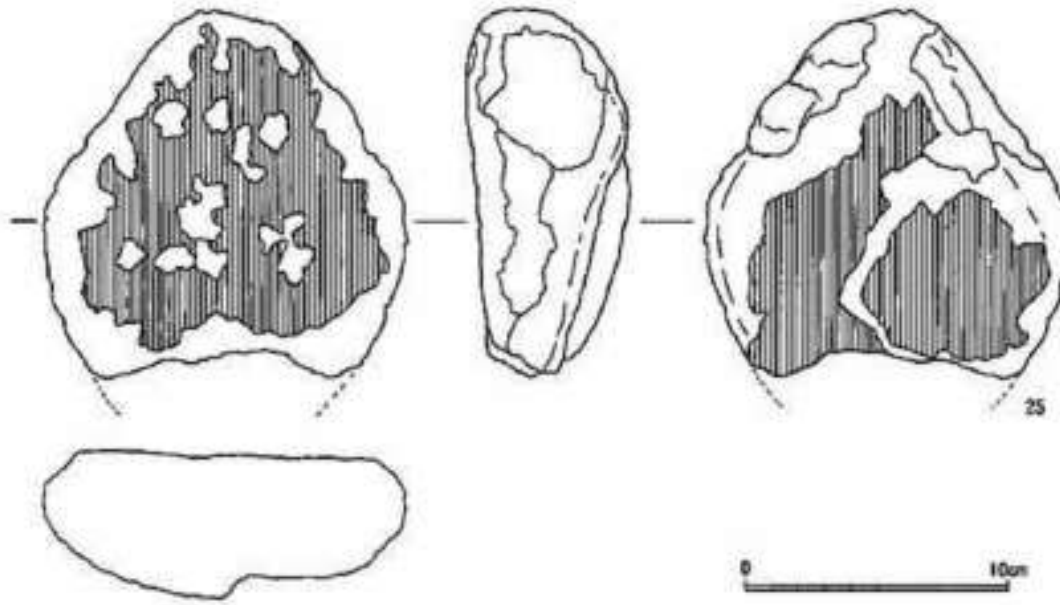
第74図　37号住居址出土遺物実測図⑦



第75図　37号住居址出土遺物実測図④



第76図　37号住居址出土遺物実測図⑨



第77図　37号住居址出土遺物実測図⑨

38号住居址（第67図）

B地区で検出した。37号住居址に南東部分の壁及び床面を破壊されている。検出範囲がわずかであるためプランは不明である。壁残高は38cm～17cmである。周溝は検出した壁下全域に認められ、幅3cm～1cm、深さ14cm～9cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりはたいへん良好である。ピットは1基検出したが、これが主柱穴の1つになると思われる。

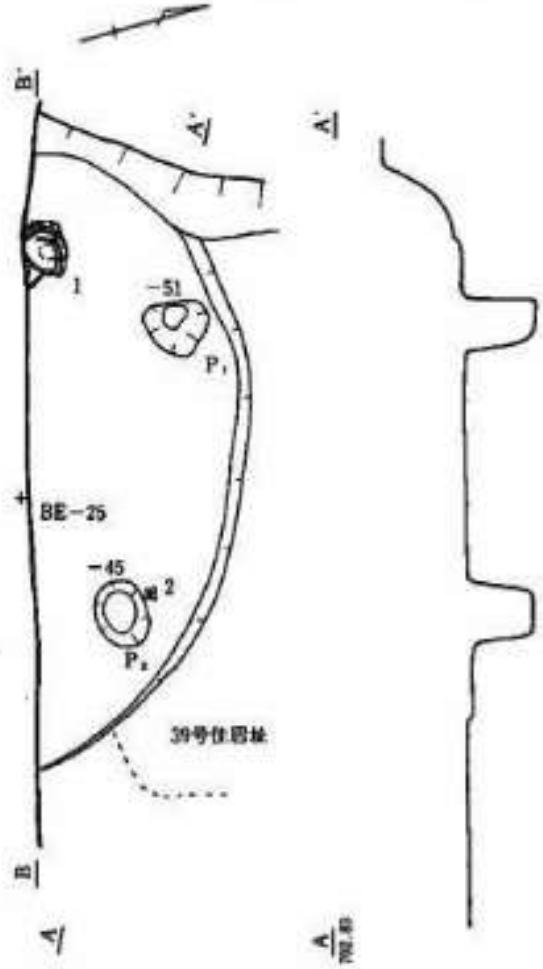
遺物は認められなかった。本住居址の時期は判然としないが、37号住居址との切り合い関係から、縄文時代中期後葉以前のものと思われる。

40号住居址（第78図）

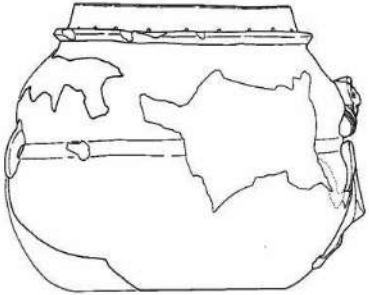
B地区で検出した。北側壁の一部を39号住居址に破壊されている。住居址のほとんどは調査区外であり、検出できた範囲はわずかであるためプランは不明である。壁残高は68cm～1.5cmである。東側の壁の一部及び周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。住居址北東部では貼り床は認められなかった。ピットは2基検出した。深さはP_1で51cm、P_2で45cmであり、これらは主柱穴であると思われる。

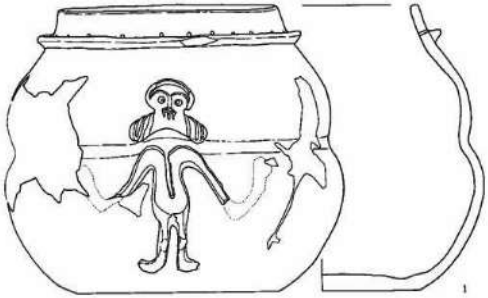
遺物は西側壁下より人体の全身が表現された人体文の付いた有孔鍔付土器（図79－1）、P_2の北側から台付土器の台部（図79－2）がいずれも床面より出土している。他に土器片・石器等の遺物は認められなかった。

本住居址の時期は出土遺物が少なく判然としないが、縄文時代中期中葉頃であると思われる。

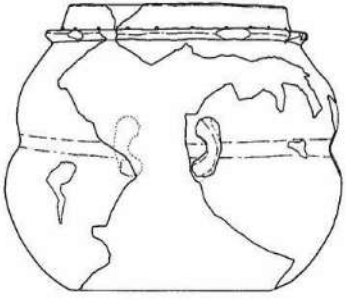


第78図　40号住居址実測図

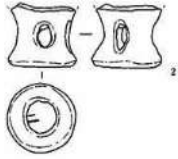




1



土器の形態は中央がややくびれたヒョウタン形をなし、内外面は丁寧なミガキによる調整が施され、赤色塗彩が認められる。人体文の左目に褐色がわずかな赤色塗彩が認められることから、人体文を含む土器全体に塗彩が施されていたと思われる。口縁部の小孔は22段所あり、土器正面に人体文、裏側に縦状の把手が付く。人体文は高さ18.95cm、幅12.2cmで、頭部の一部と同手の肘より先の腕部分、及び左足つま先部分が刺落している。顔は楕円形につくられ、その下にへの字形の隆帯が付くもので、目は棒状の工具で丸くあけられ、口はわずかに盛り上がっている。口は横方向の沈線から縦方向に3本の沈線が加えられている。への字形の隆帯にはそれぞれ左右に3本の沈線が入る。刺落は顔と離れており、中央に横がはいる。腕は肘部分より欠損しているが、刺落跡から刺激を左右に広げる形となることがわかる。左腕の刺落した部分の隆辺には赤色塗彩が残り、この痕跡から手は腕と別々に付けられたことがうかがえる。脇部は膨らみをもち、そのラインは出尾土偶に類似する。脚は膝にふくらみをもち、足先が左右にひらく形となる。人体文は刺落から頭部の頂に付けられており、腕がのびる肩部分にはヘラ状工具での調整が残る。全体的にバランスが整っており、人体をはっきりと表現している。土器の裏側に付く縦状の把手は1個が現存するのみであるが、刺落した痕跡が認められるため2個が外側に開く形で付いていたものと思われる。把手は土器中央のくびれの部分に穴がくるように付けられている。



2

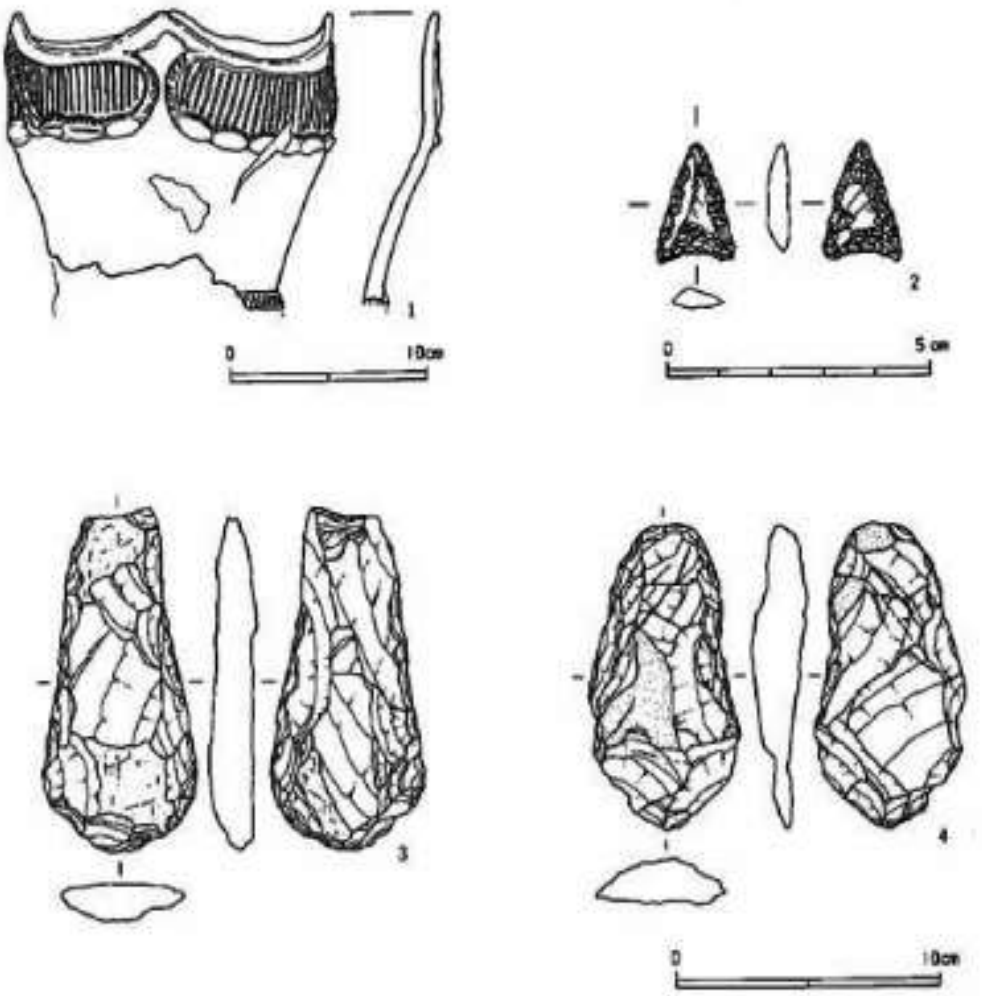
第79図　40号住居址出土遺物実測図

41号住居址（第82図）

B区で36号住居址の床下より検出した。長軸5.64m、短軸5.07mの不整楕円形を呈する。主軸はN－47°－Wを示す。壁残高は西側壁で101cm、東側壁で22cmである。周溝は北東側壁下と北西側壁下で途切れるほかは、住居址壁下全域にめぐらされている。また、住居址内側の東側を除く部分に各ピットを結ぶ形で周溝がめぐらされており、この周溝上部の一部に貼り床がみられたことから本住居址は拡張されたものであると思われる。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。

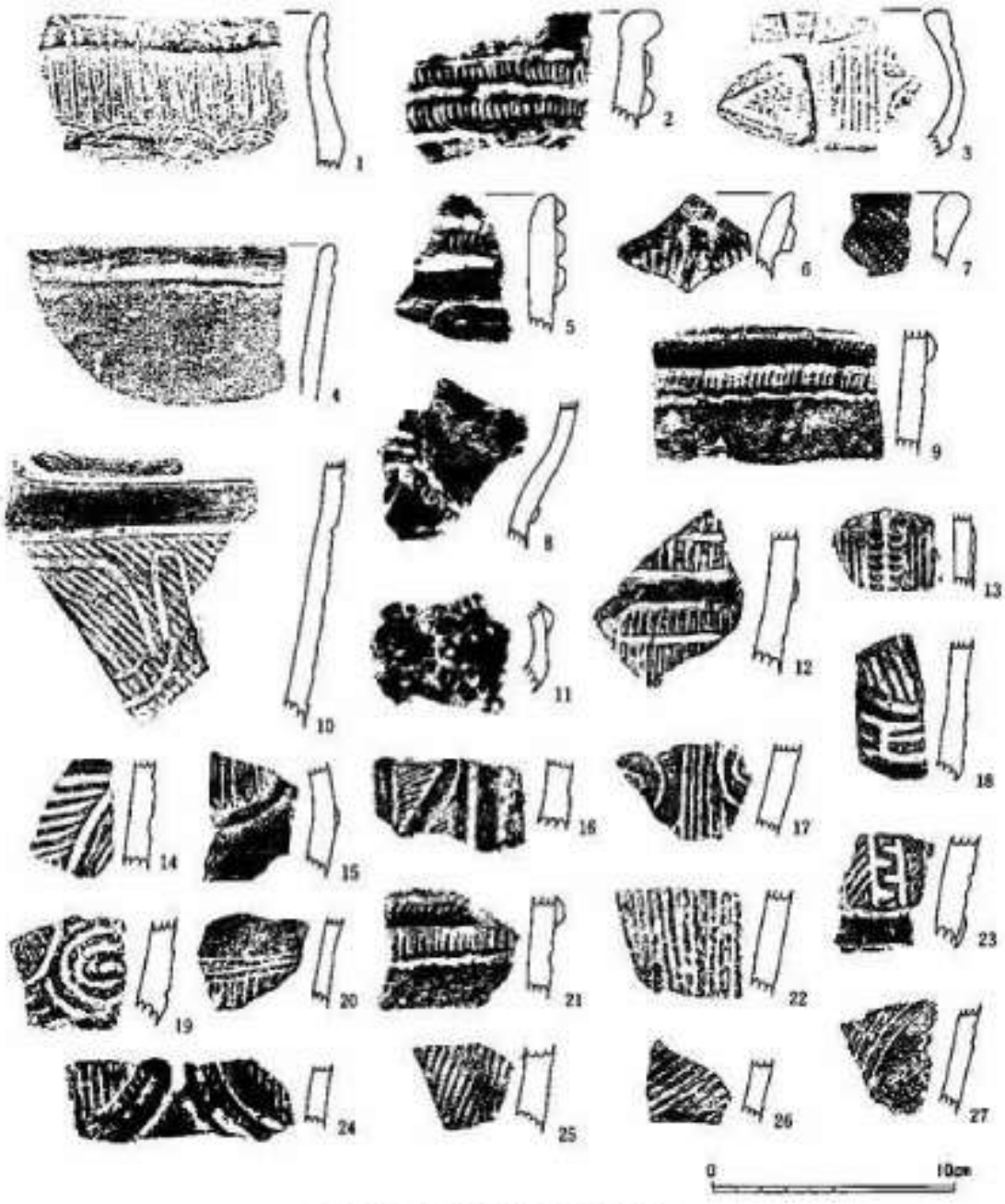
ピットは11基検出した。周溝の検出位置から新旧関係のあることが考えられる。新しい主柱穴はP_1－P_4と思われ、主軸を中心に左右3箇所の配置となっている。古い主柱穴はP_1・P_2・P_3・P_5が重複していることから、P_1－P_6・P_{12}であると思われる。

炉址は地床炉で、住居址のほぼ中央に位置している。長軸120cm、短軸93cmの不整楕円形で、深さ17.5cmに掘りくぼめられている。炉址底部にはわずかに焼土が認められる。

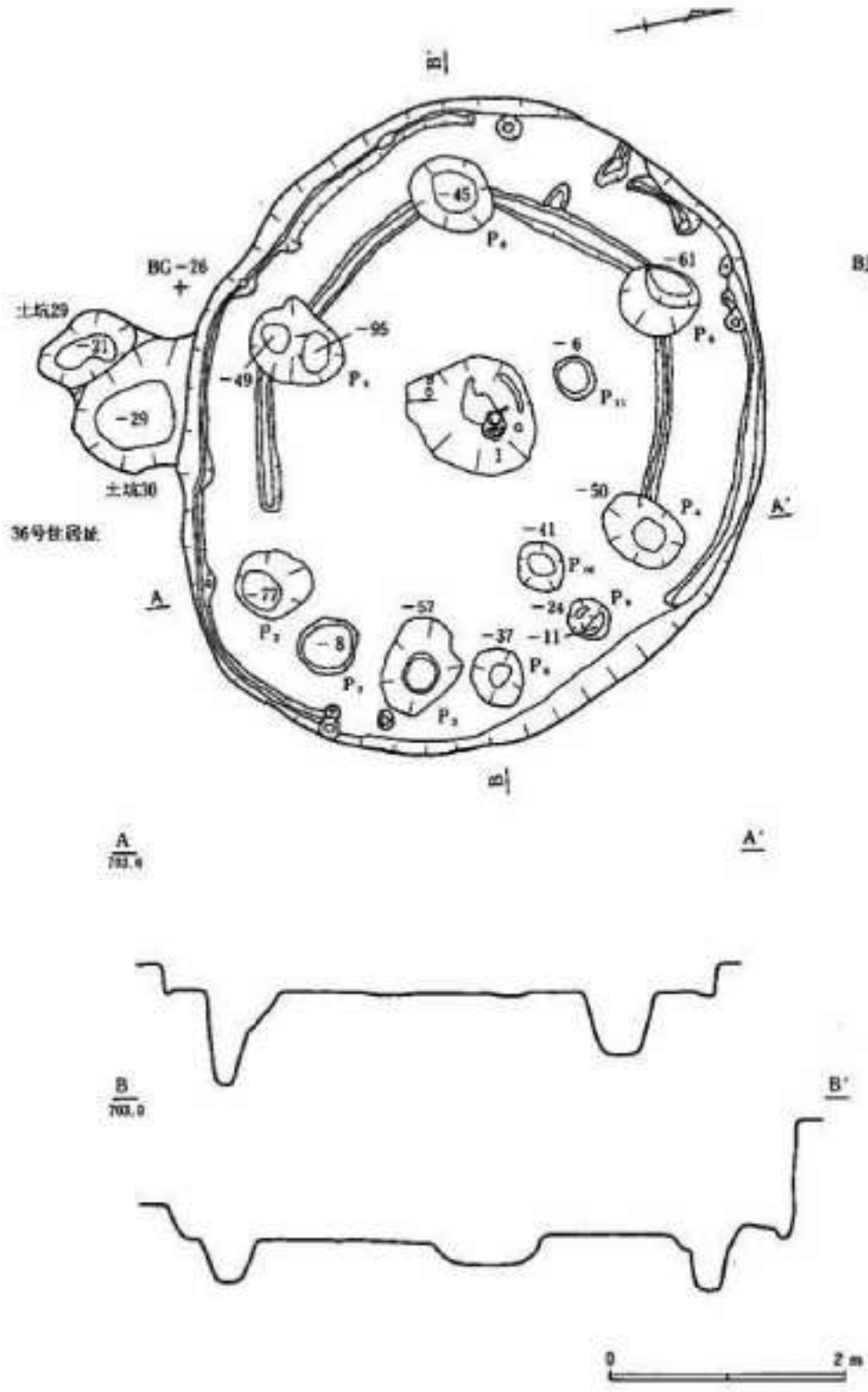


第80図　41号住居址出土遺物実測図①

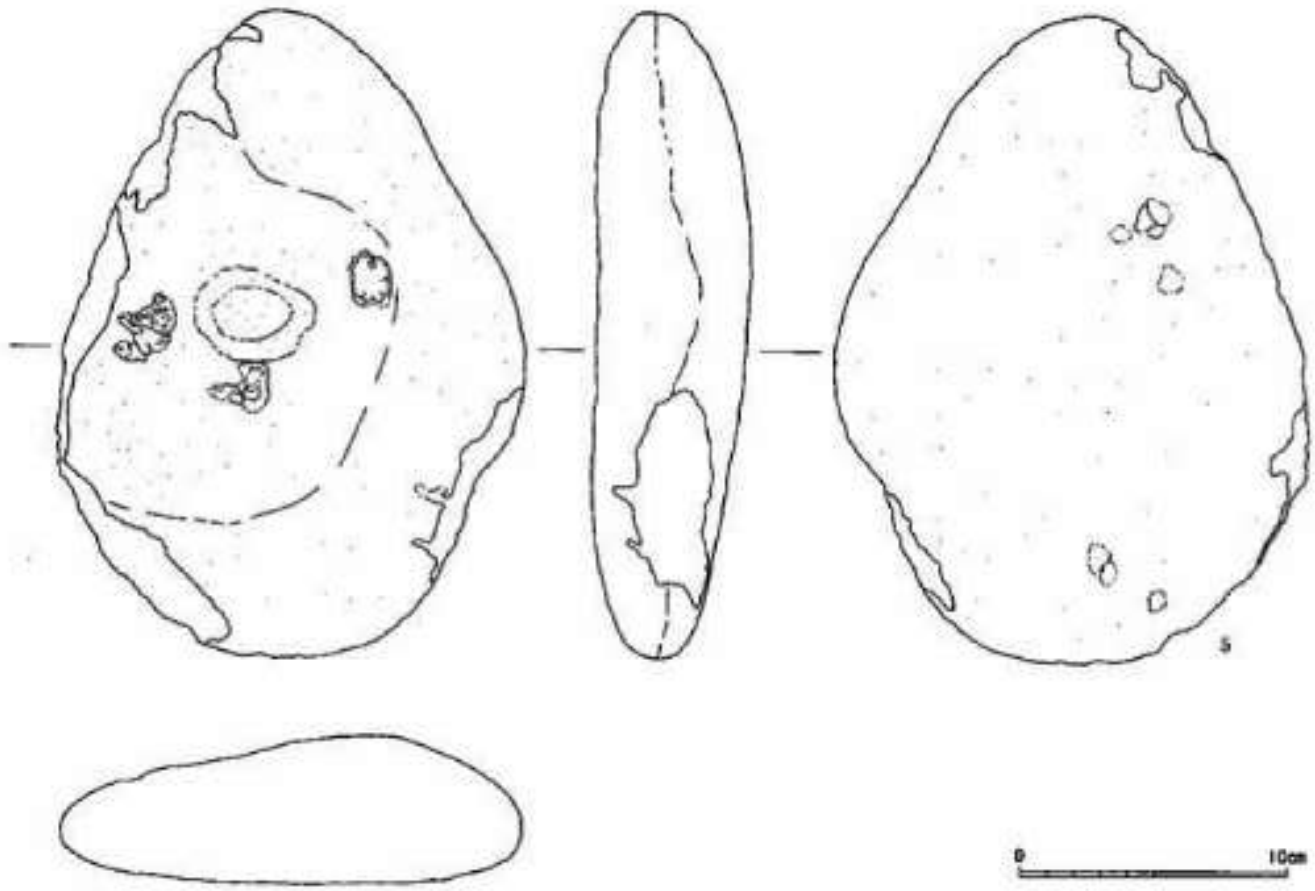
遺物は少なく、炉址内部から深鉢型土器（図80－1）、覆土上層及び中層より石斧（図80－3・4）、石鏃（図80－2）、石匙（図83－5）が出土している。本住居址の時期は遺物などから縄文時代中期中葉であると思われる。



第81図　41号住居址出土土器拓影図



第82図　41号住居址実測図

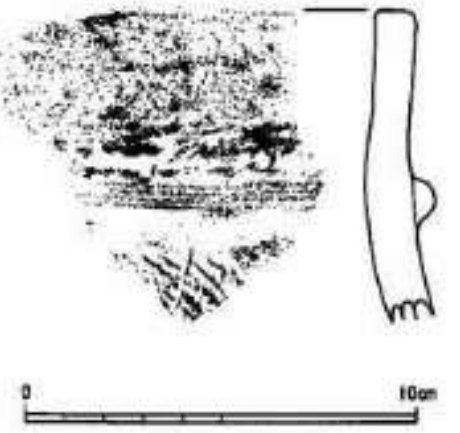


第83図　41号住居址出土遺物実測図②

(2) 土器廃棄場（第85図）

B地区で検出した。上面確認の際、暗褐色土層より多量の土器片が出土したため、下層に住居址のあることを想定してトレンチ調査を行ったが、遺構が認められなかったため土器廃棄場であると判断した。検出及び取り上げは、2m×2mのグリットを用いて行った。

出土した土器片は縄文時代中期中葉のものが主体となっているが、中期後葉のものが少量認められる。また、これらの土器破片にはローリングをうけた跡は認められない。



第84図　土器廃棄場出土有孔鍔付土器拓影図

土器廃棄場からは土器破片の他に土偶（図86－1～5、図－9・10）、人の手を表現した土器片（図87－7）、石斧（図88－1～5、図89－6～7、図91－23～28）、石匙（図89－8～12、図90－16・17・22）、石鏃（図90－18～20）、不定石器（図90－21）、横刃型石器（図90－13～15）、石錘（図92－29・30）等が出土している。

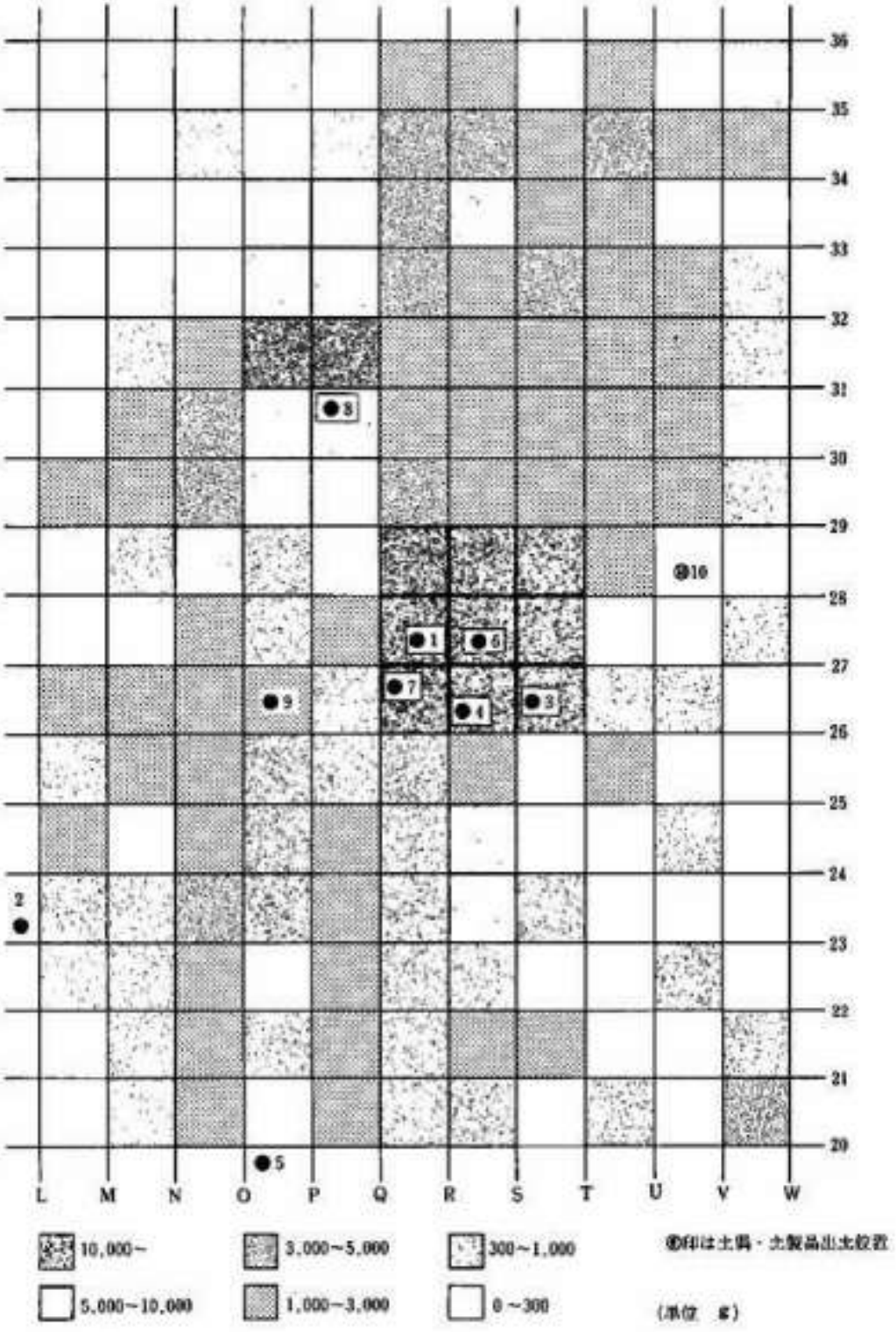
廃棄場より検出した土器片の個数と重さを第2表で示した。また、範囲については第85図にあらわした。出土した土器の量は特殊遺構付近が特に多い。また、17号住居址の範囲（BQ－T－29－32）は掘り返しがされているため、出土している土器の量は周辺と比較して少なくなっていることが考えられる。

(3) 特殊遺構（第93図・第94図）

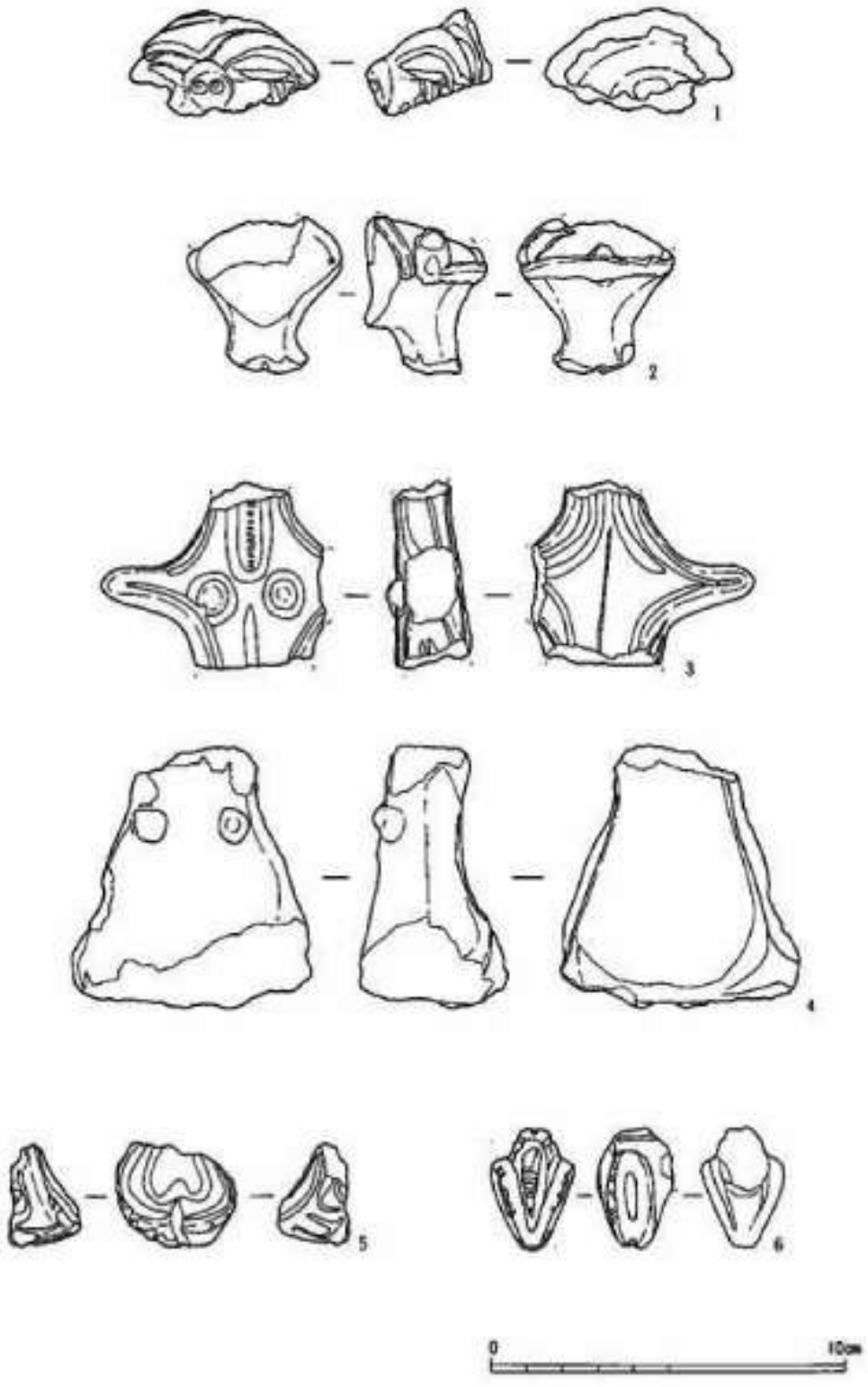
B地区で検出した。上面確認の際、暗褐色土層より多量の縄文土器片に混じって、原形個体で出土する縄文土器が認められた。当初、廃棄土器または住居遺構に伴う遺物と判断したが、埋設された台付浅鉢型土器（図95－1）とその周りから礫群が出土し、原形個体の土器はその周囲に集中していたこと、さらに個体で出土した土器の周囲及び下層において遺構にみられる床面、ピット、壁、炉址などの施設がみられなかったことから、屋外遺構であると判断し、検出を行った。検出は2m×2mのグリットをさらに4分割し、1m×1mのグリットを新たに設定して記録を行った。

本址の中心部になると思われる台付浅鉢型土器は、底部が穿孔され逆位に設置された上に一部欠損した使用面のみられる不整円形の石（図99－10）が蓋をするような状態で出土した。土器の内部には、暗褐色土がみられるのみでその他の遺物は認められなかった。その東側には方形の砂岩が4個出土している。これらの石の一部には火熱を受けた跡が認められるものがある。他に浅鉢型土器の南側には平坦な砂岩がみられるが、形状に共通性はみられない。

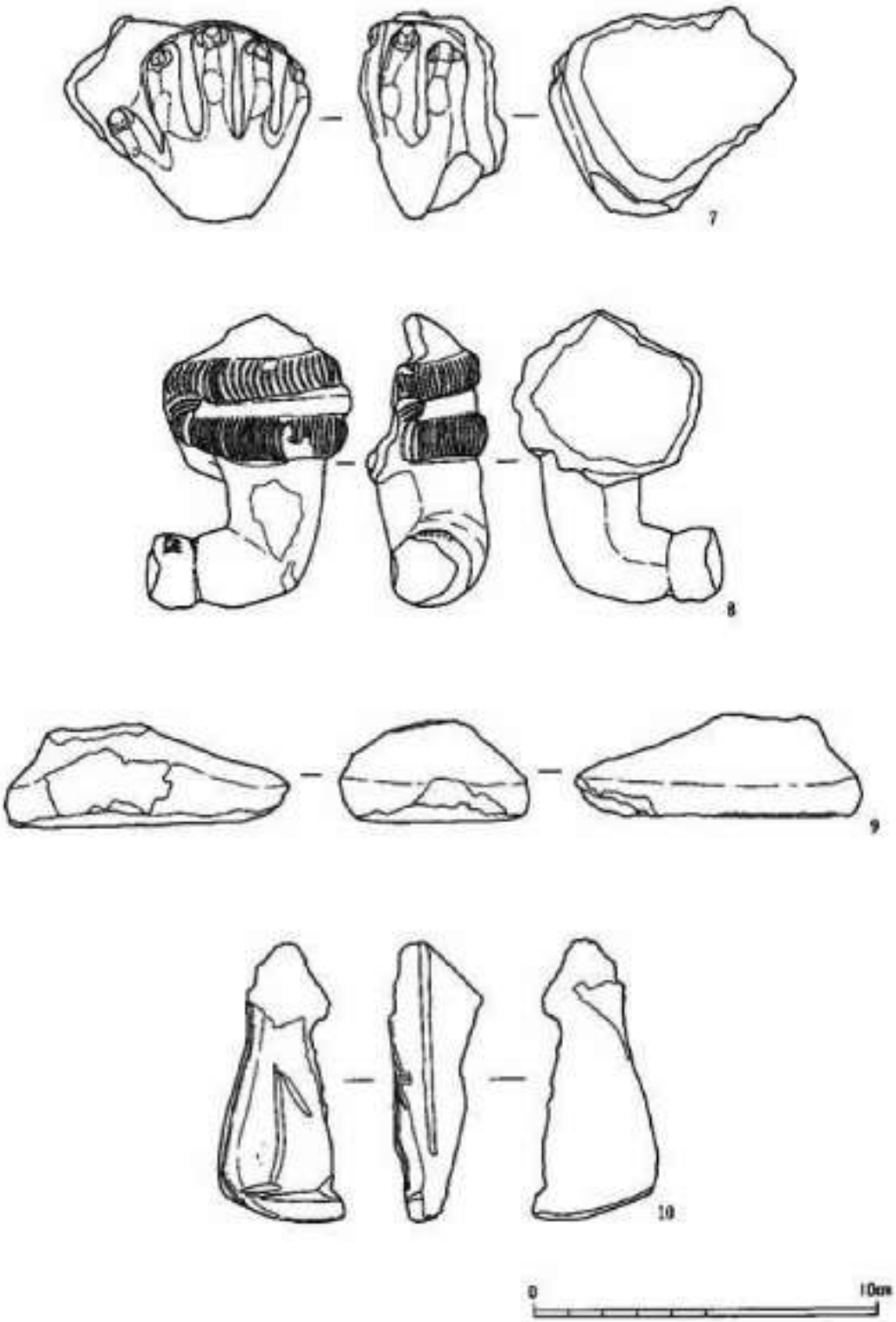
浅鉢型土器を中心とした半径3.8m内からは深鉢型土器（図96－3、図97－4－7、図98－8・9）が7個体出土している。このうち、図97－4・5と図98－8・9の土器は並列した状態で口縁が南方を向いており、同一の方向性をもっている。また、図96－3、図97－6の土器においても南方または南西方向に口縁が向いている。配置されている土器の周辺には、これらと同時期の土器片が多く出土しているが、こ



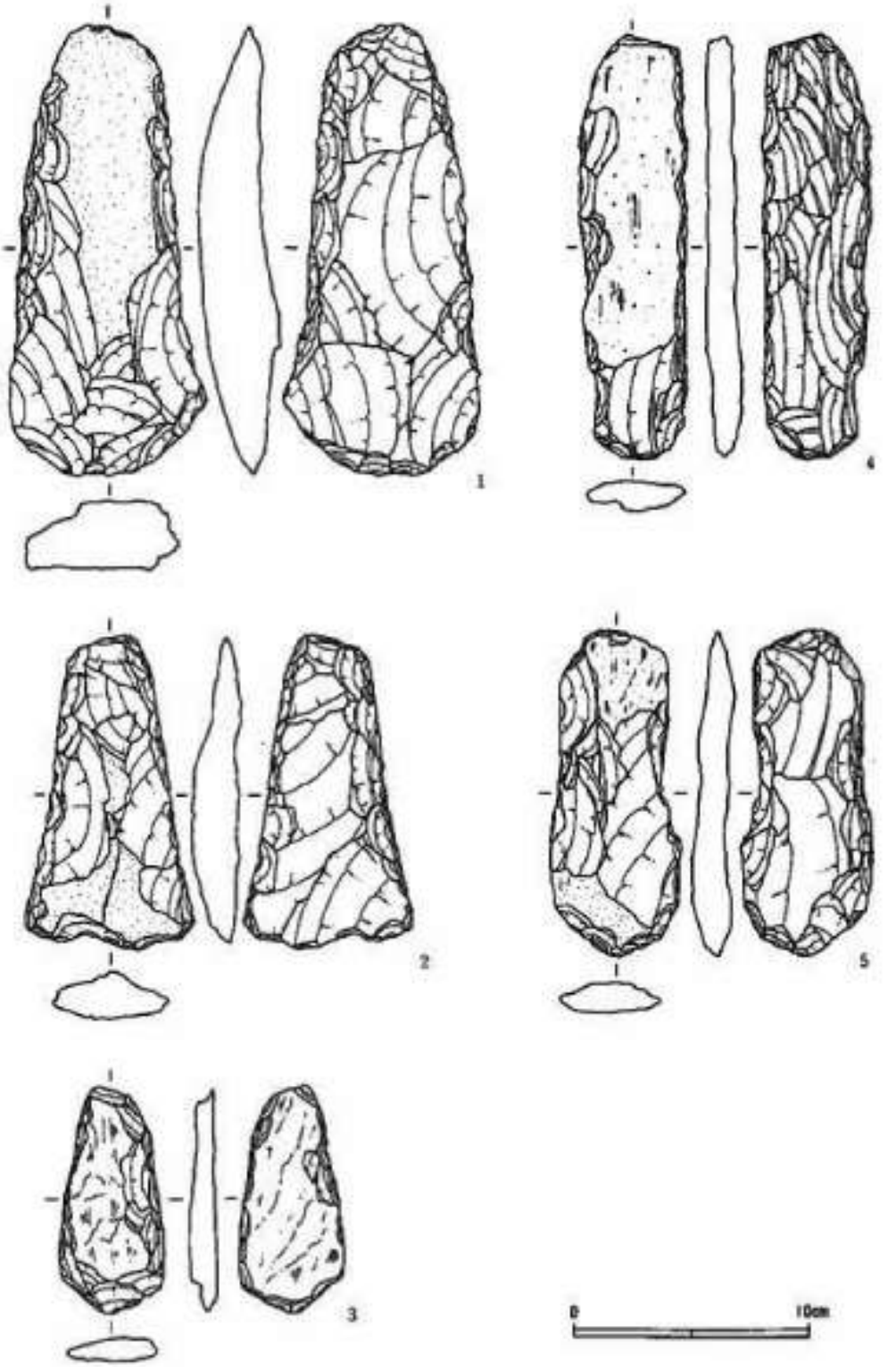
第85図　土器廃棄場平面図（1：200）



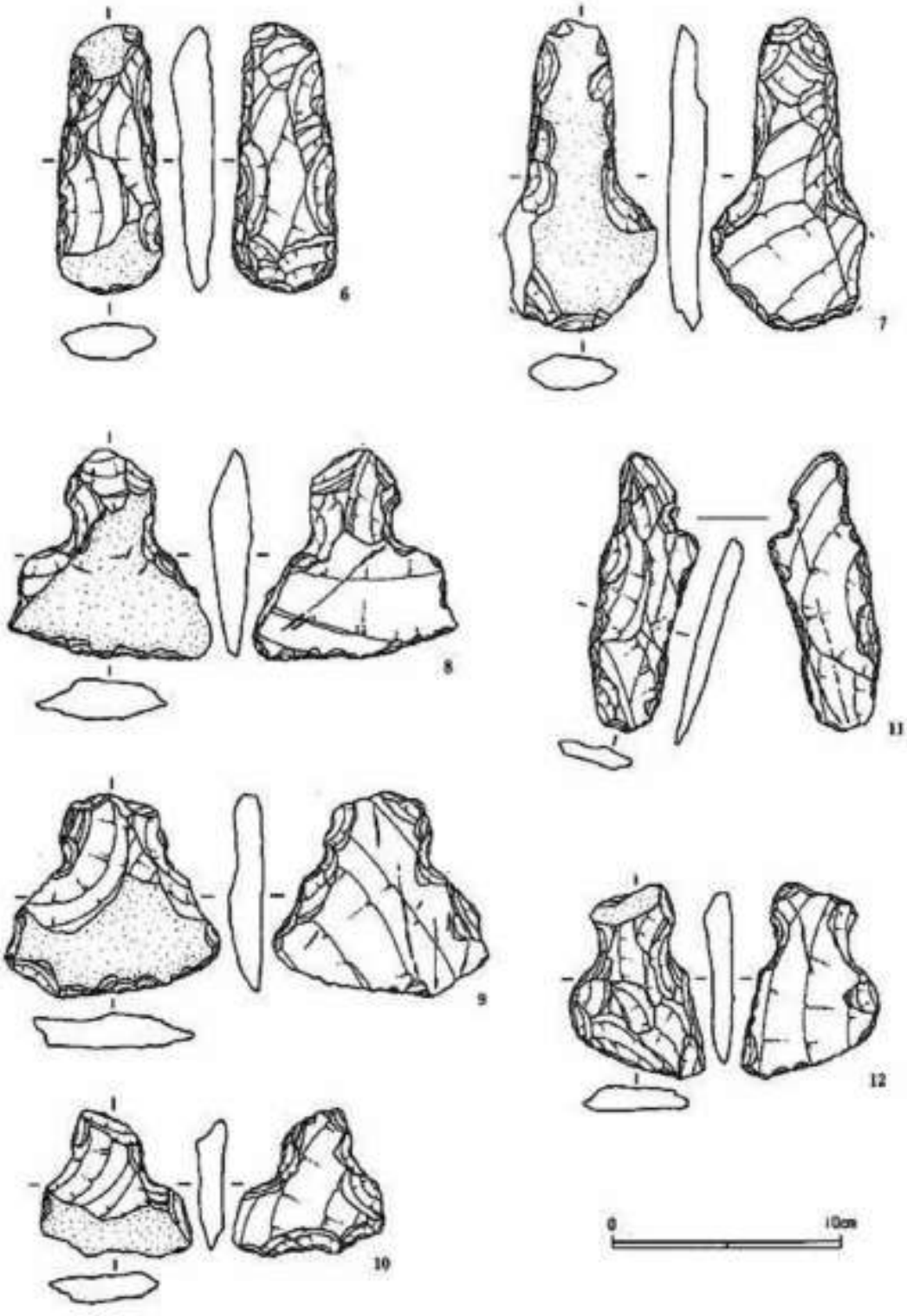
第86図　土器廃棄場出土遺物実測図①



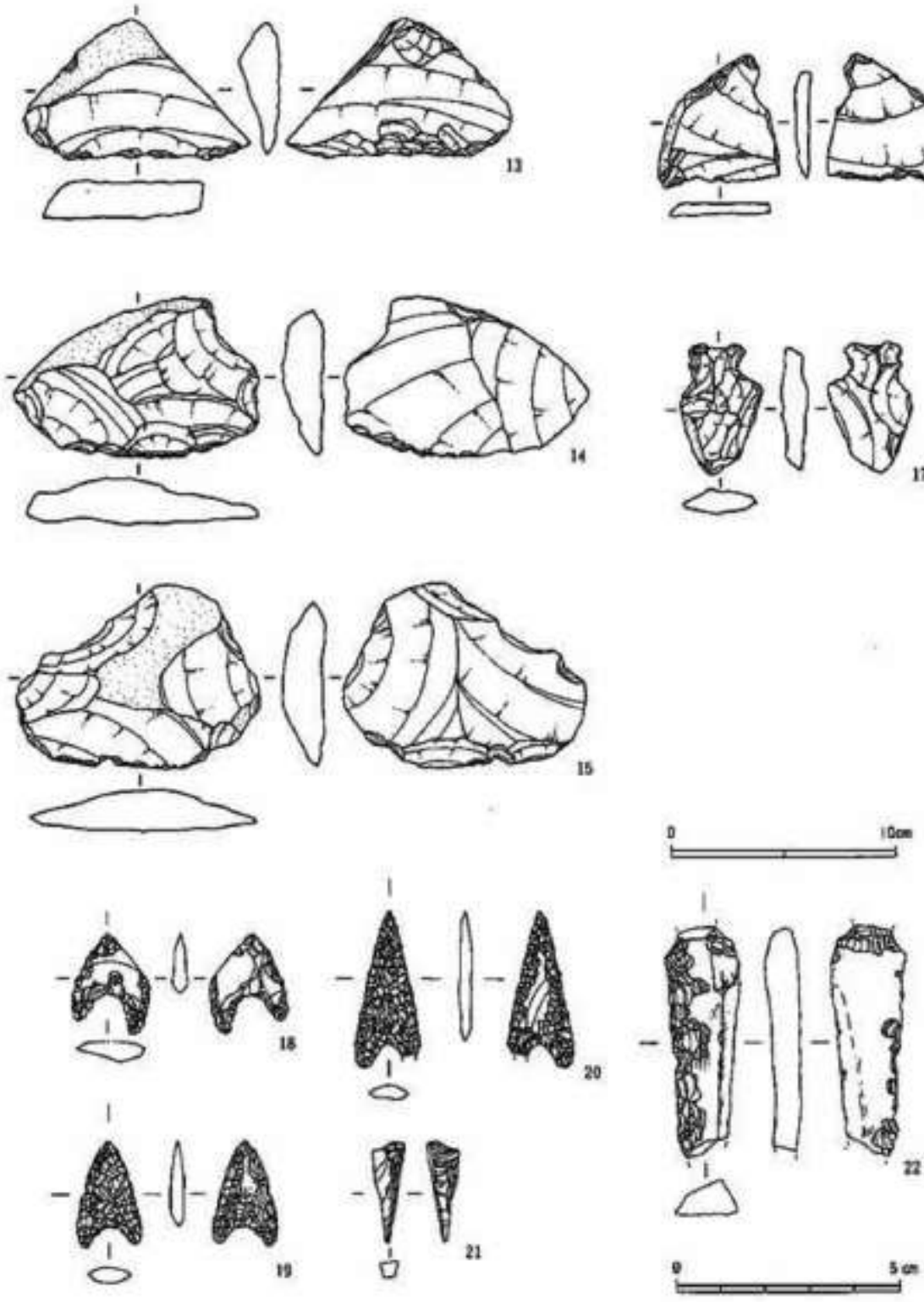
第87図　土器廃棄場出土遺物実測図②



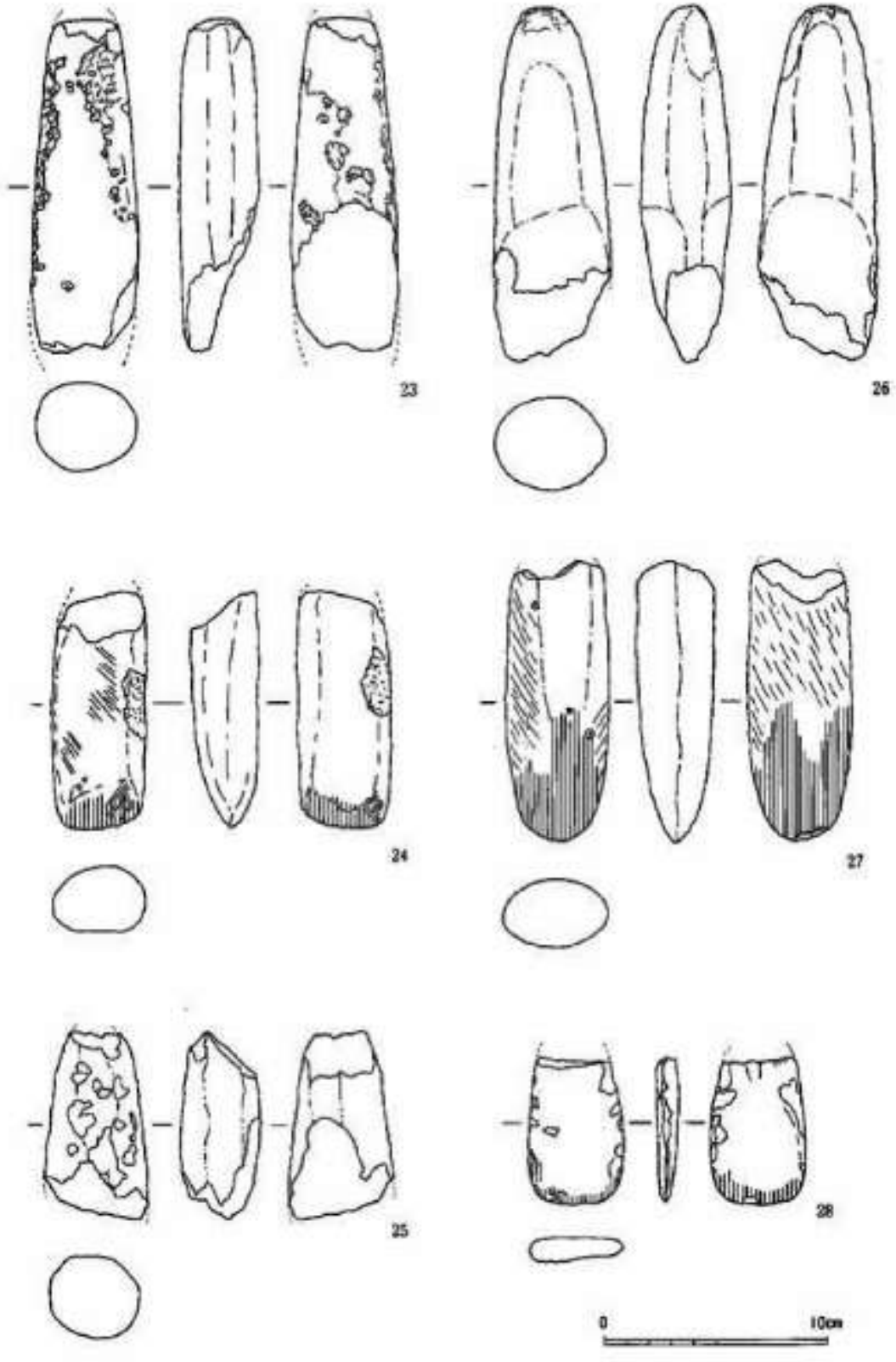
第88図　土器廃棄場出土石器実測図①



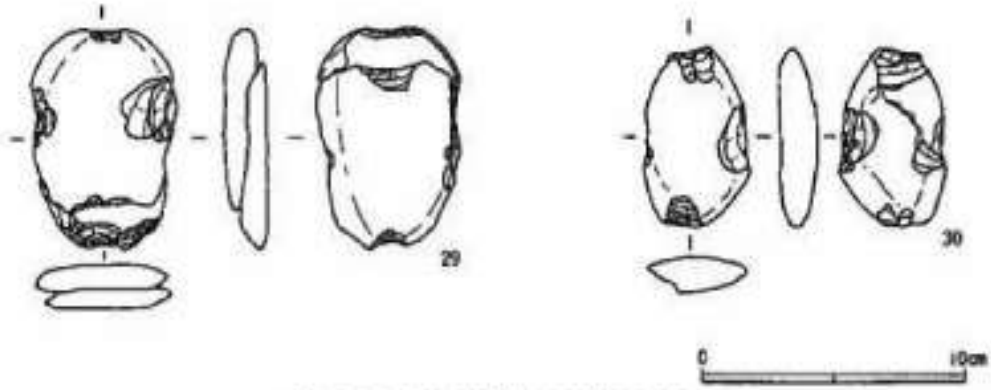
第89図　土器廃棄場出土石器実測図②



第90図　土器廃棄場出土石器実測図③



第91図　土器廃棄場出土石器実測図④



第92図　土器廃棄場出土石器実測図⑤

れらの中の一部には、火熱により表面がケロイド状になった、ゆがみのみられる土器片が認められる。

特殊遺構においては、炭化物及び焼土は認められなかった。図98－9の土器直上から、5本の指に爪や関節部分が写実的に表現された人の手をモチーフにもつ土器片が出土しているが、本址周辺が土器廃棄場になっているため、これが本址に伴うものかは判然としない。また、グリットBR・S－34・35より出土した土器（図95－2）は、口縁が南方を向いた状態で出土しているが、浅鉢型土器から離れた位置であり、時期の新しいものであることから、本址に伴わないものと思われる。

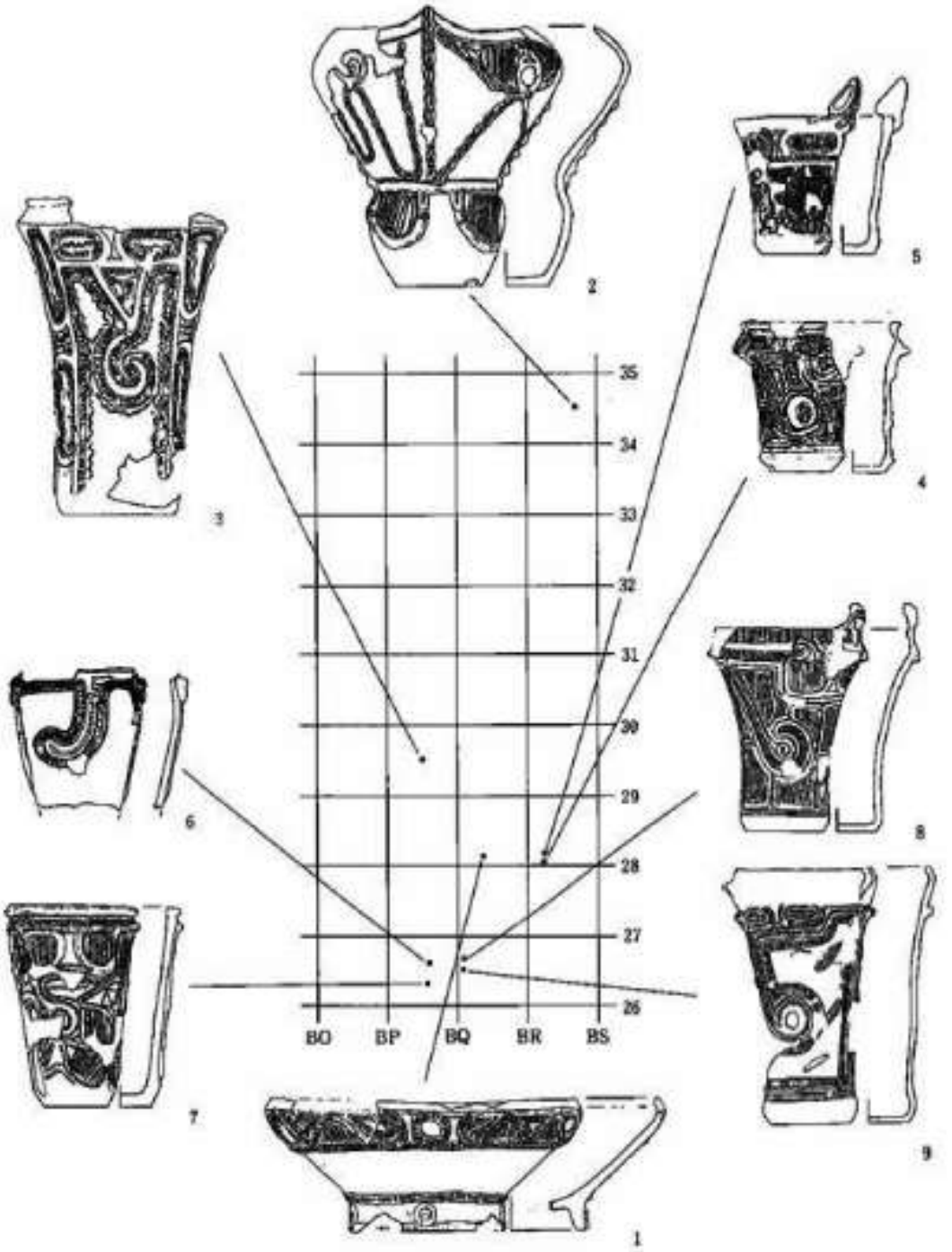
本址の時期は遺物等から、縄文時代中期中葉であると思われる。

第2表　土器廃棄場出土土器量一覧表(1)

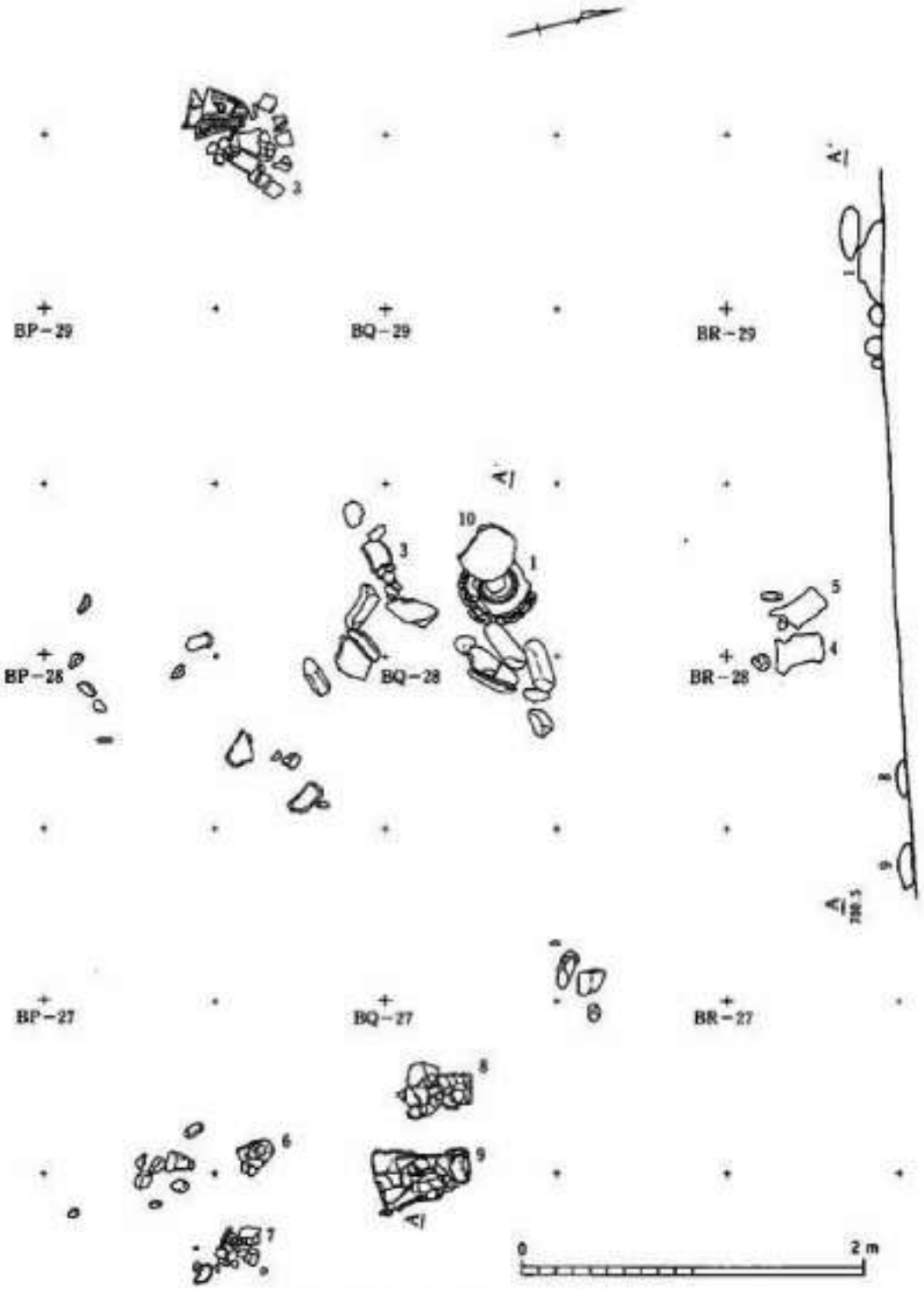
グリット	個　数	重さ(g)	備　考	グリット	個　数	重さ(g)	備　考
BJ・K－20・21	11	125		BM・N－20・21	19	378	
BJ・K－21・22	1	5		BM・N－21・22	19	378	
BJ・K－24・25	2	55		BM・N－22・23	45	923	
BJ・K－25・26	6	80		BM・N－23・24	19	378	
BJ・K－29・30	11	175		BM・N－25・26	54	1,280	
BJ・K－30・31	14	240		BM・N－26・27	54	1,280	
BJ・K－31・32	1	15		BM・N－28・29	50	830	
BJ・K－32・33	1	10		BM・N－29・30	78	1,370	
BK・L－20・21	62	1,210		BM・N－30・31	59	1,410	
BK・L－25・26	27	540		BM・N－31・32	21	555	
BK・L－26・27	4	20		BM・N－33・34	7	155	
BK・L－28・29	19	485		BN・O－20・21	74	1,301	
BK・L－29・30	10	170		BN・O－21・22	84	1,561	
BK・L－30・31	4	25		BN・O－22・23	109	2,001	
BK・L－32・33	2	25		BN・O－23・24	206	3,071	
BL・M－20・21	5	85		BN・O－24・25	125	2,386	
BL・M－21・22	12	205		BN・O－25・26	134	2,507	
BL・M－22・23	43	480		BN・O－26・27	159	2,492	
BL・M－23・24	65	835		BN・O－27・28	106	1,955	
BL・M－24・25	48	1,210		BN・O－28・29	296	5,595	
BL・M－25・26	19	375		BN・O－29・30	170	4,135	
BL・M－26・27	39	1,270		BN・O－30・31	181	3,405	
BL・M－28・29	7	160		BN・O－31・32	146	2,695	
BL・M－29・30	92	1,325		BN・O－32・33	11	140	
BL・M－30・31	6	85		BN・O－34・35	14	380	
BL・M－32・33	10	165		BO・P－20・21	1	25	

第2表　土器廃棄場出土土器量一覧表(2)

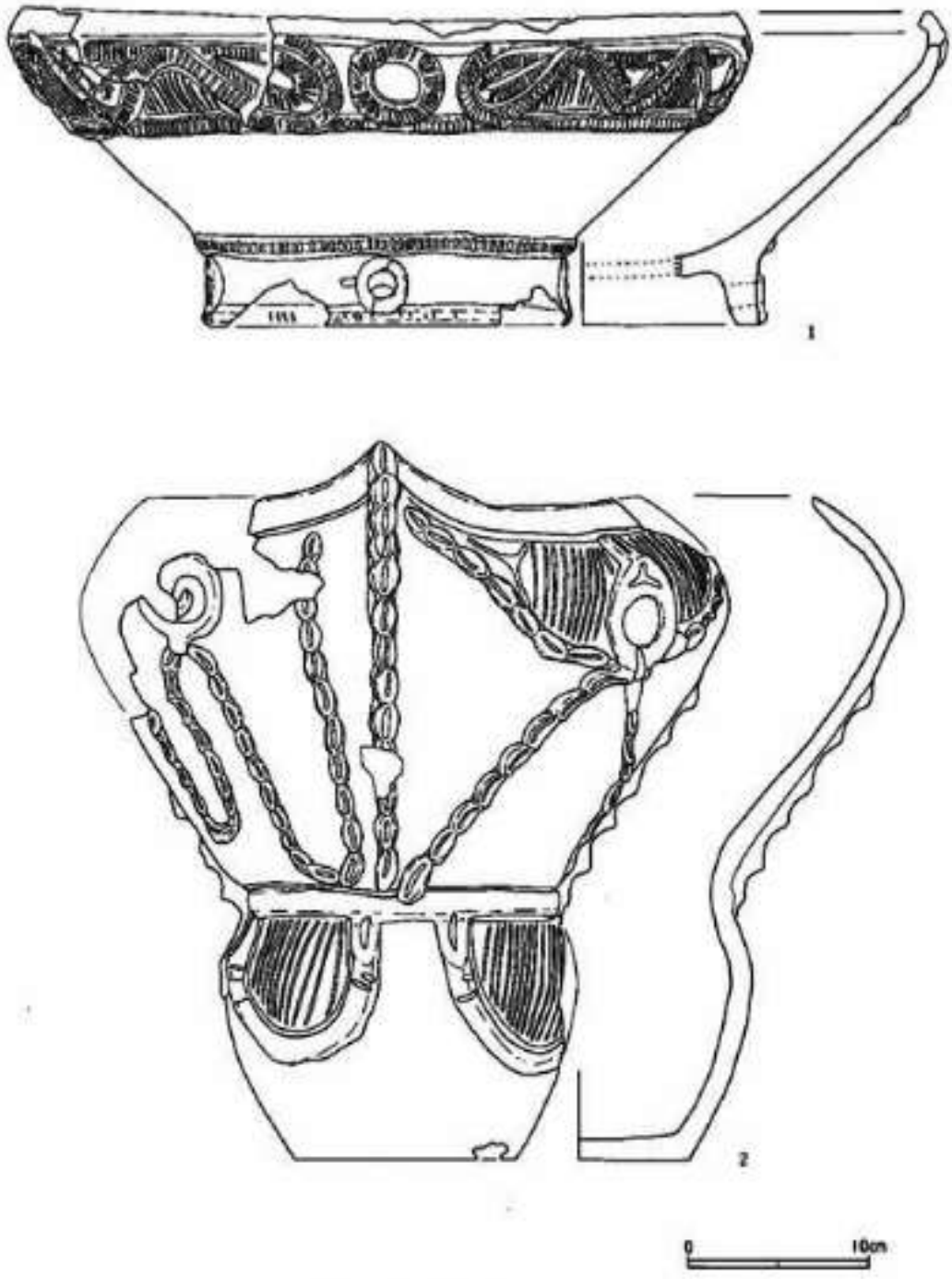
グリット	個数	重さ(g)	備考
BQ・P−21・22	23	380	
BQ・P−22・23	20	225	
BQ・P−23・24	33	600	
BQ・P−24・25	54	835	
BQ・P−25・26	19	379	
BQ・P−26・27	138	1,670	土偶No.9出土
BQ・P−27・28	32	420	
BQ・P−28・29	25	495	
BQ・P−29・30	328	8,399	
BQ・P−30・31	294	7,659	
BQ・P−31・32	484	11,164	
BQ・P−32・33	360	9,034	
BQ・P−33・34	366	9,259	
BQ・P−34・35	6	190	
BQ・P−35・36	25	490	
BP・Q−20・21	64	1,550	
BP・Q−21・22	72	1,555	
BP・Q−22・23	80	1,485	
BP・Q−23・24	100	1,975	
BP・Q−24・25	88	1,905	
BP・Q−25・26	28	605	
BP・Q−26・27	36	680	
BP・Q−27・28	67	1,435	
BP・Q−29・30	291	7,619	
BP・Q−30・31	291	7,620	土偶No.8出土
BP・Q−31・32	805	17,179	
BP・Q−32・33	413	9,999	
BP・Q−33・34	293	7,699	
BP・Q−34・35	14	400	
BQ・R−20・21	38	785	
BQ・R−21・22	36	760	
BQ・R−22・23	32	650	
BQ・R−23・24	48	825	
BQ・R−24・25	48	815	
BQ・R−25・26	10	185	
BQ・R−26・27	488	10,207	土偶No.7出土
BQ・R−27・28	467	10,232	土製品No.1出土
BQ・R−28・29	486	11,752	
BQ・R−29・30	200	4,193	
BQ・R−30・31	106	2,153	
BQ・R−31・32	77	1,733	
BQ・R−32・33	154	3,745	
BQ・R−33・34	171	4,295	
BQ・R−34・35	88	3,210	
BQ・R−35・36	67	1,455	
BR・S−20・21	25	375	
BR・S−21・22	84	1,780	
BR・S−22・23	28	420	
BR・S−23・24	249	6,095	
BR・S−24・25	227	6,305	
BR・S−25・26	69	1,440	
BR・S−26・27	637	13,777	土偶No.4出土
BR・S−27・28	610	15,707	
BR・S−28・29	517	11,437	
BR・S−29・30	145	2,542	
BR・S−30・31	142	2,117	
BR・S−31・32	157	2,327	
BR・S−32・33	128	2,605	
BR・S−33・34	419	8,375	
BR・S−34・35	254	4,590	
BR・S−35・36	82	1,330	
BS・T−20・21	7	115	
BS・T−21・22	61	1,965	
BS・T−22・23	2	35	
BS・T−23・24	43	845	
BS・T−25・26	3	50	
BS・T−26・27	479	10,867	土偶No.3出土
BS・T−27・28	488	10,882	
BS・T−28・29	510	12,352	
BS・T−29・30	167	2,612	
BS・T−30・31	138	2,052	
BS・T−31・32	141	2,342	
BS・T−32・33	169	4,000	
BS・T−33・34	21	700	
BS・T−34・35	8	70	
BT・U−20・21	57	975	
BT・U−23・24	2	5	
BT・U−24・25	2	75	
BT・U−25・26	58	1,540	
BT・U−26・27	40	685	
BT・U−28・29	88	1,405	
BT・U−29・30	139	2,252	
BT・U−30・31	120	1,932	
BT・U−31・32	145	2,232	
BT・U−32・33	161	2,835	
BT・U−33・34	87	1,360	
BT・U−34・35	205	3,185	
BT・U−35・36	94	1,525	
BU・V−20・21	3	30	
BU・V−22・23	23	495	
BU・V−23・24	3	35	
BU・V−24・25	20	440	
BU・V−25・26	2	15	
BU・V−26・27	16	300	
BU・V−28・29	5	30	土偶No.20出土
BU・V−29・30	65	1,400	
BU・V−30・31	74	1,380	
BU・V−31・32	96	2,110	
BU・V−32・33	74	1,530	
BU・V−34・35	10	200	
BV・W−20・21	119	3,325	
BV・W−21・22	31	785	
BV・W−22・23	3	65	
BV・W−23・24	2	15	
BV・W−27・28	43	830	
BV・W−28・29	4	55	
BV・W−29・30	41	855	
BV・W−30・31	4	130	
BV・W−31・32	50	780	
BV・W−32・33	15	420	
BV・W−34・35	6	85	
BV・W−35・36	25	385	



第93図　特殊遺構出土土器位置図① (1 : 200)

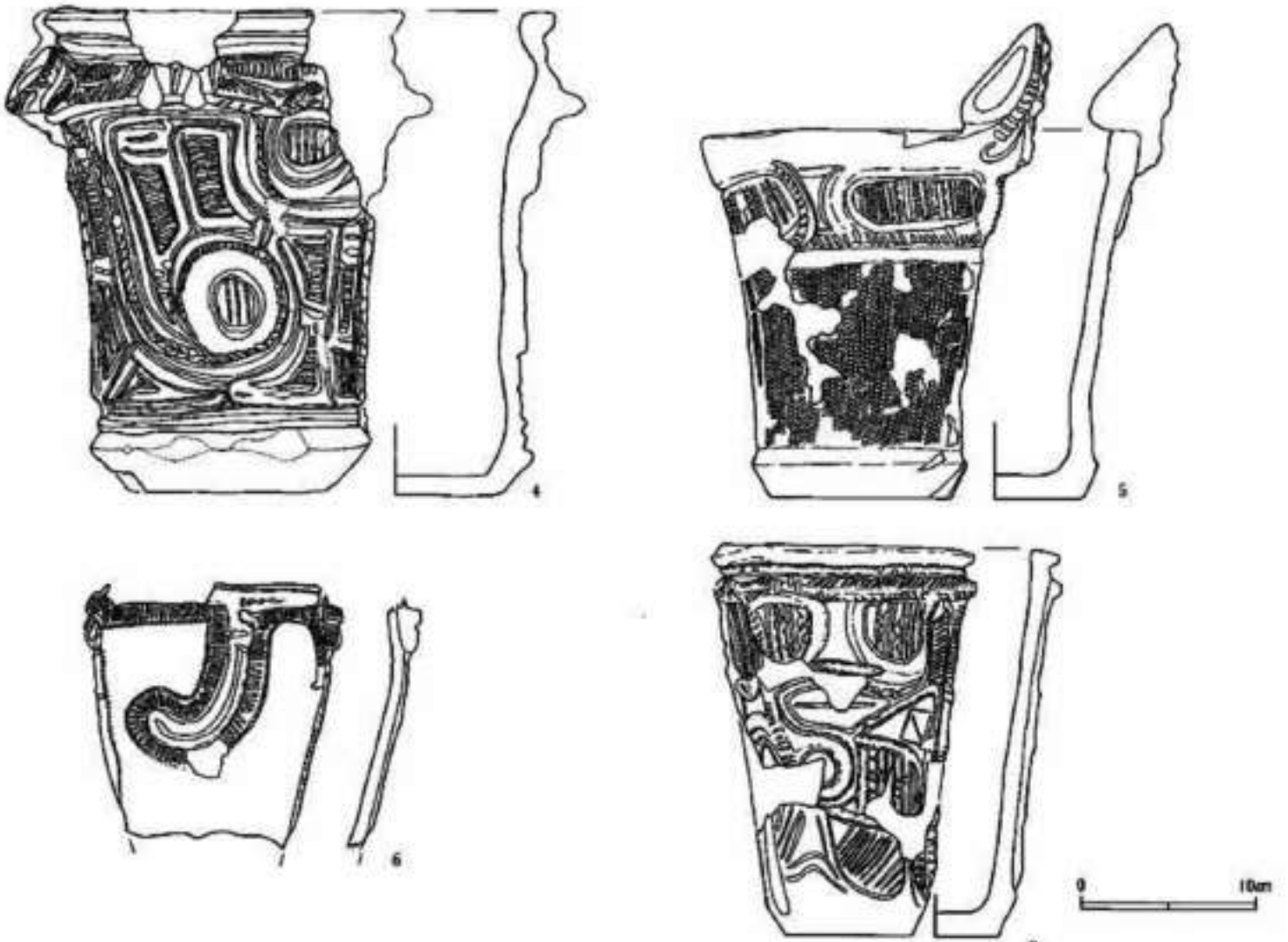


第94図　特殊遺構出土土器位置図②

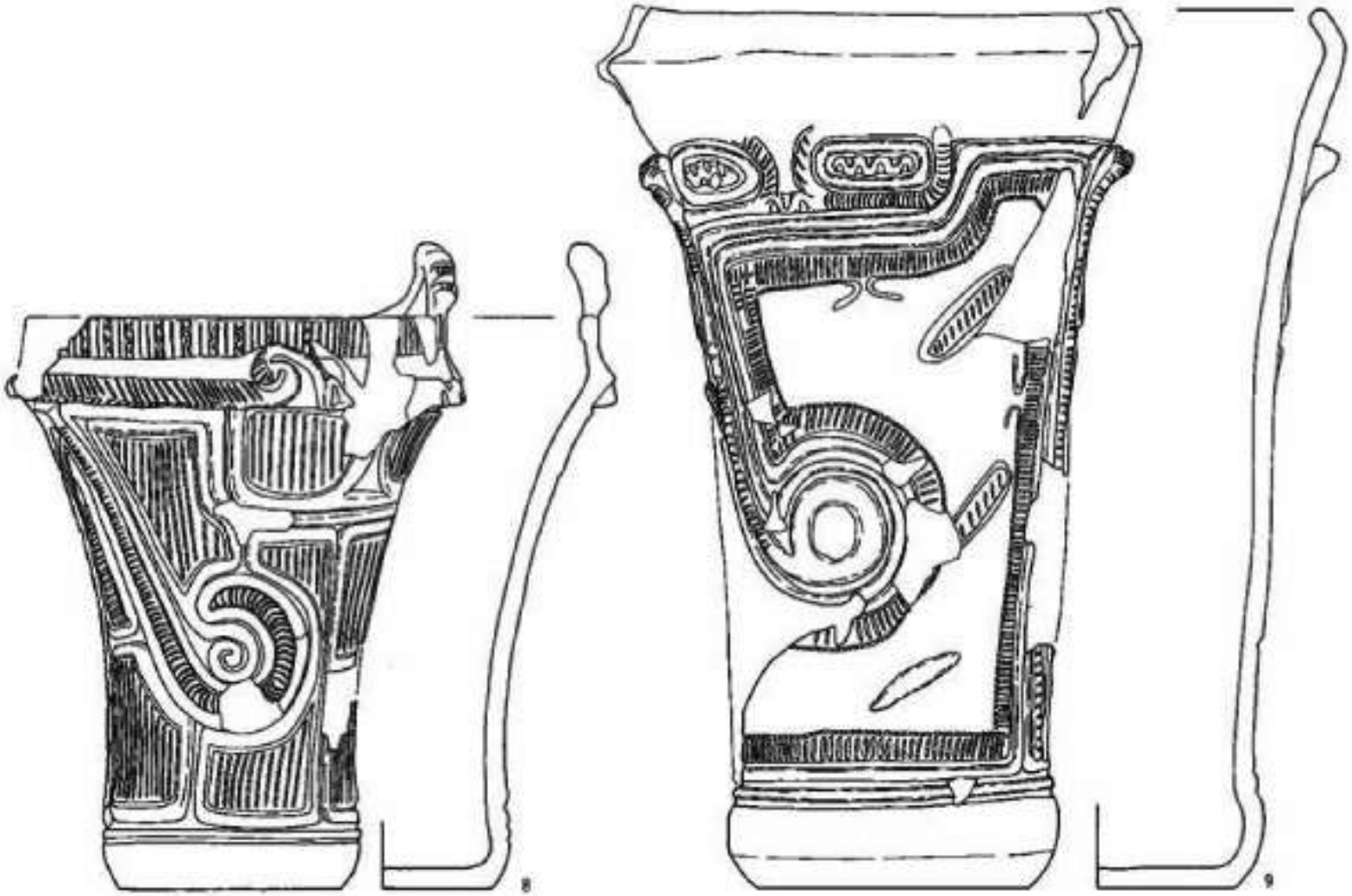


第95図　特殊遺構出土遺物実測図①

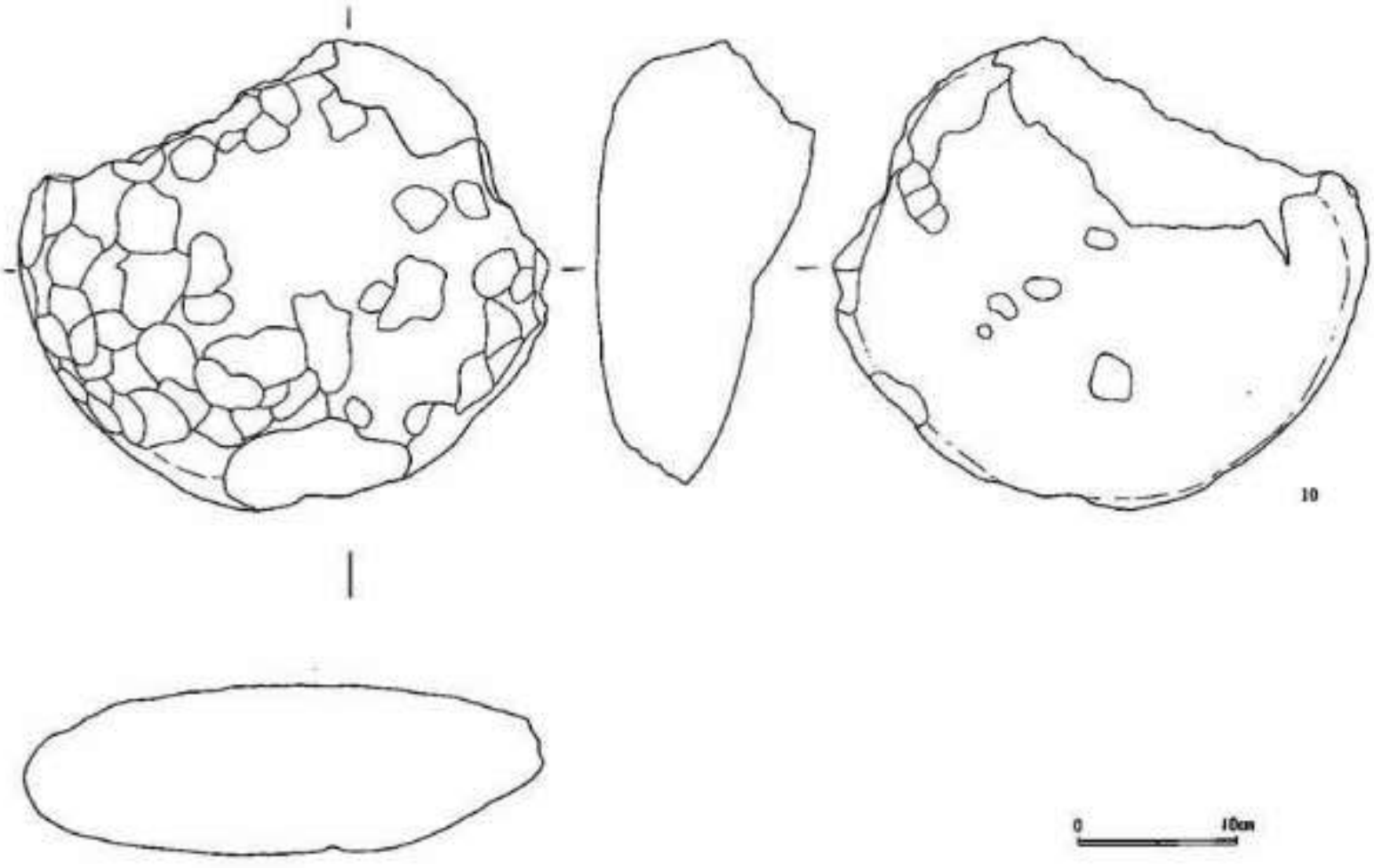
第996図　特殊遺構出土青銅製品②



第97図　特殊遺構出土遺物実測図③



第98図　特殊遺構出土遺物実測図④



第99図　特殊遺構出土遺物実測図⑤

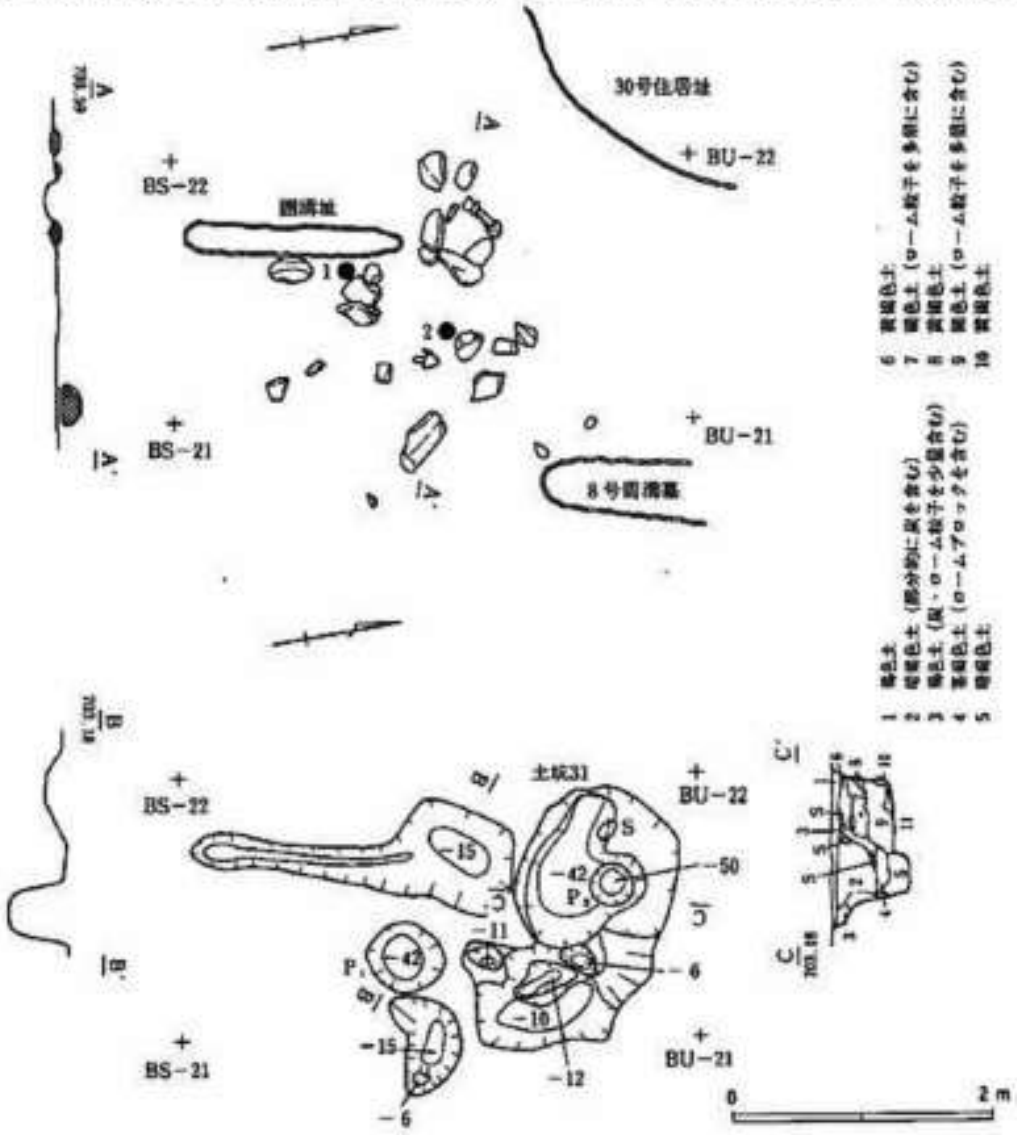
(4) 配石遺構（第100図）

B地区で検出した。30号住居址南東側に位置している。遺構の上層に8号周溝墓及び囲溝址が構築されていることから本址の一部は破壊されていることが考えられる。

本址は上面確認を行っていた際、散乱した状態で礫群が出土し、その西側から方形状に配置された礫群を検出した。炉址であることを想定して、周辺を調査したが、貼り床は認められなかった。

本址の東側に床面のみ検出できた29号住居址が位置しているが、29号住居址の床面とのレベルに差異があることから、これらは別々の遺構であると考える。

方形状に配置された礫群は、長軸96cm、短軸72cm、深さ15cmの不整隅丸方形に掘りくぼめた縁辺に、東側に方形の砂岩をコの字型に平坦に配し、西側を拳大の砂岩で囲う形となっている。焼土は礫群の内部及びその周囲には認められなかった。また、それぞれの礫についても火熱を受け

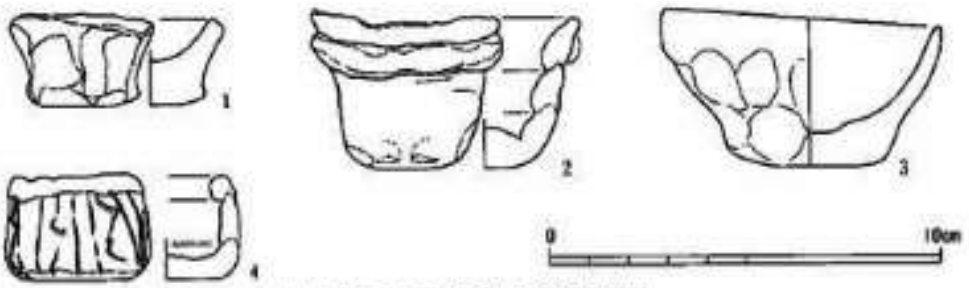


第100図　配石遺構実測図

た跡はみられない。

方形状に配置された礫群の東側にある礫群は砂岩とホルンフェルスで、大きさ及び形状に共通性はみられない。また、方形状に配置された礫群の周囲からは土坑31とピット2基を検出した。これらが本址に伴うものであるかは不明である。

遺物は、方形状に配置された礫群の東側礫群よりミニチュア土器(図101－1～4)が出土している。本址の時期は遺物が少なく判然としないが、縄文時代中期中葉から後葉頃であると思われる。

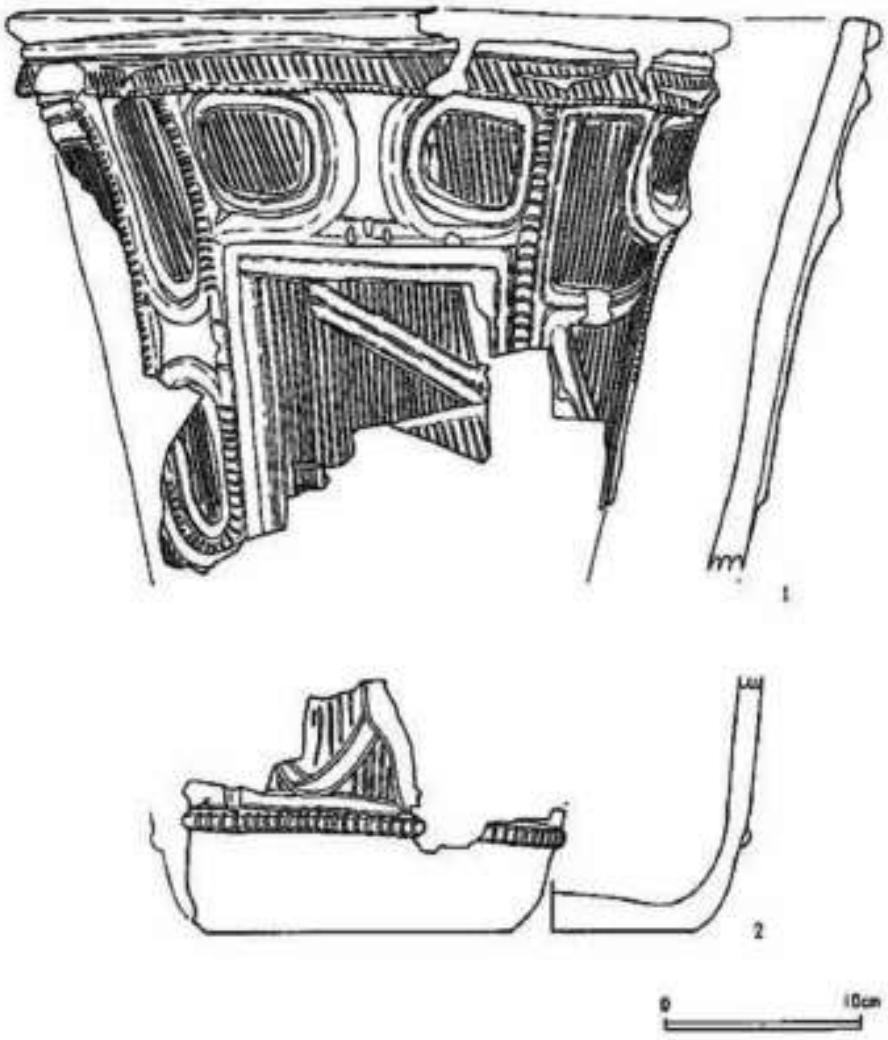


第101図　配石遺構出土遺物実測図

(5) 土　坑

調査地内より32基の土坑を検出した（第3表)。このうち住居址外より検出した土坑はいずれも、切り合い関係、形態、土層から縄文時代のものと思われる。また、これらの土坑からは遺物の出土はほとんどみられないが、土坑27より深鉢型土器（図102－1・2）が出土している。

この土坑27は35号住居址と37号住居址の間に位置しており、周辺にピット状の掘りくぼみがみられることから、住居址のあった可能性がある。



第102図　土坑27　出土遺物実測図

第２節　弥生時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居址

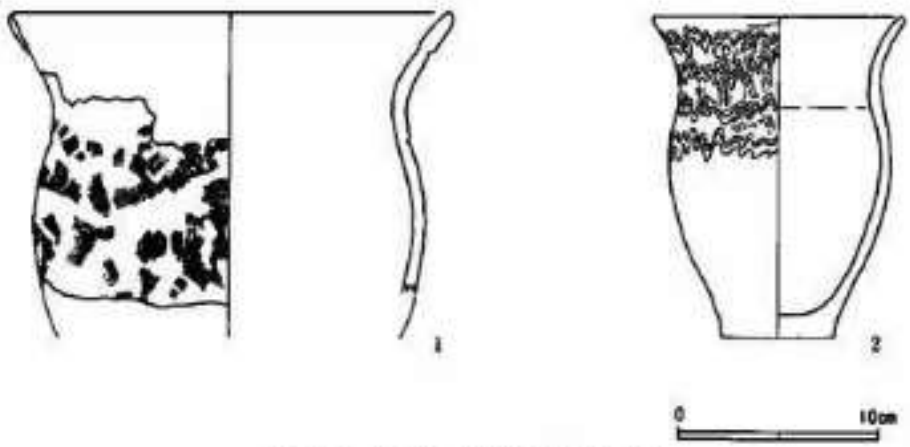
４号住居址（第104図）

A地区で検出した。３号周溝墓、９・10号住居址に北壁から北東部隅を破壊されている。また、南壁と床面の一部を後世の撹乱により破壊されている。長軸5.9m、短軸5.2mの不整隅丸方形を呈する。主軸はN－85°－Wを示す。壁残高は27cm～６cmである。周溝は検出できなかった。

床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、全体的に締まりはたいへん良好である。主柱穴はP_1～P_3と思われ、P_4は位置的にみて主柱穴と関連のあることが考えられる。また、東壁に接するP_5・P_6は入口施設であることが考えられる。

炉址は炉石を有する土器埋設炉でP_1・P_3の間の中央より西壁側に位置し、長軸81cm、短軸48cmの不整方形に掘りくぼめた内部に甕型土器（図103－１）の下部を欠いたものを埋設している。

遺物は少なく、東壁付近の床直上より小型甕型土器（図103－２）が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。

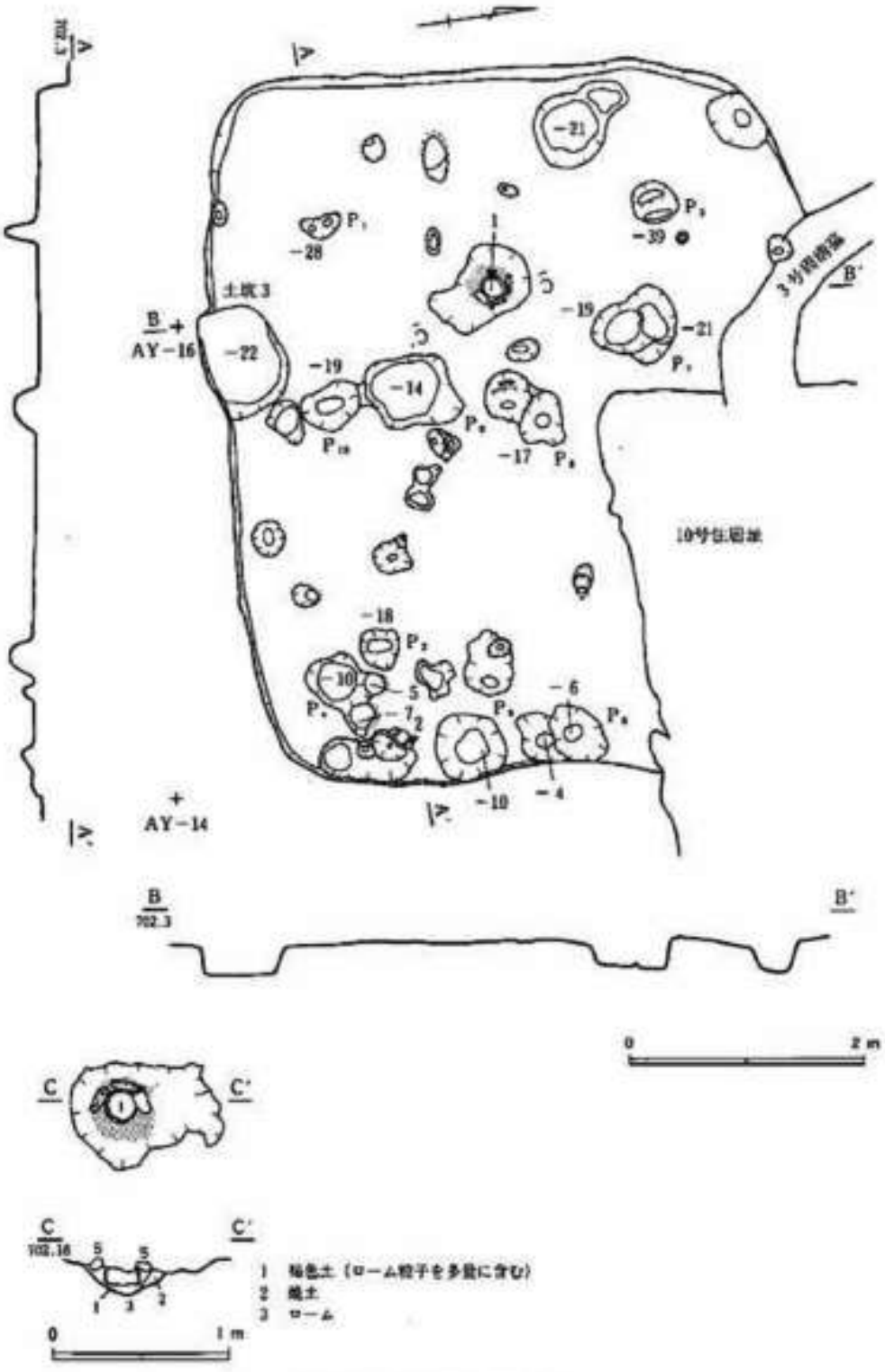


第103図　４号住居址出土遺物実測図

16号住居址（第106図）

B地区で検出した。35号住居址の南側壁の一部を破壊している。長軸5.6m、短軸5.1mの隅丸方形を呈する。主軸はN－17°－Wを示す。壁残高は43cm～33cmを測る。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩きしめられており、締まりは良好であるが住居址全域の壁下部分には貼り床は認められなかった。

ピットは９基検出した。主柱穴はP_1～P_4と思われ、P_3・P_4の形状から割り材を使用した柱であったことが考えられる。主柱穴と思われるピットのそれぞれの東西軸の間には浅いピット状のくぼみがあり、間仕切りであることが考えられる。また、東壁下に位置するP_5・P_6は入口施設で

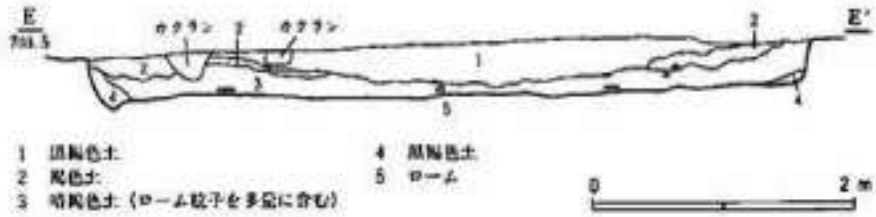


第104図　4号住居址実測図

あることが考えられる。

炉址は長軸42cm、短軸33cmの不整楕円形で、深さ7cmに掘りくぼめた地床炉である。炉の周囲及び内部には焼土がわずかにみられる。

遺物は少なく、床面より甕型土器の底部（図107－1・2）、北壁付近の覆土中層より紡垂車（図107－3）、覆土中層より石斧（図107－4～7）が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。



第105図　16号住居址土層断面図

18号住居址（第108図）

B地区で検出した。長軸4.2m、短軸3.9mの隅丸方形を呈する。主軸はN－20°－Wを示す。壁残高は20cm～16cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ叩き締められている。おおむね締まりは良好であるが、住居全域の壁下は全体的に軟弱である。住居址西壁下の一部は、貼り床はみられない。ピットは4基検出した。これらが主柱穴であると思われる。いずれも深さが11cm～12cmと浅い。

炉址は土器埋設炉で、炉石を伴わないが、炉址周囲の床面にみられる石が部分的に火熱を受けていることから、炉石であることが考えられる。焼土は炉址の周囲及び埋設土器内部の覆土上面にわずかに認められる。

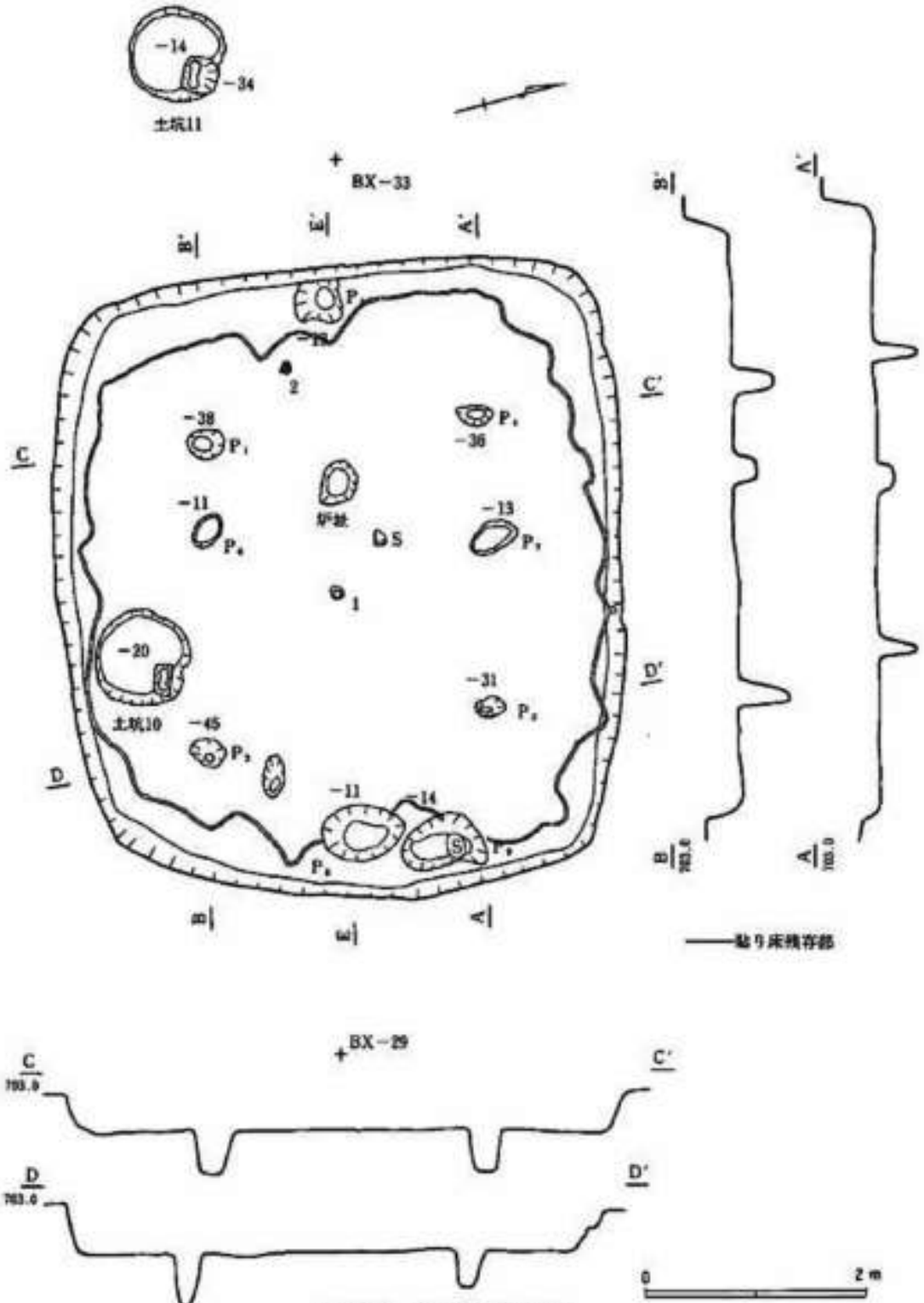
遺物はP_3付近の床面より甕型土器（図109－1・2・4）、壺型土器の口縁部（図109－5）、石器（図109－6）等が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。

19号住居址（第116図）

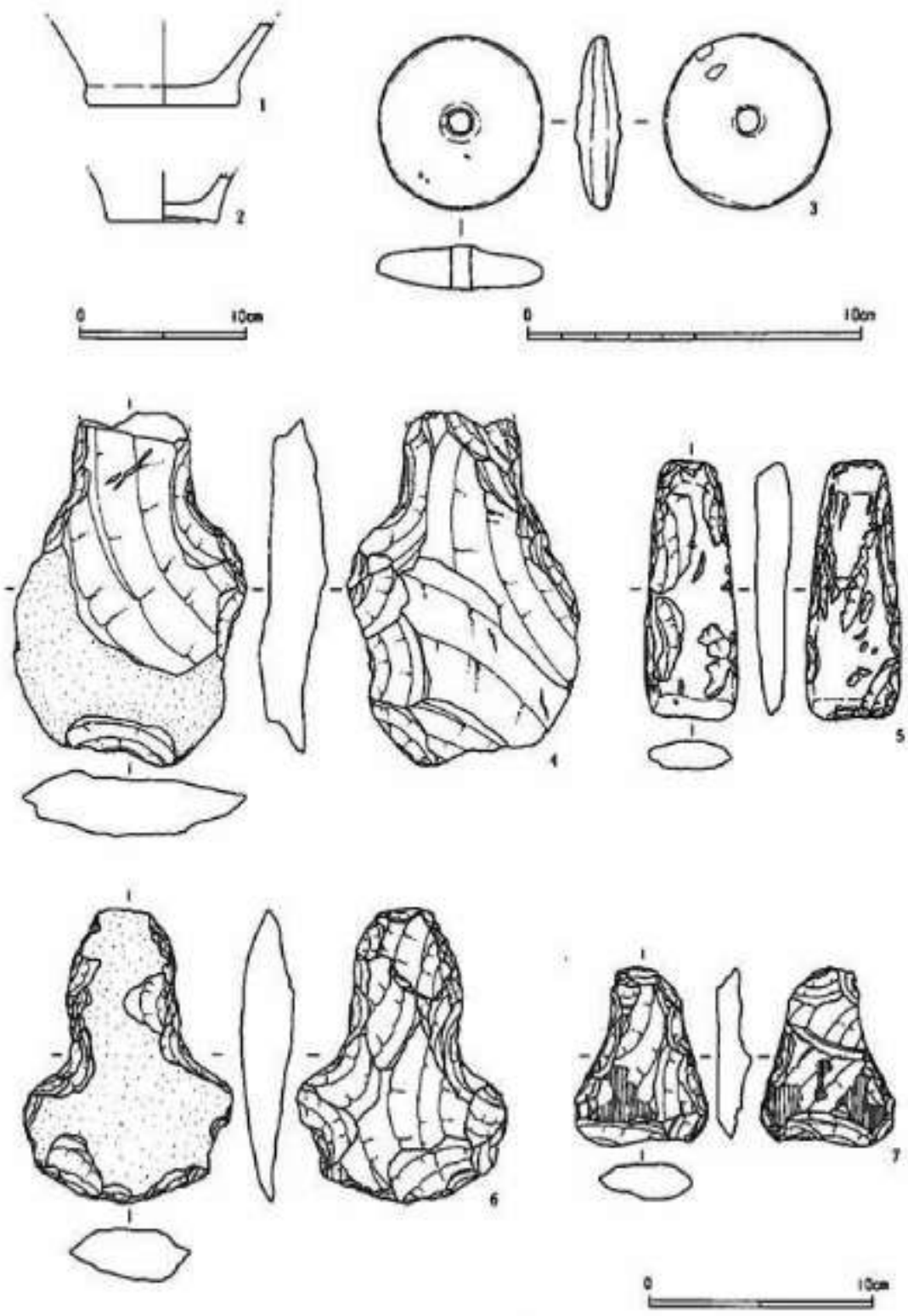
B区で検出した。長軸5.5m、短軸4.8mの隅丸方形を呈する。主軸はN－13°－Wを示す。壁残高は57cm～21cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的に良好であるが、東壁周辺の一部には貼り床はみられない。周溝は西壁下、南壁下、北壁下に部分的に掘り込まれている。東壁下は検出できなかった。

ピットは4基検出した。主柱穴はP_1－P_4であると思われる。主柱穴のそれぞれの形状から割り材を使用した柱であったことが考えられる。

炉は土器埋設炉で、住居址中央より西壁側のP_1とP_4の間に位置している。炉址の周囲および埋設土器内部に堆積している土層上面に焼土がみられる。

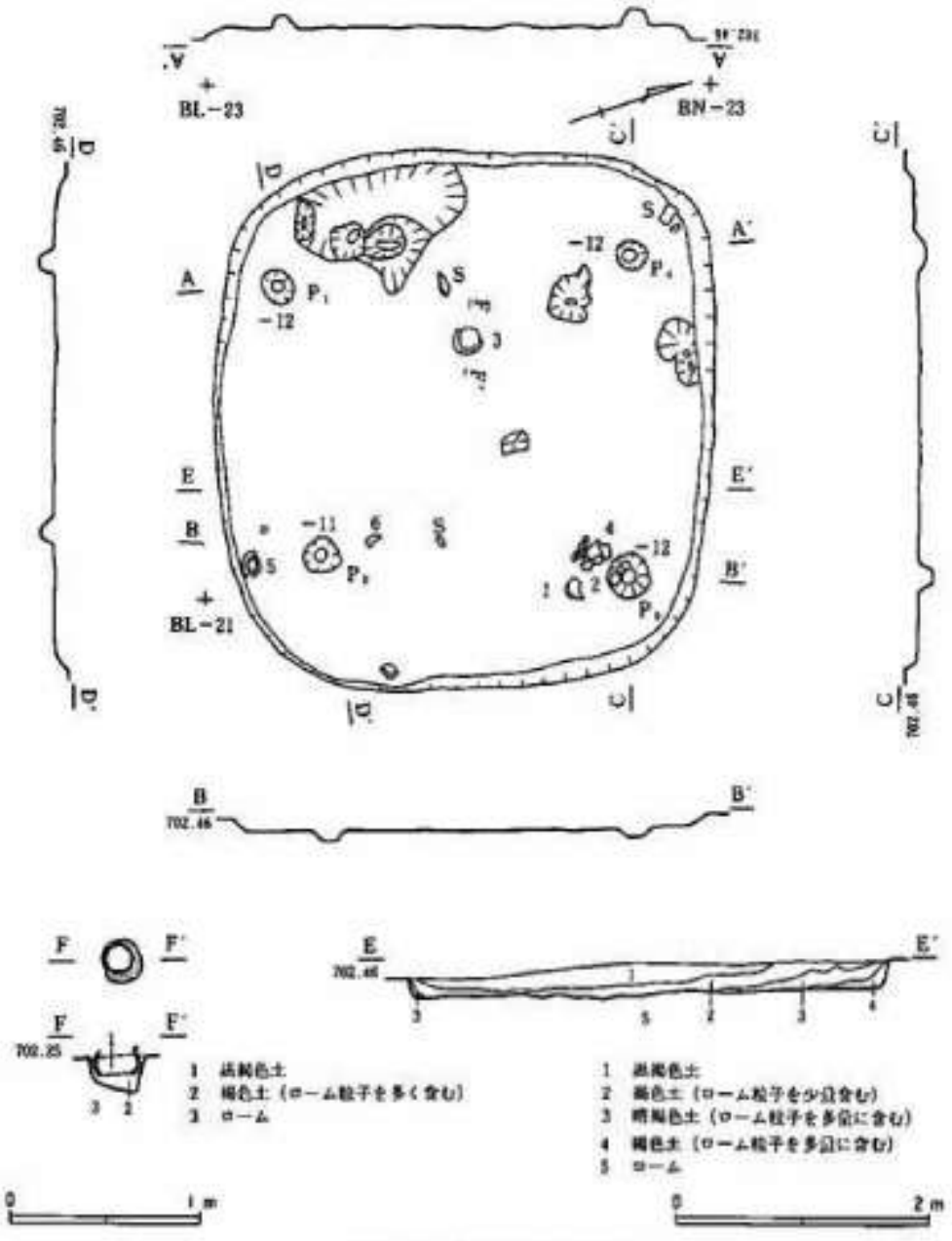


第106図　16号住居址実測図

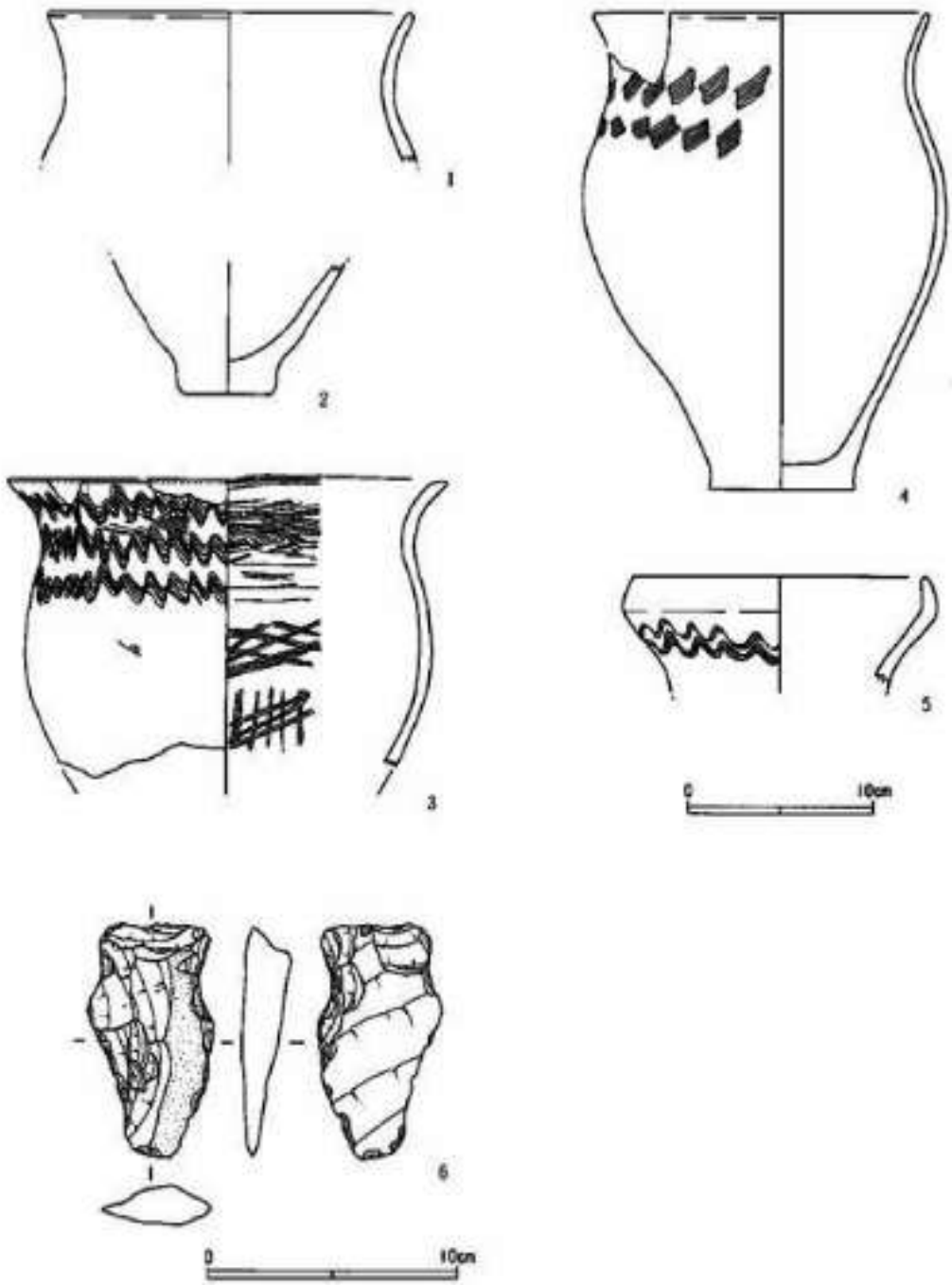


第107図　16号住居址出土遺物実測図

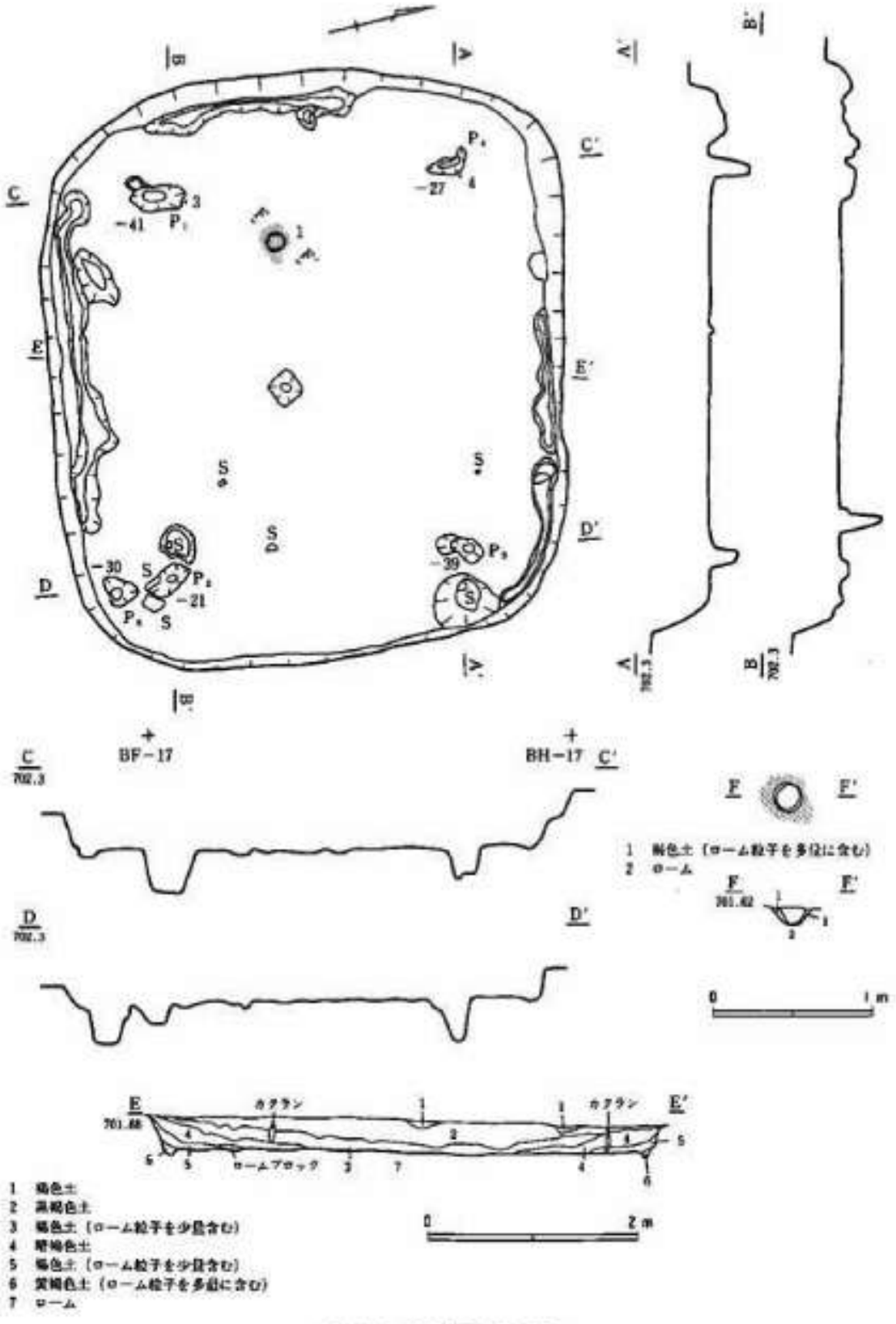
遺物は少なく、P_1とP_4付近の床面より磨製石鏃（図111－3・4）、また本址に伴うものか判然としないが覆土中層より鉄製品（図111－2）が出土している。本住居址の時期は遺物等から、弥生時代後期であると思われる。



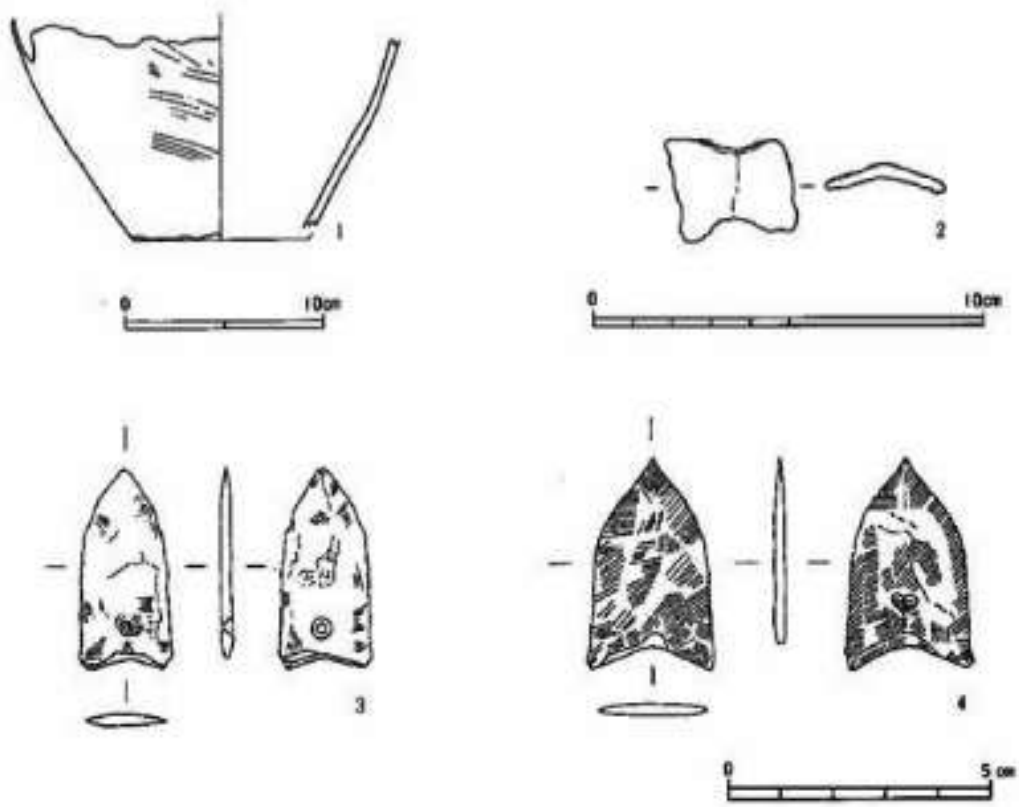
第108図　18号住居址実測図



第109図　18号住居址出土遺物実測図



第110図　19号住居址実測図



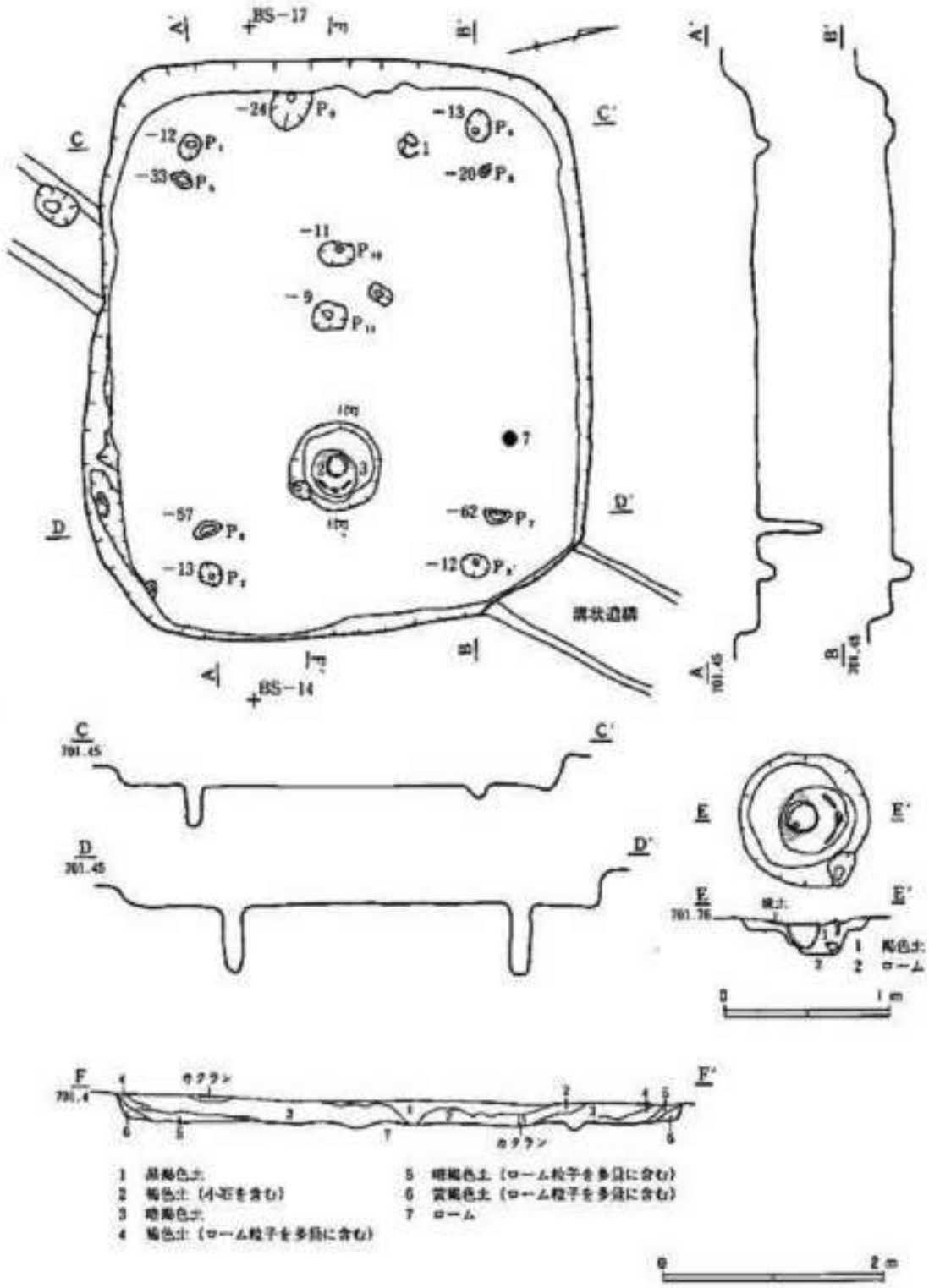
第111図　19号住居址出土遺物実測図

23号住居址（第112図）

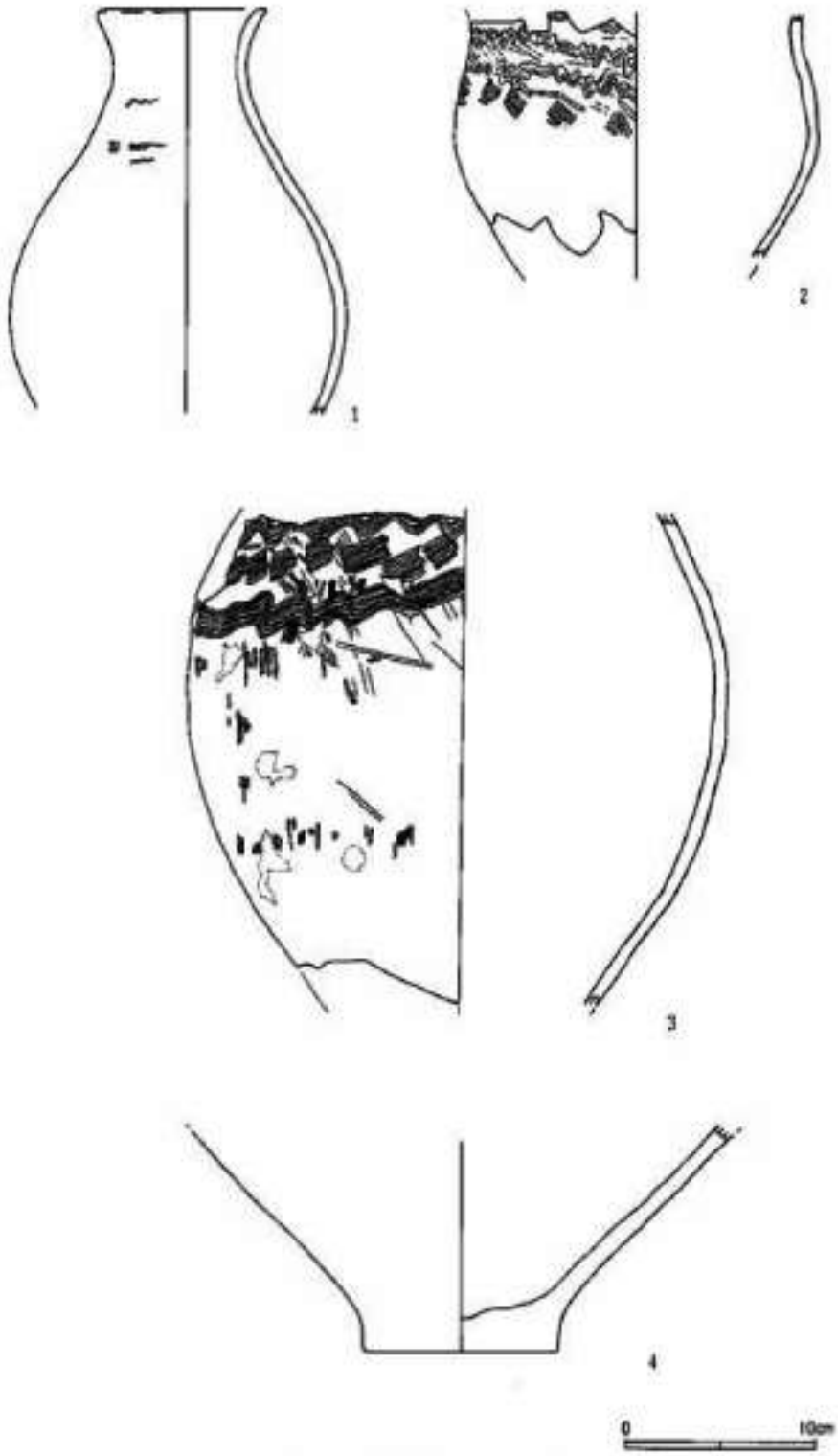
B地区で検出した。溝状遺構に南壁及び北東側隅の壁の一部を破壊されている。長軸5.2m、短軸4.6mであり、隅丸方形を呈する。主軸はN－15°－Wを示す。壁残高は27cm～16cmである。周溝は検出できなかった。床面はローム層まで掘り込まれ、堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは11基検出した。位置的にみて主柱穴には新旧関係があると思われ、新しい主柱穴はP_1～P_4、旧主柱穴はP_5～P_8であると思われる。ピット、炉址の状態から本址は拡張されたことが考えられる。また、南壁と北壁の間の中心と炉址を結ぶ軸線上に深さ11cm～12cmに掘りくぼめたピット状の部分があり、間仕切りであることが考えられる。

炉址は土器埋設炉で、住居址中央より西壁側のP_1とP_4の間に位置している。炉址は長軸85cm、短軸80cmの不整円形に掘りくぼめた中に甕型土器を2個に埋設している。埋設土器の周囲及び土層断面に焼土がみられる。炉址の掘り方が2段になっていることから、旧炉址を再度利用し再構築されたことが考えられる。

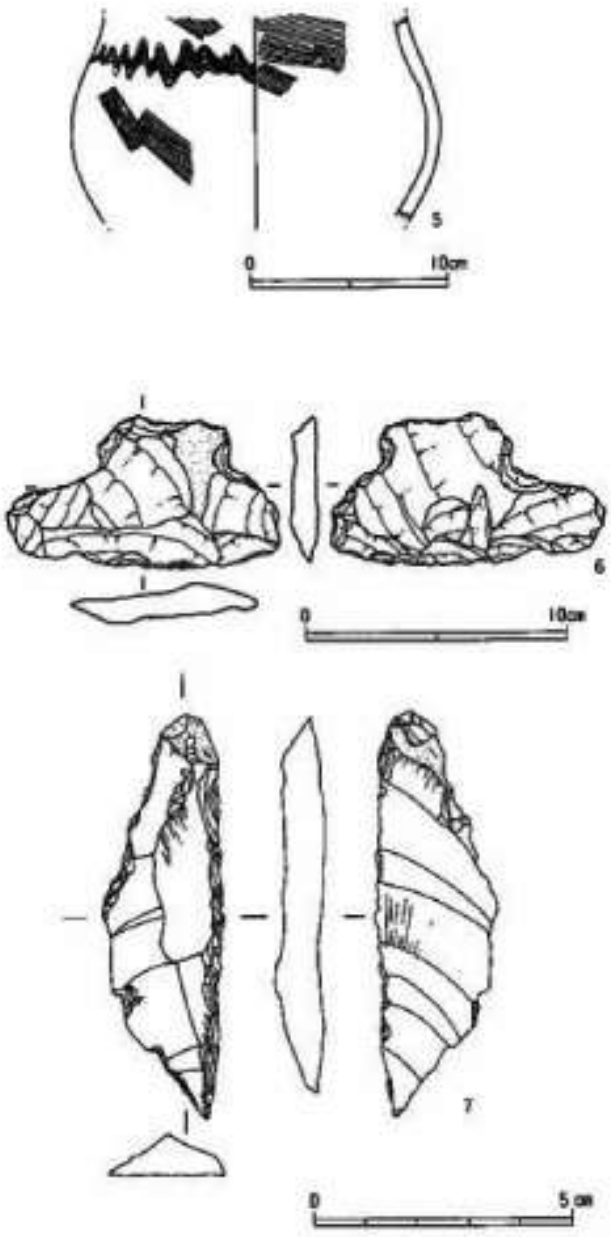
遺物は床面より壺型土器（図113－1）、覆土中層より壺型土器（図113－4）、甕型土器（図114－5）、石匙（図114－6）が出土している。床面直上より出土した黒曜石の異形石器（図114－7）は本住居址に伴うものか判然としない。本住居址の時期は遺物等から弥生時代後期であると思われる。



第112図　23号住居址実測図



第113図　23号住居址出土遺物実測図①



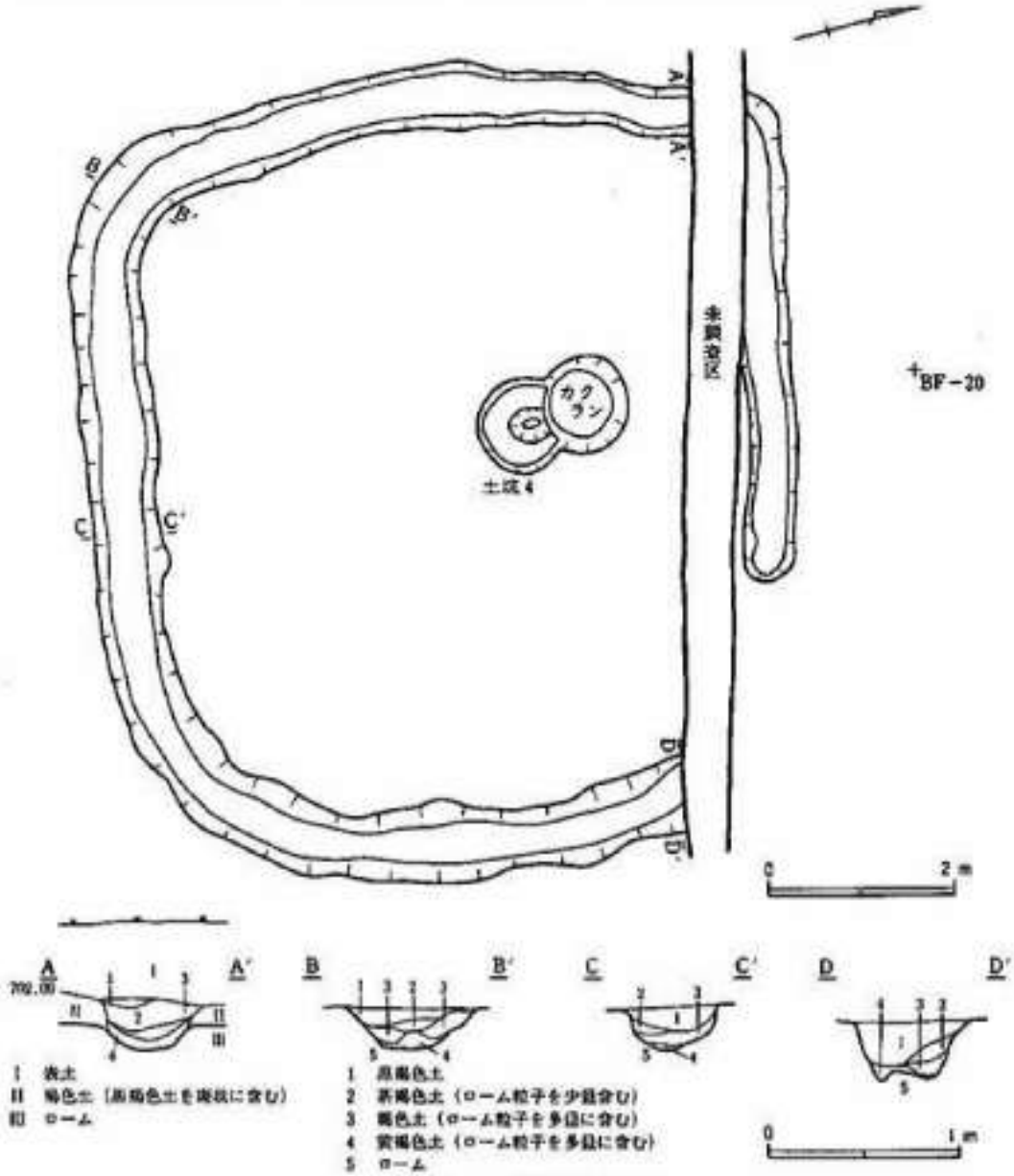
第114図　23号住居址出土遺物実測図②

(2)周溝墓

1号周溝墓（第115図）

A地区及びB地区で検出した。一部、調査区外に入る。プランは長軸8.7m、短軸7.5mの不整方形に溝をめぐらせている。主軸はN－78°－Eを示す。周溝の幅は76cm～52cm、深さは32cm～30cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は平坦でなく全体的に凹凸がみられる。土橋は北東側にあるものと思われる。主体部は検出できなかった。遺物は周溝東側の覆土中層より弥生土器の破片が出土している。

本址の時期は遺物が少なく判然としないが、弥生時代後期になると思われる。



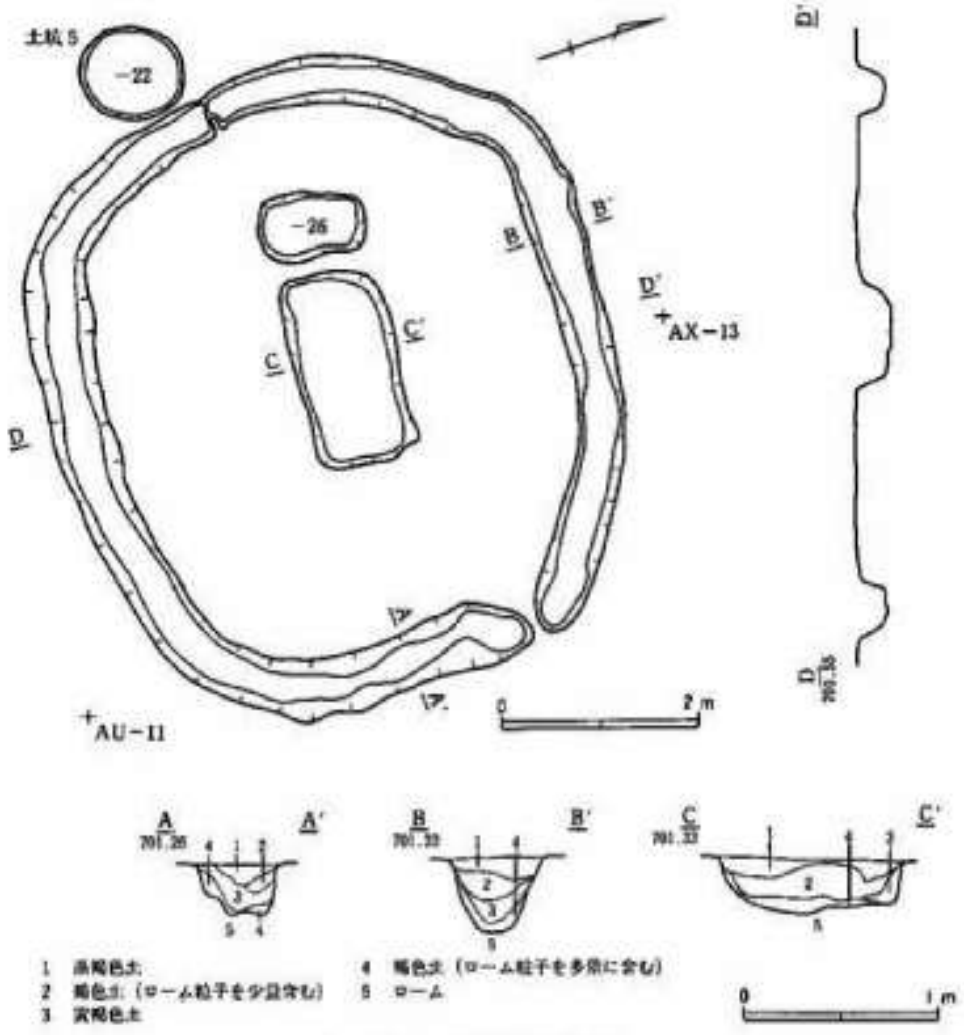
第115図　1号周溝墓実測図

2号周溝墓（第116図）

A地区で検出した。プランは長軸6.58m、短軸5.86mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN－88°－Wを示す。周溝の幅は68cm～38cm、深さは38cm～32cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は平坦でなく、全体的に凹凸がみられる。土橋は北東側にみられ、幅12cmである。この土橋部分については検出時に掘り過ぎてしまったため、正確なことは判然としない。

主体部はほぼ中央にあり、長軸2.0m、短軸1.08m、深さ35cmの隅丸方形を呈する。この主体部の西側に長軸110cm、短軸72cm、深さ26cmの不整方形を呈する掘り込みがみられるが、本址に伴うものかは判然としない。遺物は周溝及び主体部内には認められなかった。

本址の時期は遺物が認められず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。



第116図　2号周溝墓実測図

3号周溝墓（第117図）

A地区及びB地区より検出した。一部調査区外にはいる。9号住居址に周溝西側と10号住居址に周溝南側壁をそれぞれ破壊されている。プランは長軸9.8m、短軸7.5mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN－87°－Wを示す。周溝の幅は104cm～24cm、深さは78cm～36cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は全体的に平坦な状態であるが、部分的に凹凸がみられる。周溝北東の一部は4号周溝墓の南西側の周溝に接している。土橋は北東側にみられる。主体部は検出できず、遺物も認められなかった。

本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

4号周溝墓（第118図）

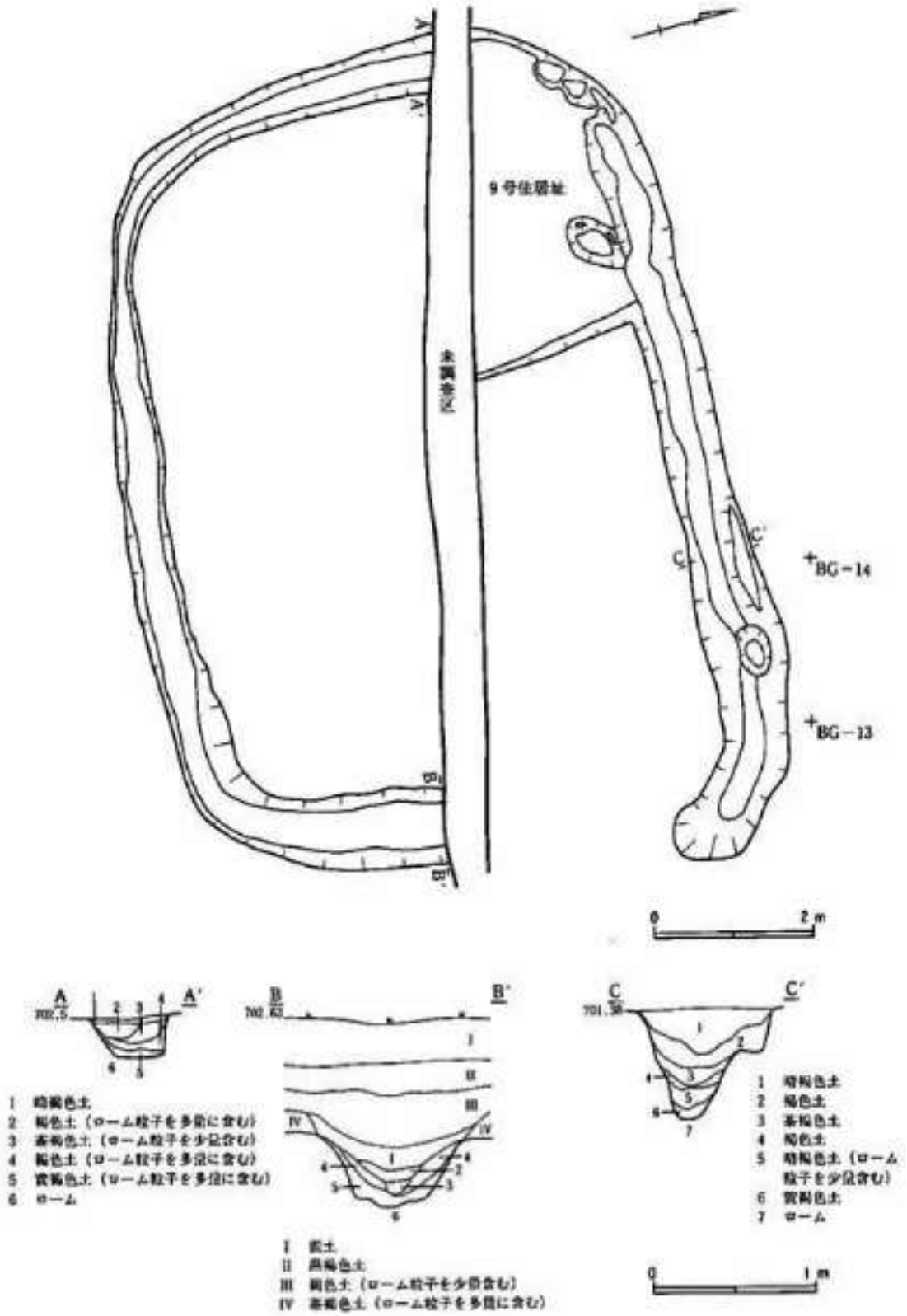
B地区で検出した。およそ2分の1程は調査区外になるため全容は不明であるが、隅丸方形に溝をめぐらせているものと思われる。主軸はN－85°－Wを示すものと思われる。検出した周溝の幅は100cm～60cm、深さは54cm～29cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部はほぼ平坦である。周溝南西の一部は3号周溝墓の北東側の周溝と接している。土橋は南側にみられ、幅65cmである。主体部は長軸2.2m、短軸1.5m、深さ26cmの不整隅丸方形を呈する。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

5号周溝墓（第119図）

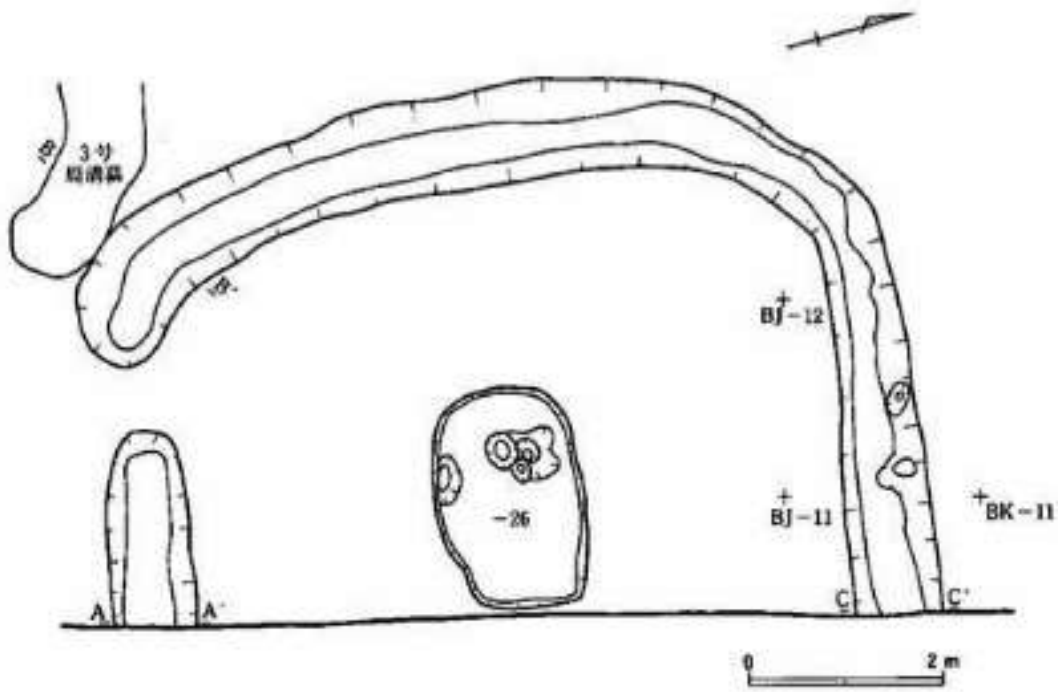
B地区で検出した。遺構の大部分は調査区外にはいるため全容は不明であるが、隅丸方形に溝をめぐらせているものと思われる。主軸はN－78°－Wを示すと思われる。検出した周溝の幅は156cm～80cm、深さは43cm～21cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は南側の周溝を除き、凹凸がみられる。土橋は南西側と北西側にみられ、南西側で幅150cm、北西側で幅84cmである。主体部は調査区外になると思われる。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

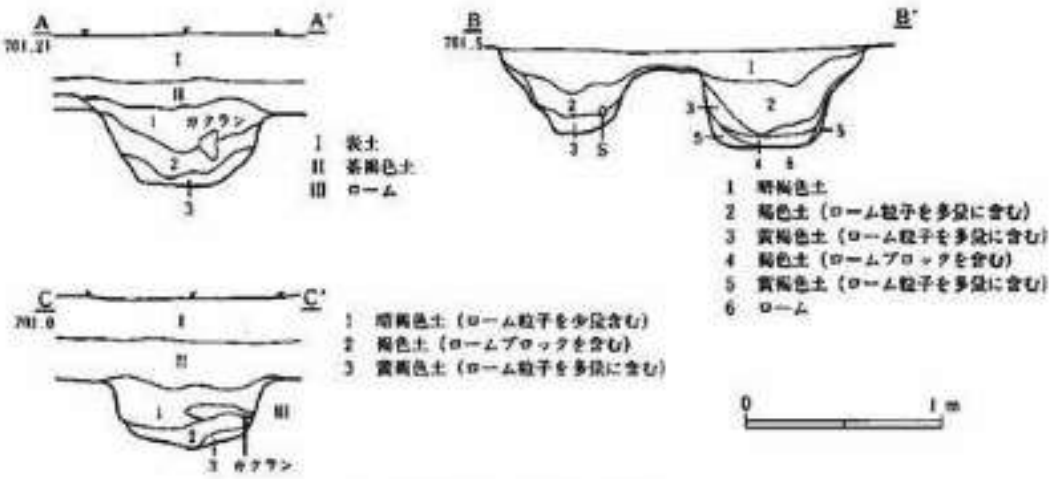
6号周溝墓（第120図）

B地区で検出した。遺構の大部分は調査区外になるため全容は不明である。検出した周溝の幅は128cm～70cm、深さは40cm～36cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝底部は全体的に平坦になっている。土橋及び主体部は検出できなかった。遺物は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

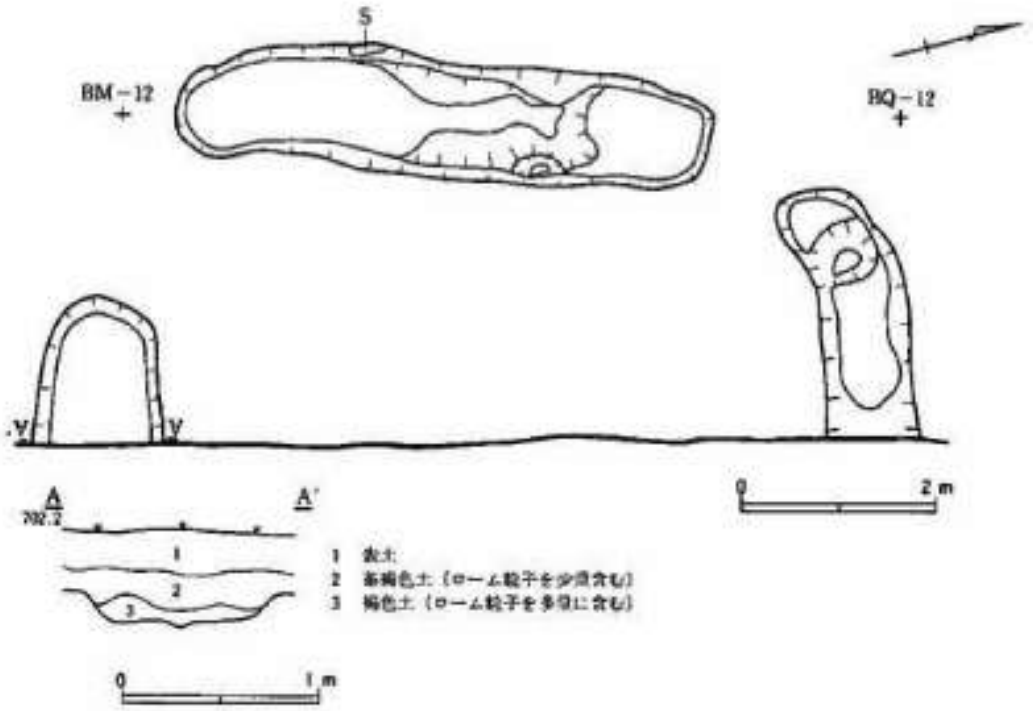


第117図　3号炭窯墓実測図

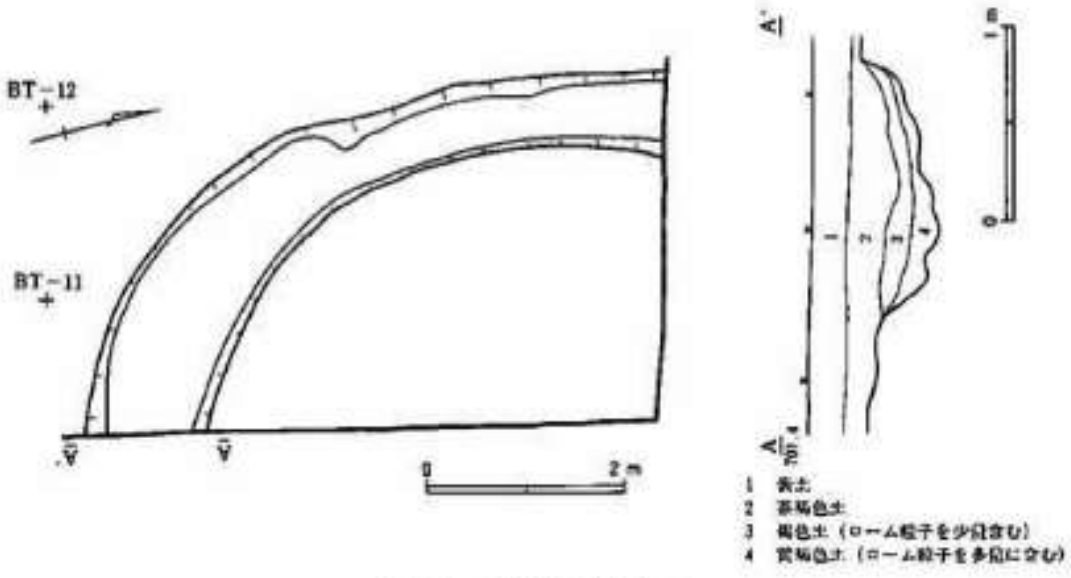




第118図　4号周溝墓実測図



第119図　5号周溝墓実測図

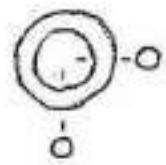


第120図　6号周溝墓実測図

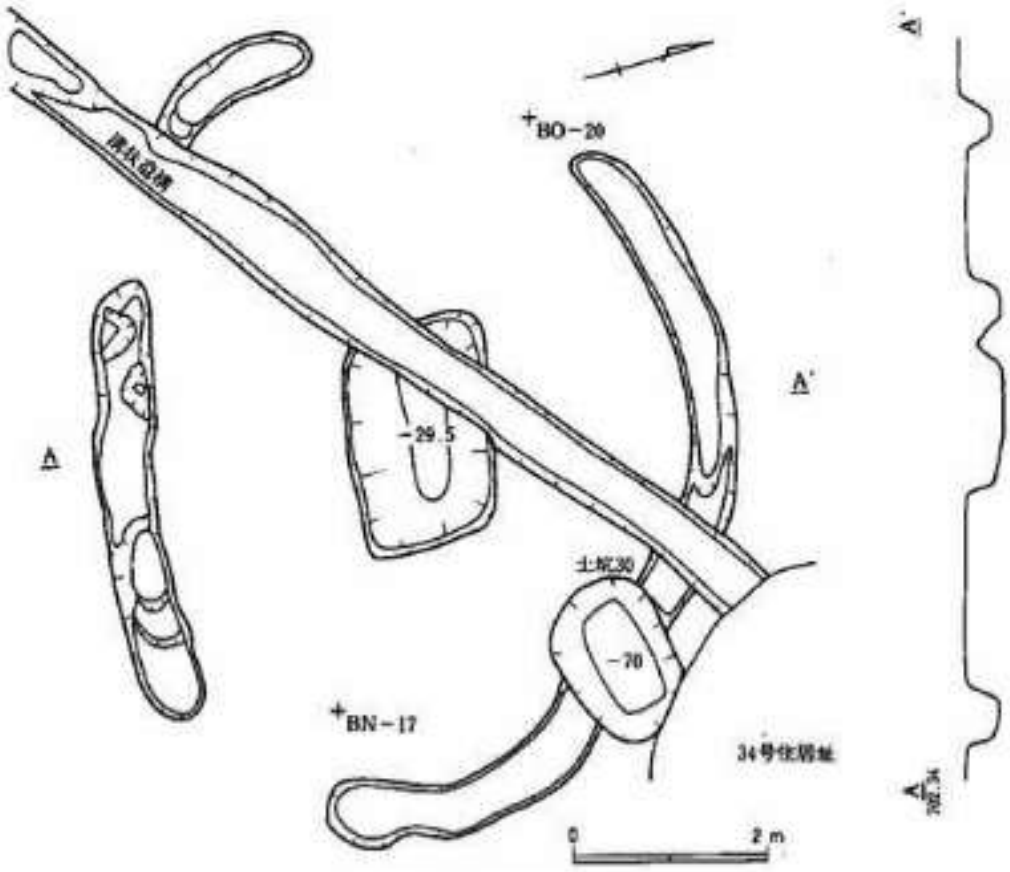
7号周溝墓（第122図）

B地区で検出した。北東側の溝が土坑30の壁を破壊し、北東側の溝及び主体部の北側隅が溝状遺構に破壊されている。プランは長軸8.5m、短軸6.6mの不整楕円形に溝をめぐらせている。西側部分と南西部分で周溝が部分的に途切れる。主軸はN－80°－Wを示す。周溝の幅は68cm－44cm、深さは24cm～12cmである。ローム層まで掘り込まれており周溝の底部はほぼ平坦だが、南側の周溝は凹凸がみられる。溝は西側で2箇所、南東側で1箇所途切れる部分があるが、土橋であるか判然としない。南東側隅の部分で幅1.62mである。

主体部はほぼ中央にあり、長軸2.28m、短軸1.48mの不整隅丸方形を呈する。深さは29.5cmである。遺物は周溝覆土上層より鉄環(図121－1)が出土しているが、本址に伴うものであるか判然としない。主体部からの遺物の出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。



第121図　7号周溝墓出土遺物実測図

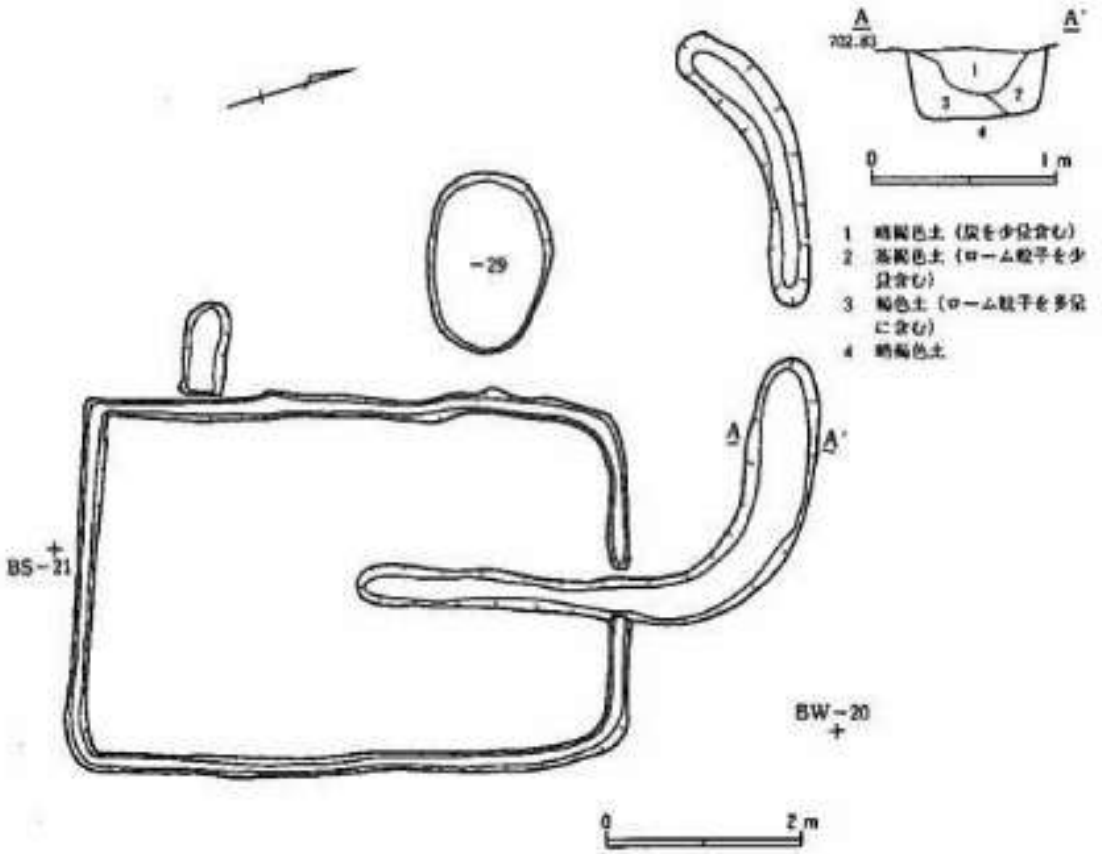


第122図　7号周溝墓実測図

8号周溝墓（第123図）

B地区で検出した。円溝址の北側の溝の一部を破壊している。また、配石遺構の一部を破壊していると思われる。検出できた周溝は北側と東側のみであり、南側及び西側では検出できなかったため全容は判然としない。主軸はN－65°－Wを示すと思われる。周溝の幅は72cm～32cm、深さは32cm～22cmである。溝の底部は暗褐色土層まで掘り込まれており周溝の底部はほぼ平坦となっている。周溝の一部が検出できなかったことから、部分的に暗褐色土層まで掘り込まれなかったところがあることが考えられる。土壙は判然としない。

主体部はほぼ中央に位置すると思われ、長軸182m、短軸128mの不整隅丸方形を呈する。深さは26cmである。遺物は主体部及び周溝からの出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。



第123図　8号周溝墓・円溝址実測図

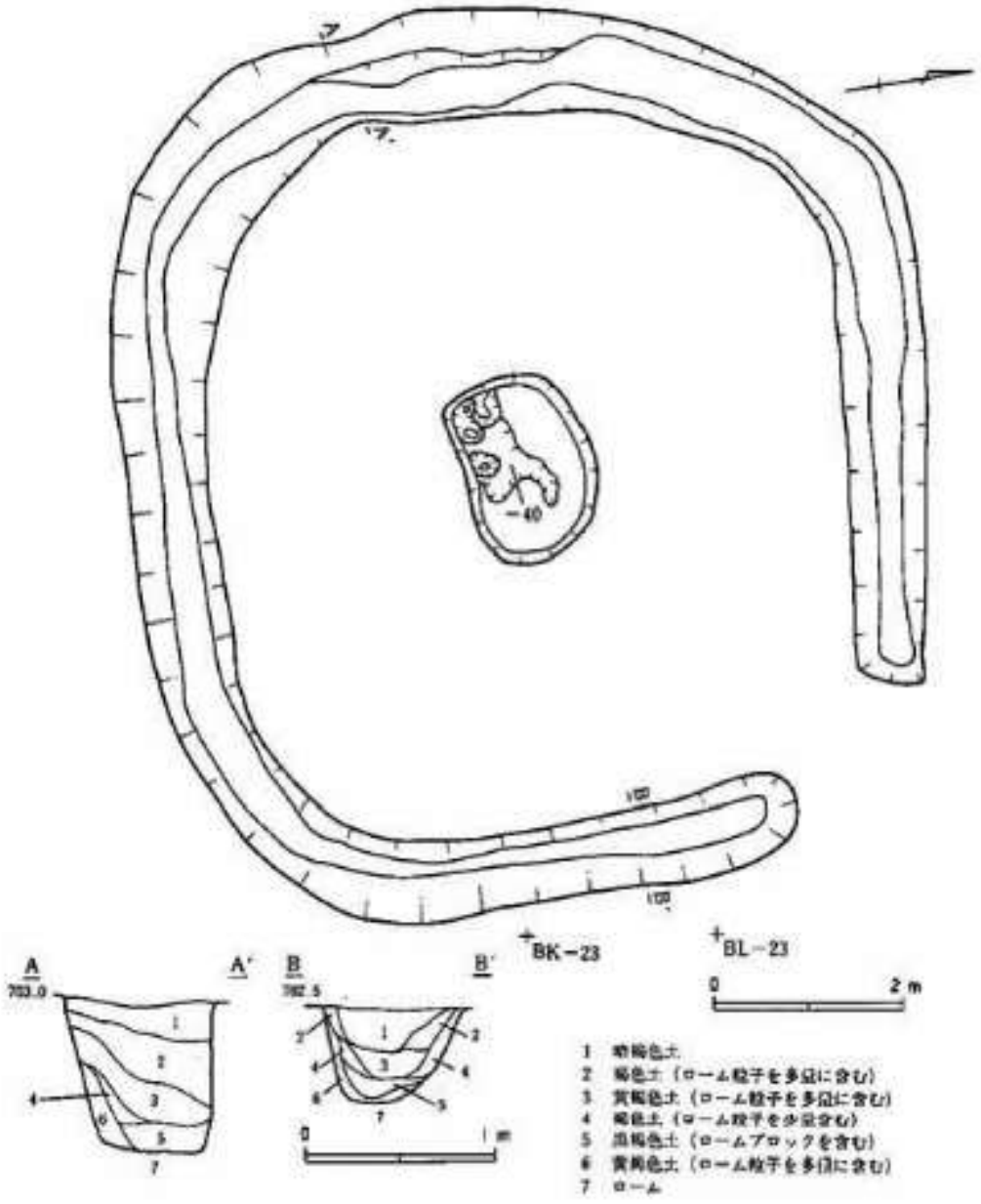
9号周溝墓（第124図）

B地区で検出した。プランは長軸9.3m、短軸8.5mの不整隅丸方形に溝をめぐらせている。主軸はN－89°－Wを示す。周溝の幅は128cm～72cm、深さ84cm～51cmである。ローム層まで掘り込まれ周溝底部は全体的にほぼ平坦となっている。土橋は北東側にみられ、幅は1.36mである。主体部はほぼ中央に位置し、長軸1.96m、短軸1.36mを測る不整隅丸方形を呈する。深さは40cmであり、底部には部分的に凹凸がみられる。

遺物は主体部及び周溝からの出土は認められなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、弥生時代後期になると思われる。

(3) 囲溝址（第123図）

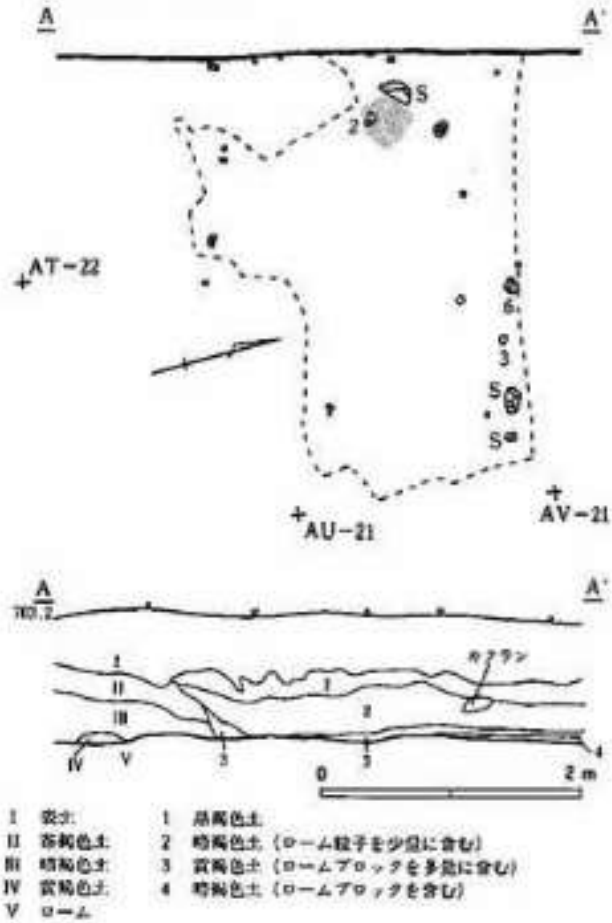
B地区で検出した。8号周溝墓に北側の溝の一部を破壊されている。長軸7.56m、短軸5.24mの隅丸方形に溝をめぐらせている。溝の幅は28cm～12cm、ローム層まで掘り込まれた溝の深さは17cm～13cmである。溝は北側の中央部分で一部途切れると思われる。溝で囲った内側及び、溝の外側においてピットは検出できなかった。また、遺物の出土もみられなかった。本址の時期は遺物がみられず判然としないが、8号周溝墓との切り合い関係から弥生時代後期になるものと思われる。



第124図　9号周溝墓実測図

第3節　奈良・平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居址



第125図　1号住居址実測図

1号住居址（第125図）

A地区で検出した。重機での表土掘削時に壁を掘り崩してしまったため、プランは不明である。床面は暗褐色土層まで掘り込まれており、ロームブロックを含んだ暗褐色土による貼り床となっている。この貼り床は部分的にしか検出できなかったが、全体的に締まりはあまり良くない。床面の一部にはわずかに焼土がみられる。ピット、カマドは確認できなかった。

遺物は土師器内黒坏(図126－2)、須恵器坏（図126－3)、小型短頸壷（126－6)、覆土下層より土師器内黒坏(図126－1)、灰釉陶器椀（図126－4)、長胴甕（図126－5）が出土している。

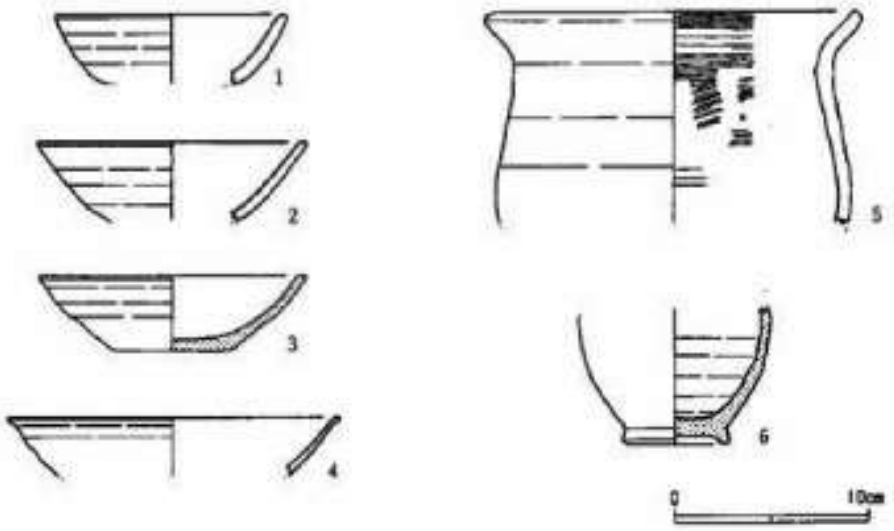
本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

2号住居址（第127図）

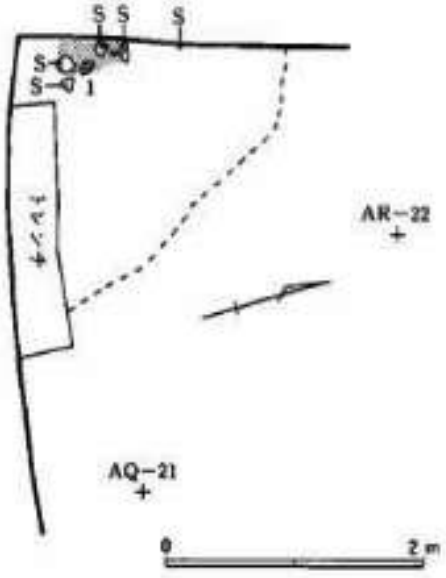
A区で検出した。住居址のほとんどは調査区外になると思われる。重機での表土掘削時に床面まで掘り込んでしまったため、プランは不明である。床面は暗褐色土層まで掘り込まれており、ロームブロックを含んだ暗褐色土による貼り床となっている。締まりは検出できた部分では堅く叩き締められており、締まりは良好である。また、床面の一部に焼土及び灰褐色粘質土がみられる。ピット、カマドは確認できなかった。

遺物は少なく、床面より土師器坏（図128－1)、覆土中層より土師器内黒坏（図128－2・3)、坏(図128－4）が出土している。

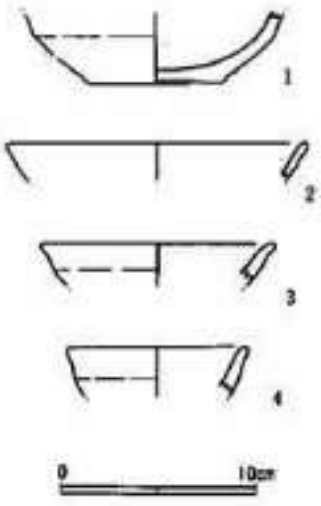
本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



第126図　1号住居址出土遺物実測図



第127図　2号住居址実測図



第128図　2号住居址出土遺物実測図

6号住居址（第133図）

A区で検出した。覆土及び床面直上において多量の炭化物と焼土がみられたため、火災により廃屋となり、埋没した住居址と思われる。長軸5.5m、短軸5.2mの隅丸方形を呈する。

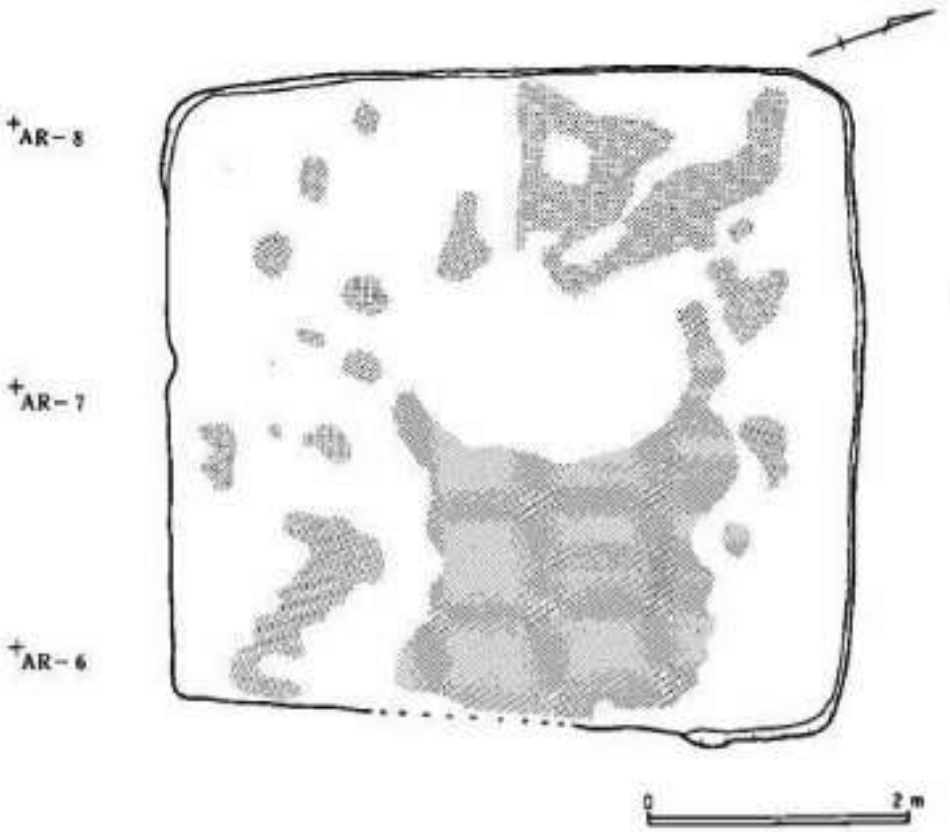
主軸はN－72°－Wを示す。壁残高は33cm～5cmである。周溝は認められなかった。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的に良好である。住居址南東部の一部の床面は撹乱により破壊されている。

ピットは5基検出し、そのうちP_1－P_3が主柱穴と思われる。南東部に主柱穴の存在が想定されたが、検出できなかった。西壁中央部のカマドのほぼ対角線上に長軸129cm、短軸63cm、深さ14cmに掘り込まれた方形状のくぼみがあり、入口施設であることが考えられる。この方形状のくぼみ部分にはまとまった焼土と灰褐色粘質土がみられる。

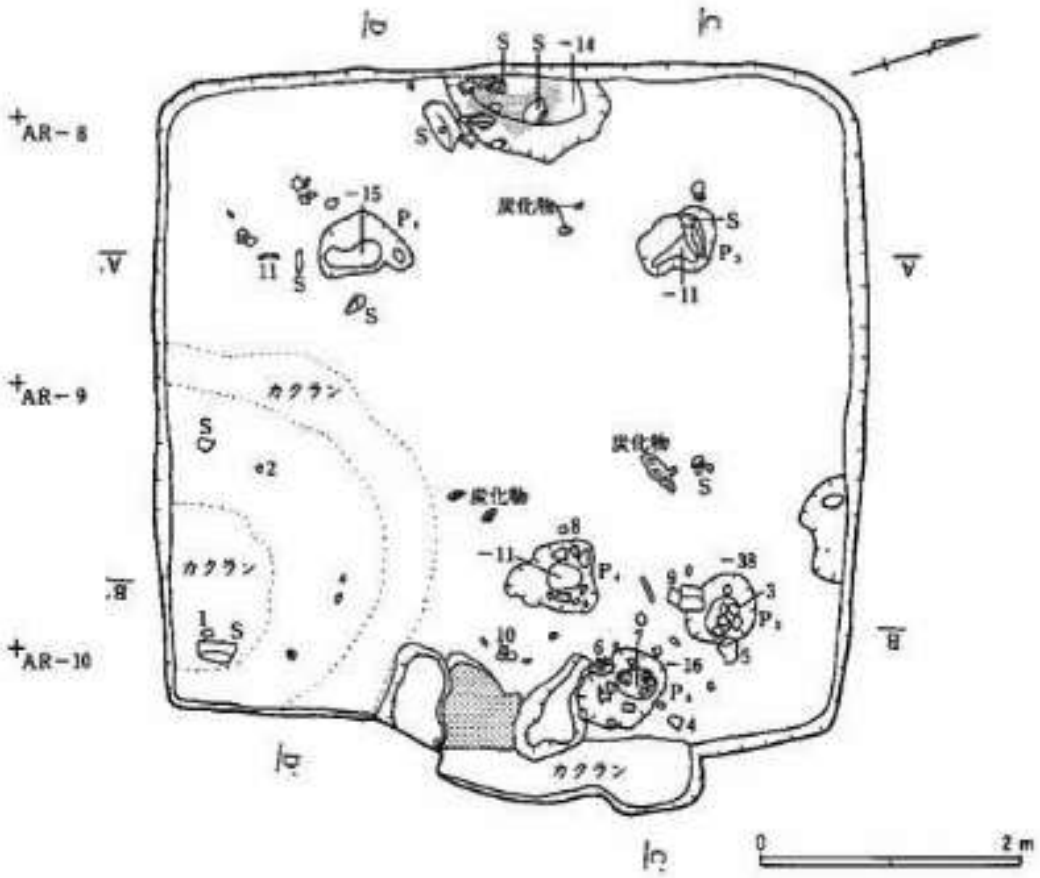
カマドは東壁のほぼ中央に構築されているが、撹乱により掘削されているためカマド袖の一部と床面を除きほとんど残っていない。カマド床面の焼土は厚く、カマドの使用が長期間であったことが考えられる。

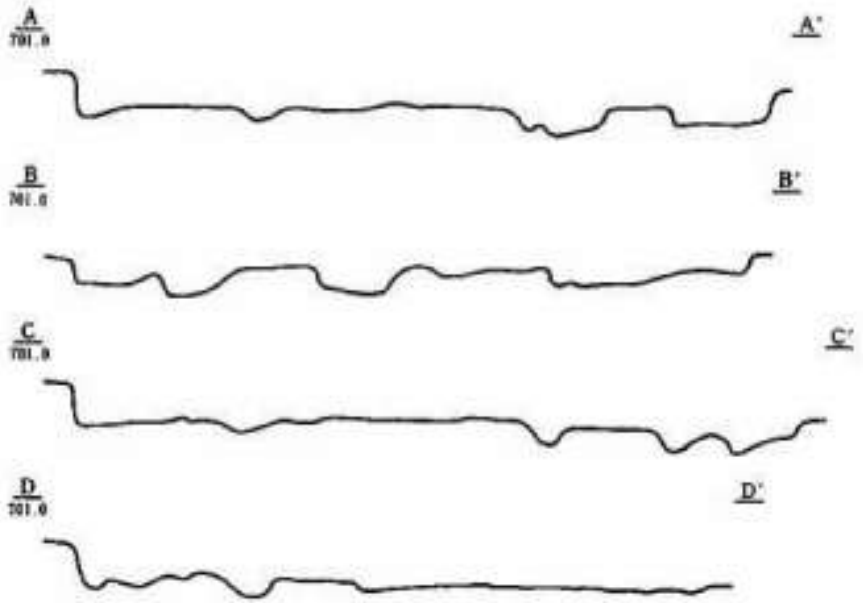
遺物は土師器長胴甕（図131－8～10）、小型甕（図131－4～7）、須恵器坏（図131－3）、坏蓋（図131－1・2）のほか、鉄器（図132－11）、鉄滓1個が床面及び床面直上より出土している。

本址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。

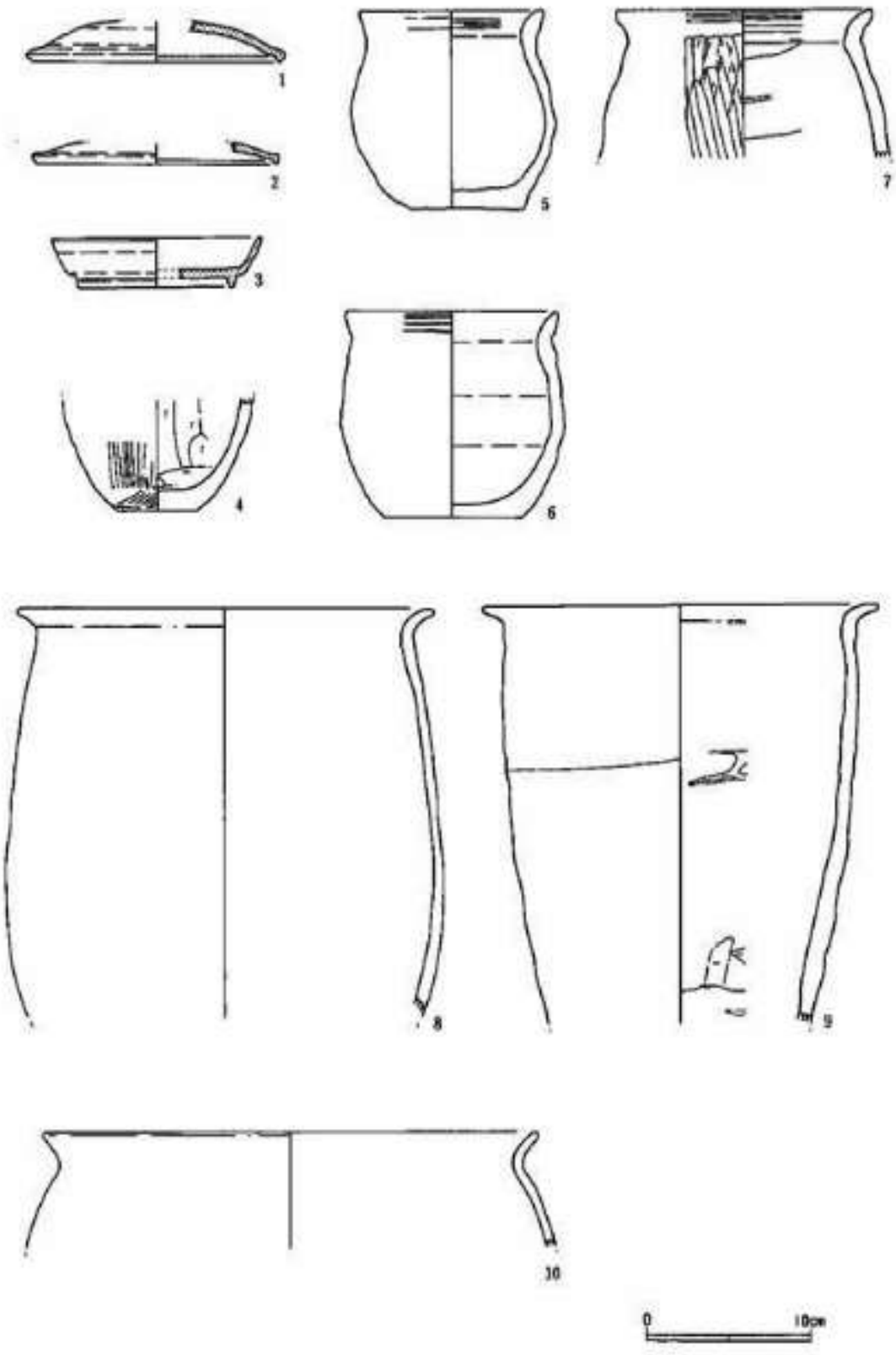


第129図　6号住居址焼土範囲図

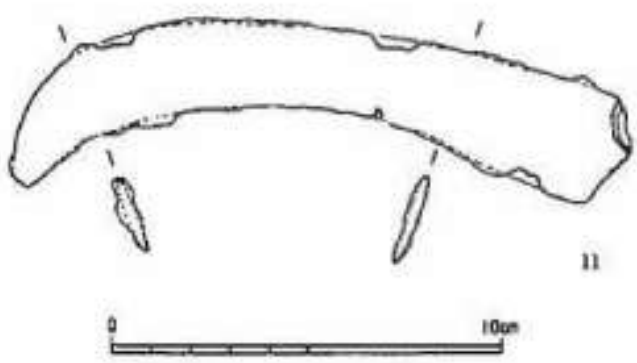




第130図　6号住居址実測図



第131図　6号住居址出土遺物実測図①

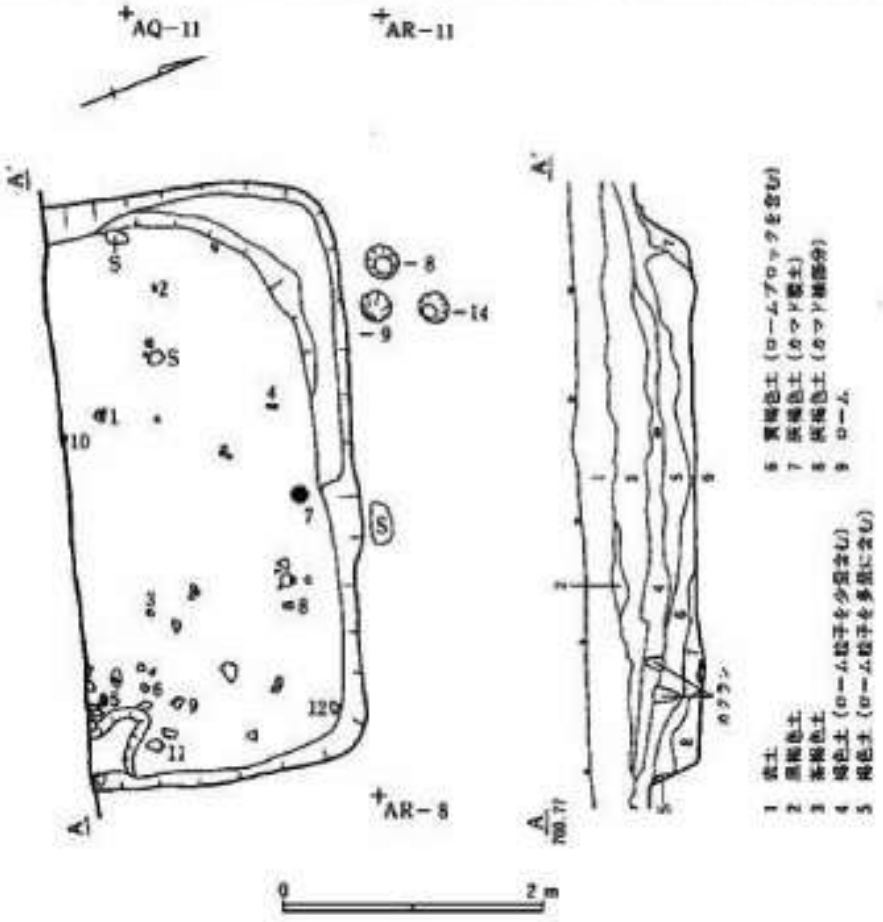


第132図　6号住居址出土遺物実測図②

8号住居址（第133図）

A地区で検出した。住居址の2分の1程は調査区外になるためプランは判然としないが、長軸4.5mの隅丸方形を呈していると思われる。主軸はN－69°－Wを示すと思われる。壁残高は44cm－36cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。周溝及びピットは認められなかった。住居址北西部分の床面より12cm程上に張り出し部分がみられる。この張り出し部分において貼り床はみられないが、他の住居址が重複している可能性がある。北壁の外側にピット状のくぼみがみられるが、本住居址に伴うものかは判然としない。

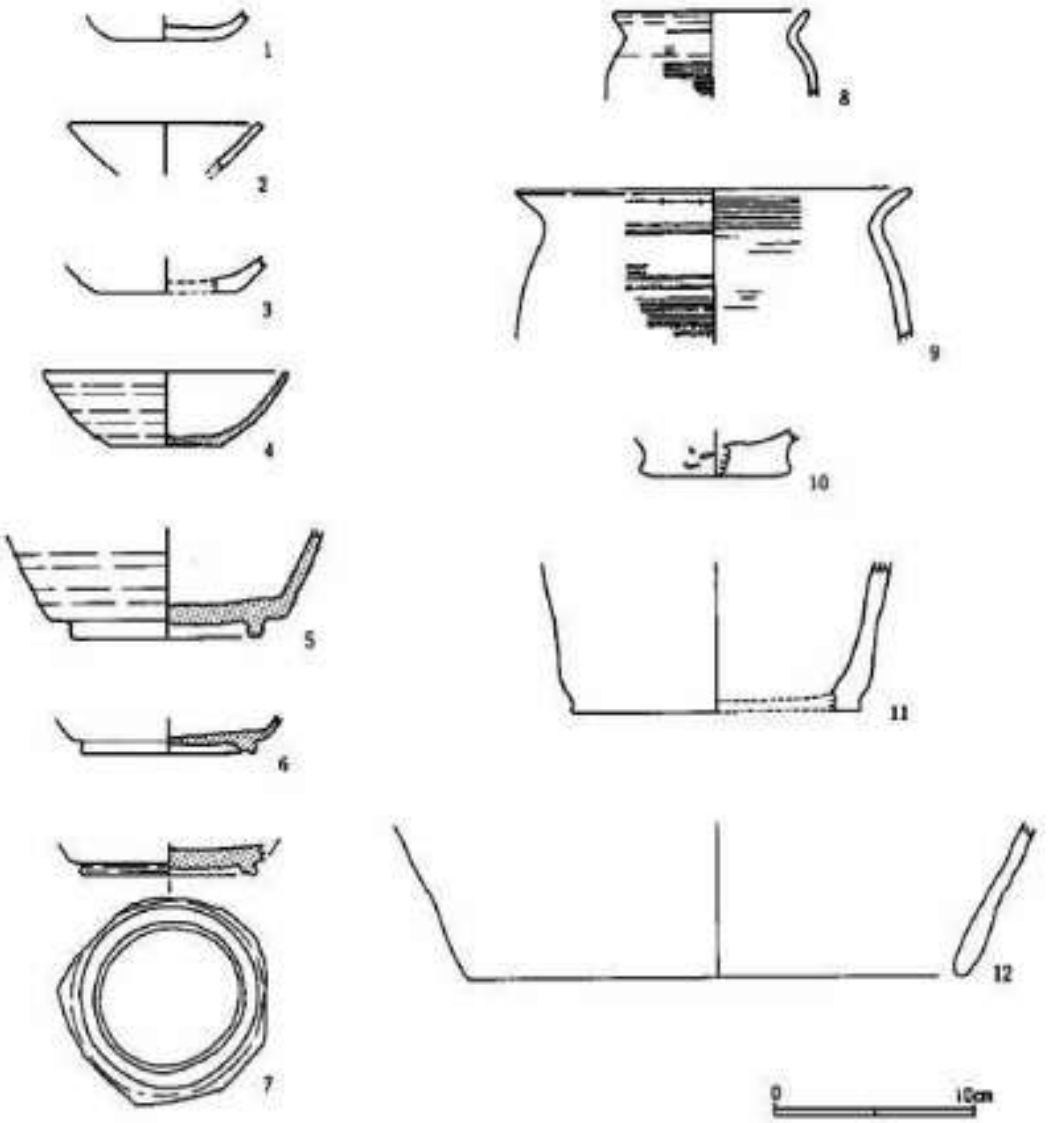
カマドは袖部分のみの検出で全容は不明である。カマド袖部分は灰褐色粘質土で構築されている。遺物は床面より土師器坏（図134－1）、内黒坏（図134－2・3）、長胴甕（図134－11・12）、小



第133図　8号住居址実測図

型甕（図134－8・9・12）、須恵器坏（図134－4－6）、転用硯（図134－7）などが、床面より出土しているが、遺物の多くはカマド付近に集中している。

本住居址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。



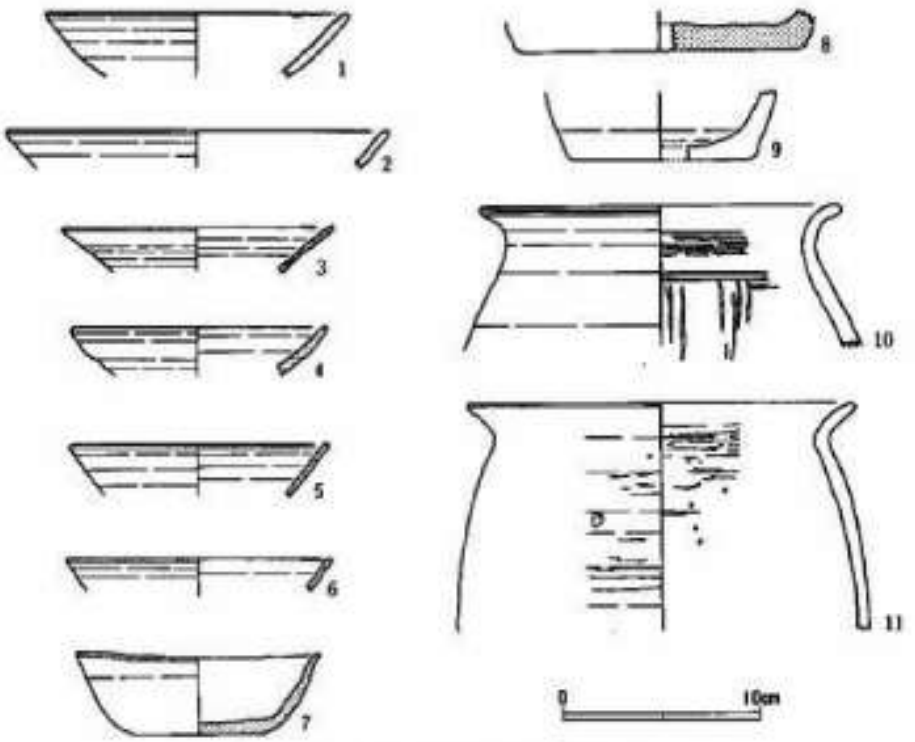
第134図　8号住居址出土遺物実測図

9号住居址（第136図）

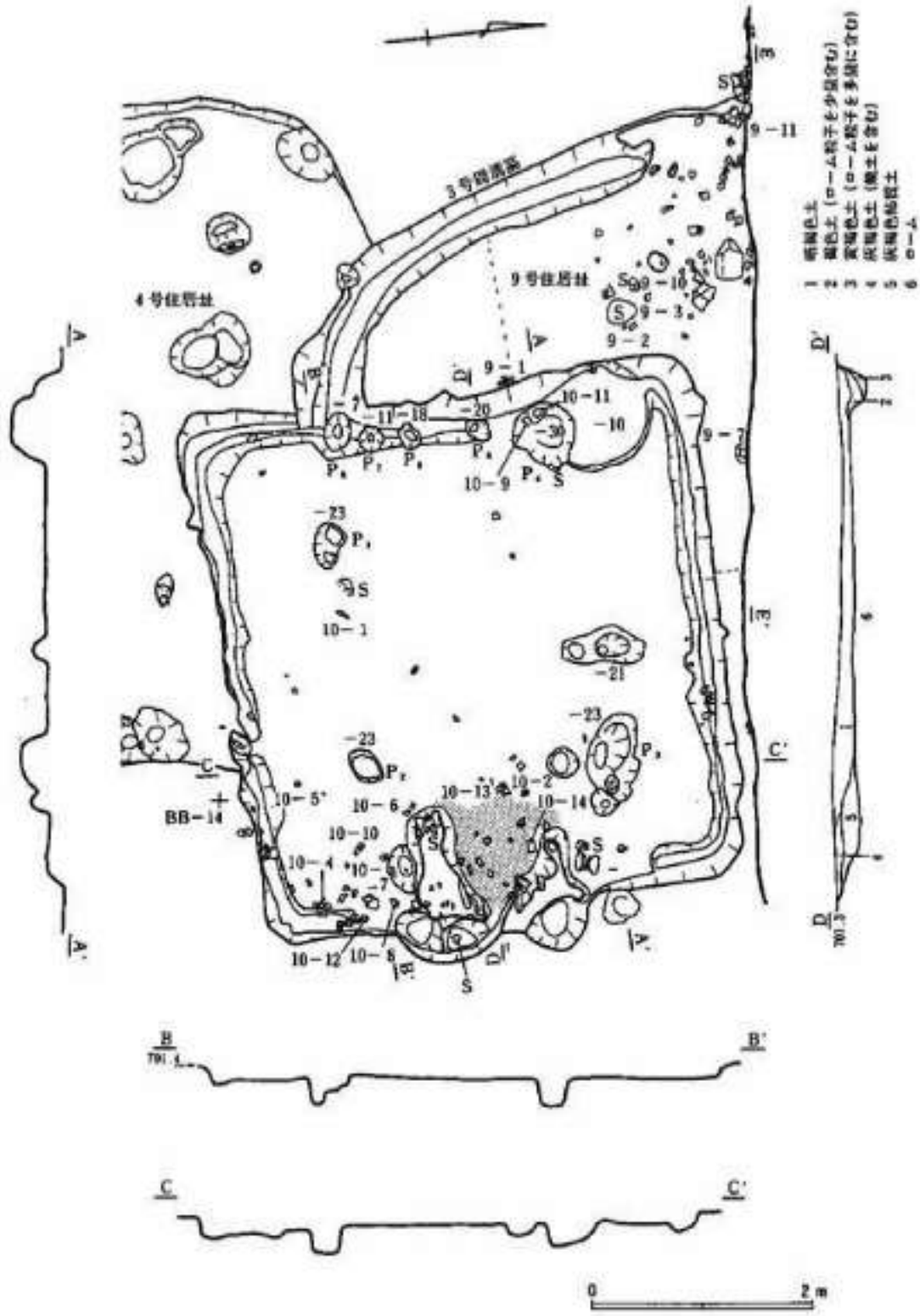
A地区とB地区にかけて検出した。10号住居址に東壁及び南壁を破壊され、3号周溝墓の北側の周溝を破壊している。住居址の西壁及び北壁と東壁の一部のみの検出であるためプランは判然としないが、不整隅丸方形を呈しているものと思われる。壁残高は西壁で22cm、東壁で1cmである。周溝は位置的にみて3号周溝墓の周溝の一部を再利用している可能性が考えられる。ピットは確認できなかった。カマドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドであるが、そのほとんどは調査区外になるため、全容は不明である。

出土遺物は覆土上層より鉄滓が1個、土師器内黒坏（図135－1・2）、長胴甕（図135－9－11）、須恵器壺破片（図135－8）、坏（図135－3・7）がカマド周辺の床面及び床面直上より出土している。

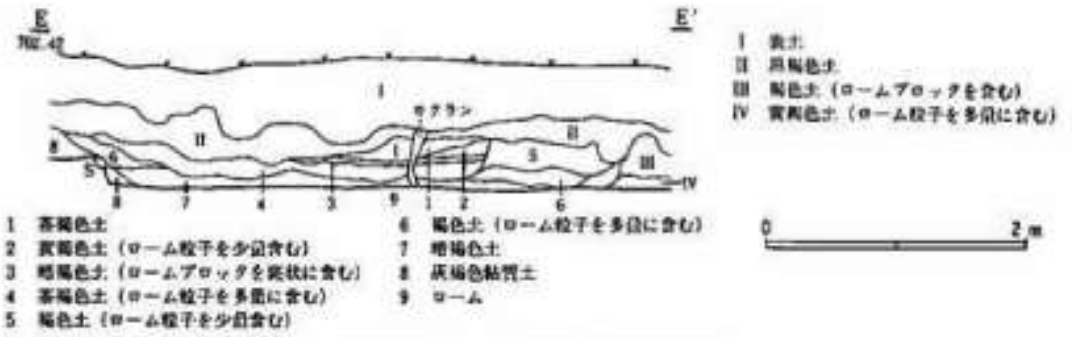
本址の時期は遺物等から奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



第135図　9号住居址出土遺物実測図



第136図　9・10号住居址実測図

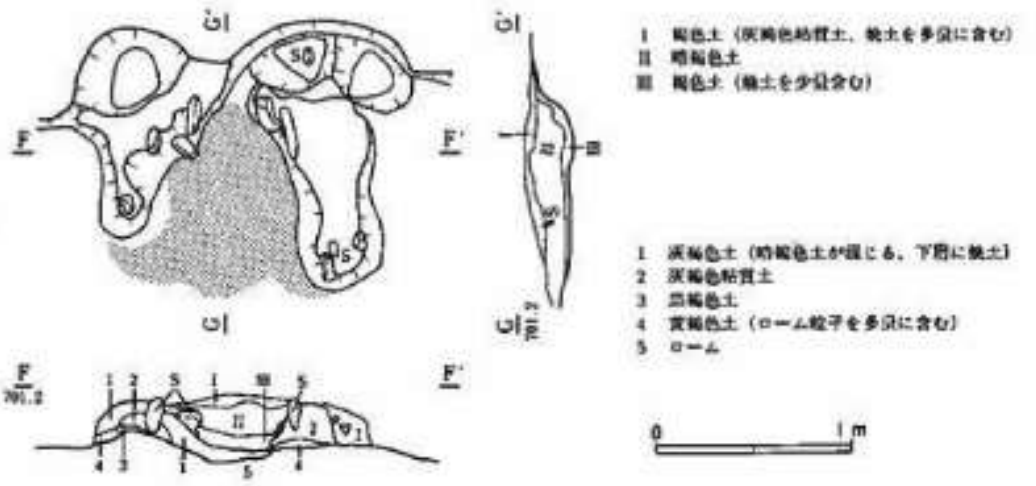


第137図　7・9号住居址土層断面図

10号住居址（第136図）

A地区で検出した。4号住居址の北東部隅と9号住居址の南壁及び床面を破壊している。また、3号周溝墓の南側溝の覆土上に黒褐色土にローム・ブロックを少量含んだ貼り床を施している。長軸4.8m、短軸4.5mの隅丸方形を呈する。主軸はN－72°－Wを示す。壁残高は12cm～5cmである。周溝は幅15cm～5cm、深さ15cm～7cmで、カマド周辺を除き壁下全域にめぐらされている。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは8基検出した。主柱穴はP_1～P_4であると思われる。北西壁下に長軸66cm、短軸64cm、深さ10cmの土坑状の掘り込みがみられる。用途については判然としないが、貯蔵穴の可能性が考えられる。西壁下のP_5・P_6は入口施設になると思われる。また、カマド東側にピット状の掘りくぼみがみられるが、本住居址に伴うものであるかは判然としない。カマドは東壁のほぼ中央に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマド床面の焼土は厚く、長期間火熱をうけていたことが考えられる。

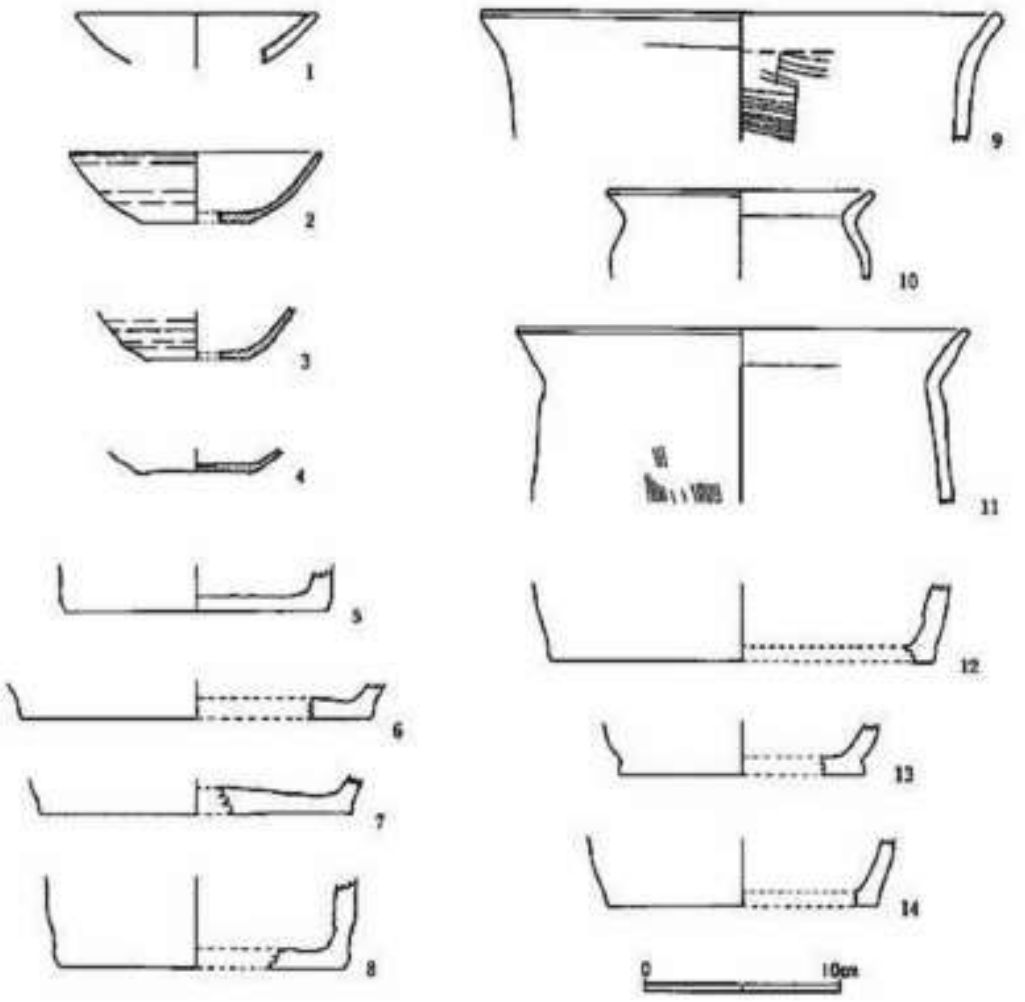
出土遺物は、土師器内黒坏（図139－1）、長胴甕（図139－5～9・11～14）、須恵器坏（図139－2～4）が出土している。主にカマド周辺に集中しているが、覆土上層及び中層からの破片の出土も



第138図　10号住居址カマド実測図

多い。

本址の時期は遺物等から平安時代前期であると思われる。



第139図　10号住居址出土遺物実測図

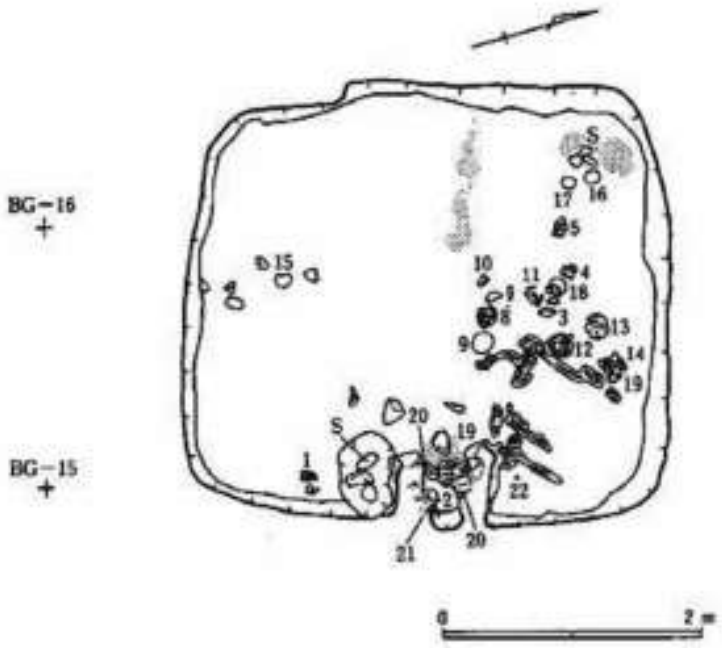
11号住居址（第140図・第141図）

B地区で検出した。覆土及び床面に多量の炭化物・焼土がみられることから、火災により廃屋となり、埋没した住居址であると考えられる。

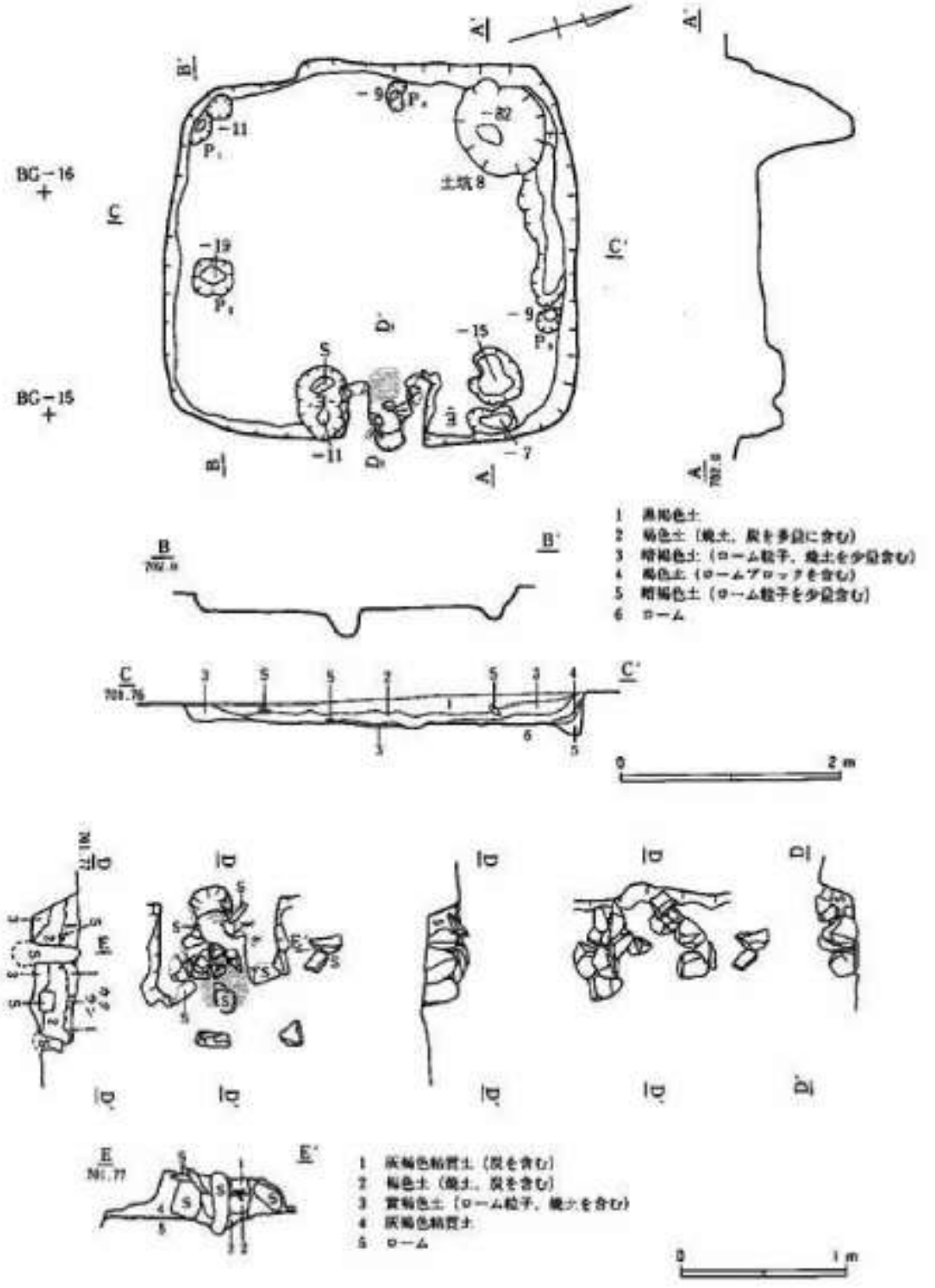
長軸3.8m、短軸3.4mの隅丸方形を呈する比較的小型の住居址である。主軸はN－19°－Wを示す。壁残高は20cm～18cmである。北壁下に幅33～23cm、深さ4cmの掘り込みがみられるが、周溝であるか判然としない。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出したが、主柱穴は位置的にみてP_1～P_3と考えられる。北西側に主柱穴の存在が想定されたが検出できなかった。住居址北西部の隅に長軸93cm、短軸78cm、深さ82cmの土坑状の掘り込みがみられる。用途は判然としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

カマドは東壁のほぼ中央に構築されている。保存状態は極めて良好で、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。保存状態の良さから支脚石は立った状態で出土した。支脚石は長さ42cmの棒長の砂岩を用いている。カマド床面に焼土があまりみられず、袖部においても火焼の影響がほとんどみられないないことから、使用期間の短かったことが考えられる。

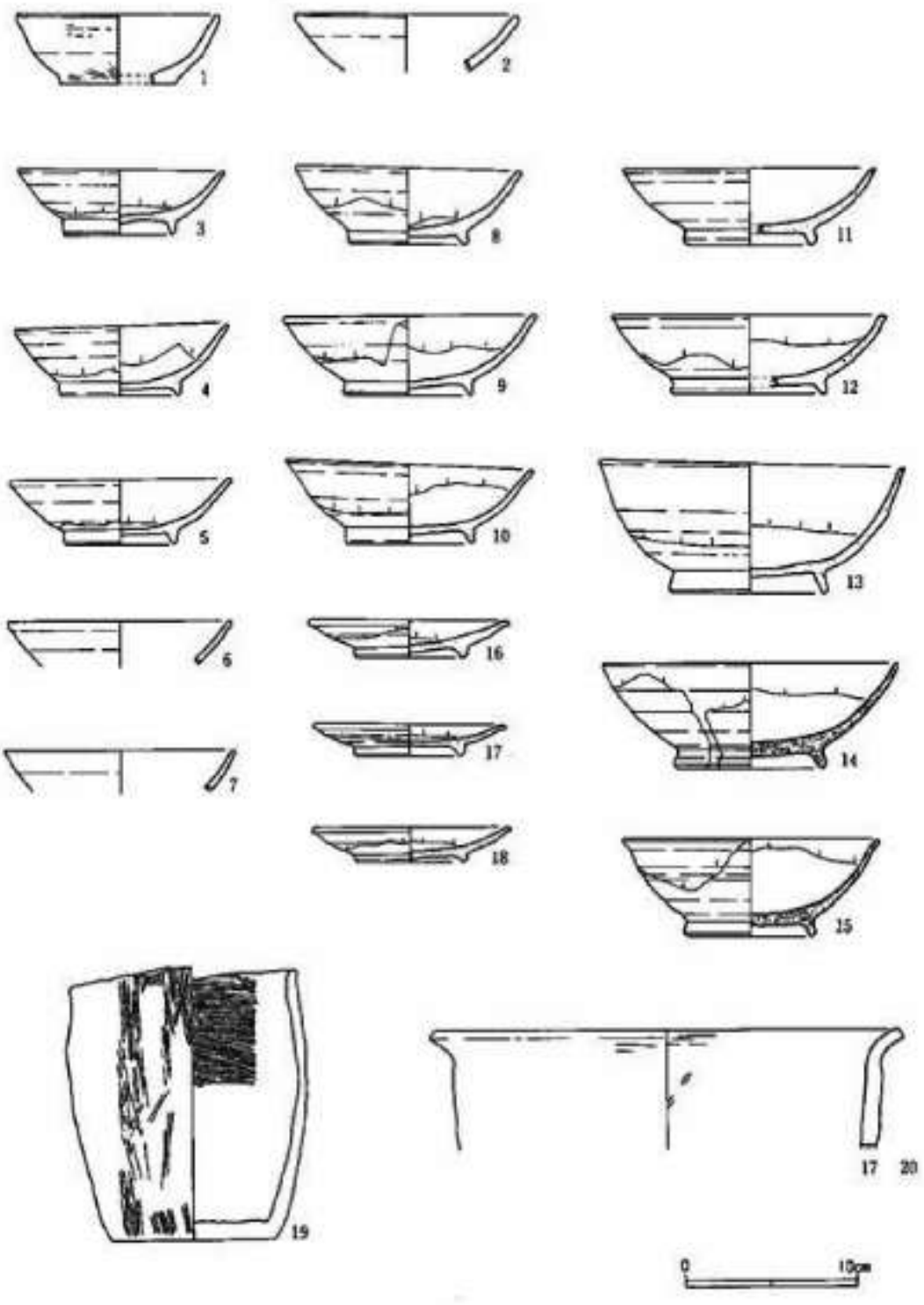
遺物は本址が火災住居であることから、保存状態はたいへん良好で、土師器坏（図142－1・2）小型甕（図142－18、図143－20・21）、灰釉陶器椀（図142－3～15）、皿（図142－16～17）と鉄器（図143－24）がカマド周辺の床面及び床面直上より出土している。本址の時期は遺物等から、平安時代中期であると思われる。



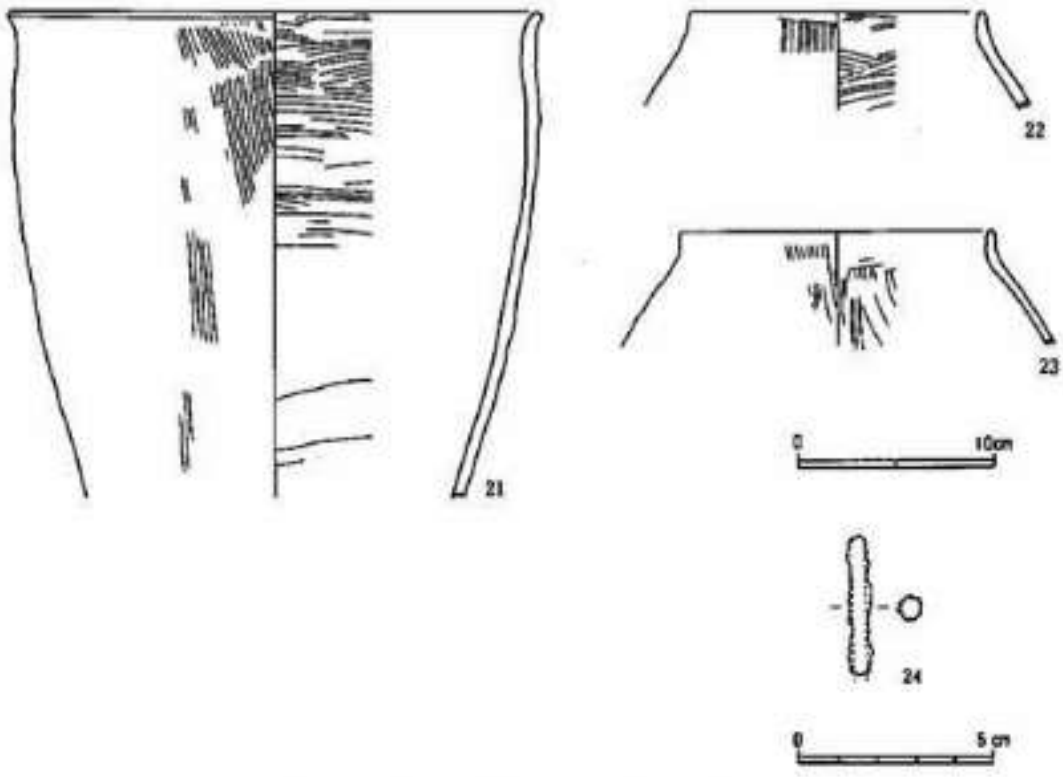
第140図　11号住居址出土遺物位置図



第141図　11号住居址実測図



第142図　11号住居址出土遺物実測図①



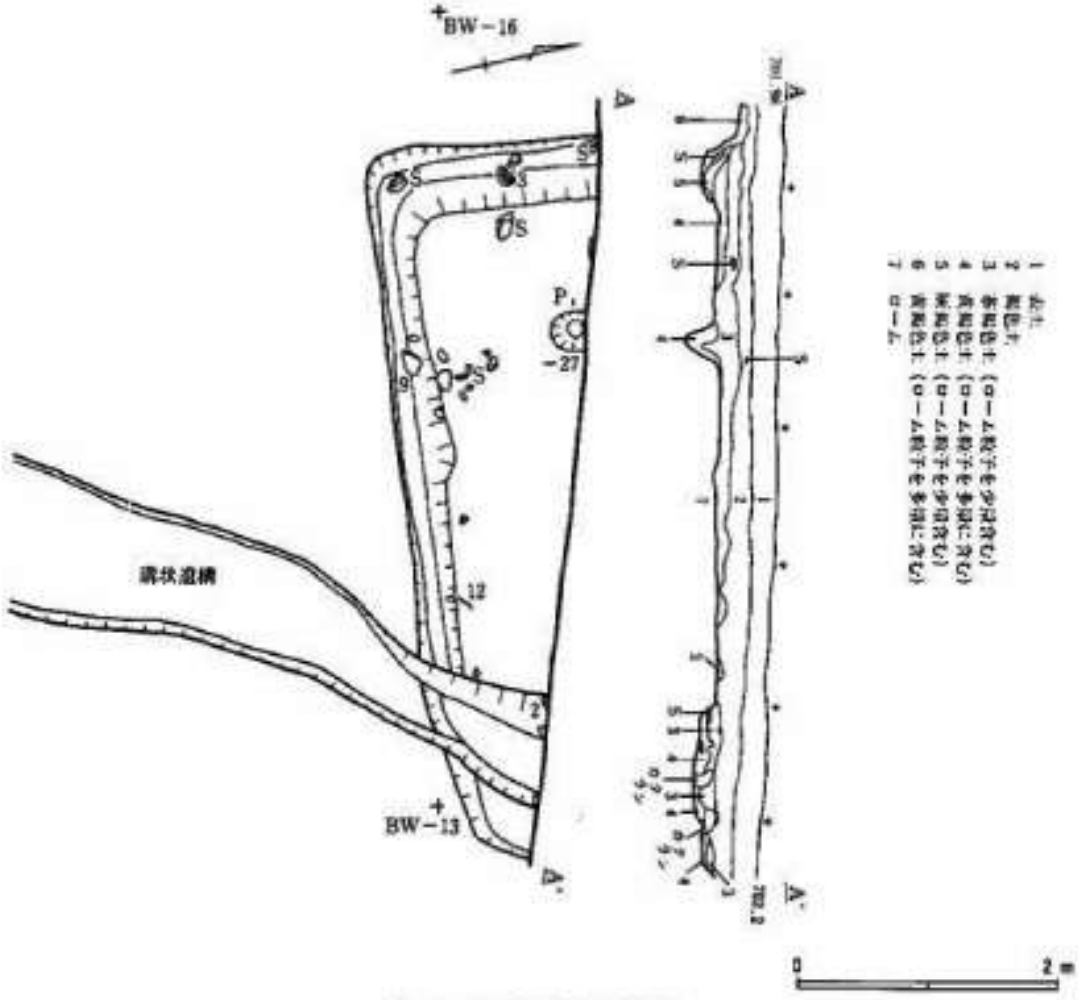
第143図　11号住居址出土遺物実測図②

12号住居址（第144図）

B地区で検出した。住居址のほとんどは調査区外に入っているため、4分の1程の検出となった。調査地B区の北東側から南西に延びる溝状遺構に南壁及び床面を破壊されている。プランは判然としないが、長軸4.7m程の隅丸方形を呈すると思われる。壁残高は14cm～12cmである。周溝は幅48cm～29cm、深さ12cm～6cmで、東壁付近を除く検出した範囲の壁下全域にめぐらされている。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的に良好であるが、東壁では貼り床はみられない。ピットは1基検出した。位置的にみて主柱穴の1つになると思われる。

遺物は土師器長胴甕（図145－9・10）、小型甕（図145－6・11）、須恵器坏（図145－7－10）、坏蓋（図145－1・2）、長頸壺口縁部（図145－7）、鉢（図145－8）、刀子（図145－12）が床面及び床面直上より出土している。

本址の時期は遺物等から、奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



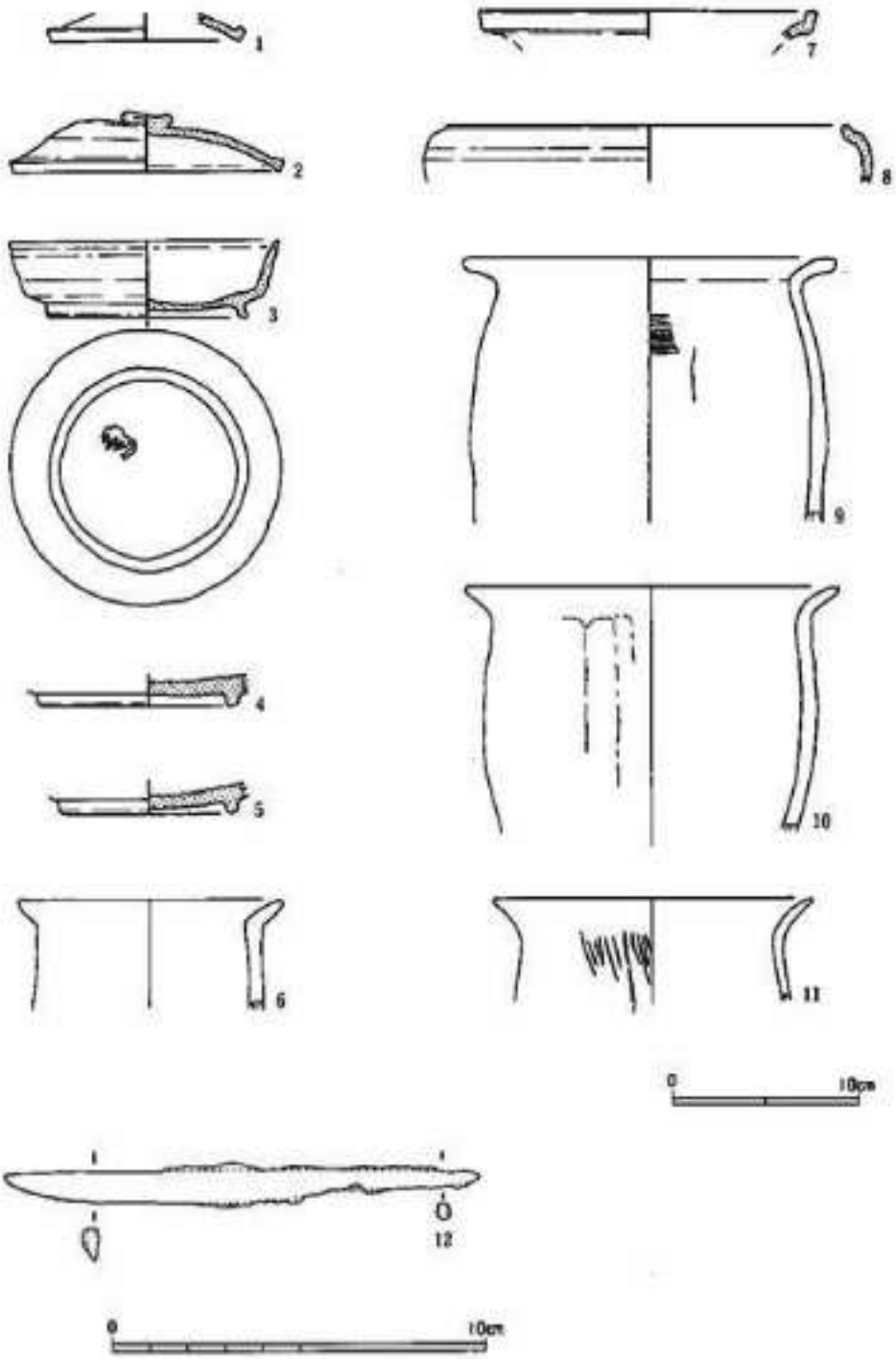
第144図　12号住居址実測図

15号住居址（第146図）

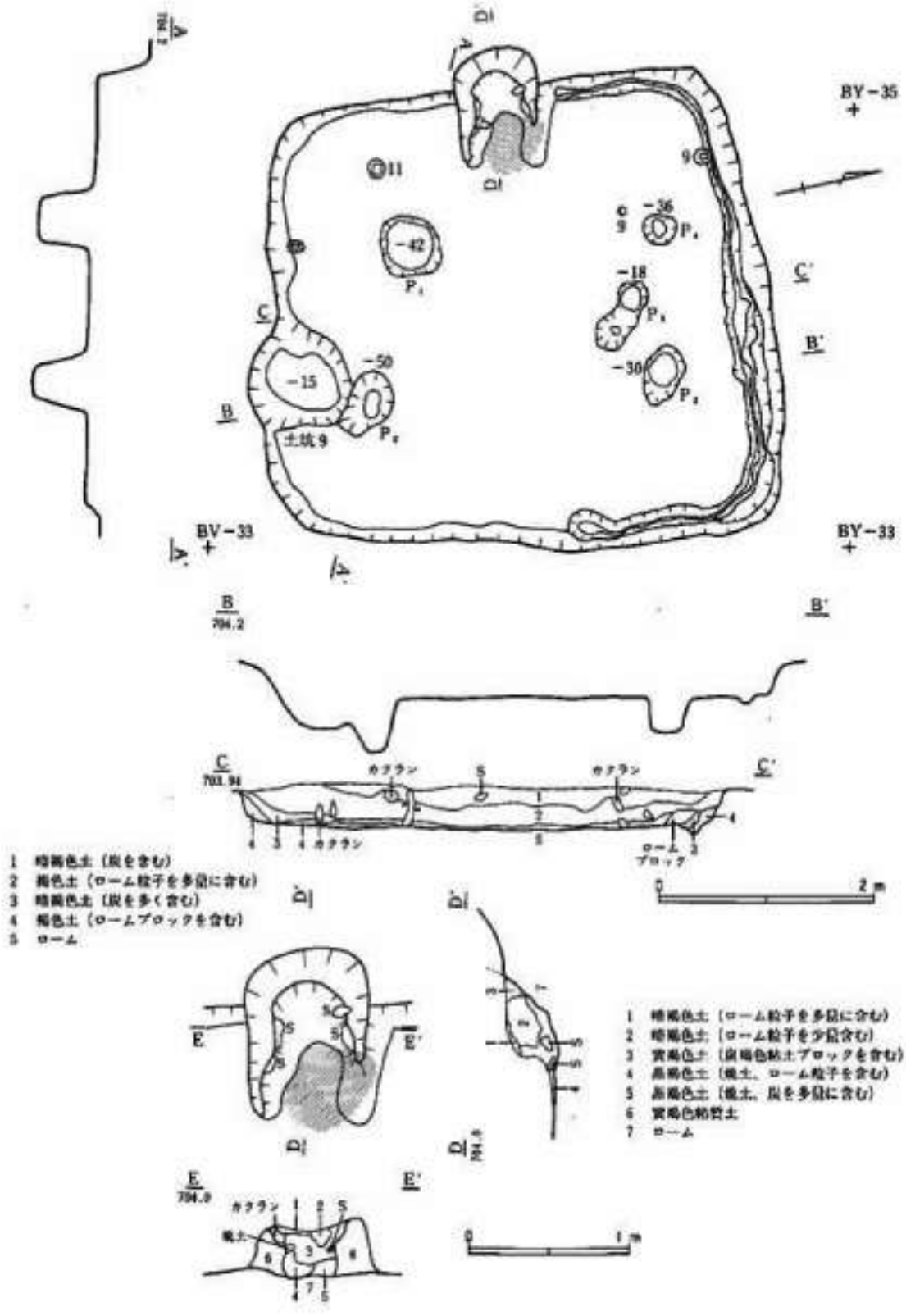
B地区で検出した。長軸4.62m、短軸4.6mの不整隅丸方形を呈する。主軸はN－83°－Wを示す。壁残高は西壁で54cm、東壁で9cmである。周溝は住居址の主軸より北側部分の西壁カマド部分から北壁下全域と東壁下のほぼ中央部の間にめぐらされている。幅は27cm－7.5cm、深さは10cm－4cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的に良好である。住居址南東側、南西側、北東側の一部で貼り床のみられないところがある。ピットは5基検出した。主柱穴はP1～P4であると思われる。P2と南壁の間に長軸99cm、短軸90cmの不整円形を呈する土坑状の掘り込みがみられる。用途については判然としないが貯蔵穴の可能性が考えられる。

カマドは西壁のほぼ中央に構築されており、黄褐色粘質土と転石による石芯転石カマドである。カマド床面と袖部分には焼土がみられる。

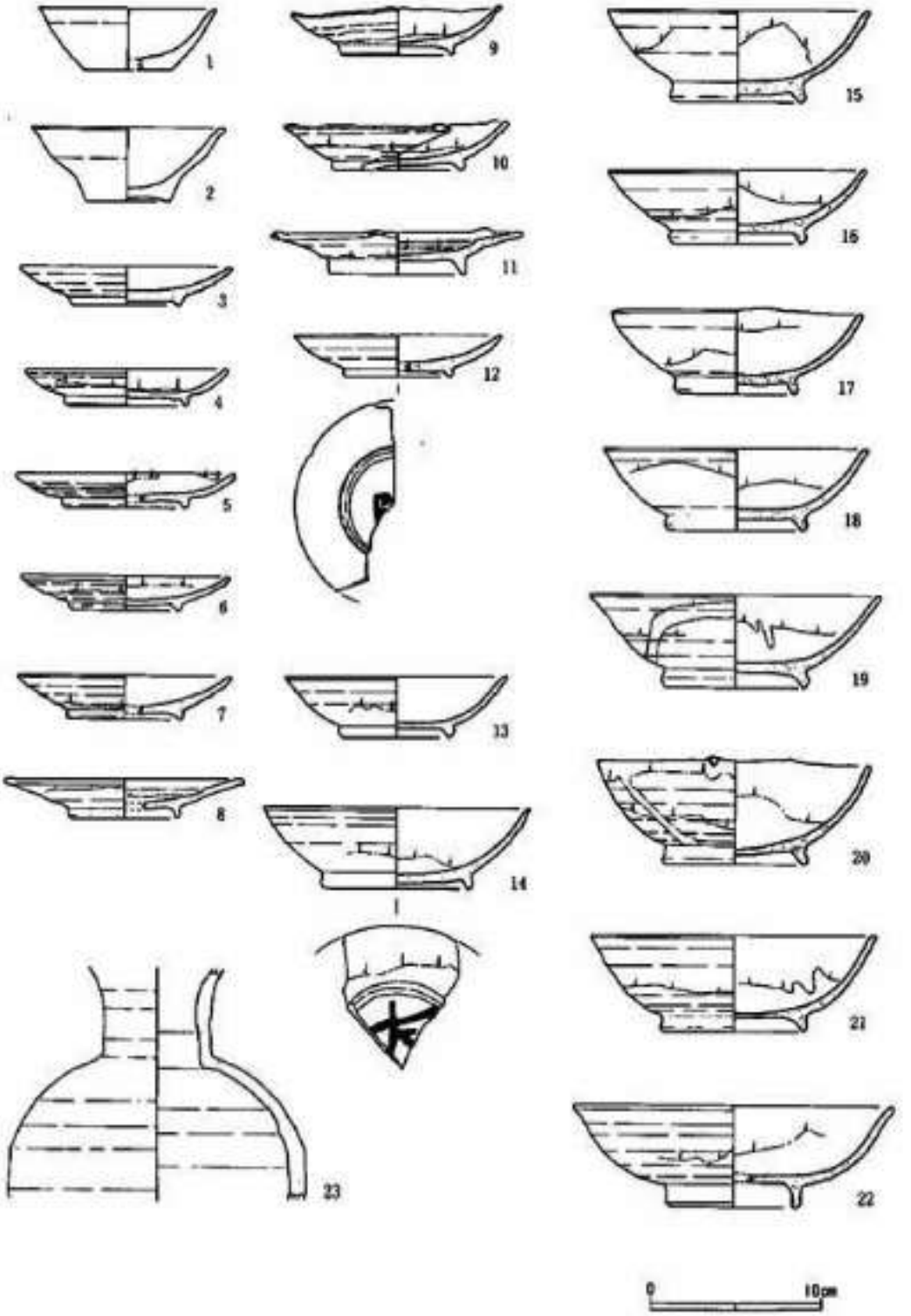
遺物は覆土中層及び下層からの出土が多く、土師器坏（図147－1）、内黒坏（図147－2）、灰釉



第145図　12号住居址出土遺物実測図



第146図　15号住居址実測図



第147図　15号住居址出土遺物実測図

陶器椀（図147－13～22）、皿（図147－3～8・10・12）、長頸壺（図147－23）が出土している。カマド周辺の床面及び床面直上より出土している遺物は灰釉陶器皿（図147－9・11）がある。

本址の時期は出土遺物等から、平安時代中期であると思われる。

17号住居址（第148図）

B区で検出した。縄文時代の土器廃棄場内に構築されているため、覆土より大量の縄文土器片が出土している。長軸6.57m、短軸5.99mの不整隅丸方形を呈する比較的大型の住居址である。主軸はN－82°－Wを示す。壁残高は37cm～8.5cmである。周溝は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを含んだ暗褐色土を叩き締めた貼り床となっているが、締まりは全体的に軟弱である。ピットは5基検出した。主柱穴はP_1～P_4であると思われる。P_1・P_4は重複関係があると思われるため、本址は拡張された住居址である可能性がある。

カマドは東壁のほぼ中央に構築されているが、撹乱により完全に破壊されている。カマド周辺の床面にはカマドを構築していたと思われる灰褐色粘質土と転石がみられる。

遺物は覆土中層及び下層より土師器内黒坏（図149－1－5）、内黒椀（図149－6）、小型甕（図149－11～15）、須恵器坏（図149－7～10）、坏蓋（図149－12・13・16）、カマド北側床面より須恵器長頸壺の底部（図149－14）の他、覆土上層及び中層より鉄滓が4個出土している。また、覆土中より出土している遺物の中で、須恵器破片の出土量は特に多い。

本住居址の時期は遺物等から、奈良時代末から平安時代前期であると思われる。

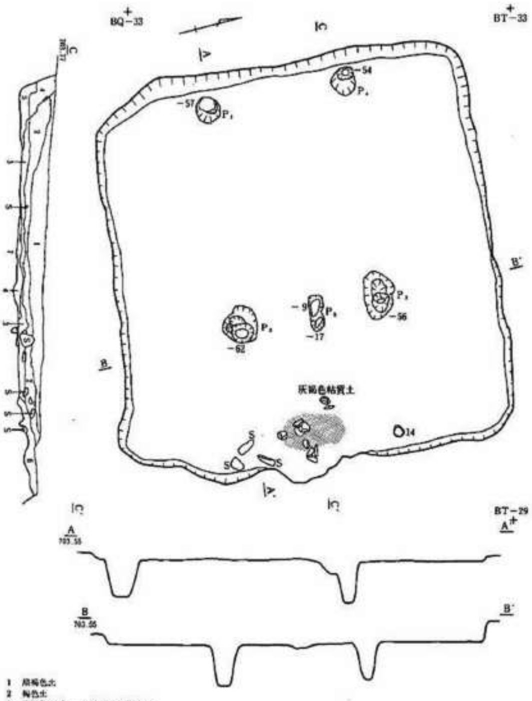
20号住居址（第150図）

B地区で検出した。24号住居址の東側の壁と床面の一部を破壊している。長軸4.08m、短軸4.02mの不整隅丸方形を呈する。主軸はS－88°－Wを示す。壁残高は28cm～25cmである。周溝は住居址西側壁下から南壁下にかけてめぐらされている。幅は25.5cm、深さは12～5cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは4基検出した。これらが主柱穴と思われる。西壁下に深さ5cm～3cmの浅いくぼみがみられるが、入口施設の可能性が考えられる。

カマドは東壁の中央よりやや北側に構築されているが、残存している部分はわずかであり、袖部分がわずかにみられる。カマド付近の床面からはカマドを構築していたとみられる砂岩及び灰褐色粘質土が出土していることから石芯粘土カマドと考える。カマド床面には厚さ3cmの焼土がみられる。

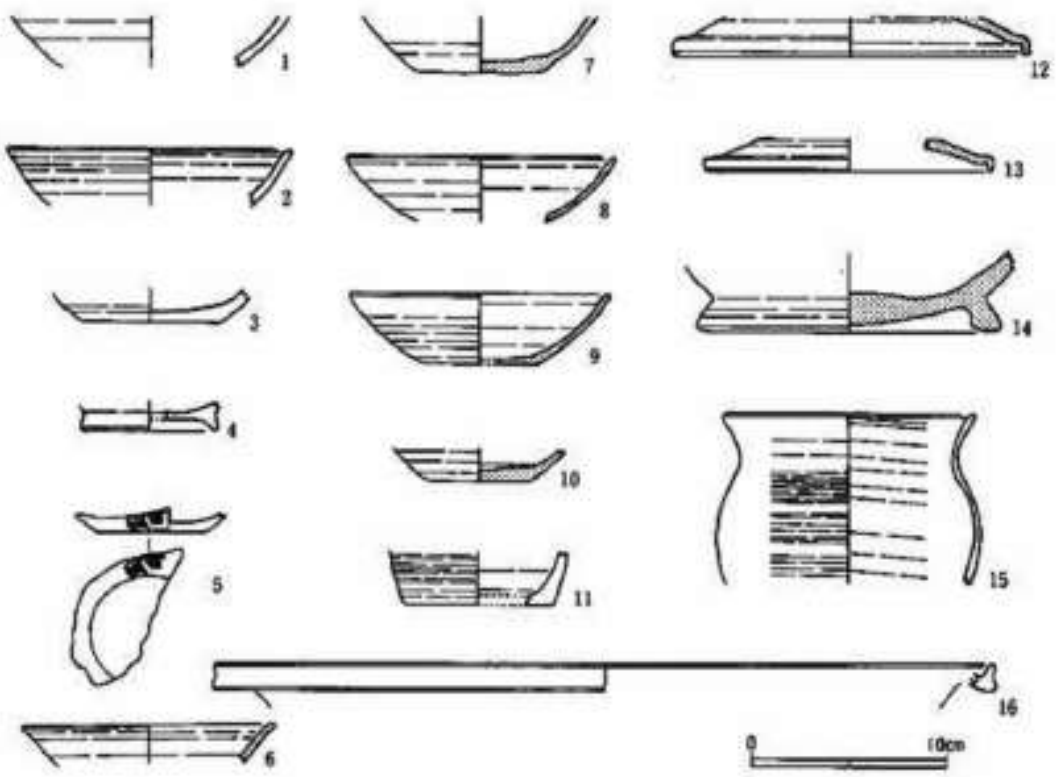
遺物はカマド周辺より土師器小型甕（図151－2・3）、住居址中央の床面より須恵器坏（図151－1）、住居址南西隅の床面直上より鉄器（図151－4）が出土している。

本址の時期は遺物などから奈良時代末から平安時代であると思われる。



1 暗褐色土
2 褐色土
3 暗褐色土（ローム粒子を少量含む）
4 褐色土（ローム粒子を多量に含む）
5 暗褐色土（ローム粒子を多量に含む）
6 灰褐色粘質土（焼土を含む）
7 ローム

第148図　17号住居址実測図



第149図　17号住居址出土遺物実測図

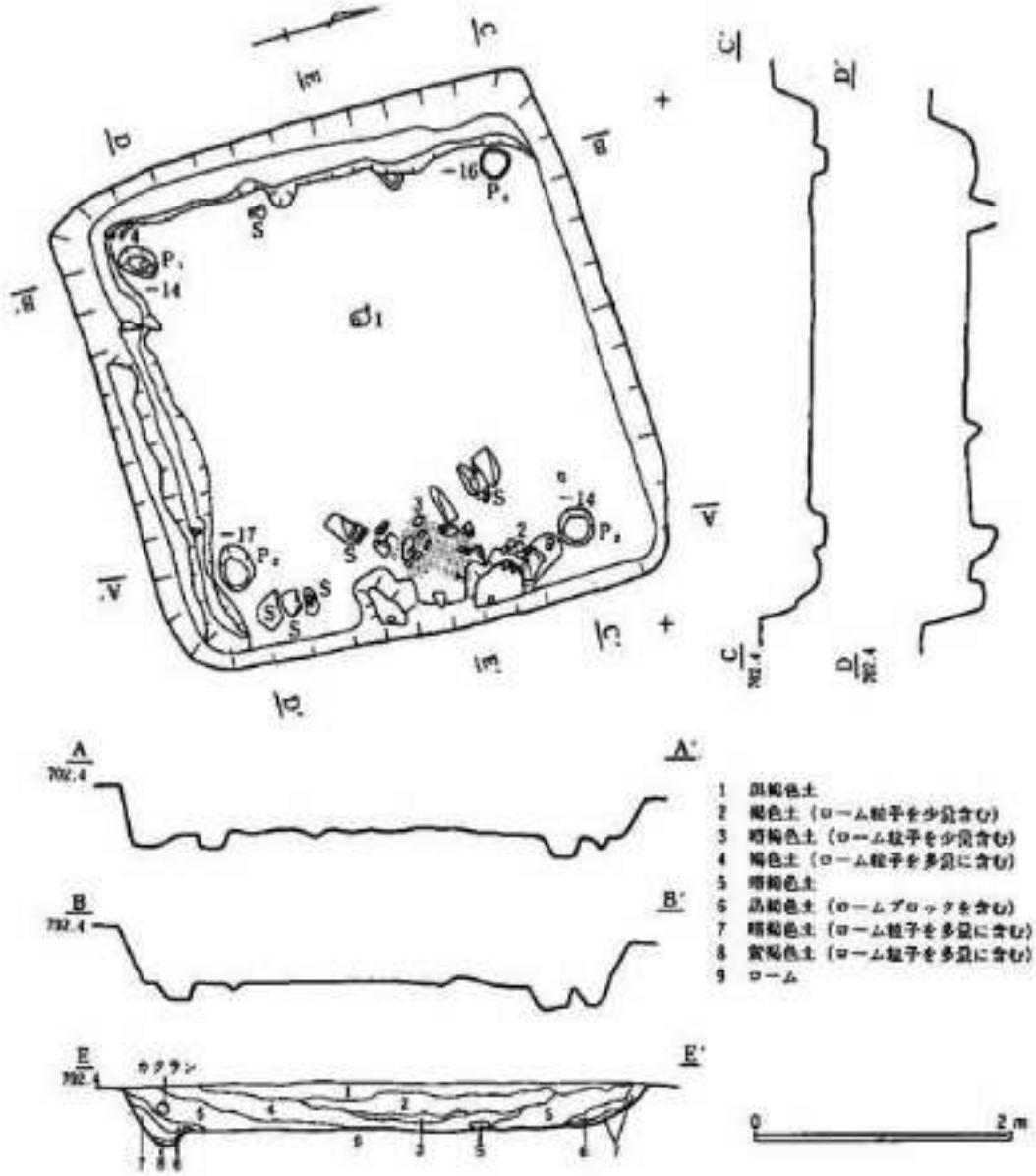
21号住居址（第153図）

B地区で検出した。22号住居址の北東側部分を破壊している。西壁の一部と南壁を検出できなかったためプランは判然としないが、長軸4.08m、短軸4.05mの隅丸方形を呈していると思われる。主軸はN－79°－Wを示す。壁残高は35cm～15cmである。周溝はカマド部分を除く西壁下と北壁及び東壁下隅にめぐらされており、幅24－12cm、深さ12cmである。また南壁の位置すると思われる部分に長さ1.8m、幅30－12cm、深さ12cmの溝状の掘り込みがみられ、本址に伴う周溝と思われる。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており、締まりは全体的にたいへん良好である。ピットは検出できなかった。

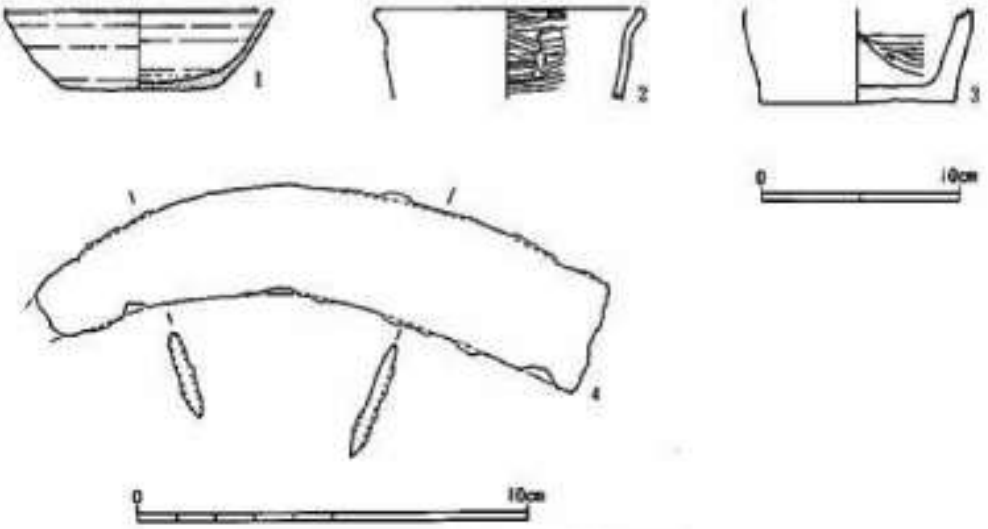
カマドは西壁のほぼ中央に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマドを構築している転石は多く密に組まれている。これらはすべて砂岩である。カマドの主軸は南東方向へ傾く形となっている。カマドの床面とその南側及び、東壁下の一部に焼土がみられる。

遺物はカマド内部より土師器長胴甕（図154－10・12－14）、内黒坏（図154－1－3・5・6）、カマド南側袖付近より内黒椀（図154－4）、カマド北側の床面より須恵器長頸壺の（図154－11）が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。



第150図　20号住居址実測図

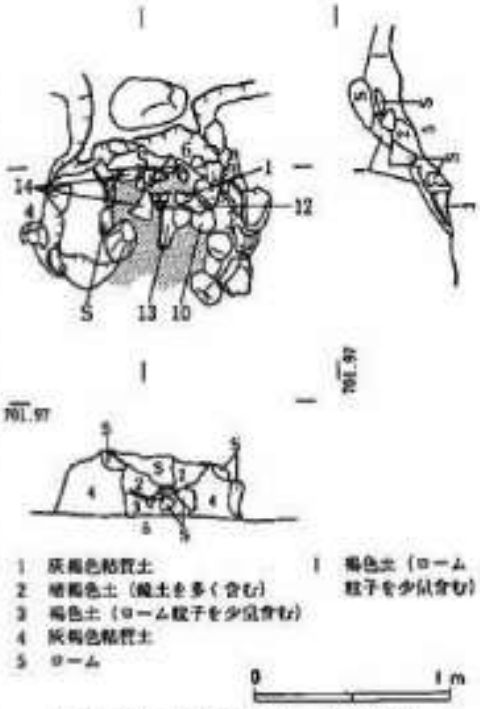


第151図　20号住居址出土遺物実測図

22号住居址（第153図）

B地区で検出した。21号住居址に北東側部分を破壊されているためプランは判然としないが、不整隅丸方形を呈していると思われる。主軸はN－87°－Eを示すと思われる。壁残高は30cm－24cmである。周溝は検出した壁の東壁下を除く全域にめぐらされている。幅は30～12cm、深さは11～8cmである。床面はローム層まで掘り込まれている。貼り床はロームを叩き締めたものであるが、住居址中央より西側の一部にしかみられない。ピットは検出できなかった。

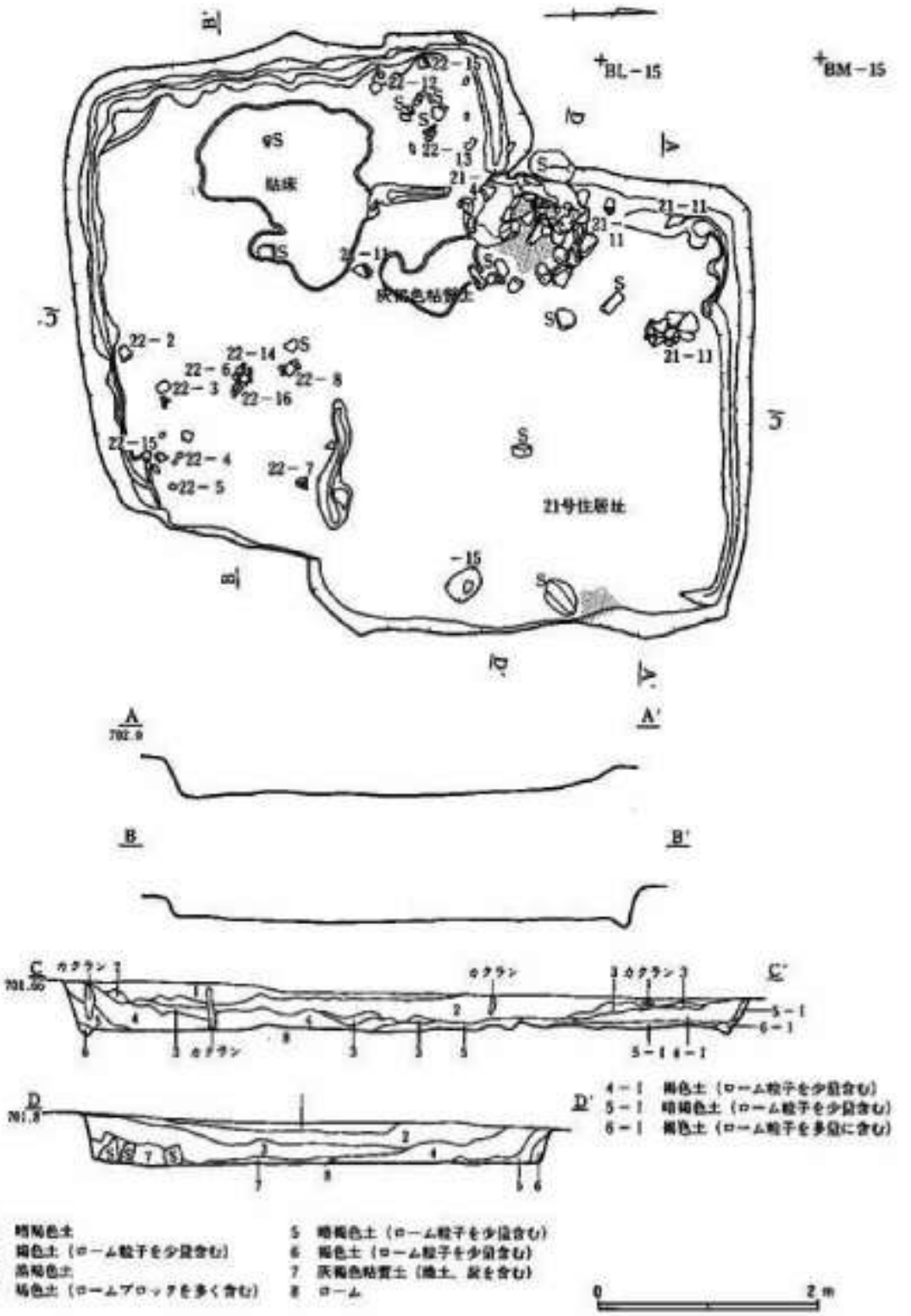
カマドは東壁下にわずかであるが焼土と灰褐色粘質土が認められたことから、東壁に構築されていたと思われるが、消滅しているため確認できなかった。21号住居址が構築された際に破壊されたものと考える。



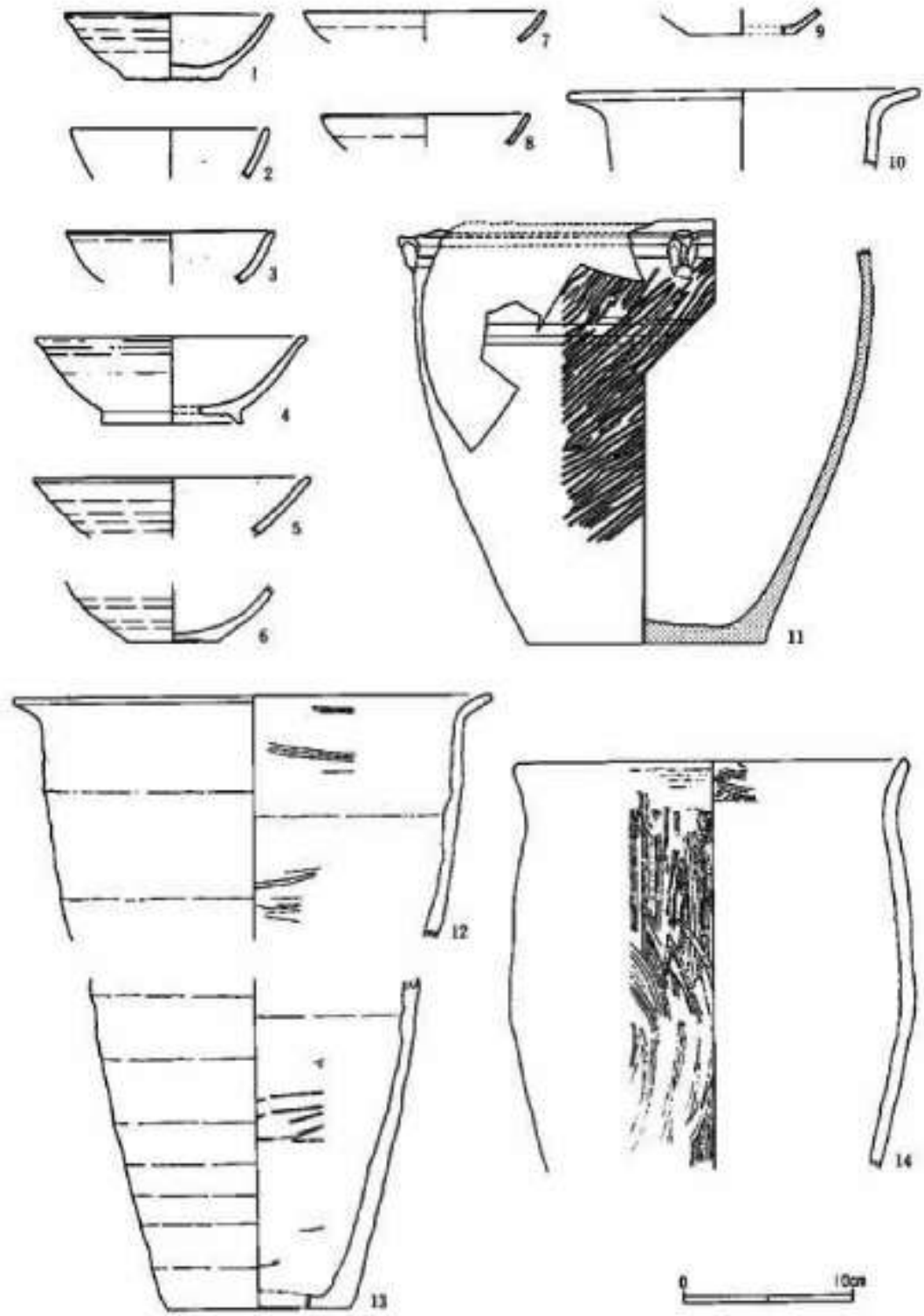
第152図　21号住居址カマド実測図

遺物は床面及び床面直上より土師器坏（図155－9）、長胴甕（図155－12・13）、小型甕（図155－11・14・15）、須恵器坏（図156－1～8）、鉢（図155－16）の他、覆土上層より鉄滓が3個出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。



第153図　21・22号住居址実測図

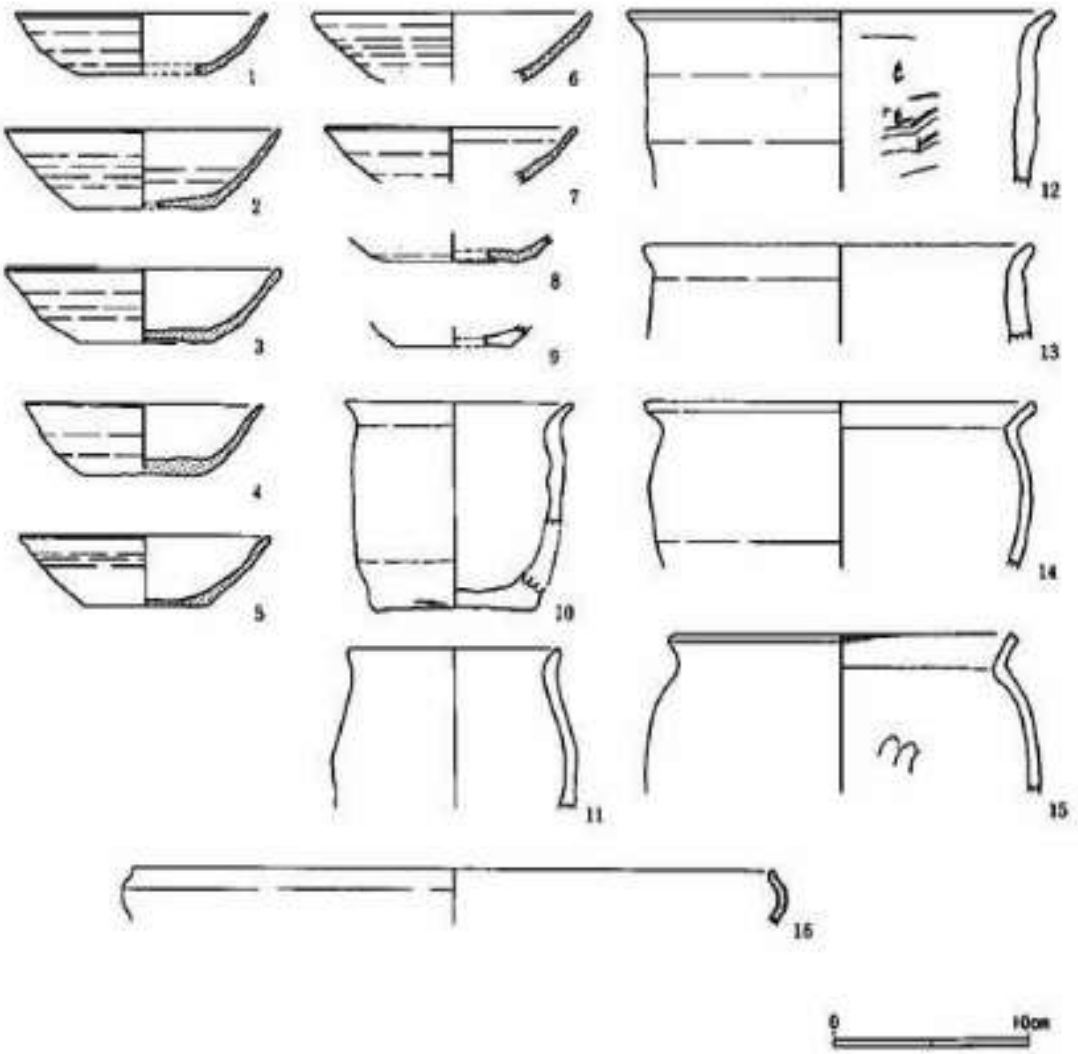


第154図　21号住居址出土遺物実測図

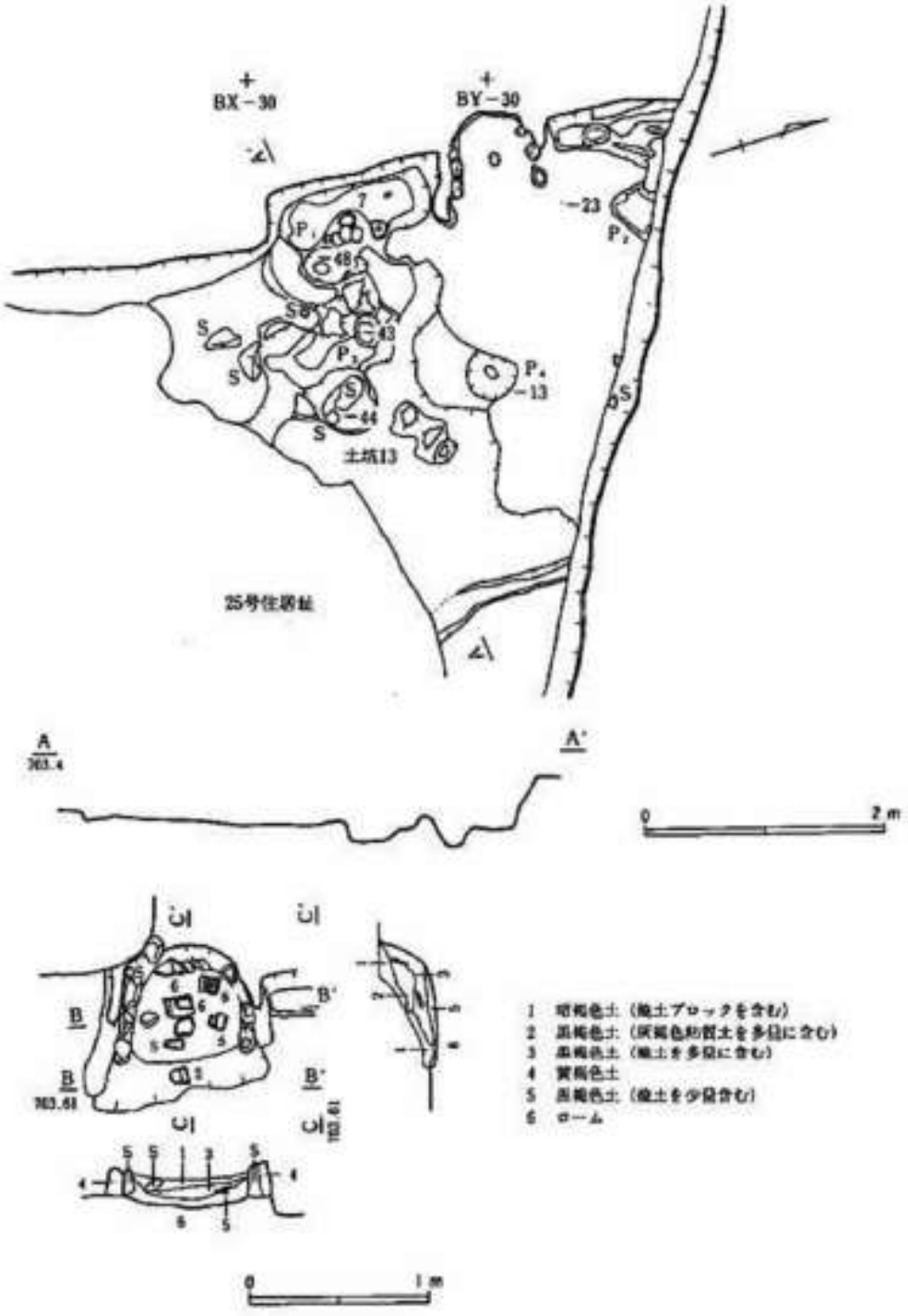
26号住居址（第156図）

B地区で検出した。住居址の南側の一部は25号住居址の覆土上に構築されている。住居址北側が調査区外に入る。25号住居址を検出する際、南壁を掘削してしまったためプランは判然としないが、長軸3.93mの隅丸方形を呈しているものと思われる。主軸はN－84°－Wを示すと思われる。壁残高は西壁で17cm、東壁で15cmである。周溝は西壁下及び東壁下より検出した。西側で幅15cm～6cm、深さ16cm、東側で幅21cm～15cm、深さ4cmである。床面はローム層まで掘り込まれ堅く叩き締められており締まりは全体的に良好であるが、東壁付近には貼り床はみられない。ピットは4基検出した。主柱穴はP_1・P_2になると思われる。カマドは西壁に構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマド床面及び袖部分には焼土はあまりみられない。

遺物は覆土中層より土師器長胴甕（図157－1・3・4）、床面及びカマド内部より土師器長胴甕



第155図　22号住居址出土遺物実測図



第156図　26号住居址実測図

(図157－2・5・6)、須恵器長頸壺 (図157－7) が出土している。

本址の時期は遺物などから平安時代前期であると思われる。

36号住居址 (第158図)

B地区で検出した。39号住居址の大部分を破壊している。また、41号住居址の覆土上に構築されている。長軸6.1m、短軸5.7mの不整隅丸方形を呈する。主軸はN－83°－Wを示す。壁残高は45cm～25cmである。南壁は検出できなかった。また、周溝は認められなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれているが、住居址の北側一部はローム層まで掘り込まれている。貼り床はカマドから北側部分はロームブロックを多量に含んだ暗褐色土を叩き締め、締まりは良好であるが、カマドから南部分は貼り床がみられない。ピットは4基検出した。これらが主柱穴であると思われる。位置的にみて全体的に北側によった形となっている。カマドは西壁の中央よりやや北側によったところに構築されており、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドである。カマドの主軸は住居址中央を向くように斜めに構築されている。カマド床面の焼土は厚く、長期間火熱を受けていたことが考えられる。

遺物は覆土中層及び下層から土師器内黒坏(図161－1～3)、長胴甕(図162－21～23)、小型甕(図161－11～16、図162－17～20)、灰釉陶器椀 (図161－5～10) が出土している。また、カマド左側袖部より灰釉陶器椀 (図161－4) が完形で出土している他、刀子 (図162－24) が出土している。

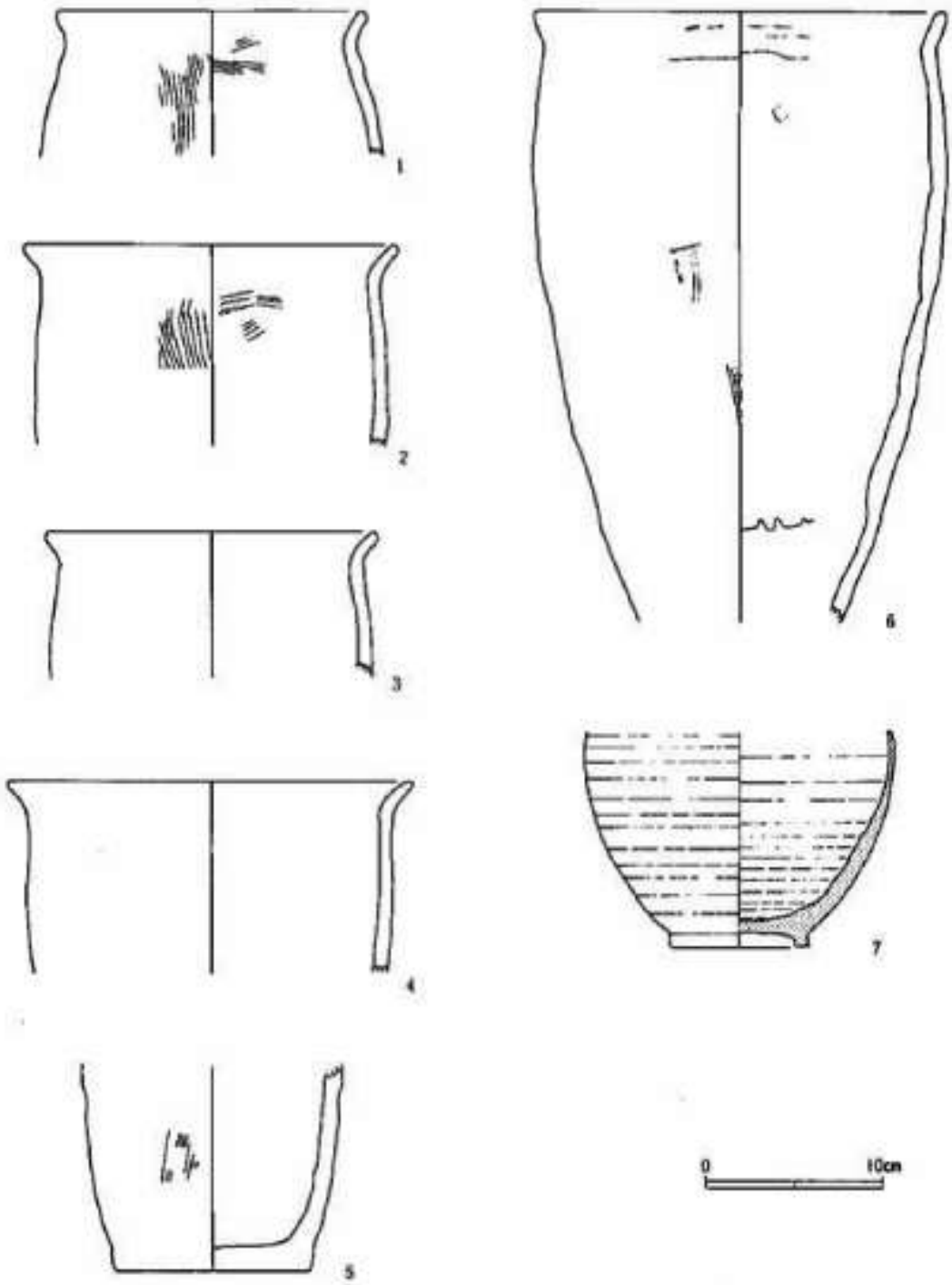
本址の時期は遺物などから平安時代中期であると思われる。

39号住居址 (第158図)

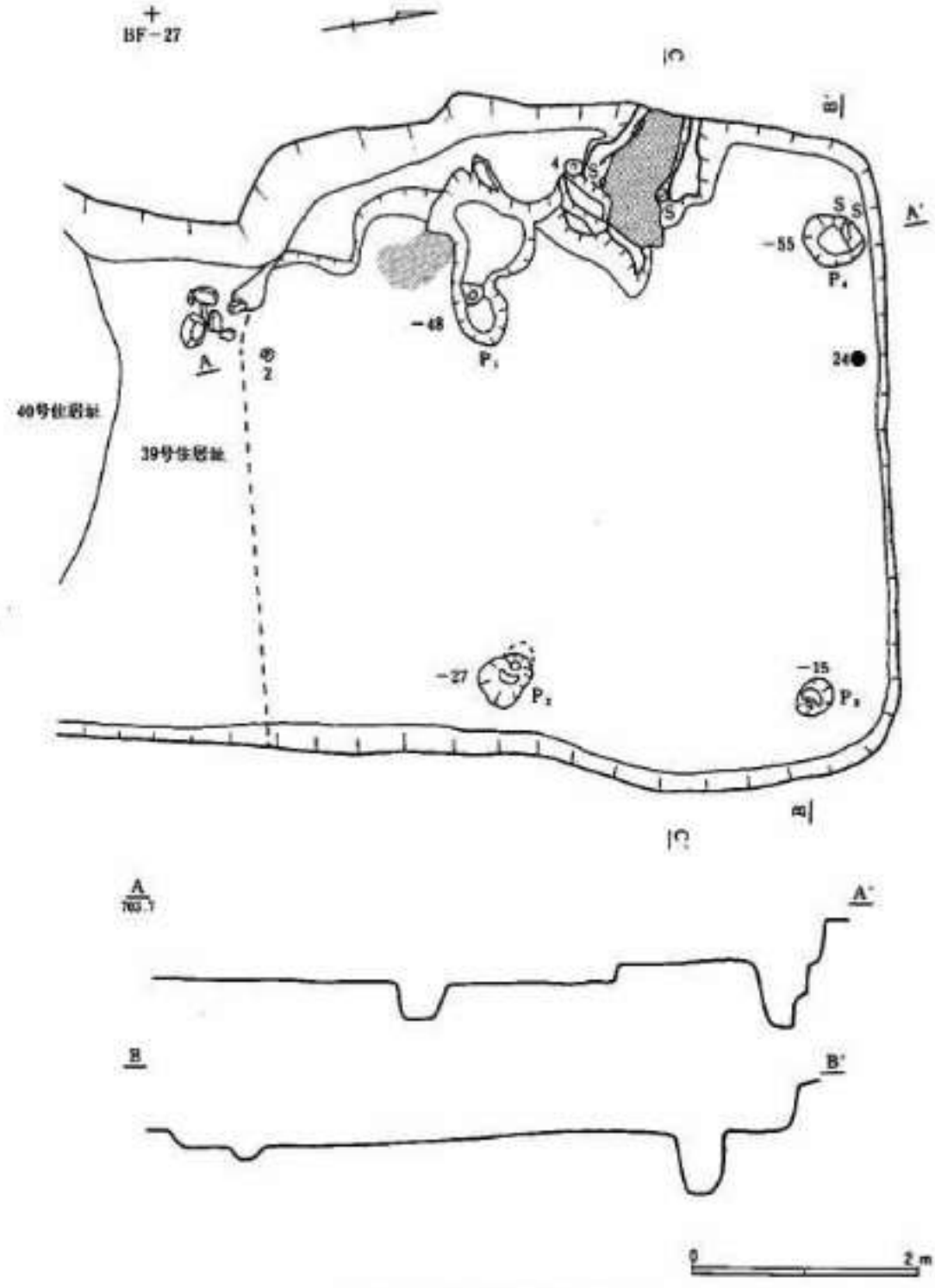
B地区で検出した。40号住居址の北側壁を破壊している。また、36号住居址にその大部分を破壊され、検出できた壁は西壁の一部のみであるためプランは判然としない。西壁の壁残高は39cmである。周溝は検出できなかった。床面は暗褐色土層まで掘り込まれ、ロームブロックを多く含んだ暗褐色土を叩き締められているが、締まりは全体的に軟弱である。ピットは検出できなかった。カマドは36号住居址にほとんどが破壊され、西壁下に転石しか残っておらず全容は不明であるが、灰褐色粘質土と転石による石芯粘土カマドであると思われる。転石の下層にはわずかに焼土が認められた。

遺物は覆土中層より土師器内黒坏 (図163－1)、長胴甕 (図163－4～7)、須恵器坏 (図163－3)、坏蓋 (図163－2)、刀子 (図163－8・9) が出土している。

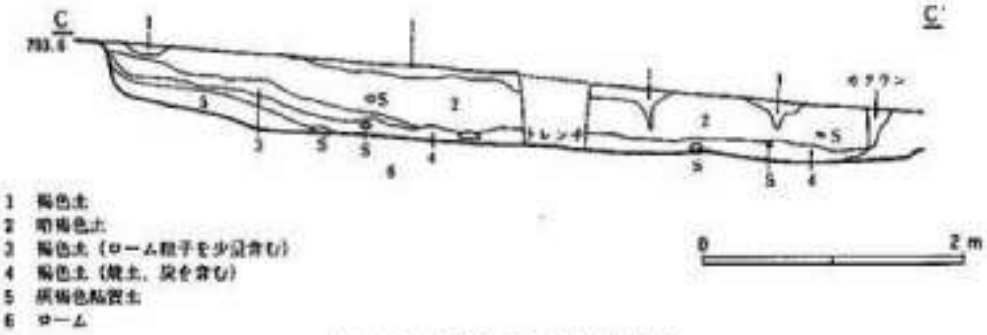
本址の時期は遺物などから奈良時代末から平安時代前期であると思われる。



第157図　26号住居址出土遺物実測図

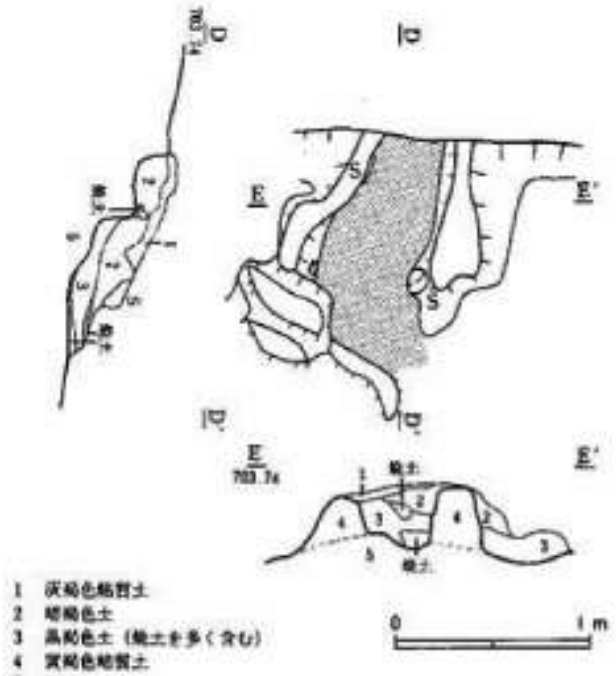


第158図　36・39号住居址実測図



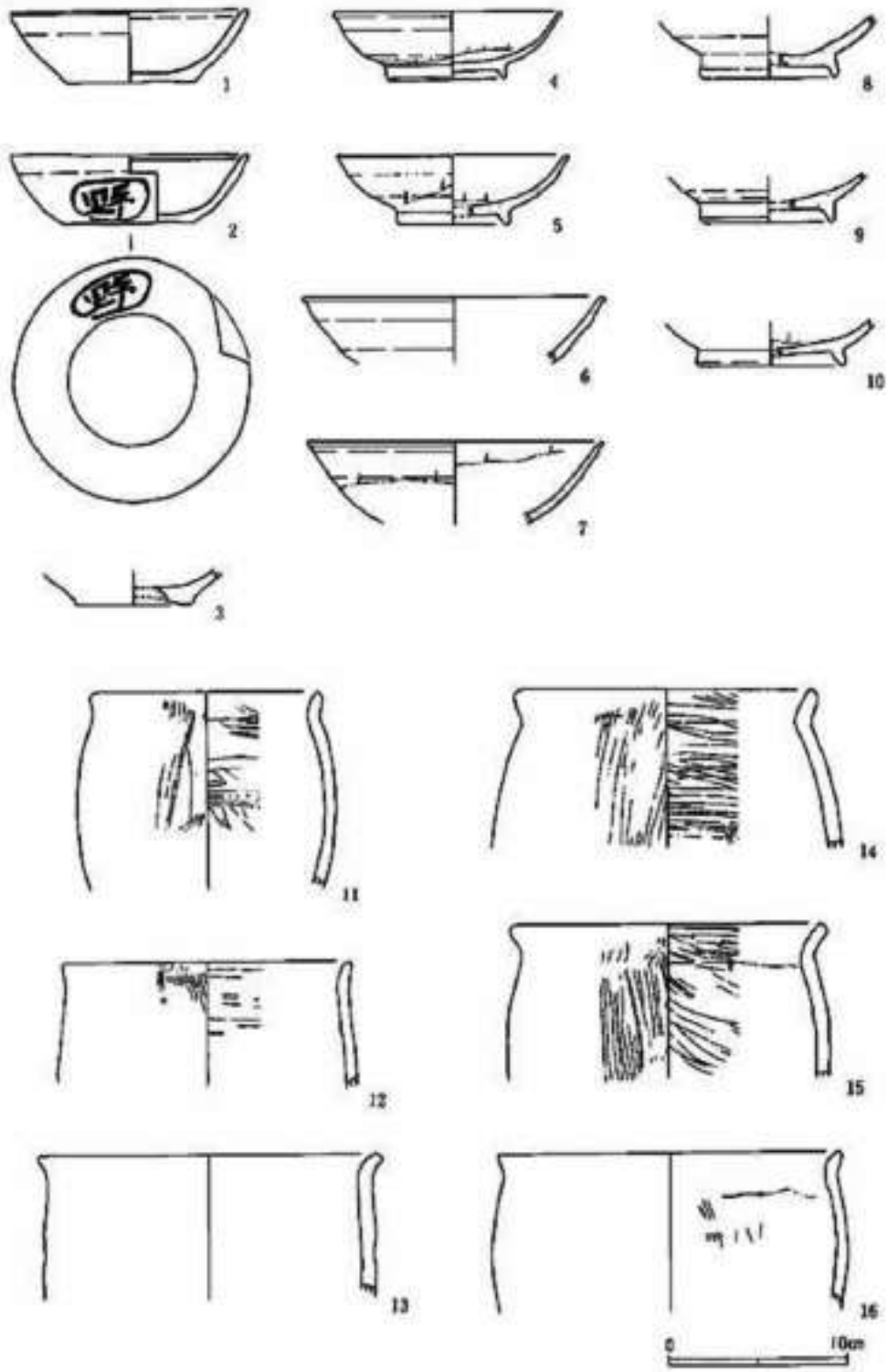
1 褐色土
2 明褐色土
3 褐色土（ローム粒子を少量含む）
4 褐色土（焼土、炭を含む）
5 灰褐色粘質土
6 ローム

第159図　36号住居址土層断面図

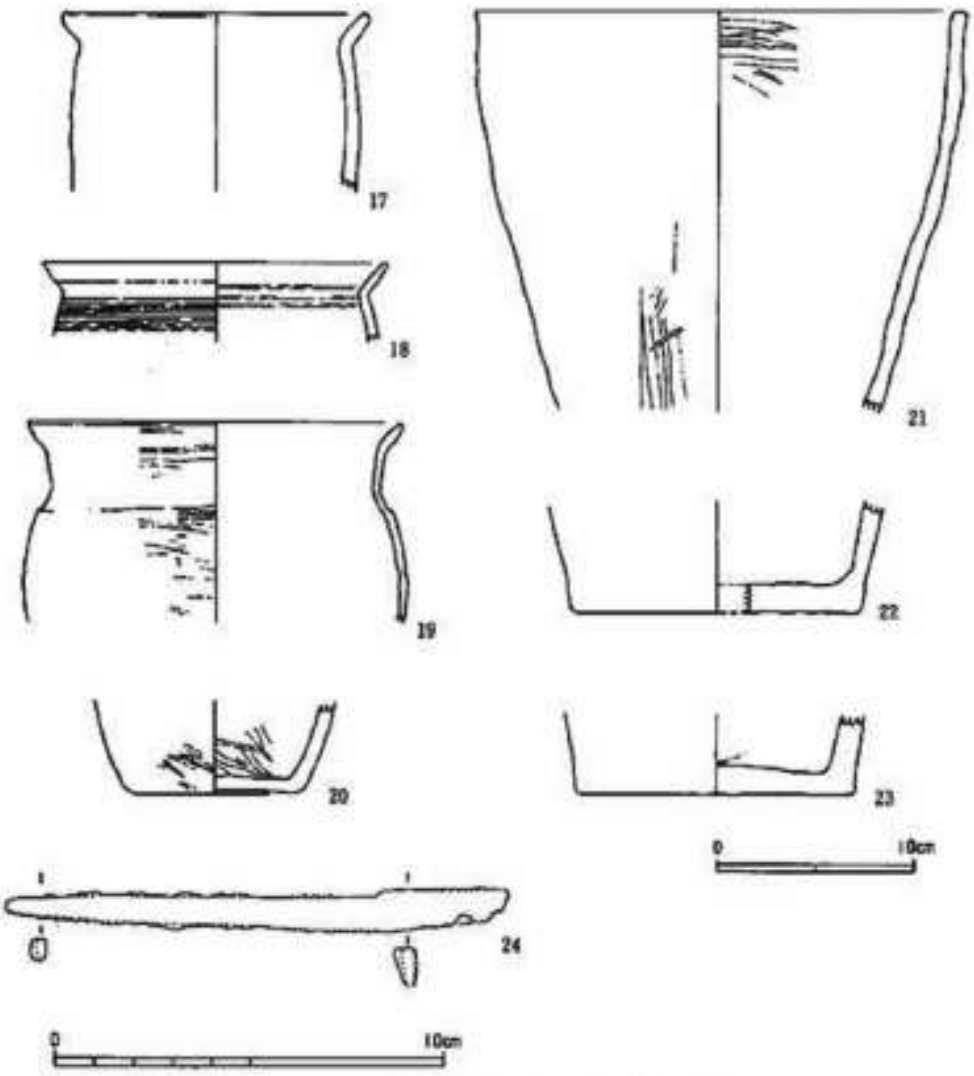


1 灰褐色粘質土
2 暗褐色土
3 黒褐色土（焼土を多く含む）
4 灰褐色粘質土
5 ローム

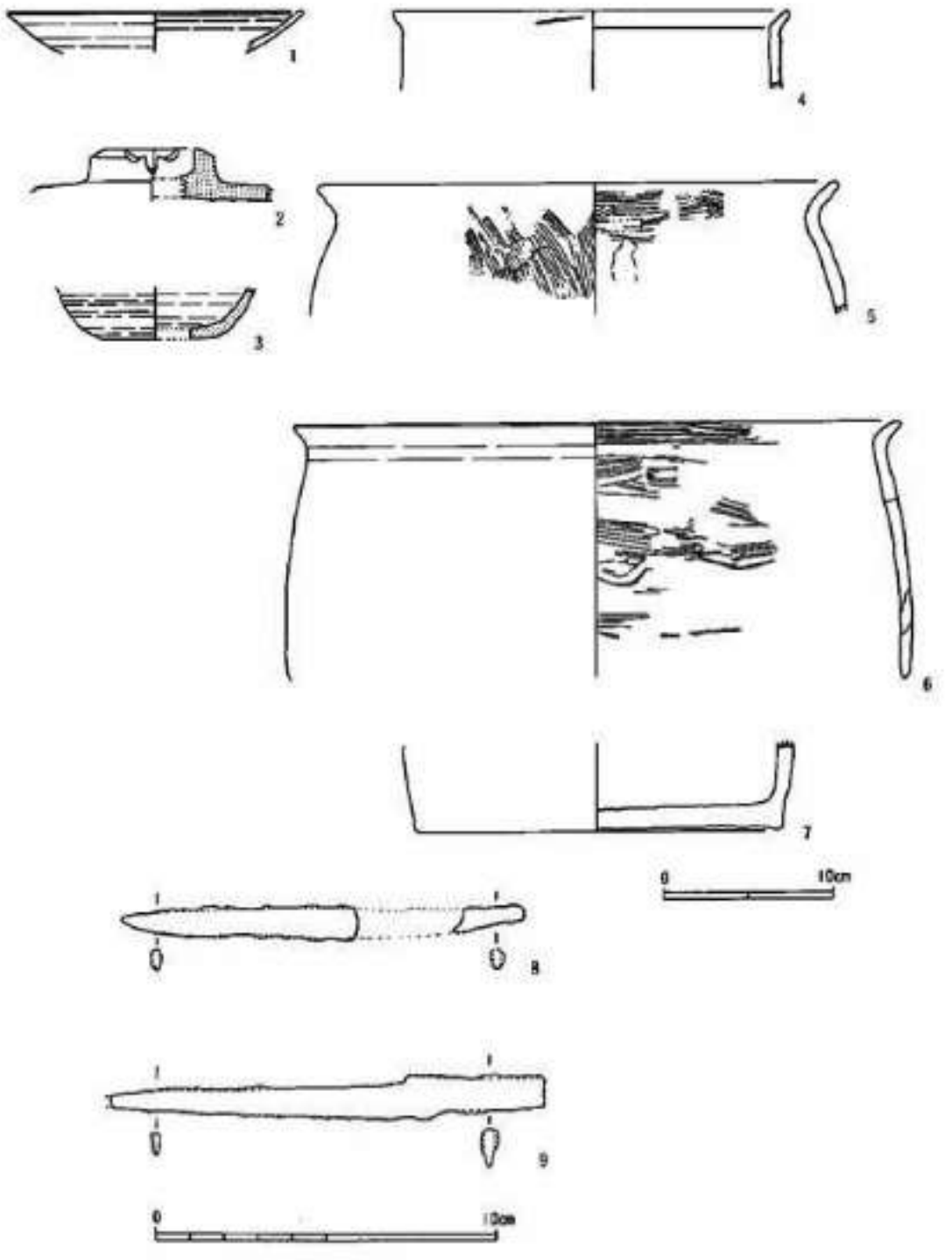
第160図　36号住居址カマド実測図



第161図　35号住居址出土遺物実測図①



第162図　36号住居址出土遺物実測図②



第163図　39号住居址出土遺物実測図

第4節　その他の遺構と遺物

(1)　竪穴住居址

7号住居址（第137図）

A地区で検出した。A地区側で検出した9号住居址覆土においてわずかに床面を確認した。プランは表土を掘削する際に掘り崩してしまったため不明である。土層断面では東壁の立ち上がりは確認できたが、西壁は確認できなかった。これは近世の撹乱により破壊されていることが考えられる。また、B地区側での9号住居址覆土の土層断面では貼り床は認められなかった。貼り床は黒褐色土にロームブロックが少量混じるものである。

出土遺物がみられず、時期は判然としないが平安時代前期以降の住居址であると思われる。

14号住居址

B地区北西部の調査区外との境で検出した。貼り床の一部を検出したのみであるため、プランは不明である。壁・ピット・炉またはカマド等は確認できず、遺物の出土もなかったため本址の時期は不明である。

(2)　掘立柱建物址

1号掘立柱建物址（第164図）

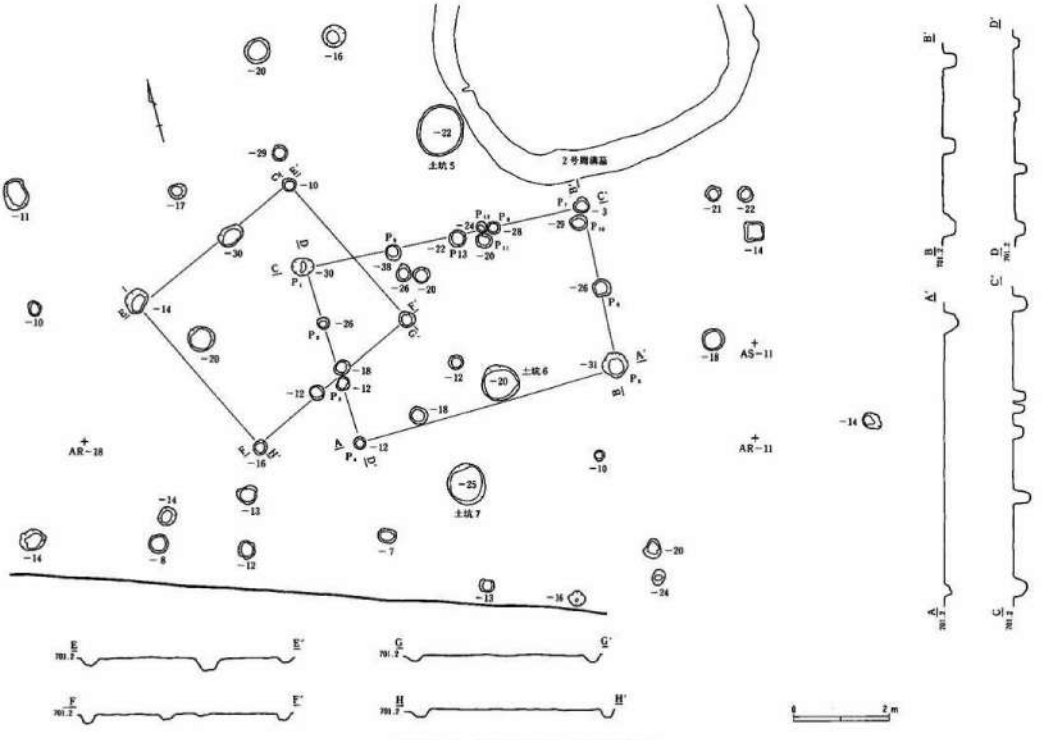
A地区で検出した。2号周溝墓の南側に位置する。長軸5.9m、短軸3.5mの長方形を呈し、長軸方向はN－89°－Wを示す。柱穴は不規則な配置となっており、P_1は北側へずれている。また、柱間においても東列を除いて不規則で、東列で北方向から180cm－180cm、西列で北方より116cm－132cm－132cm、南列で564cm、北列で西方向より176cm－215cm－188cmである。規模はおよそ3間×2間である。P_{10}～P_{13}は補助的な支柱であることが考えられる。

柱穴の平面形は円形を呈し、覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は柱穴内及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料が乏しいため不明である。

2号掘立柱建物址（第164図）

A地区で検出した。2号周溝墓の西側に位置する。長軸4.08m、短軸3.9mの長方形を呈し、長軸方向はN－64°－Eを示す。柱間は東列で3.84m、西列で3.9m、南北列で西方向より244cm－164cmを測る。規模はおよそ2間×2間となる。

柱穴の平面形は円形を呈し、覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は柱穴及びその周辺からの出土はみられなかった。本址の時期は、判断する材料



第164図　1・2号掘立柱建物址、柱穴遺構実測図

が乏しいため不明である。

(3) 柱穴遺構（第164図）

A地区で検出した。掘立柱建物址の周囲及び内側に26個を数える。全体的に掘立柱建物址の西側と南側に集中している。全てローム層まで掘り込まれているが、平面形及び底部の掘り方、深さなど共通性はみられない。覆土は黒褐色土とローム粒子を多量に含む褐色土の2層を基本としている。遺物は出土しておらず、本址の性格・時期等は不明である。

(4) 溝状遺構（第6図）

B地区で検出した。12号住居址東側一部、23号住居址の南壁及び北壁の一部、24号住居址の南壁及び北壁の一部、7号周溝墓の溝及び主体部の一部をそれぞれ破壊している。検出した溝の長さは57.3m、幅は195cm～115cmであり、N－46°－E方向に延びている。遺物は覆土上面より流入した縄文土器片がわずかに出土している。本址の時期は遺構に伴う遺物がみられず判然としないが、12号住居址との切り合い関係から、平安時代前期以降のものであると思われる。

(5) 遺構外出土遺物

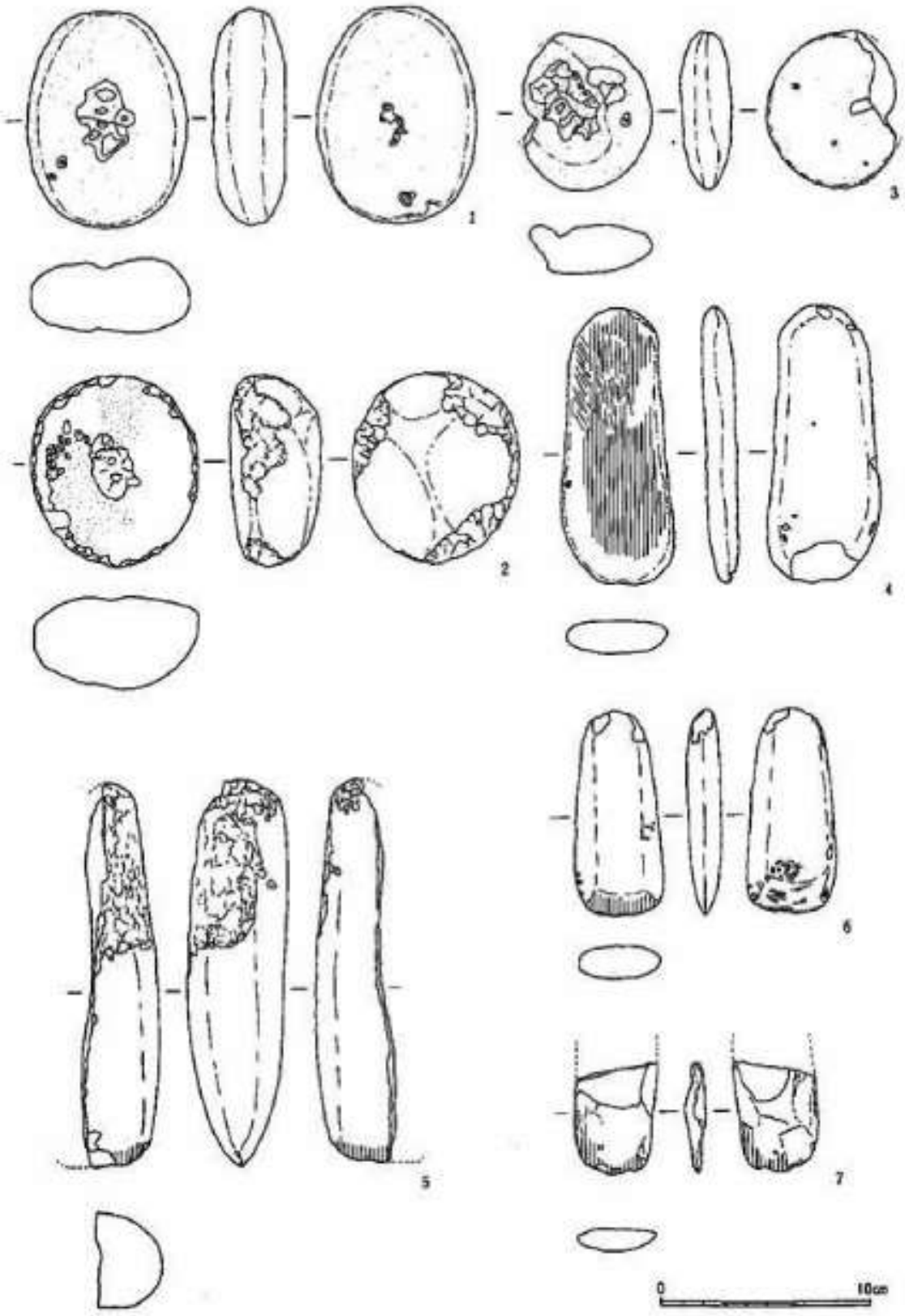
トレンチ調査及び上面確認を実施した際、出土した遺物のなかで本遺跡より検出した遺構の時期に該当しないもの、または特徴的なものをまとめた。

縄文時代では密度に差異のあるものの、調査地全域より縄文中期中葉から後葉にかけての土器片が出土しているが、1点のみ晩期の土器片（図165－1）が認められた。また、磨製石斧（図166－5～7）、凹石（図166－1～3）、砥石（図166－4）、黒曜石のチップ等が出土している。

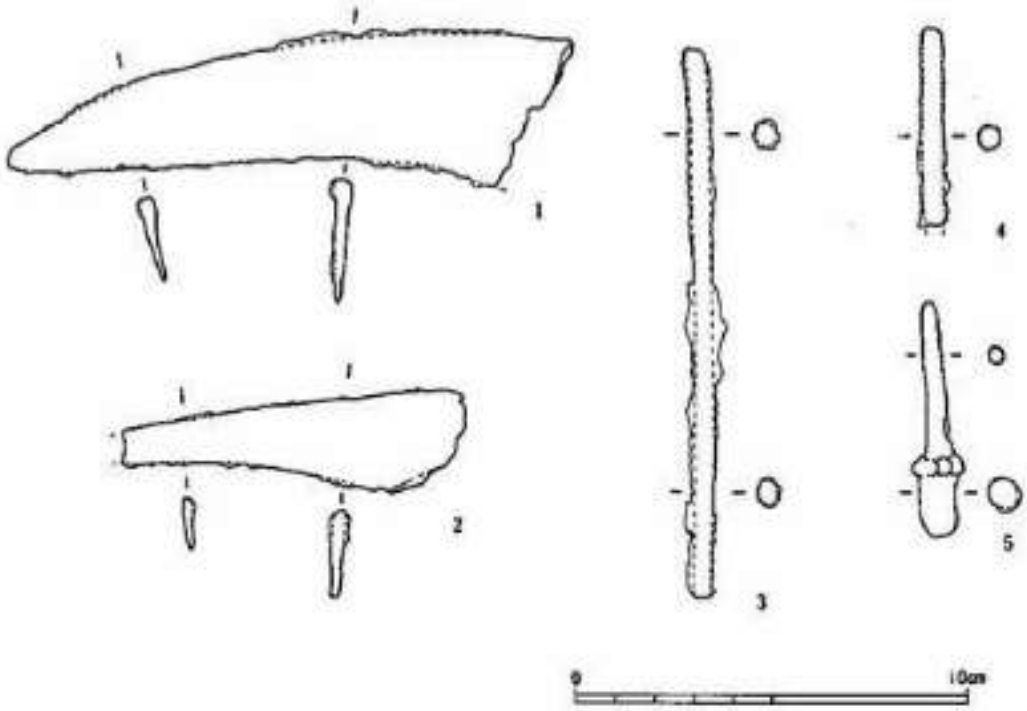
弥生時代のものは遺構外より遺物の出土は認められなかった。そのほか、時代は判然としないが、鉄器（図167－1～5）・鉄滓（第13表）が出土している。

中世以降では擂鉢・染付けの小皿等、陶磁器の破片が少量出土している。

第165図　遺構外出土土器拓影図



第166図　遺構外出土遺物実測図①



第167図　遺構外出土遺物実測図②

第4章　総　括

今回の調査は予想を遥かに上回る遺構、遺物の量と内容であり、諸々の事情によりこれらを完全に整理、検討を加えることはできなかったため本報告書では資料の提示を主とするにとどまったが、現段階での成果と、今後の課題を上げてみたい。

縄文時代では、中期中葉から後葉にかけての住居址18軒と土器廃棄場、土器を配列した特殊遺構、配石址等を検出した。住居址は調査区の北側に集中していることから、集落の中心は調査地北側になると思われる。中期中葉の住居址の配置は全体的に弧状となっていることから、環状ないし馬蹄形の集落構造となっていることが考えられる。住居址の規模としても比較的大型のものと小型のものがあることに注意しなければならない。

中期後葉になると環状ないし馬蹄形の集落形態から次第に周囲に拡散していく傾向になると思われるが、調査範囲内の検出した住居址のみでは結論を出すのには不十分である。

土器廃棄場は時間的な制約によりその範囲を示すのみとなってしまった。廃棄土器が特殊遺構の周辺に集中していることから、土器の配列から廃棄行為へと変化していったことが考えられるが、廃棄された土器片の分類整理が不完全であるため、はっきりとこの流れをつかむことは現段階ではできない。今後の課題として取り組んでいきたい。

土器を配列した特殊遺構の検出は、今回の調査の中で大きな成果の一つであったといえる。台付浅鉢型土器を取り巻くように半月状に配置された土器はいずれも口縁が南方を向いており、立っていたものが自然に倒れたとは考えられず、意識的に方向性をもたせて横倒しにしたものと思われる。周囲に配置された土器についても1個体のものと2個体のものがみられ、2個体のものはいずれも並列した状態であり、なんらかの意味をもつものと考えられる。台付浅鉢型土器の設置状況及び周囲の土器の配置からみて、明らかに祭祀的行為の行われたことが推定されるが、それがどのような意味をもつものかははっきりしない。配置された土器の周囲から火熱を受けた石及び土器片が出土していることから、何らかの形で火を伴うものであったことが想起される。

配石址は保存状態があまり良好でなかったことから、帰属時期・用途など問題と課題が多く残るものである。

遺物では人体文の付いた有孔鍔付土器、5本の指に爪・関節部が表現された土器破片、裏に渦巻き状の文様をもつ器台など特異なものがあり、集落を構成していた集団の特徴を表すものであると思われる。特に人体文付有孔鍔付土器は両腕の肘より先が欠落しているものの、人体の五肢がはっきりと表現されており、肩部から離されて付けられている奇異な表現がされた顔など有孔鍔付土器だけでなく、集落を構成していた人々の精神性を考察する上でたいへん意義の大きいものと考える。土器類では祭祀色の強いものが多く見られるのに対し、石器類では石棒の出土がまったくみられなかったことは偶然と考えるべきであろうか。

今回の調査では集落の一部の検出であったため全体像ははっきりとしないものの、その規模、

内容ともに周囲の遺跡を圧倒するものである。久保上ノ平遺跡の南に位置する天伯遺跡の調査においても、量的にみて中期中葉の遺構、遺物が多いことから、この周辺に幾つかの集落が帯状に点在し、その中でも本遺跡が拠点的な役割を果たしていたことが推測されるが、村内での天竜川右岸段丘上の縄文集落の発掘調査は今回が3件目であり、検討資料が不十分であるため、今後の資料の追加を待ちたい。

弥生時代では、後期の住居址5軒と周溝墓9基を検出した。4号住居址と3号周溝墓の切り合い関係が判然としないため住居址と周溝墓との前後関係ははっきりとしないが、居住域から墓域に移行していったと考えた方が妥当と思われる。段丘下に広がる沖積地には水田遺跡である箕輪遺跡がひろがっており、沖積地に接する段丘上に位置する集落はこれを生産基盤に構成されていたことが考えられ、沖積地の利用範囲の広がりとともに集落もより低地に近い、広い段丘面に移行していったことが考えられる。また、検出した周溝墓には比較的小型で周溝が円形に近いものがみられることから方形周溝墓との造営時期等、差異の検討を要するところである。周溝墓の検出は村内初の事例であり、その検出数から本遺跡より下の段丘面、もしくはその周辺にさらに大規模な集落が埋蔵されていることが予想される。

奈良・平安時代では住居址15軒を検出した。保存状態が良好であったことから転用硯、墨書土器のほか、火災住居址より出土した灰釉陶器類の遺物の出土があり、良好な資料となった。

本遺跡の集落の性格は、各住居址の明確な時期区分ができないため即断できないが、奈良時代末から平安時代前期にかけての住居址群には比較的大型の住居址がみられることから、ある程度まとまりのある集落を形成していたと思われる。A区で検出した掘立柱建物址においてもこれに付随していたものであることが考えられる。

また、中期では灰釉陶器の出土がみられた住居址は2軒で、これらはいずれも比較的小型の住居址であり、それぞれの住居址間には距離があることからみて、この頃になると居住域が拡散し、数件の住居が点在するようになったものと思われるが、集落形成の変遷及び規模については不明な点が多く、今後の周辺の調査による資料の追加を必要とする。

以上、調査の結果と課題・問題を述べたが、調査地の地形がほぼ自然の状態に近く、遺跡の保存状態が良好であること、また遺跡の規模及び内容から、周辺一帯においても同様の状態で遺跡が埋蔵されている可能性が強く、今後の保存対策が大きな課題になると考える。

なお、最後になったが調査及び本書の作成にあたり、ご理解と多大なご尽力を頂いた関係諸機関をはじめ、発掘調査団の皆様、ご指導、ご協力を頂いた先輩諸氏に深く感謝するとともに、ご教示を頂きながら担当者の力不足によりそれを生かしきれなかったことをお詫びしてまとめとしたい。

引用参考文献

長野県教育委員会　1972　『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　上伊那郡南箕輪村その1・その2』

長野県教育委員会　1990　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4　—松本市内その1—　総論編』

長野県史刊行会　1981　『長野県史　考古資料編　全1巻(3)　遺構・遺物』

㈱中部建設協会　1985　『天竜川上流域地質図』

日本道路公団名古屋建設局　1986　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3　—塩尻市内その2—　吉田川西遺跡』
長野県教育委員会
㈶長野県埋蔵文化財センター

岡谷市教育委員会　1986　『梨久保遺跡　—中部山岳地の縄文時代集落址—梨久保遺跡第5次～第11次発掘調査報告書』

箕輪町教育委員会　1995　『堂地中道遺跡　—平成4～6年度県営畑地帯総合土地改良事業伊那西部地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』

駒ヶ根市教育委員会　1990　『反目・遊光・殿村・小林遺跡』

飯田市教育委員会　1986　『恒川遺跡群　——般国道153号座光寺バイパス用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—』

飯田市教育委員会　1987　『殿原遺跡　——般国道153号飯田バイパス（1工区）用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—』

南箕輪村村誌編纂委員会　1990　『南箕輪村誌　上巻　自然編・遺跡編・信仰生活編民俗編』

南箕輪村村誌編纂委員会　1990　『南箕輪村誌　下巻　歴史編』

南箕輪村教育委員会　1967　『天伯遺跡緊急発掘調査概報』

南箕輪村教育委員会　1969　『神子柴遺跡緊急発掘調査報告書（第3次発掘調査）』

南箕輪村教育委員会　1973　『高根遺跡』

南箕輪村教育委員会　1975　『大芝東遺跡』

南箕輪村教育委員会　1992　『北垣外遺跡　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

南箕輪村教育委員会　1993　『箕輪遺跡　上伊那郡南箕輪村塩ノ井中田地区』

南箕輪村教育委員会　1994　『宮ノ上墳墓　宮ノ上遺跡発掘調査報告書』

第3表　土坑一覧表

No.	位　置	規模(cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	断面形	出土遺物	備　考
1	AV－21	109.8	95.0	43.0	不整楕円形	台形	—	
2	5号住居址	125.0	106.7	56.0	〃	〃	黒曜石(1)	床面下で検出
3	4号住居址	113.5	66.0	22.0	不整隅丸方形	〃	—	
4	1号周溝墓	—	74.0	24.0	不整円形	〃	—	近代の撹乱により一部消滅
5	AV－14	107.0	96.0	22.0	楕円形	〃	—	
6	AR・S－13・14	80.0	76.0	19.0	不整円形	〃	—	
7	AQ・R－14	79.6	78.0	25.0	〃	〃	—	
8	11号住居址	91.8	77.4	82.0	不整楕円形	〃	—	
9	15号住居址	98.1	88.8	15.0	〃	〃	—	
10	16号住居址	93.0	87.0	20.0	不整円形	〃	—	
11	BW・X－33・34	84.0	81.0	14.0	〃	〃	—	
12	BW・X－29	78.0	68.4	40.0	不整隅丸方形	〃	—	25号住居址北壁の一部を破壊
13	26号住居址	57.0	51.9	19.0	不整円形	〃	砂岩(2)	
14	27号住居址	69.0	41.7	29.0	不整楕円形	〃	擬鉢型土器(1)	
15	〃	(75.0)	48.0	24.0	〃	〃	—	一部P_4と重複
16	32号住居址	153.9	87.0	56.0	〃	〃	—	32号住居址北壁の一部を破壊
17	33号住居址	63.6	56.4	60.0	〃	袋状	擬鉢型土器(1)	
18	34号住居址	93.2	65.7	11.0	〃	台形	〃	
19	〃	87.0	47.4	30.0	〃	袋状	—	
20	35号住居址	90.0	67.2	17.0	〃	台形	—	
21	〃	75.0	49.2	13.0	〃	〃	—	
22	〃	90.0	68.0	22.0	〃	〃	—	
23	〃	93.6	57.0	53.0	〃	袋状	—	
24	〃	(69.0)	73.5	18.0	〃	台形	—	土坑23と重複
25	BY・CA－34	102.0	77.0	15.0	〃	〃	—	
26	CA・B－34・35	78.0	66.0	35.0	〃	〃	—	
27	CA・C－34	—	—	10.0	〃	〃	擬鉢型土器上部(1) 底部(1)	2個重複か？
28	7号周溝墓	123.0	84.0	70.0	不整隅丸方形	〃	—	34号住居址，7号周溝墓と重複
29	BF・G－25・26	88.0	48	21.0	不整楕円形	〃	—	土坑30と重複
30	〃	—	—	29	〃	〃	—	41号住居址と重複
31	7号周溝墓	167.0	110	70	不整隅丸方形	〃	—	7号周溝墓の溝に北側及び南側の壁の一部を破壊されている
32	配石址	121.5	(75.0)	42	不整楕円形	〃	—	配石址P_3と重複する

第4表　縄文時代の遺構出土土器観察表(1)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	残存度	出土位置	備考
12号住	13－1	深鉢	(18.4)	—	—	ミガキ	ミガキ	砂粒少量	良好	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	2/5	床面	
	13－2	〃	7.8	6.9	14.65	ナデ	ナデ	〃	普通	にぶい黄橙色(10YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	2/3	床面直上	鍵形文6単位
24号住	17－1	〃	22.5	—	—	〃	〃	砂粒多い	〃	橙色(2.5YR6/6)	にぶい黄褐色(2.5YR5/4)	4/5	炉	埋甕炉埋設土器
25号住	19－1	〃	32.7	—	—	〃	〃	〃	〃	橙色(2.5YR6/8)	橙色(2.5YR6/8)	1/3	〃	〃
	20－2	〃	21.5	12.9	34.1	ミガキ（部分的）	ミガキ	精良、砂粒少量	良好	橙色(7.5YR7/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	9/10	床面	7単位の波状口縁、内面に炭化物付着
	20－3	〃	22.6	13.0	37.8	ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	上部にぶい褐色(7.5YR5/3) 下部橙色(5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	4/5	〃	
	21－4	〃	21.2	—	—	工具によるナデ(縦)	〃	精良	良好	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/8	覆土中層	内面に炭化物付着
	21－5	〃	23.8	—	—	ミガキ	ミガキ	精良、砂粒少量	〃	橙色(2.5YR6/8)	にぶい赤褐色(5YR4/3)	1/30	床面	内面口縁部に炭化物付着
	21－7	〃	19.2	11.0	31.6	ナデ,胴部縦方向ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	上部暗赤褐色(5YR3/3) 下部橙色(2.5YR6/8)	灰褐色(5YR4/2)	4/5	〃	
	21－8	〃	—	20.5	—	ナデ	〃	精良、砂粒多い	〃	橙色(5YR7/6)	にぶい橙色(5YR6/4)	1/5	〃	
	22－10	有孔鍔付土器	(22.3)	—	—	ミガキ	ミガキ	精良、砂粒少量	〃	橙色(5YR6/6)	にぶい赤褐色(5YR5/3)	1/20	覆土中層	口縁部内外面に部分に朱塗りが残る
27号住	26－1	深鉢	(22.4)	9.8	28.7	ナデ	ナデ	精良、砂粒少量	良好	上部暗赤褐色(5YR3/3) 下部にぶい橙色(5YR6/3)	にぶい赤褐色(5YR5/3)	4/5	土坑	
	26－2	〃	—	10.4	—	〃	〃	精良	〃	明赤褐色(2.5YR5/4)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/4	覆土中層	
	26－3	〃	—	5.4	—	〃	〃	〃	普通	橙色(5YR6/6)	灰黄褐色(10YR5/2)	1/20	〃	内面に炭化物付着
	26－4	〃	24.6	—	—	ミガキ	ミガキ	砂粒多い	良好	にぶい黄橙色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	1/2	床面	
	26－5	〃	13.3	(6.5)	17.6	〃	〃	精良	〃	橙色(5YR6/6)	にぶい赤褐色(5YR4/3)	4/5	〃	上胴部鍵形文4単位、下胴部鍵形文3単位
	26－6	〃	—	7.7	—	ナデ、胴部下ミガキ	ナデ	〃	〃	赤褐色(2.5YR4/6)	暗赤褐色(2.5YR3/2)	1/2	覆土中層	鍵形文6単位
	26－7	浅鉢	—	10.0	—	ミガキ	ミガキ	精良、砂粒少量	〃	橙色(7.5YR7/6)	灰褐色(7.5YR5/2)	1/10	床面	
	27－8	〃	36.9	11.8	25	〃	〃	精良	〃	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(2.5YR5/4)	3/4	〃	焼成後胴部に2ヶ所穿孔
	27－9	釣手型土器	[illegible]	8.8	8.4	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	〃	〃	赤色(10R5/8)	明赤褐色(2.5YR5/5)	9/10	〃	内面に炭化物付着
	28－11	深鉢	41.0	14.6	61.7	ナデ	ナデ	砂粒多い	良好	上部灰褐色(7.5YR4/2) 下部橙色(7.5YR6/6)	橙色(7.5YR6/6)	3/5	〃	内面部分的に剥離、4単位の波状口縁
29号住	32－1	〃	17.7	5.9	18.0	ミガキ	ミガキ	精良、砂粒少量	良好	橙色(5YR6/6)	褐灰色(5YR4/1)	3/5	床面直上	4単位の波状口縁、鍵形文5単位
	32－2	〃	15.8	—	—	ナデ	ナデ	精良	普通	灰褐色(7.5YR6/2)	褐灰色(7.5YR4/1)	3/4	〃	
30号住	36－1	〃	27.4	13.9	44.3	〃	〃	砂粒多い	〃	上部黒褐色(7.5YR3/1) 下部橙色(7.5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR5/4)	3/5	床面	内外面ともに風化が著しい
	36－2	〃	(30.4)	—	—	〃	〃	精良	良好	にぶい褐色(7.5YR5/3)	灰褐色(7.5YR5/2)	1/30	覆土上層	
	36－3	〃	—	—	—	〃	〃	精良、砂粒少量	普通	橙色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR4/4)	2/5	覆土中層	内外面に炭化物付着
	37－4	〃	31.1	—	—	〃	〃	精良	良好	灰褐色(7.5YR4/2)	明黄褐色(10YR7/6)	3/5	床面	4単位の波状口縁、内2ヶ所欠損
	37－5	〃	—	—	—	〃	〃	砂粒多い	普通	暗褐色(7.5YR3/3)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/4	炉	埋甕炉埋設土器
31号住	40－1	浅鉢	(25.8)	—	—	ミガキ(粗い)	ミガキ	〃	良好	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR6/6)	1/20	覆土中層	
32号住	43－1	深鉢	(32.3)	—	—	口縁部ミガキ,胴部ナデ	ナデ	精良、砂粒少量	〃	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/2	〃	埋甕土器
	44－2	〃	(25.7)	11.6	36.1	ナデ	〃	精良	〃	上部褐灰色(7.5YR4/1) 下部橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	3/5	〃	埋甕土器、鍵形文4単位
	44－3	〃	(21.5)	10.6	34.4	〃	〃	〃	〃	上部灰褐色(7.5YR5/2)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	3/5	〃	埋甕土器、鍵形文4単位
	45－4	〃	20	—	—	〃	〃	砂粒多い	普通	明赤褐色(2.5YR4/6)	橙色(5YR6/6)	1/2	〃	埋甕土器
	45－5	〃	16.9	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR4/3)	3/4	床面直上	4単位の波状口縁、鍵形文6単位

第4表　縄文時代の遺構出土土器観察表(2)

遺構	図版No	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
32号住	45−5	深鉢	—	8.8	—	ナデ、底部ミガキ	ナデ	精良	良好	橙色(7.5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/4	床面直上	渦巻文6単位、底部に木葉痕
	45−7	浅鉢	15.2	6.9	9.3	ミガキ	不明	精良、砂粒少量	良好	明赤褐色(2.5YR5/6)	橙色(2.5YR6/8)	1/2	覆土中層	鳥像土器、内面斜格子状沈線装飾部に2ヶ所穿孔
	45−8	深鉢	13.5	7.5	11.7	ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	橙色(5YR6/6)	褐灰色(5YR4/1)	9/10	〃	鳥像土器、内部に多量の炭化物付着
	45−9	〃	18.1	—	—	〃	〃	精良	良好	にぶい橙色(7.5YR6/6)	橙色(7.5YR6/6)	2/3	P₁	
	46−10	〃	24.8	—	—	〃	〃	〃	普通	にぶい褐色(7.5YR5/3)	灰褐色(7.5YR5/2)	2/3	覆土中層	鍔状土器、4単位の波状口縁、渦巻文6単位
	46−11	〃	32.5	—	—	〃	〃	砂粒多い	〃	橙色(2.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR7/3)	2/3	炉	埋甕炉使用土器
	46−12	〃	—	10.2	—	〃	〃	精良、砂粒少量	〃	橙色(7.5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/10	床面直上	
	46−13	深鉢	19.8	—	—	ナデ	ナデ	精良	良好	にぶい橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/2	SU−19	
	47−14	浅鉢	(40.4)	—	—	ミガキ	ミガキ	〃	〃	橙色(7.5YR7/6)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/20	覆土中層	
33号住	53−1	深鉢	(22.6)	—	—	ナデ	ナデ	〃	普通	明褐灰色(7.5YR7/2)	明褐灰色(7.5YR7/2)	1/8	覆土上層	
	53−2	〃	—	12.3	—	〃	〃	砂粒多い	〃	上部褐灰色(7.5YR4/1) 下部橙色(5YR6/6)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	1/2	土坑	渦巻文4単位
	53−3	台付	15.5	15.6	6.56	ナデ	ナデ	〃	〃	橙色(5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	ほぼ完形	床面	頸部に渦巻状の沈線文、…
34号住	58−1	浅鉢	43.0	—	—	ミガキ	ミガキ	精良	良好	橙色(5YR6/6)	橙色(7.5YR6/6)	1/20	炉	
	58−2	深鉢	15.6	—	—	ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	にぶい橙色(7.5YR7/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	4/5	床面	内面剥落
	58−3	〃	8.8	7.2	10.8	〃	〃	精良、砂粒少量	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/3	P₁	底部に木葉痕
	58−4	〃	—	—	—	〃	〃	〃	良好	赤褐色(2.5YR4/8)	明赤褐色(5YR5/6)	1/5	炉	埋甕炉使用土器
	58−5	〃	24.8	—	—	〃	〃	精良	〃	上部褐灰色(5YR4/1) 下部にぶい橙色(5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	9/10	土坑	4単位の波状口縁、焼成後胴部に7ヶ所穿孔
	59−6	〃	—	—	—	〃	〃	〃	普通	橙色(5YR6/6)	にぶい赤褐色(5YR5/3)	1/3	床面	渦巻文4単位
	59−8	〃	30.5	11.0	37.0	〃	〃	〃	〃	上部灰褐色(5YR4/2) 下部明赤褐色(5YR5/8)	にぶい橙色(5YR6/4)	3/5	〃	
	59−9	〃	14.6	7.7	17.75	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(5YR5/4)	灰褐色(5YR5/2)	9/10	〃	
	60−10	有孔鍔付土器	14.0	—	—	ミガキ	ミガキ	砂粒多い	良好	橙色(2.5YR6/6)	橙色(2.5YR6/6)	1/20	覆土上層	
35号住	64−1	深鉢	21.4	—	—	ナデ	ナデ	〃	普通	橙色(2.5YR6/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	1/3	覆土中層	内外面とも剥落が著しい
	64−2	〃	—	8.6	—	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	明赤褐色(2.5YR5/8)	1/4	〃	渦巻文5単位
37号住	67−1	〃	(44.6)	(14.6)	86.1	ミガキ	ミガキ	精良、砂粒少量	良好	にぶい赤褐色(5YR5/3)	明赤褐色(2.5YR5/6)	1/2	〃	
	68−2	〃	36.5	—	—	ナデ	〃	砂粒多い	普通	橙色(7.5YR6/6)	明赤褐色(5YR5/8)	1/3	〃	
	69−3	深鉢	32.0	13.4	45.8	ナデ	ナデ	精良	良好	上部灰褐色(7.5YR5/2) 下部にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	9/10	〃	内面部分的に剥離
	69−4	〃	19.3	9.1	6.8	〃	〃	砂粒多い	普通	にぶい褐色(7.5YR6/3)	褐灰色(7.5YR4/1)	4/5	〃	底部網代痕
	70−5	〃	15.6	8.2	31.0	ミガキ	〃	精良	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	9/10	〃	5単位の波状口縁、胴部V字状隆帯文5単位
	70−6	〃	15.8	—	—	ナデ	〃	砂粒多い	普通	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	内面剥落著しい
	70−7	〃	6.4	—	—	〃	〃	精良	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/5	覆土上層	
	70−8	〃	12.0	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(2.5YR4/3)	暗赤褐色(2.5YR3/4)	4/5	覆土中層	
	70−9	〃	(12.4)	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(5YR5/3)	橙色(5YR6/6)	1/10	〃	
	71−10	浅鉢	30.0	12.9	25.35	ミガキ	ミガキ	砂粒多い	普通	橙色(5YR6/6)	灰褐色(5YR4/2)	4/5	〃	4単位の波状口縁、内面風化剥落著しい
	71−11	〃	36.75	10.2	22.0	〃	〃	精良	良好	橙色(5YR6/6)	にぶい赤褐色(5YR5/3)	9/10	床面	
	71−12	〃	(42)	—	—	〃	〃	〃	〃	明赤褐色(2.5YR5/6)	にぶい褐色(2.5YR5/3)	1/20	覆土中層	

第4表　縄文時代の遺構出土土器観察表(3)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
37号住	72－13	深鉢	(30.6)	—	—	ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/4	覆土中層	波状口縁5単位か？
49号住	75－1	有孔鍔付土器	21.3	21.0	29.9	ミガキ、赤色塗彩	ミガキ、赤色塗彩	〃	良好	橙色(5YR6/6)	にぶい橙色(5YR6/4)	3/4	床面	第79図に断面記述
	75－2	台付土器	—	7.3	—	ナデ	ナデ	精良	良好	橙色(7.5YR6/6)	褐灰色(7.5YR)	1/10	〃	
41号住	80－1	深鉢	15.6	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/2	〃	4単位の波状口縁、内面に炭化物付着
特殊遺構	95－1	浅鉢	27.8	22.4	17.2	ミガキ	ミガキ	砂粒多い	普通	赤色(10R4/6)	赤色(10R4/8)	9/10		完成後底部穿孔、台部の孔4単位
	95－2	深鉢	(25.6)	12.2	39.6	ナデ	ナデ	〃	〃	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/2		縄文4単位、内外面の剥落著しい
	96－3	〃	(12.2)	13.4	39.05	〃	〃	〃	良好	明赤褐色(5YR5/6)	灰褐色(5YR4/2)	3/4		
	97－4	〃	(20.5)	11.6	38.2	〃	〃	精良	〃	にぶい赤褐色(5YR4/4)	にぶい赤褐色(5YR4/3)	3/4		
	97－5	〃	17.7	10.3	27.85	〃	〃	砂粒多い	〃	赤褐色(2.5YR4/6)	にぶい赤褐色(2.5YR4/3)	3/4		
	97－6	〃	—	—	—	〃	〃	〃	〃	赤褐色(2.5YR4/6)	暗赤灰色(2.5YR3/1)	3/4		
	97－7	〃	12.2	7.25	22.6	〃	〃	精良	〃	赤褐色(2.5YR4/6)	暗赤灰色(2.5YR3/1)	3/4		把手部欠損
	96－8	〃	21.3	12.9	38.0	ミガキ	ミガキ	〃	〃	明赤褐色(2.5YR5/6)	赤褐色(2.5YR4/8)	4/5		
	96－9	深鉢	27.2	15.6	51.8	口縁部ミガキ、胴部ナデ	ナデ	砂粒多い	普通	にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/10		
配石遺構	101－1	ミニチュア土器	3.7	2.9	3.35	口縁部ナデ、手捏	〃	精良	良好	明赤褐色(5YR5/6)	明赤褐色(5YR5/6)	完形		指頭圧痕文
	101－2	〃	4.9	1.6	4.0	ナデ	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい赤褐色(5YR5/4)	9/10		内側に輪積痕が残る
	101－3	〃	6.8	4.35	4.9	口縁部ナデ、手捏	〃	〃	〃	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(5YR4/6)	3/4		外側下部に指頭圧痕文
	101－4	〃	3.7	2.7	2.7	ナデ	〃	〃	〃	にぶい橙色(5YR6/4)	にぶい橙色(5YR6/4)	完形		内側に輪積痕が残る、孔縁文
土坑27	102－1	深鉢	33.6	—	—	〃	〃	〃	〃	黒褐色土(5YR3/1)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/4	覆土中層	内面部分的に剥落
	102－2	〃	—	15.5	—	ナデ、底部網目ミガキ	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)	1/20	〃	上記の土器と同一個体か？

第5表　弥生時代の遺構出土土器観察表

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
4号住	88－1	壺	22.7	—	—	ナデ	ナデ後・斜	砂粒少量	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)	2/5	炉	焼成炉埋設土器
	88－2	〃	12.8	5.7	16.3	〃	〃	〃	普通	にぶい黄橙色(10YR6/3)	灰黄褐色(10YR5/2)	口縁部完形	床面	内面に炭化物付着
16号住	89－1	〃	—	8.9	—	ヘラミガキ	ナデ	〃	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	橙色(5YR6/6)	1/20	覆土下層	
	89－2	〃	—	6.5	—	ナデ後	ナデ後・斜	精良	良好	にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
18号住	89－1	〃	19.8	—	—	〃	〃	砂粒多い	普通	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR7/3)	1/30	覆土中層	
	89－2	〃	—	5.35	—	ナデ後	ナデ後	精良	〃	にぶい橙色(10YR6/3)	橙色(10YR6/6)	1/10	床面	
	89－3	〃	23.5	—	—	口縁部ハケ、胴部ヘラガキ	ハケ後・横・斜	〃	良好	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR7/6)	1/2	炉	焼成炉埋設土器
	89－4	〃	17.9	7.9	25.4	ハケ後・斜	ハケ後	砂粒少量	普通	にぶい黄橙色(10YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)	3/5	床面	外面に炭化物付着
	89－5	壺	15.5	—	—	口縁部ヘラナデ後胴部ハケ斜	ヘラナデ後	〃	良好	明赤褐色(2.5YR5/6)	にぶい赤褐色(5YR5/4)	1/20	〃	
19号住	110－1	壺	—	—	—	ナデ、ハケ斜	ヘラナデ後・斜	〃	普通	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR7/6)	1/4	炉	焼成炉埋設土器
23号住	110－1	壺	8.3	—	—	ナデ	ヘラナデ後	砂粒多い	〃	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR7/6)	1/2	床面	外面頸部の剥離が著しい
	110－2	壺	—	—	—	口縁部ハケ後、胴部ナデ	ヘラミガキ	砂粒少量	〃	橙色(7.5YR7/6)	橙色(7.5YR7/6)	1/2	炉	焼成炉埋設土器
	110－3	〃	—	—	—	ナデ、ハケ斜	ナデ	精良	良好	灰黄褐色(7.5YR6/4)	橙色(7.5YR7/6)	2/3	〃	焼成炉埋設土器、内外面に炭化物付着
	110－4	壺	—	10.4	—	ヘラミガキ	剥落	砂粒少量	普通	橙色(7.5YR6/6)	橙色(7.5YR7/6)	1/10	床面	底板に木葉痕
	110－5	壺	—	—	—	ハケ斜	ハケ斜	精良	良好	橙色(7.5YR7/6)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/4	覆土上層	

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(1)

遺構	図版No.	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	残存度	出土位置	備考
1号住	Ⅲ－1	坏(土)	12.0	—	—	ロクロナデ	黒色処理,横ヘラミガキ	石英・雲母含む	良好	明褐色(7.5YR5/8)	黒色(7.5YR1.7/1)	口縁のみ 1/6	覆土中層	
	Ⅲ－2	〃	14.0	—	—	〃	〃	石英・長石多い、雲母含む	〃	にぶい黄橙色(10YR6/4)	明褐色(7.5YR5/8)	口縁のみ 1/4	覆土下層	内部の黒色処理が?大概成により消滅
	Ⅲ－3	坏(須)	13.8	6.2	3.85	ロクロナデ,底部回転糸切り	ロクロナデ	砂粒多い	普通	灰白色(7.5YR8/1)	灰白色(2.5Y8/2)	1/2	〃	体部墨書
	Ⅲ－4	椀(須)	17.2	—	—	ロクロナデ	〃	精良緻密	良好	灰白色(5Y8/1)	灰白色(5Y8/2)	口縁部のみ 1/3	床面直上	
	Ⅲ－5	長胴甕(土)	19.5	—	—	口縁部ハケ,胴部ヘラミガキ	ハケ	石英・雲母含む	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/10	覆土中層	
	Ⅲ－6	長頸壺(須)	—	—	5.7	ロクロナデ,高台部回転糸切り	ロクロナデ	精良,砂少量	〃	暗灰色(N3/0)	灰色(N4/0)	1/4	床面	
2号住	Ⅲ－1	坏(土)	—	6.8	—	〃	黒色処理,横ヘラミガキ	精良,石英・長石含む	〃	にぶい黄橙色(10YR5/3)	黒色(10YR2/1)	底部1/2	〃	
	Ⅲ－2	〃	15.4	—	—	ロクロナデ	〃	精良,砂少量	〃	明褐色(10YR3/3)	黒色(10YR2/1)	口縁部のみ 1/20	覆土上層	
	Ⅲ－3	〃	12.0	—	—	〃	〃	石英・長石多い	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	黒色(10YR2/1)	口縁部のみ 1/20	〃	
	Ⅲ－4	〃	9.22	—	—	〃	横ヘラミガキ	石英・長石・雲母含む	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	口縁部のみ 1/20	覆土上層	
6号住	Ⅲ－1	蓋(須)	15.8	—	—	ロクロナデ,天井部回転ヘラケズリ	ロクロナデ	精良緻密	〃	緑灰色(7.5YG5/1)	暗緑灰色(10G4/1)	1/4	床面	
	Ⅲ－2	〃	15.2	—	—	ロクロナデ	〃	〃	〃	緑灰色(7.5YG5/1)	暗青灰色(10BG3/1)	1/10	〃	
	Ⅲ－3	坏(須)	12.8	9.6	3.0	ロクロナデ,底部回転糸切り,貼付高台	〃	〃	〃	青灰色(5BG5/1)	明オリーブ灰色(2.5YG7/1)	1/4	〃	
	Ⅲ－4	小型甕(土)	—	4.8	—	ハケ	ヘラミガキ	精良	〃	黄褐色(2.5Y5/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)	1/4	〃	
	Ⅲ－5	〃	11.4	8.95	12.8	口縁部ハケ,胴部ヘラミガキ	ハケ	精良,砂粒・雲母少量	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	2/3	〃	底部に木葉痕
	Ⅲ－6	〃	13.0	8.5	12.3	〃	〃	〃	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	9/10	〃	底部に木葉痕
	Ⅲ－7	〃	15.6	—	—	〃	口縁部ハケ,胴部ナデ	精良,雲母多い	〃	にぶい橙色(7.5YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/10	〃	
	Ⅲ－8	長胴甕(土)	25.0	—	—	ナデ	ハケ	精良,砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR6/4)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	1/3	〃	
	Ⅲ－9	〃	24.0	—	—	口縁部ハケ,胴部ヘラミガキ	口縁部ハケ,胴部ヘラミガキ	精良,石英・長石・雲母含む	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/4	〃	
	Ⅲ－10	〃	30.0	—	—	ハケ	ハケ	精良,雲母多い	〃	灰黄褐色土(10YR5/2)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	1/20	〃	
8号住	Ⅳ－1	坏(土)	—	4.81	—			精良・砂粒少量	〃	明赤褐色(2.5YR5/8)	明赤褐色(2.5YR5/8)	1/4	〃	甲斐型か?
	Ⅳ－2	〃	—	9.9	—	ロクロナデ	黒色処理,横ヘラミガキ	精良,砂粒・雲母少量	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	黒色(10YR2/1)	1/10	〃	
	Ⅳ－3	〃	—	7.0	—	〃	〃	精良,砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR7/3)	黒色(10YR1.7/1)	1/10	〃	
	Ⅳ－4	坏(須)	12.5	5.95	3.85	ロクロナデ,底部回転糸切り	ロクロナデ	精良,砂粒やや多い	〃	オリーブ灰(2.5GY5/1)	暗緑灰色(10GY4/1)	3/4	〃	
	Ⅳ－5	〃	—	8.85	—	ロクロナデ,底部回転糸切り,貼付高台	〃	精良,小石多い	普通	灰色(N4/)	灰色(N4/)	1/3	〃	
	Ⅳ－6	〃	—	9.04	—	〃	〃	精良	〃	灰色(N5/)	灰色(N5/)	1/3	〃	
	Ⅳ－7	〃	—	9.0	—	〃	〃	精良,緻密	良好	黄灰色(2.5Y6/1)	明オリーブ灰(2.5GY7/1)	1/3	〃	転用硯
	Ⅳ－8	小型甕(土)	10.1	—	—	口縁部ロクロナデ,胴部ヘラ状工具によるロクロナデ	〃	〃	〃	橙色(7.5YR7/6)	明黄褐色(10YR7/6)	1/5	〃	
	Ⅳ－9	〃	20.3	—	—	口縁部ロクロナデ,胴部ヘラ状工具によるロクロナデ	〃	精良,砂粒少量	〃	橙色(7.5YR6/6)	にぶい橙色(7.5YR6/3)	1/10	〃	
	Ⅳ－10	小型甕(土)	—	6.7	—	ハケ	ヘラミガキ	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR7/4)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	1/20	〃	底部に木葉痕
	Ⅳ－11	長胴甕(土)	—	14.7	—	〃	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい橙色(5YR6/4)	1/10	〃	外部に炭化物付着
	Ⅳ－12	甑(土)	25.6	—	—	〃	ハケ	石英・長石多い	普通	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
9号住	Ⅲ－1	坏(土)	15.8	—	—	ロクロナデ	黒色処理,横ヘラミガキ	精良緻密	良好	にぶい黄橙色(10YR6/4)	黒色(10YR2/1)	1/5	〃	

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(2)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
9号住	図-2	坏(土)	19.6	—	—	ロクロナデ	黒色処理,横ヘラミガキ	細良細密	普通	にぶい黄橙色(10YR5/3)	黒色(10YR2/1)	1/10	床面	
	図-3	坏(須)	14.1	—	—	〃	ロクロナデ	細良	〃	緑灰色(5G6/1)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	1/10	〃	
	図-4	〃	13.2	—	—	〃	〃	細良,砂粒少量	〃	オリーブ灰(2.5GY6/1)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	1/10	覆土下層	
	図-5	〃	13.5	—	—	〃	〃	細良細密	良好	青灰色(10BG6/1)	青灰色(10BG6/1)	1/10	〃	
	図-6	〃	13.9	—	—	〃	〃	〃	普通	青灰色(10BG5/1)	青灰色(10BG5/1)	1/20	覆土中層	
	図-7	〃	12.6	6.8	4.8	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	小石-砂粒多い	良好	暗青灰色(10BG4/1)	暗青灰色(10BG4/1)	4/5	床面	口縁部に歪み
	図-8	鉢(灰)	—	15.0	—	ロクロナデ	〃	細良	普通	にぶい黄色(2.5Y6/3)	青灰色(10BG5/1)	1/20	覆土中層	
	図-9	鉢(土)	—	9.7	—	ハケ	ヘラミガキ	小石-砂粒多い	〃	にぶい黄橙色(10YR5/3)	にぶい黄橙色(10YR5/3)	1/20	〃	
	図-10	〃	18.8	—	—	〃	ハケ	小石多い	〃	にぶい黄橙色(10YR7/3)	にぶい黄橙色(10YR7/4)	1/20	床面	
	図-11	〃	20.1	—	—	〃	〃	細良,砂粒少量	良好	にぶい黄橙色(10YR7/3)	灰黄褐色(10YR6/2)	1/10	〃	
10号住	図-1	坏(土)	12.4	—	—	ロクロナデ	黒色処理,横ヘラミガキ	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色(7.5YR1.7/1)	1/10	〃	
	図-2	坏(須)	13.0	7.6	3.6	〃	ロクロナデ	細良細密	〃	緑灰色(10GY6/1)	緑灰色(10GY6/1)	1/3	〃	
	図-3	〃	—	5.2	—	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	〃	普通	青灰色(10BG5/1)	オリーブ灰(2.5GY6/1)	1/10	覆土中層	
	図-4	〃	—	6.3	—	〃	〃	〃	〃	灰白色(7.5Y8/1)	灰白色(7.5Y8/2)	1/4	カマド	粘質焼土部
	図-5	鉢(土)	—	13.6	—	ヘラナデ	ハケ	小石-砂粒多い	〃	灰黄褐色(10YR5/2)	灰黄褐色(10YR5/2)	1/20	床面	
	図-6	〃	—	10.0	—	〃	〃	細良,砂粒少量	良好	灰黄褐色(10YR5/2)	褐灰色(10YR6/1)	1/20	〃	
	図-7	〃	—	10.0	—	〃	〃	細良	〃	灰黄褐色(10YR5/2)	褐灰色(10YR6/1)	1/20	〃	
	図-8	〃	—	14.7	—	〃	ヘラナデ	砂粒多い	普通	橙灰色(10YR4/1)	にぶい黄橙色(10YR6/4)	1/30	〃	外面に炭化物付着
	図-9	長胴甕	26.8	—	—	〃	ハケ	細良,砂粒少量	良好	にぶい黄橙色10YR6/4)	明黄褐色(10YR6/6)	1/20	〃	内面に炭化物付着
	図-10	小型甕(土)	13.2	—	—	〃	ヘラナデ	〃	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR7/3)	1/20	〃	
	図-11	長胴甕	23.2	—	—	ハケ	〃	細良	〃	にぶい黄橙色(10YR6/4)	灰褐色(10YR4/2)	1/20	〃	
	図-12	甕(土)	—	19.8	—	ヘラナデ	〃	細良,砂粒少量	普通	灰褐色土(10YR5/2)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/30	覆土中層	
	図-13	〃	—	12.6	—	〃	〃	〃	良好	灰褐色土(10YR6/2)	灰褐色土(10YR6/2)	1/40	床面	
	図-14	〃	—	13.0	—	〃	〃	細良	〃	灰黄色(2.5Y6/2)	黄灰色(2.5Y6/1)	1/40	カマド	
11号住	図-1	坏(土)	13.0	6.7	4.8	ロクロナデ	〃	〃	普通	にぶい橙色(7.5YR5/3)	暗褐色(7.5YR3/3)	1/2	床面	
	図-2	〃	13.2	—	—	〃	〃	〃	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/5	カマド	
	図-3	鉢(灰)	12.2	6.6	3.7	ロクロナデ,底部糸切ヘラ削り,貼付高台	ロクロナデ	細良細密	〃	灰白色(N7/)	灰白色(5Y7/1)	完形	床面	施釉浸掛け,重ね焼痕あり
	図-4	〃	12.6	7.1	4.9	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	完形	〃	施釉浸掛け,重ね焼痕あり
	図-5	〃	13.2	6.8	3.8	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	4/5	床面直上	施釉浸掛け,重ね焼痕あり
	図-6	〃	13.2	—	—	ロクロナデ	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	1/2	覆土中層	
	図-7	〃	13.6	—	—	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	1/2	〃	
	図-8	〃	13.3	7.1	4.35	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(5Y7/1)	完形	床面	施釉浸掛け,重ね焼痕あり
	図-9	〃	14.9	7.6	4.65	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	完形	〃	施釉浸掛け
	図-10	〃	14.68	7.38	4.6	〃	〃	〃	〃	灰白色(7.5Y8/1)	灰白色(5Y7/2)	完形	〃	施釉浸掛け
	図-11	〃	14.98	7.9	4.4	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(7.5Y8/1)	1/4	覆土中層	施釉浸掛け
	図-12	〃	16.0	9.2	4.6	〃	〃	〃	〃	灰白色(7.5Y8/1)	灰白色(7.5Y8/1)	5/6	床面	施釉浸掛け
	図-13	〃	17.9	9.7	7.5	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(7.5Y8/1)	4/5	〃	施釉刷毛掛け,重ね焼痕あり

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(3)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
11号住	14−14	椀(灰)	17.1	8.2	6.0	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	ロクロナデ	精良緻密	良好	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	床面	施釉漬掛け,重ね焼痕あり
	14−15	〃	14.8	7.05	5.6	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	〃	施釉漬掛け,重ね焼痕あり
	14−16	皿(灰)	11.9	6.6	2.2	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	9/10	床面直上	施釉漬掛け
	14−17	〃)	11.4	6.4	1.9	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	完形	〃	施釉漬掛け,重ね焼痕あり
	14−18	〃	11.8	6.7	2.5	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(5Y7/1)	完形	床面直上	施釉漬掛け
	14−19	小型甕(土)	13.3	9.5	10.5	ハケ	ハケ	砂粒多い	普通	にぶい橙色(2.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	4/5	床面	ゆがみが著しい,[illegible]
	14−20	長胴甕	24.2	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	〃	〃	褐灰色(10YR5/1)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/20	カマド	内面に炭化物付着
	14−21	〃	27.4	—	—	ハケ	ハケ	精良,砂粒少量	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/4	〃	
	14−22	甕(土)	15.2	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	1/20	〃	
	14−23	〃	16.7	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい褐色(7.5YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
12号住	16−1	蓋(須)	11.2	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	精良緻密	良好	灰色(N7/)	灰色(N6/)	1/10	覆土中層	外側に自然釉
	16−2	〃	14.3	—	3.8	ロクロナデ,天井部回転ヘラ削り	〃	砂粒多い	〃	青灰色(10BG5/1)	青灰色(10BG5/1)	完形	〃	ゆがみが著しい
	16−3	坏(須)	14.4	10.8	4.2	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	〃	精良,小石少量	普通	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	5/10	床面	[illegible]という文字か?
	16−4	〃	—	11.7	—	〃	〃	精良	〃	灰白色(2.5GY8/1)	灰白色(2.5GY8/1)	1/5	覆土中層	軟質須恵器
	16−5	〃	—	9.5	—	〃	〃	精良,砂粒少量	〃	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(7.5Y8/2)	1/5	〃	軟質須恵器
	16−6	小型甕(土)	15.3	—	—	ハケ	口縁部ハケ,胴部ヘラナデ	精良	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	1/8	床面直上	
	16−7	甕(須)	18.1	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	精良緻密	〃	灰色(N7/)	灰色(N7/)	1/30	覆土中層	
	16−8	鉢(須)	21.5	—	—	〃	〃	〃	〃	暗青灰色(10BG4/1)	暗青灰色(10BG4/1)	1/20	〃	
	16−9	甕(土)	20.1	—	—	ハケ	ハケ	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR7/4)	橙色(7.5YR7/6)	1/8	床面	
	16−10	〃	20.0	—	—	〃	口縁部ハケ,胴部ヘラナデ	精良,砂粒少量	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	1/16	覆土中層	
	16−11	〃	17.1	—	—	〃	ハケ	砂粒多い	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
15号住	18−1	坏(土)	10.54	5.24	3.6	ロクロナデ,底部回転糸切り	ロクロナデ	精良,砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/3	〃	
	18−2	〃	11.4	4.9	4.3	〃	〃	砂粒多い	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	明黄褐色(10YR6/6)	1/2	〃	
	18−3	椀(灰)	12.6	6.5	2.3	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	〃	精良緻密	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/4	覆土中層	施釉漬掛け
	18−4	〃	12.0	7.3	2.15	〃	〃	〃	〃	灰白色(N8/)	灰白色(N8/)	1/4	〃	施釉漬掛け
	18−5	〃	12.6	6.9	2.0	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰色(N6/)	1/4	〃	施釉漬掛け
	18−6	〃	12.4	6.75	2.2	〃	〃	〃	〃	灰白色(N7/)	灰白色(7.5YR7/1)	1/5	〃	施釉刷毛塗り,重ね焼痕あり
	18−7	〃	12.74	6.92	2.5	〃	〃	〃	〃	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(7.5Y7/1)	1/5	覆土下層	施釉刷毛塗り
	18−8	〃	14.2	8.4	2.35	〃	〃	〃	〃	灰色(N7/)	灰色(N7/)	2/3	床面	施釉漬掛け,輪花
	18−9	〃	12.45	6.75	2.76	〃	〃	〃	〃	灰白色(5GY8/1)	灰白色(N7/)	9/10	〃	施釉刷毛塗り,重ね焼痕あり
	18−10	〃	14.0	7.77	2.5	〃	〃	〃	〃	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	灰白色(7.5Y7/1)	9/10	覆土下層	施釉漬掛け,輪花4ヶ所

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(4)

遺構	図版No.	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	調整 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
15号住	147-11	鉢(須)	14.85	8.1	2.75	ロクロナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	ロクロナデ	精良細密	良好	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(7.5Y7/2)	9/10	床面	施釉刷毛掛け、釉垂5ヶ所
	147-12	鉢(須)	12.2	6.54	2.57	〃	〃	精良	普通	灰白色(7.5Y8/1)	灰白色(7.5Y8/2)	1/3	覆土上層	施釉刷毛掛け、底部に墨書、判読不能
	147-13	鉢(灰)	12.1	6.86	3.6	〃	〃	精良細密	良好	灰白色(7.5Y7/1)	灰白色(N8/)	1/3	覆土中層	施釉刷毛掛け、内面全体に施釉
	147-14	〃	15.74	9.84	6.8	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/2)	灰白色(5Y7/2)	1/5	〃	施釉回掛け、底部に墨書、判読不能
	147-15	〃	15.6	7.4	5.3	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	4/5	覆土下層	施釉刷毛掛け
	147-16	〃	15.3	7.5	4.3	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y8/1)	灰白色(5Y7/1)	1/2	覆土中層	施釉回掛け
	147-17	〃	14.8	7.0	4.9	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	〃	施釉回掛け
	147-18	〃	15.6	7.8	4.8	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/2	〃	施釉回掛け
	147-19	〃	17.2	7.9	5.6	〃	〃	精良	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y8/1)	1/3	〃	施釉刷毛掛け、重ね焼痕あり
	147-20	〃	16.01	8.6	6.13	〃	〃	精良細密	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	〃	施釉回掛け、重ね焼痕あり
	147-21	〃	16.8	8.35	5.7	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/3	覆土下層	施釉刷毛掛け
	147-22	〃	18.5	8.0	5.9	〃	〃	〃	〃	灰白色(5Y6/1)	灰白色(5Y6/1)	1/8	覆土中層	施釉回掛け、重ね焼痕あり
	147-23	長頸壺(灰)	—	—	—	ヘラケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	〃	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y8/1)	1/10	覆土下層	施釉刷毛掛け、体部内面まで施釉
17号住	148-1	坏(土)	13.4	—	—	ロクロナデ	黒色処理、横ヘラミガキ	精良	〃	橙色(5YR6/6)	黒色(5YL7/1)	1/10	覆土中層	
	148-2	〃	14.8	—	—	ロクロナデ	〃	〃	〃	にぶい赤褐色(5YR5/3)	黒色(5YR1.7/1)	1/10	〃	
	148-3	〃	—	7.2	—	ロクロナデ、底部回転糸切り	黒色処理、ヘラミガキ	〃	〃	橙色(5YR6/6)	黒色(5YR1.7/1)	1/5	覆土下層	
	148-4	〃	—	7.1	—	ロクロナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	〃	〃	普通	灰褐色(5YR5/2)	黒色(5YR1.7/1)	1/10	覆土中層	
	148-5	〃	—	5.9	—	ロクロナデ、底部回転糸切り	〃	精良、砂粒少量	〃	橙色(7.5YR6/6)	黒色(7.5YR1.7/1)	1/8	〃	下部墨書に墨書、判読不能
	148-6	坏(須)	13.9	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	精良、砂粒少量	良好	緑灰色(7.5GY5/1)	緑灰色(7.5GY5/1)	1/10	床面	転質焼成器
	148-7	〃	13.1	6.8	3.8	ロクロナデ、底部回転ヘラ削り	〃	砂粒多い	普通	明オリーブ灰色(5GY7/1)	灰白色(10Y7/1)	2/3	覆土下層	転質焼成器
	148-8	〃	13.9	—	—	ロクロナデ	〃	精良細密	良好	緑灰色(7.5GY6/1)	緑灰色(10GY5/1)	1/2	〃	
	148-9	〃	13.5	6.0	3.6	ロクロナデ、底部回転糸切り	〃	〃	普通	オリーブ灰色(5GY6/1)	オリーブ灰色(5GY6/1)	1/5	床面直上	転質焼成器
	148-10	〃	—	5.4	—	ロクロナデ、底部回転糸切り	〃	精良、砂質少量	良好	暗緑灰色(10GY4/1)	暗緑灰色(10GY4/1)	1/5	覆土下層	
	148-11	小型壺(土)	—	7.7	—	ロクロ成形工具による貼ナデ、底部回転糸切り	〃	精良、小石少量	普通	灰黄褐色(10YR5/2)	褐灰色(10YR4/1)	1/20	覆土中層	内面に炭化物付着
	148-12	壺(須)	18.5	—	—	ロクロナデ、天井部分回転ヘラ削り	〃	精良、砂粒少量	良好	青灰色(5BG5/1)	青灰色(5BG5/1)	1/8	覆土下層	内面に自然釉
	148-13	〃	15.0	—	—	ロクロナデ、天井部分回転ヘラ削り	〃	精良細密	〃	青灰色(10BG4/1)	青灰色(5BG5/1)	1/10	〃	
	148-14	〃	—	15.7	—	ロクロナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	ロクロナデ、ハケ	〃	〃	青灰色(5BG5/1)	オリーブ灰色(2.5GY6/1)	1/10	床面	
	148-15	小型壺(土)	13.0	—	—	ロクロ成形工具による貼ナデ	ロクロナデ	精良	良好	橙色(5YR6/6)	橙色(5YR7/6)	1/8	覆土中層	
	148-16	壺(須)	40.0	—	—	ロクロナデ	〃	精良細密	〃	青灰灰色(10BG5/1)	灰オリーブ色(7.5Y6/2)	1/20	床面	内外面に自然釉
20号住	151-1	坏(須)	13.8	5.6	4.0	ロクロナデ、底部回転ヘラ切り	〃	精良、砂粒少量	普通	灰白色(5Y8/1)	灰白色(5Y8/1)	1/2	〃	転質焼成器

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(5)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	調整 外面	内面	胎土	焼成	色調 外面	内面	残存度	出土位置	備考
20号住	83-2	小型甕	14.0	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	精良,小石少量	良好	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR4/2)	1/20	床面	口縁部のゆがみが著しい,模製土器
	83-3	甕	—	10.2	—	〃	〃	小石多い	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	灰褐色土(7.5YR5/2)	1/20	カマド	
21号住	84-1	坏(土)	12.35	5.5	3.88	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り	ロクロナデ,黒色処理,ヘラミガキ	精良	良好	にぶい橙色(7.5YR7/3)	黒色(7.5YR1.7/1)	9/10	〃	
	84-2	〃	11.8	—	—	ロクロナデ	〃	精良,砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR7/3)	黒褐色土(10YR3/1)	1/20	床面直上	
	84-3	〃	12.4	—	—	〃	〃	精良	〃	橙色(7.5YR7/6)	黒色(7.5YR1.7/1)	1/16	〃	
	84-4	〃	16.0	8.38	5.0	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	〃	砂粒少量	〃	橙色(5YR6/6)	黒色(5YR1.7/1)	1/3	カマド	
	84-5	〃	16.5	—	—	ロクロナデ	〃	〃	普通	橙色(5YR7/6)	黒色(5YR1.7/1)	1/4	覆土中層	
	84-6	〃	—	5.34	—	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り	〃	精良	良好	橙色(5YR7/6)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	1/4	床面直上	内面の黒色処理が2次焼成により消滅
	84-7	坏(須)	14.4	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒少量	普通	暗緑灰色(10GY4/1)	暗緑灰色(5BG4/1)	1/20	〃	
	84-8	〃	12.2	—	—	〃	〃	精良	良好	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	1/20	〃	
	84-9	〃	—	6.2	—	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	精良緻密	〃	青灰色(10BG6/1)	青灰色(10BG6/1)	1/20	〃	
	84-10	甕(土)	20.7	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	カマド	
	84-11	甕(須)	—	14.3	—	ナデ,口頸ヘラナデ,胴部工具によるタタキ	ナデ,口頸ヘラナデ,円形の当て具跡	精良	良好	緑灰色(10G5/1)	緑灰色(10G5/1)	7/10	床面	肩部上に自然釉が三角形を呈する凸部と4ヶ所に耳が付く,外面に自然釉
	84-12	長胴甕(土)	28.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	良好	灰黄褐色(10YR6/2)	灰黄褐色(10YR6/2)	1/20	カマド	内面に炭化物付着
	84-13	〃	—	10.9	—	〃	〃	砂粒・雲母多い	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/10	〃	
	84-14	〃	23.8	—	—	ハケ	ハケ	精良	〃	にぶい橙色(7.5YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR6/3)	1/4	〃	
22号住	85-1	坏(須)	13.0	6.45	3.1	ロクロナデ	ロクロナデ	精良緻密	普通	灰白色(5Y8/2)	灰白色(5Y8/2)	1/10	覆土中層	焼成不良
	85-2	〃	14.7	7.2	4.0	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	〃	〃	灰白色(5Y8/2)	灰白色(5Y8/2)	1/5	床面直上	〃
	85-3	〃	14.4	6.85	3.8	〃	〃	精良	〃	灰白色(5Y8/2)	灰白色(5Y8/2)	1/2	〃	〃
	85-4	〃	12.34	5.9	3.75	〃	〃	砂粒多い	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	9/10	床面	〃
	85-5	〃	12.9	6.4	3.65	〃	〃	〃	良好	緑灰色(10GY6/1)	緑灰色(10GY6/1)	4/5	〃	焼成不良,内外面底部は赤褐色を呈する
	85-6	〃	14.4	—	—	ロクロナデ	〃	精良	普通	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/10	〃	焼成不良
	85-7	〃	13.0	—	—	〃	〃	小石・砂粒少量	良好	青灰色(10BG5/1)	青灰色(10BG6/1)	1/10	覆土中層	
	85-8	〃	—	6.8	—	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	精良緻密	〃	緑灰色(10GY5/1)	緑灰色(10GY5/1)	1/10	〃	
	85-9	坏(土)	—	6.1	—	〃	〃	精良	〃	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	1/10	〃	甲斐型か？
	85-10	小型甕(土)	11.7	6.36	10.78	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	灰黄褐色(10YR5/2)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	3/5	床面直上	底部に木葉痕あり
	85-11	〃	11.0	—	—	〃	〃	精良	〃	にぶい褐色(7.5YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/10	床面	
	85-12	長胴甕	20.0	—	—	〃	〃	砂粒多い	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
	85-13	甕(土)	21.5	—	—	〃	〃	〃	〃	橙色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/30	〃	
	85-14	〃	20.76	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/20	〃	
	85-15	〃	18.0	—	—	ヘラナデ,口縁部ハケ	ヘラナデ,口縁部ハケ	〃	〃	橙色(7.5YR7/4)	橙色(7.5YR7/4)	1/20	〃	
	85-16	鉢(須)	32.9	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	精良緻密	良好	暗青灰色(10BG4/1)	暗青灰色(10BG4/1)	1/30	〃	外面に自然釉
26号住	87-1	甕(土)	17.6	—	—	ハケ	ハケ	砂粒多い	〃	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/30	覆土中層	
	87-2	〃	21.4	—	—	〃	ヘラナデ	精良・砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/20	床面	
	87-3	〃	15.3	—	—	〃	ハケ	〃	〃	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	1/30	覆土中層	
	87-4	〃	23.0	—	—	〃	ヘラナデ	砂粒多い	〃	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	1/30	〃	

第6表　奈良・平安時代の遺構出土土器観察表(6)

遺構	図版No.	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	整形 外面	整形 内面	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面	残存度	出土位置	備考
26号址	[illegible]-5	長胴甕	—	11.6	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	灰褐色(10YR5/2)	にぶい橙色(10YR7/4)	1/10	カマド	
	[illegible]-6	〃	23.5	—	—	〃	〃	〃	良好	橙色(5YR6/6)	橙色(5YR6/8)	1/2	〃	内面に炭化物付着
	[illegible]-7	甕(須)	—	8.6	—	ロクロナデ,底部回転糸切り	ロクロナデ	精良	〃	青灰色(10BG6/1)	灰色(N7/)	1/2	床面	外面に自然釉
36号址	[illegible]-1	坏(土)	13.4	7.0	3.9	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り	ロクロナデ,黒色処理,ヘラミガキ	砂粒少量	〃	にぶい黄橙色(10YR7/4)	黒色(10YR1.7/1)	1/2	覆土中層	
	[illegible]-2	〃	13.4	7.2	3.7	ロクロナデ,底部回転糸切り	ロクロナデ,黒色処理,ヘラ磨ミガキ	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	黒色(7.5YR1.7/1)	9/10	床面	外底面に墨書,丸で囲った「[illegible]」という文字か?
	[illegible]-3	坏(土)	—	6.2	—	〃	ロクロナデ	精良	〃	浅黄橙色(7.5YR8/4)	にぶい橙色(7.5YR7/3)	1/10	覆土中層	
	[illegible]-4	椀(灰)	13.0	6.88	3.78	ロクロナデ,底部回転糸切り,貼付高台	〃	精良緻密	〃	灰白色(5Y8/1)	灰白色(2.5Y7.1)	完形	床面直上	[illegible]
	[illegible]-5	〃	12.9	6.5	3.9	〃	〃	〃	〃	灰白色(2.5Y8/1)	灰白色(2.5Y8/1)	1/5	覆土中層	〃
	[illegible]-6	〃	17.1	—	—	ロクロナデ	〃	精良	〃	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)	1/8	〃	〃
	[illegible]-7	〃	16.8	—	—	〃	〃	精良緻密	〃	灰白色(N8/)	灰白色(N8/)	1/8	〃	[illegible]
	[illegible]-8	〃	—	7.8	—	ロクロナデ,底部回転ヘラ削り,貼付高台	〃	〃	〃	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)	1/8	〃	[illegible]
	[illegible]-9	〃	—	7.64	—	〃	〃	〃	〃	灰白色(2.5Y8/1)	灰白色(2.5Y8/1)	1/10	〃	高台は内面底部にまで及ぶ
	[illegible]-10	〃	—	8.5	—	〃	〃	〃	〃	灰白色(2.5Y7/1)	灰白色(2.5Y7/1)	1/10	〃	高台は外面底部にまで及ぶ,重ね焼痕あり
	[illegible]-11	小型甕(土)	13.1	—	—	ハケ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	にぶい褐色(7.5YR5/3)	褐灰色(7.5YR4/1)	1/8	カマド	
	[illegible]-12	〃	16.3	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	内面に炭化物付着
	[illegible]-13	甕(土)	19.3	—	—	ヘラナデ	〃	〃	〃	灰黄褐色(10YR5/2)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	覆土中層	
	[illegible]-14	〃	17.1	—	—	ハケ	ハケ	〃	良好	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/3)	1/20	〃	
	[illegible]-15	〃	17.9	—	—	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/3)	1/20	〃	
	[illegible]-16	〃	19.2	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒少量	〃	褐灰色(7.5YR5/1)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
	[illegible]-17	〃	15.6	—	—	〃	〃	砂粒多い	普通	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	〃	
	[illegible]-18	〃	13.1	—	—	ロクロ,板状工具による横ナデ	ロクロナデ	精良	良好	橙色(5YR6/6)	にぶい橙色(5YR6/4)	1/20	〃	
	[illegible]-19	〃	19.5	—	—	ロクロ回転ヘラ削り,口縁部ハケ	〃	〃	〃	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	1/10	〃	内面に炭化物付着
	[illegible]-20	〃	—	8.4	—	ヘラナデ	ヘラナデ	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	カマド	内面に炭化物付着
	[illegible]-21	〃		—	—	〃	〃	砂粒多い	〃	灰褐色(7.5YR5/2)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	2/5	〃	口縁部は外反せず,まっすぐになっている
	[illegible]-22	〃	—	15.1	—	ハケ	ヘラナデ	〃	普通	にぶい褐色(7.5YR5/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/20	覆土中層	
	[illegible]-23	〃	—	14.3	—	ヘラナデ	〃	〃	〃	にぶい褐色(7.5YR6/3)	灰褐色(7.5YR5/2)	1/30	〃	外面に炭化物付着
39号址	[illegible]-1	坏(土)	17.1	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ,黒色処理,ヘラミガキ	精良	良好	にぶい褐色(7.5YR6/3)	黒色(7.5YR1.7/1)	1/10	〃	
	[illegible]-2	蓋(須)	—	7.35	—	〃	ロクロナデ	精良緻密	〃	灰白色(5Y7/1)	灰白色(5Y7/1)	1/10	〃	外面に自然釉
	[illegible]-3	坏(須)	—	6.9	—	ロクロナデ,底部回転糸切り	〃	精良	〃	青灰色(10BG5/1)	緑灰色(10G6/1)	1/10	〃	
	[illegible]-4	甕(土)	23.4	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒少量	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/30	床面	
	[illegible]-5	〃	30.7	—	—	ハケ	ハケ	精良	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR6/3)	1/20	覆土中層	
	[illegible]-6	〃	35.8	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒多い	普通	にぶい褐色(7.5YR6/3)	にぶい橙色(7.5YR6/4)	1/10	床面	内面に炭化物付着
	[illegible]-7	〃	—	21.7	—	〃	〃	〃	〃	にぶい橙色(7.5YR6/4)	にぶい橙色(7.5YR7/4)	1/30	〃	

第7表　土偶観察表

遺構	図版No.	残存部	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
32号住	48－15	脚	10.6	4.9	5.6	220	覆土上層	つま先部分欠損
〃	48－16	足	5.9	9.5	4.9	156	覆土中層	〃
〃	48－17	〃	5.2	3.7	3.2	38	〃	つま先部分一部欠損
34号住	60－12	上半身	10.6	10.5	5.9	186	〃	頭部一部欠損、胴部折損面に芯棒の孔あり
〃	60－13	足	3.5	3.7	2.0	19	〃	
35号住	64－4	腕	3.8	4.4	1.8	20	〃	折損面に芯棒の孔あり
土器廃棄場	86－2	頭	4.45	4.4	3.5	43	〃	一部欠損、折損面に芯棒の孔あり
〃	86－3	胴	8.3	6.9	2.5	52	〃	左腕欠損、頭部折損面に芯棒の孔あり
〃	86－4	〃	7.4	6.9	4.3	129	〃	表面は丁寧なミガキが施されている
〃	86－5	尻	2.95	3.45	(2.05)	15	〃	
〃	87－9	足	8.45	5.6	3.0	118	〃	破損面に芯棒の孔あり
〃	87－10	脚	8.2	3.8	2.9	51	〃	〃

第8表　その他の土製品

遺構	図版No.	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
土器廃棄場	86－1	面面把手	2.95	5.45	0.7	21	第4層 暗褐色土層中	
〃	87－7	不明	6.0	7.2	0.95	78	第4層 暗褐色土層中	中空土偶か土器の一部か不明
〃	87－8	〃	8.5	6.1	1.05	99	〃	中空土偶か土器の一部か不明、87－7と胎土・焼成が類似、腕部か？
16号住	101－3	紡錘車	5.2	4.95	1.3	32	覆土中層	完存

第9表　縄文時代の遺構出土石器観察表(1)

遺構	図版No.	分類	石質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
5号住	10－5	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	18.5	5.3	1.8	(309)	床面	円刃・短冊形、中央部付近で折れている
13号住	13－3	〃	ホルンフェルス(粘質)	15.6	8.4	2.1	441	P_3	円刃・撥形
	13－4	〃	ホルンフェルス(砂質)	15.2	4.2	1.9	(215)	覆土中層	短冊形、刃部一部欠損
	13－5	〃	砂岩	9.6	4.15	1.5	70	〃	円刃・短冊形
	14－6	〃	ホルンフェルス(砂質)	11.6	4.0	1.9	90	〃	円刃・撥形、刃面に磨滅痕
	14－7	〃	砂岩	10.65	4.2	0.72	79	P_1	偏刃・短冊形
	14－8	〃	ホルンフェルス(砂質)	9.4	4.9	1.48	106	覆土中層	〃
24号住	17－2	石匙	砂岩	7.0	5.8	1.3	52	〃	
25号住	24－15	打製石斧	〃	16.5	6.8	2.3	334	〃	円刃・短冊形
	24－16	粗製刃器	ホルンフェルス(粘質)	10.9	9.0	0.7	50	床面直上	南側に刃部
	24－17	打製石斧	砂岩	11.5	8.9	2.2	270	覆土中層	偏刃・撥形
	24－18	粗製刃器	〃	9.5	3.9	0.78	41	〃	
	24－19	打製石斧	〃	12.3	8.4	2.0	274	〃	偏刃・撥形
	24－20	石匙	〃	10.9	4.7	1.2	68	〃	縦型、刃部片側のみ調整
27号住	30－12	〃	ホルンフェルス(砂質)	8.25	11.5	1.38	133	〃	刃部未調整
	30－13	打製石斧	砂岩	11.0	4.3	0.9	70	覆土上層	偏刃・撥形
	30－14	石錘	黒曜石	2.4	1.5	0.44	2	覆土下層	無茎
28号住	32－3	打製石斧	砂岩	10.5	5.1	0.8	75	覆土中層	円刃、基部を一部調整
	32－4	〃	ホルンフェルス(粘質)	12.7	3.75	0.7	70	〃	円刃・短冊形、刃部に磨滅痕
	32－5	〃	砂岩	10.6	3.3	1.6	76	〃	円刃・分銅形
29号住	34－2	石錘	黒曜石	1.84	1.45	0.25	1	覆土上層	無茎
30号住	38－6	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	16.6	6.2	2.3	430	覆土中層	刃部欠損
	38－7	磨製石斧	〃	(12.55)	3.9	3.1	(261)	覆土上層	基部より刃部欠損
	38－8	凹石	軽石	11.25	7.8	4.45	314	覆土中層	
	38－9	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(5.3)	3.1	1.2	2.6	覆土上層	直刃・撥形・基端欠損、刃部に磨滅痕
32号住	49－18	打製石斧	〃	17.5	8.1	2.7	413	覆土中層	偏刃・撥形
	49－19	〃	〃	11.0	4.2	1.5	126	〃	円刃・短冊形、刃部に磨滅痕
	49－20	〃	〃	9.5	7.0	1.5	114	覆土上層	
	49－21	〃	砂岩	14.3	6.8	1.8	206	覆土中層	偏刃・撥形
	49－22	〃	〃	10.7	4.1	1.4	87	〃	偏刃・短冊形
	49－23	〃	ホルンフェルス(粘質)	10.2	4.8	1.1	87	〃	円刃・分銅形
	50－24	石匙	砂岩	7.1	8.5	1.3	86	床面直上	
	50－25	〃	〃	12.6	3.2	0.9	60	覆土上層	縦型
	50－26	〃	〃	4.2	5.9	1.3	20	〃	
	50－27	石錘	ホルンフェルス(粘質)	11.6	6.8	1.1	202	覆土中層	廃棄土器に伴って出土
	50－28	横刃型石器	砂岩	7.2	11.3	1.3	118	〃	
	50－29	〃	〃	7.2	9.3	1.7	169	〃	
	51－30	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(15.95)	5.22	(3.85)	(491)	床面直上	基端・基部・刃部欠損
	51－31	〃	〃	(8.3)	3.3	2.9	(140)	床面	基端・刃部一部欠損、刃部磨滅痕
	51－32	凹石	軽石	15.1	19.15	3.3	286	〃	

第9表　縄文時代の遺構出土石器観察表(2)

遺構	図版No.	分類	石質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
33号住	54－3	打製石斧	ホルンフェルス(砂質)	10.8	5.5	1.3	125	覆土中層	偏刃・分銅形
	54－4	〃	〃	12.0	7.9	3.0	380	〃	円刃・撥形
	54－5	横刃型石器	砂岩	7.4	11.2	2.2	198	〃	
	54－6	石匙	ホルンフェルス(砂質)	7.5	6.6	1.2	61	〃	
34号住	61－14	打製石斧	砂岩	12.5	7.6	1.8	186	〃	円刃・撥形、刃部に磨滅痕
	61－15	〃	〃	12.1	7.15	1.8	170	覆土上層	偏刃・撥形、刃部に磨滅痕
	61－16	〃	ホルンフェルス(砂質)	11.7	4.2	1.4	88	〃	円刃・短冊形、刃部に磨滅痕
	61－17	〃	砂岩	13.7	6.1	2.2	266	覆土中層	円刃・分銅形、刃部に磨滅痕
	61－18	石匙	〃	10.25	5.1	1.0	56	〃	
	61－19	〃	ホルンフェルス(粘質)	11.8	2.4	0.9	28	〃	縦型、刃部に磨滅痕
	61－20	石鏃	ホルンフェルス(砂質)	10.35	4.0	1.3	(85)	覆土上層	一部欠損
	61－21	〃	黒曜石	3.8	1.35	0.6	1	覆土中層	先端部欠損
	61－22	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(14.3)	4.3	3.4	340	〃	基端・刃部欠損
35号住	65－5	打製石斧	〃	13.3	4.9	2.2	180	床面直上	円刃・撥形、刃部に磨滅痕
	65－6	〃	〃	14.7	5.5	2.0	155	〃	偏刃・短冊形
	65－7	〃	〃	11.0	3.8	1.2	64	覆土上層	偏刃・撥形
	65－8	石鏃	黒曜石	2.13	1.65	0.42	2	〃	無基
37号住	74－14	打製石斧	ホルンフェルス(砂)	11.5	7.2	1.4	151	〃	偏刃・撥形
	74－15	石匙	砂岩	6.5	7.4	0.8	37	覆土中層	
	74－16	〃	ホルンフェルス(砂質)	4.2	6.6	0.5	12	〃	
	74－17	〃	砂岩	9.9	4.5	0.75	42	覆土上層	
	74－18	横刃型石器	〃	4.8	9.0	1.2	74	覆土中層	
	74－19	石匙	ホルンフェルス(粘質)	(11.5)	2.8	0.3	(14)	覆土上層	把手部欠損
	74－20	石鏃	ホルンフェルス(砂質)	8.35	5.35	1.9	129	〃	
	75－21	凹石	砂岩	9.1	7.25	4.65	409	〃	磨痕あり
	75－22	〃	安山岩	9.9	7.4	2.7	274	覆土中層	
	75－23	〃	花崗岩	10.0	9.7	4.9	(615)	〃	一部欠損
	76－24	石皿	安山岩	(23.5)	(18.0)	10.5	2,080	覆土下層	約1/2欠損、敲打痕あり
	77－25	磨石	花崗岩	(13.9)	13.9	6.1	1,400	覆土中層	両面に磨痕あり
41号住	80－2	石鏃	黒曜石	2.15	1.5	0.4	2	〃	先端部に磨滅痕あり
	80－3	打製石斧	ホルンフェルス(砂)	13.0	5.8	1.5	149	覆土上層	
	80－4	〃	砂岩	11.6	5.6	1.6	130	覆土中層	偏刃・撥形
廃棄場	88－1	〃	〃	19.1	8.4	3.5	562	BQ－26	円刃・撥形
	88－2	〃	〃	13.3	7.1	2.0	224	BQ－27	直刃・撥形
	88－3	〃	ホルンフェルス(砂質)	9.7	4.5	1.2	66	BO－33	偏刃・撥形
	88－4	〃	〃	17.9	4.5	1.2	182	BP－32	円刃・短冊形
	88－5	〃	ホルンフェルス(粘質)	13.8	5.7	1.3	166	BQ－27	偏刃・分銅形
	89－6	〃	砂岩	11.7	4.6	1.05	127	BQ－27	円刃・撥形
	89－7	〃	〃	13.7	6.8	1.6	(156)	BR－26	一部欠損
	89－8	石匙	〃	9.2	9.0	1.1	116	BQ－31	
	89－9	〃	〃	8.9	9.6	1.5	129	BQ－27	
	89－10	〃	〃	6.5	6.65	1.1	56	BQ－27	
	89－11	〃	〃	12.1	4.0	0.85	44	BQ－26	縦型

第9表　縄文時代の遺構出土石器観察表(3)

遺構	図版No.	分類	石質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
廃棄場	89－12	石匙	砂岩	8.7	6.0	0.95	64	BQ－27	
	90－13	横刃形石器	〃	6.2	10.2	1.5	99	BR－27	
	90－14	〃	〃	7.1	11.0	2.0	131	BP－27	
	90－15	〃	〃	8.3	11.0	1.8	170	BQ－33	
	90－16	石匙	ホルンフェルス(砂質)	5.9	5.5	0.55	21	BV－30	
	90－17	〃	ホルンフェルス(砂質)	5.8	3.7	1.1	19	BT－30	
	90－18	石鏃	黒曜石	2.2	1.8	0.3	1	BQ－28	剥離石鏃、無茎
	90－19	〃	〃	2.4	1.45	0.3	2	BQ－27	無茎
	90－20	〃	チャート	3.47	1.5	0.24	(2)	BQ－27	無茎、一部欠損
	90－21	不定形石器	黒曜石	2.25	0.75	0.45	0.4	BR－28	
	90－22	石匙	〃	5.2	1.7	0.8	(5)	BO－29	一部欠損
	91－23	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	(14.8)	4.7	3.6	(418)	BR－26	刃部欠損、基部に敲打痕あり
	91－24	〃	〃	(15.8)	5.85	4.15	(495)	BO－33	〃
	91－25	〃	〃	(8.48)	4.7	3.7	(200)	BQ－28	基端・刃部欠損
	91－26	〃	〃	(10.50)	4.28	3.1	(238)	BO－29	刃部欠損
	91－27	〃	〃	(12.6)	4.7	3.55	(337)	BP－31	基部欠損、刃部磨滅痕あり
	91－28	〃	〃	(6.52)	4.25	1.5	(50)	BO－25	〃
	92－29	石錐	ホルンフェルス(緻質)	6.95	5.2	1.2	102	BN－30	二分割したものをそれぞれ調整している(2個体を図化)
	92－30	〃	ホルンフェルス(砂質)	6.7	4.1	1.35	42	BQ－26	

第10表　弥生時代の遺構出土石器観察表

遺構	図版No.	分類	石質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
16号住	107－4	打製石斧	砂岩	15.8	10.5	2.4	506	覆土中層	刃部縁辺に磨滅痕あり
	107－5	〃	ホルンフェルス(砂質)	11.6	4.2	1.3	119	〃	両面に研磨痕あり
	107－6	〃	砂岩	13.3	9.4	2.1	255	〃	
	107－7	〃	〃	8.05	6.0	1.5	72	〃	基部に磨滅痕あり
18号住	108－6	石鏃	〃	9.5	5.6	1.65	88	〃	廃棄場よりの流入か？
19号住	111－3	石鏃	ホルンフェルス(砂質)	3.8	1.7	0.2	3	床面	
	111－4	〃	〃	3.95	2.5	0.2	4	〃	未完成品か？
23号住	114－6	石匙	砂岩	5.7	10.6	0.9	76	床面直上	流入したものか？
	114－7	不定形石器	黒曜石	7.8	2.9	0.95	14	〃	〃

第11表　弥生時代の遺構出土鉄器観察表

遺構	図版No.	分類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備考
19号住	111－2	不明	2.6	3.85	0.6	6	覆土中層	流入したものか？
7号周	121－1	鉄鏃	2.45	2.6		4	覆土中層	流入したものか？

第12表　奈良・平安時代の遺構出土鉄器観察表

遺　構	図版No	分　類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備　考
6号住	12-11	鏃	16.1	3.1	0.4	34.0	床面直上	左脚に「返し」が付く
11号住	14-24	不　明	3.55	0.6	—	1.0	カマド	
12号住	16-12	刀　子	12.8	1.0	0.5	7.0	床面	
20号住	15-4	鏃	14.7	3.05	0.5	36.0	床面直上	
36号住	16-24	刀　子	13.0	1.1	0.5	10	覆土中層	
39号住	16-8	〃	—	1.0	0.45	(3)	〃	一部欠損
	16-9	〃	12.3	1.2	0.5	10	〃	

第13表　出土鉄滓一覧表

No.	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備　考
1	3.0	2.1	1.7	9	6住床面直上	
2	7.0	5.6	2.9	140	9住覆土（上）	
3	2.7	2.0	2.0	11	17住覆土（上）	
4	7.2	6.5	2.6	100	〃	
5	6.8	5.1	2.7	54	〃	
6	8.6	5.9	4.4	214	〃	
7	5.9	5.9	4.1	152	BQ-32	17住西側
8	6.8	6.7	2.7	69	BS-30	17住北側
9	6.5	4.6	3.5	139	22住覆土（上）	
10	5.1	4.9	2.4	35	〃	
11	5.5	5.1	3.8	99	〃	
12	3.4	3.0	1.3	14	BE・F-29・30	

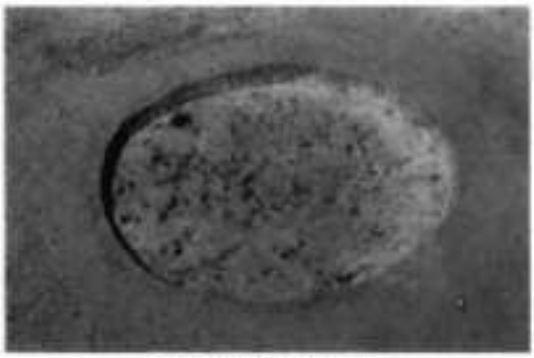
第14表　遺構外出土石器観察表

図版No.	分　類	石　質	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備　考
図-1	凹　石	砂　岩	9.9	7.4	2.75	351	BW-34	
図-2	〃	〃	9.0	8.0	14.4	396	BT-24	
図-3	〃	〃	7.46	(7.2)	2.4	(204)	BS-33	一部欠損
図-4	磨　石	ホルンフェルス(硬質)	13.0	5.35	1.65	(165)	BN-19	〃
図-5	磨製石斧	ホルンフェルス(砂質)	18.1	(3.7)	4.6	(463)	BA-20	1/2程欠損、刃部磨滅痕あり
図-6	〃	〃	9.65	4.2	1.55	(115)	BL-18	基端一部欠損、刃部磨滅痕あり
図-7	〃	〃	(5.2)	(4.1)	(1.2)	(24)	BJ-15	基部欠損、刃部磨滅痕あり

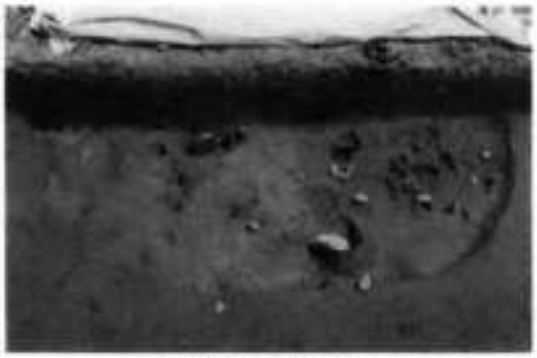
第15表　遺構外出土鉄器観察表

図版No.	分　類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土位置	備　考
図-1	鏃	14.6	4.1	0.5	42	BQ・R-27・28	
図-2	〃	8.8	2.8	0.4	10	BN・O-30・31	「返し」が付く
図-3	鉄　棒	13.85	0.6		16	BO・P-24・25	
図-4	〃	5.1	0.6		4	BO・P-24・25	
図-5	〃	6.0	1.5		5	BD・E-7・8	

図　版



3号住居址（東方より）

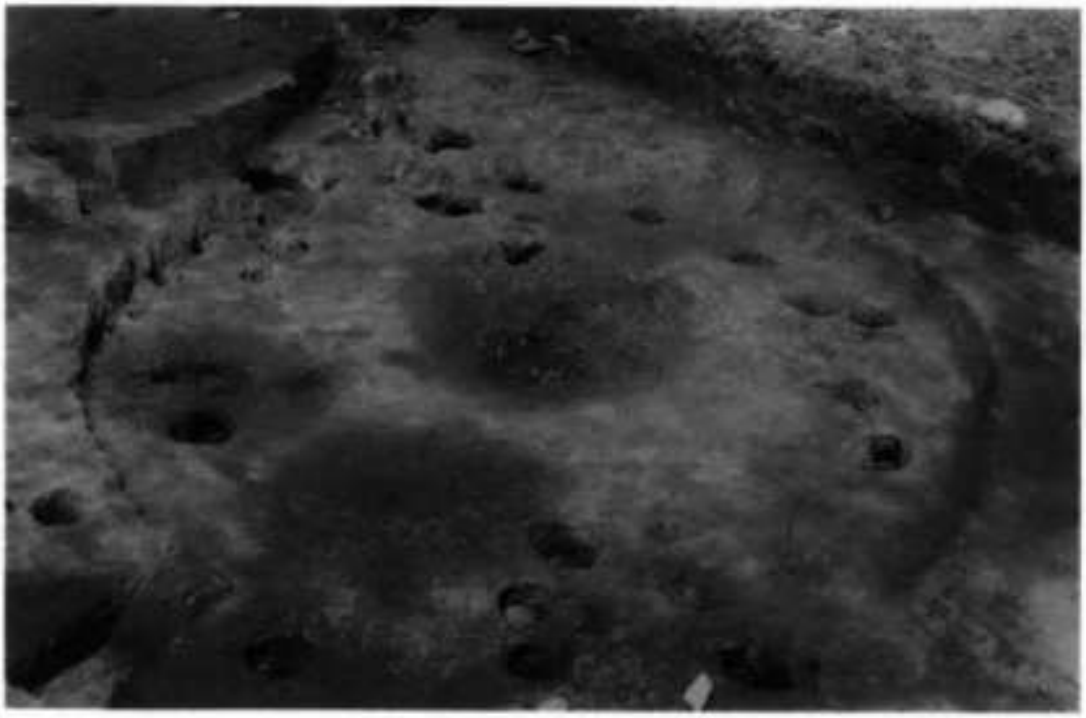


5号住居址（南方より）

24号住居址（北方より）

24号住居址 炉址

図版 2

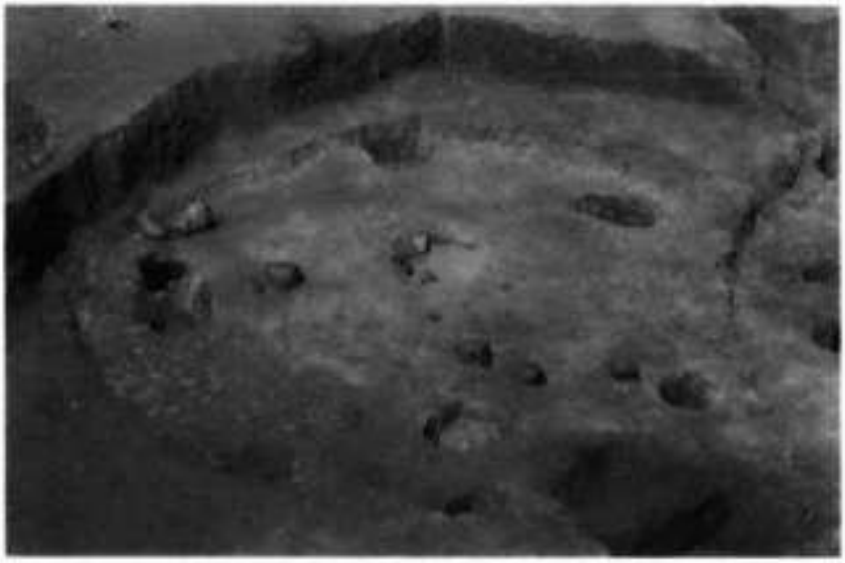


25号住居址（南方より）

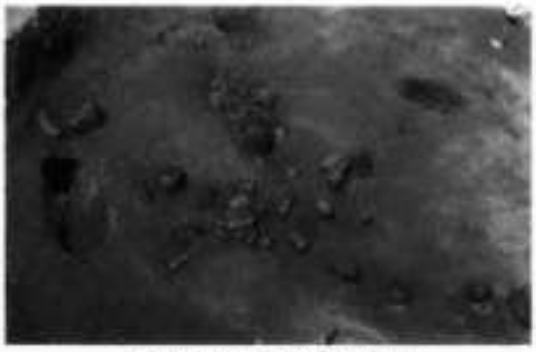
25号住居址 土層断面（南方より）

25号住居址 遺物出土状態

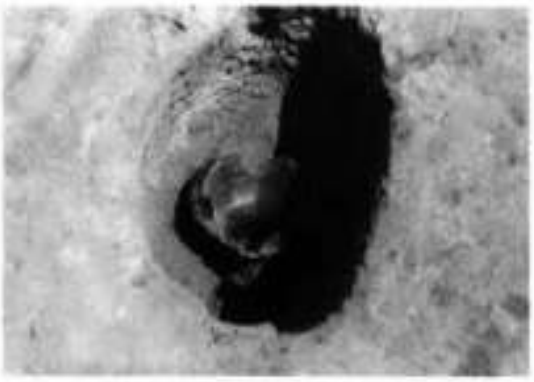
25号住居址 炉址



27号住居址（南方より）



27号住居址 遺物出土状態



27号住居址 土坑14 遺物出土状態

28号住居址

28号住居址 遺物出土状態

図版 4

30号住居址（南方より）

30号住居址 炉址

30号住居址 遺物出土状態

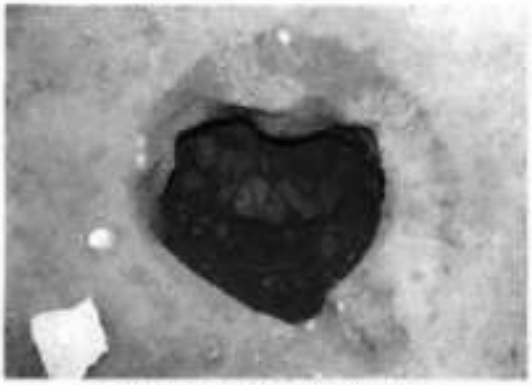
31号住居址（南方より）

31号住居址 炉址

32・33号住居址（南方より）

32号住居址 炉址

32号住居址 遺物出土状態



33号住居址 土坑17 遺物出土状態

33号住居址 遺物出土状態

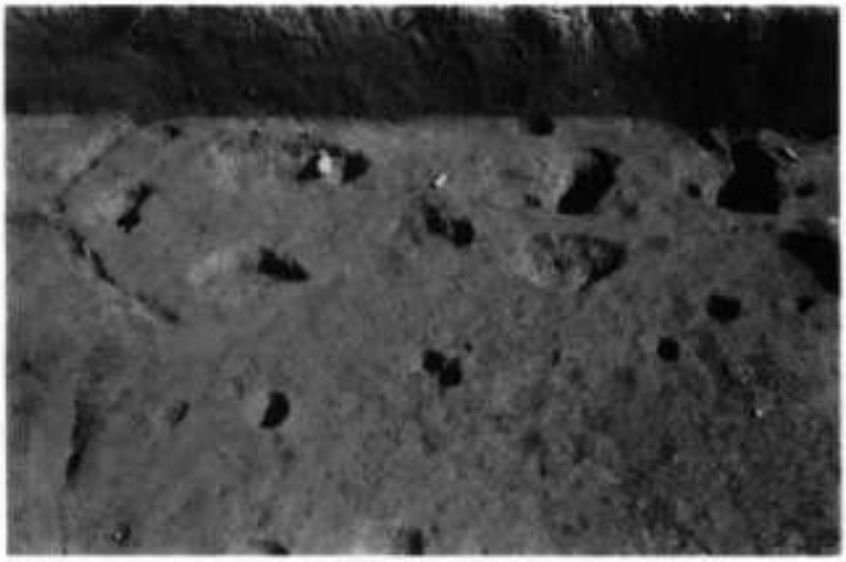
図版 6

34号住居址（東方より）

34号住居址 炉址

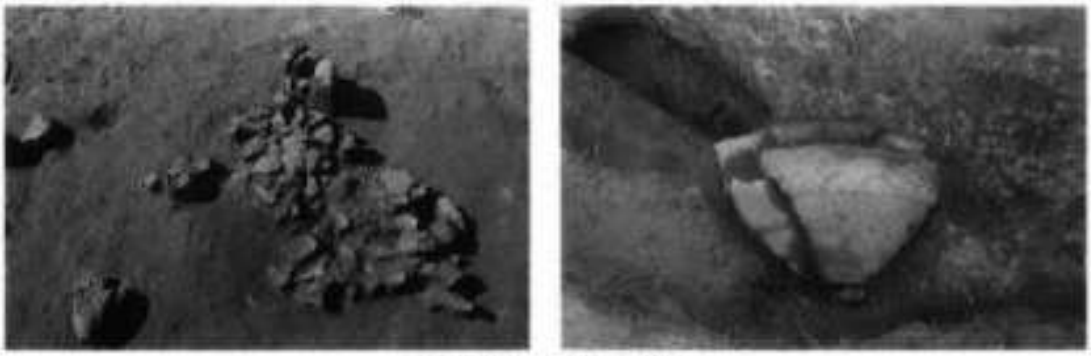
34号住居址 遺物出土状態

34号住居址 遺物出土状態



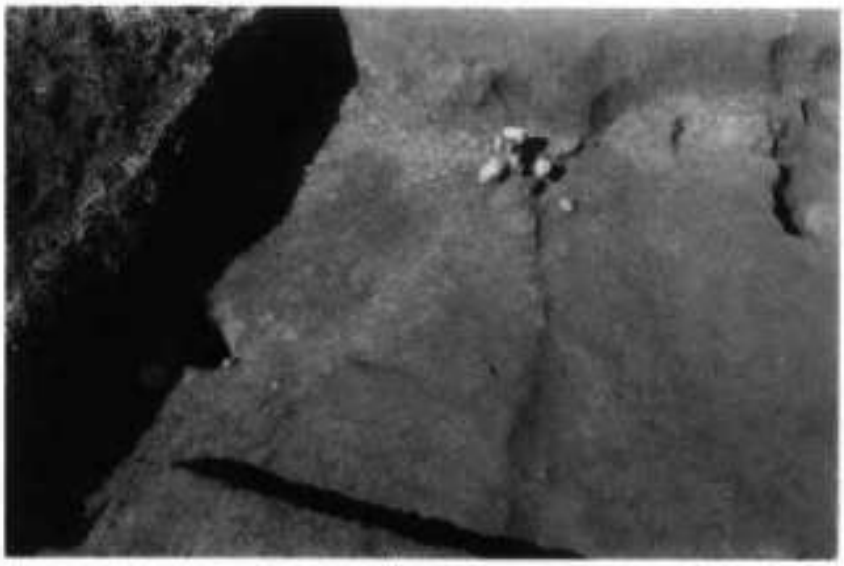
35号住居址（南方より）

37号住居址（東方より）



37号住居址 遺物出土状態

図版 8



36・39・40号住居址（東方より）

40号住居址 遺物出土状態

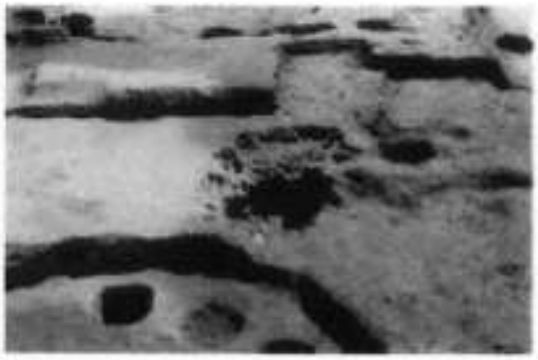
40号住居址 土層断面

41号住居址（東方より）

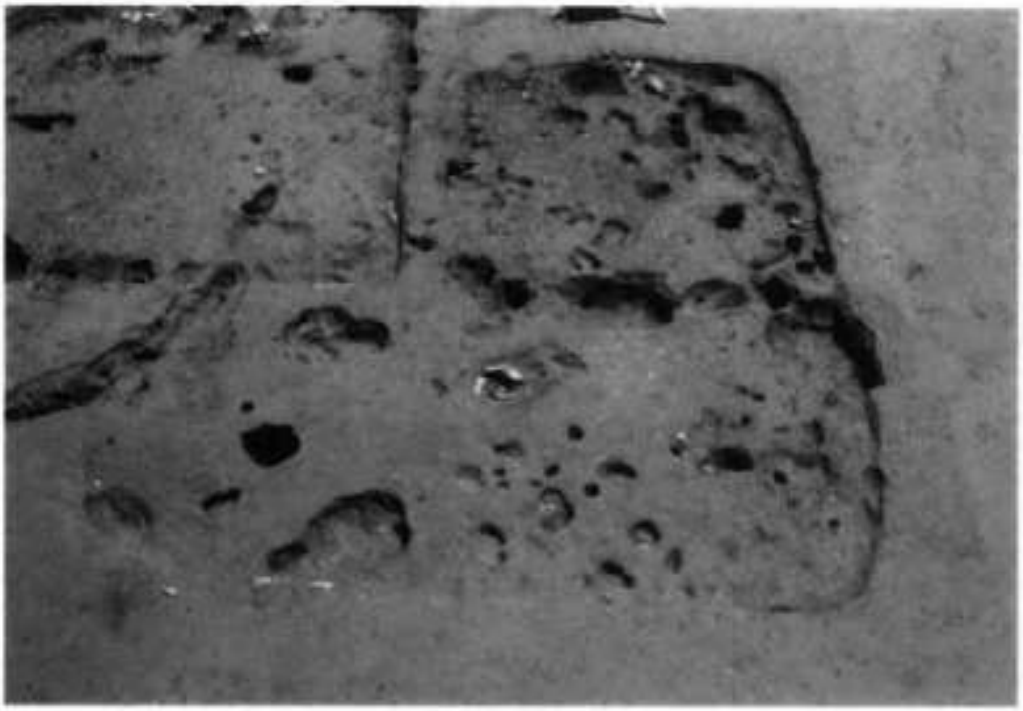
特殊遺構（東方より）

特殊遺構 遺物出土状態

図版10



配石址

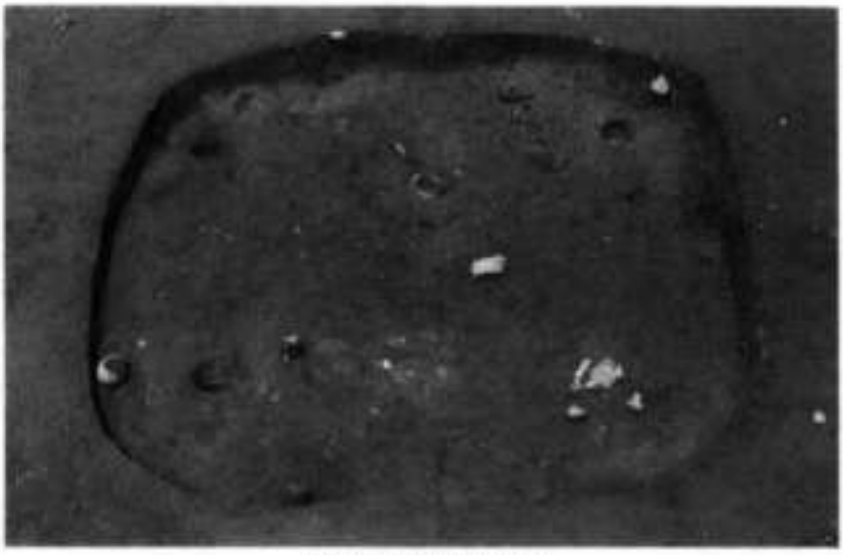


4号住居址（西方より）

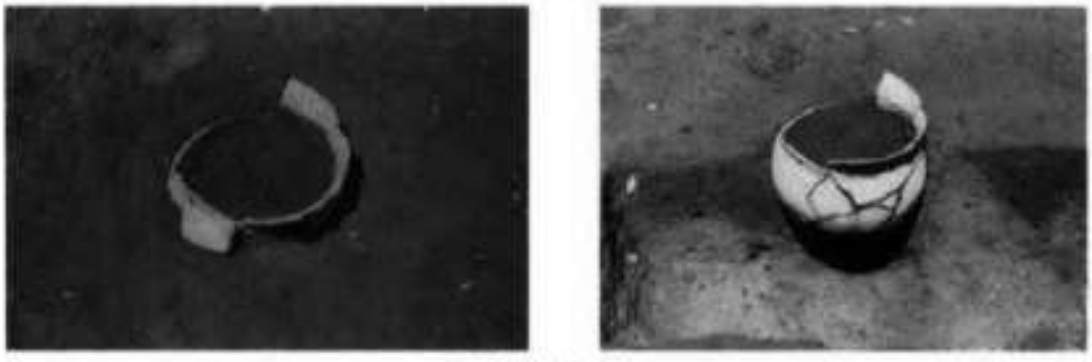
4号住居址 炉址

4号住居址 遺物出土状態

16号住居址（西方より）



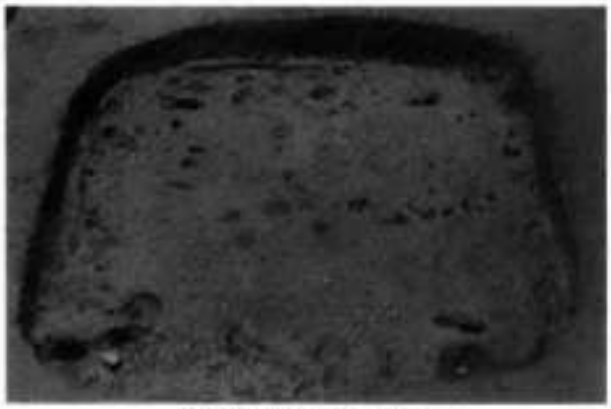
18号住居址（東方より）



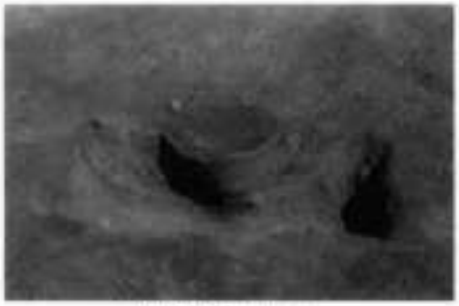
18号住居址 炉址

図版12

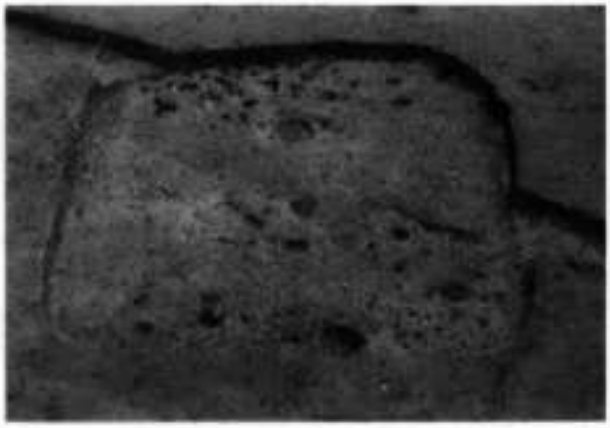
18号住居址 遺物出土状態



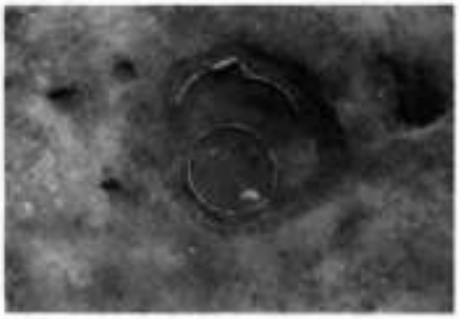
19号住居址（東方より）



19号住居址 炉址



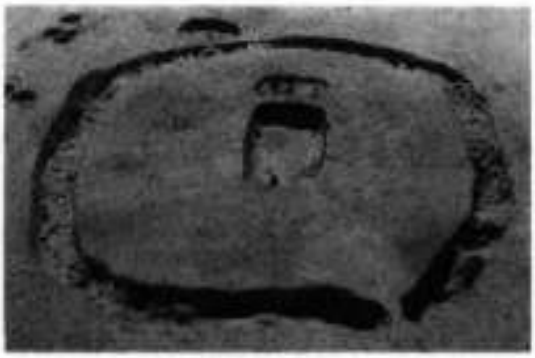
23号住居址（西方より）



23号住居址 炉址

23号住居址 遺物出土状態

1号周溝墓（南方より）



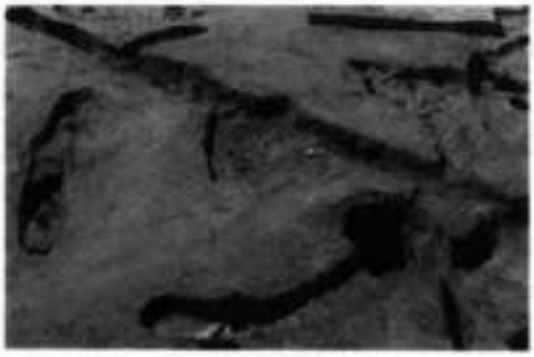
2号周溝墓（東方より）

3号周溝墓（A地区南方より）

4号周溝墓

5号周溝墓（西方より）

6号周溝墓（西方より）

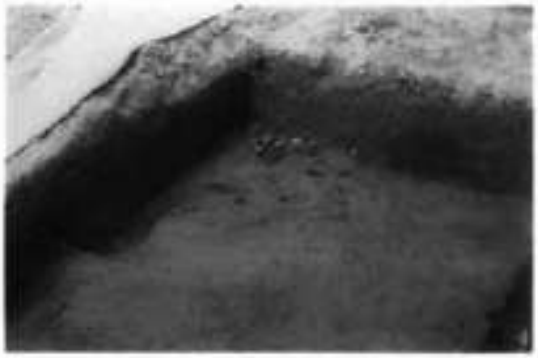


7号周溝墓（東方より）

9号周溝墓

図版14

1号住居址（東方より）

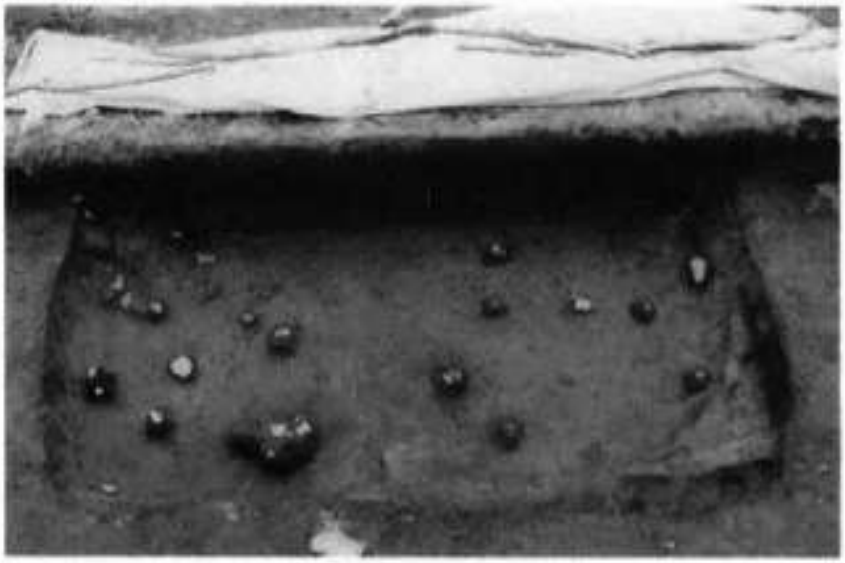


2号住居址（東方より）

6号住居址（西方より）

6号住居址 カマド周辺 遺物出土状態（東方より）

6号住居址 遺物出土状態



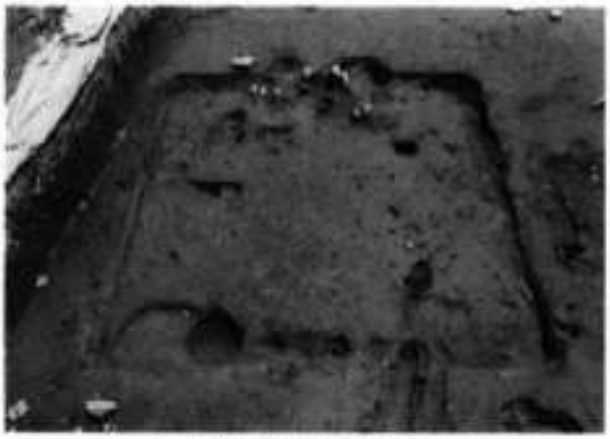
8号住居址（北方より）

9号住居址（西方より）

9号住居址 カマド袖部分

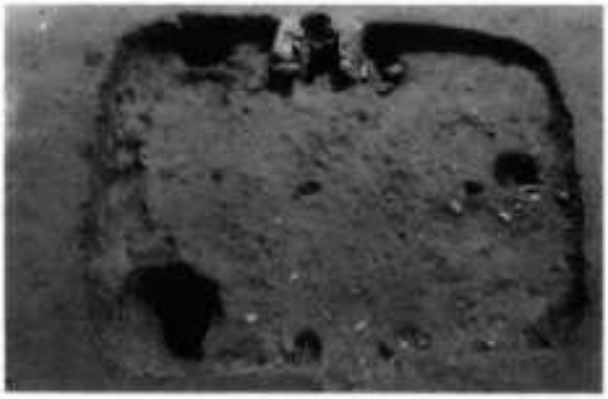
9号住居址 遺物出土状態

図版16



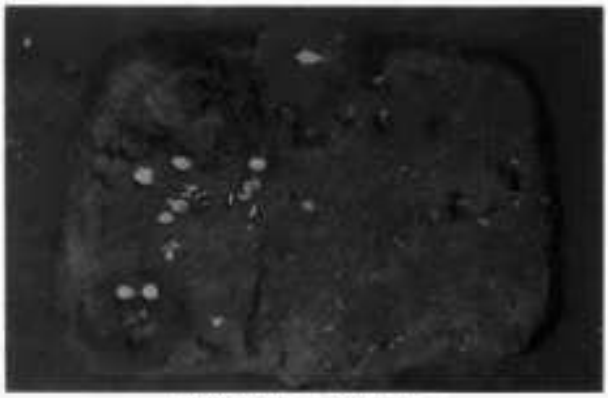
10号住居址（西方より）

10号住居址 カマド



11号住居址（西方より）

11号住居址 カマド



11号住居址 遺物出土状態

11号住居址 カマド

11号住居址 カマド（上方より）

12号住居址（南方より）

15号住居址（東方より）

15号住居址 カマド

15号住居址 カマド断面

15号住居址 遺物出土状態

15号住居址、遺物出土状態

図版18

17号住居址（西方より）

17号住居址 カマド

20号住居址（西方より）

20号住居址 カマド

21・22号住居址（東方より）

20号住居址 遺物出土状態

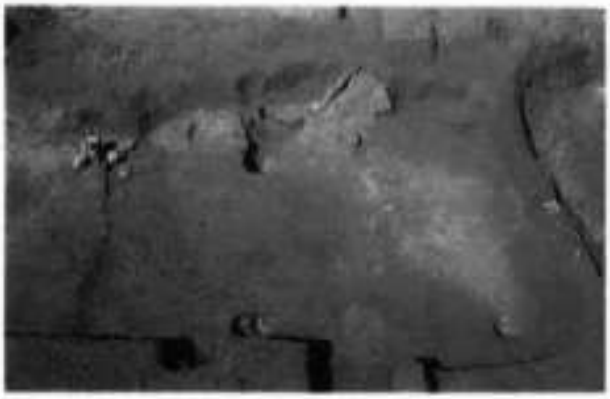
21号住居址 遺物出土状態

21号住居址 カマド

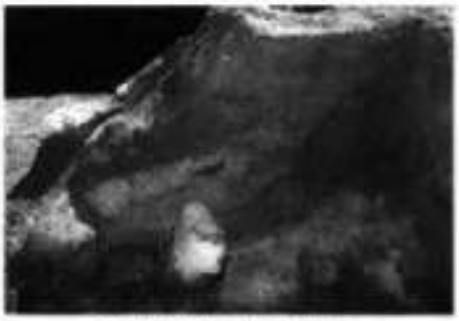
21号住居址 カマド

26号住居址（東方より）

26号住居址 カマド



36・39号住居址（東方より）



36号住居址 カマド断面

36号住居址 カマド

36号住居址 遺物出土状態

図版20

36号住居址 遺物出土状態

39号住居址 カマド

土坑1

土坑1 土層断面

A区 掘立柱建物址 柱穴遺構

1. 13号住居址 出土土器　2. 24号住居址 炉址埋設土器
3. 25号住居址 炉址埋設土器　4～8. 25号住居址 出土土器

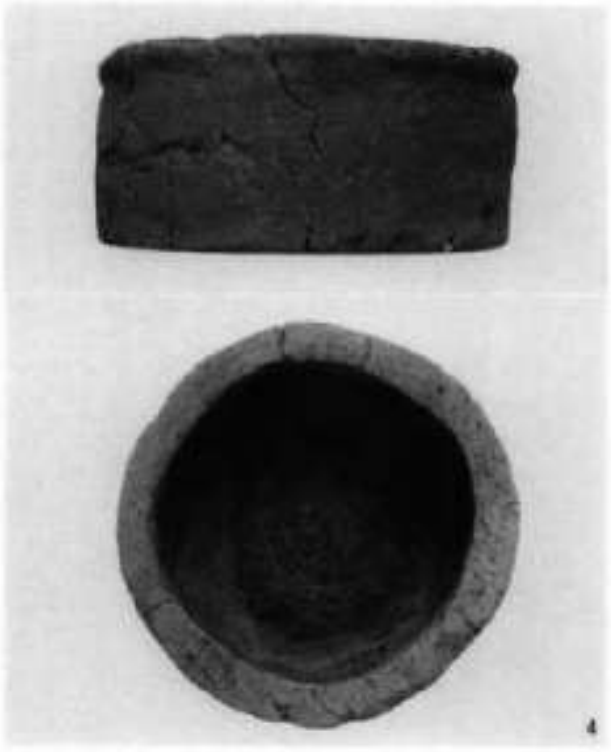
図版22

1～6. 27号住居址 出土土器　8～9. 28号住居址 出土土器

1.～3. 30号住居址 出土土器　4. 30号住居址 炉址埋設土器　5.－6. 32号住居址 出土土器

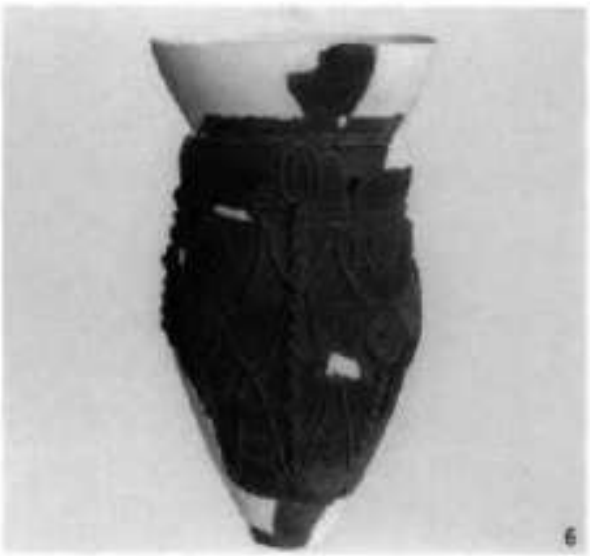
図版24

1—8. 32号住居址 出土土器　9. 32号住居址 炉址埋設土器

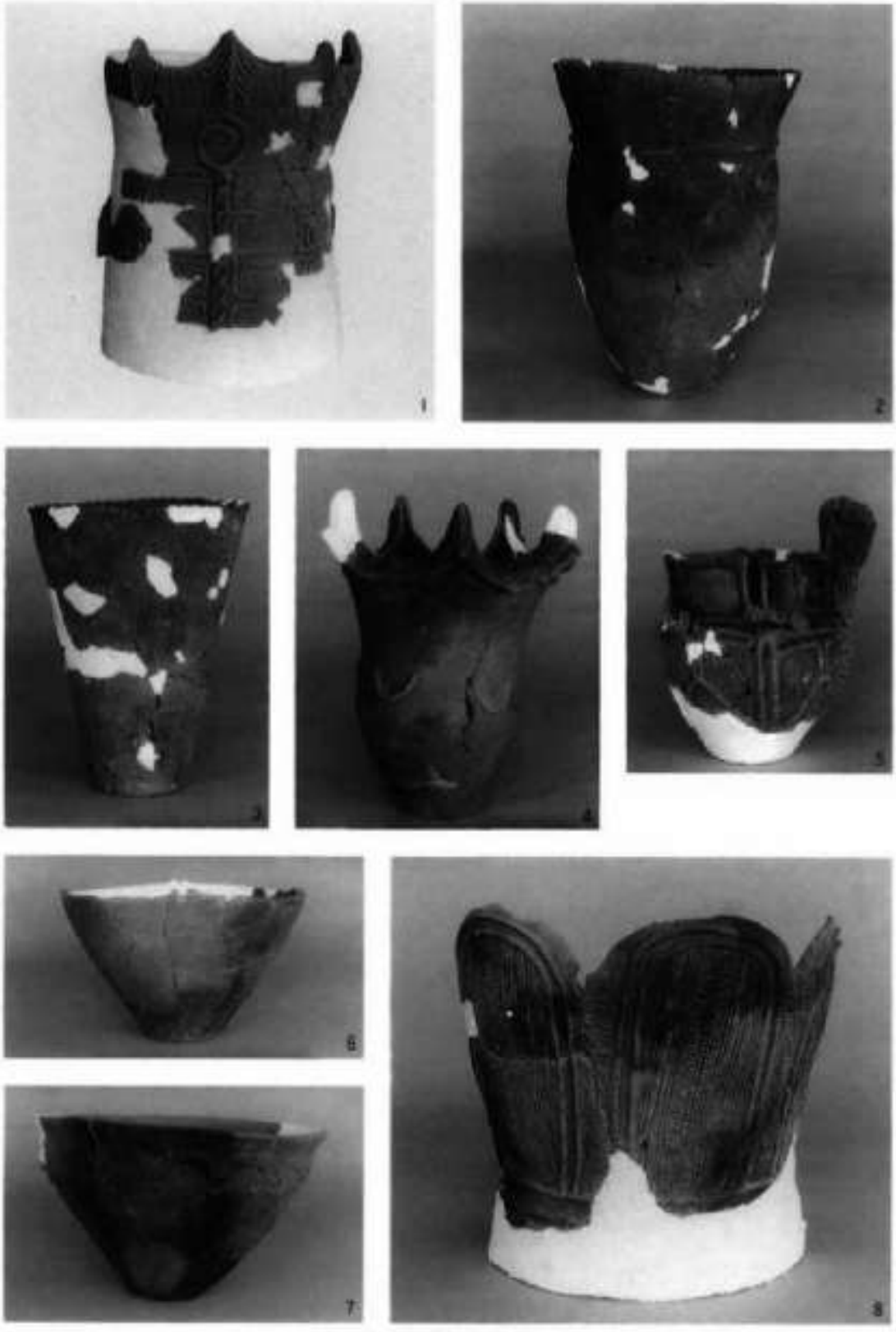


1. 32号住居址 出土土器　2.—3. 33号住居址 出土土器
4. 33号住居址 出土土器　5.—7. 34号住居址 出土土器

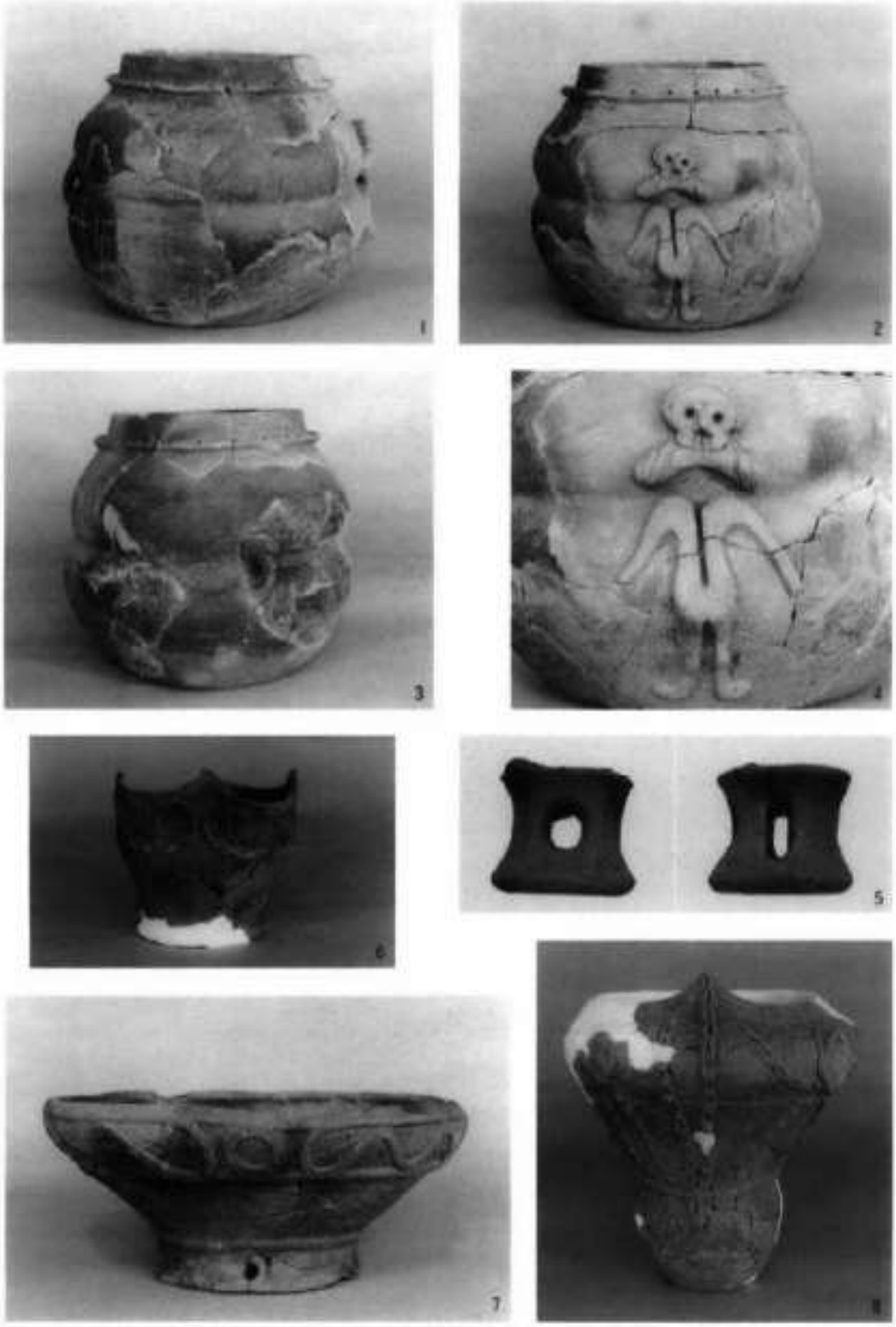
図版26



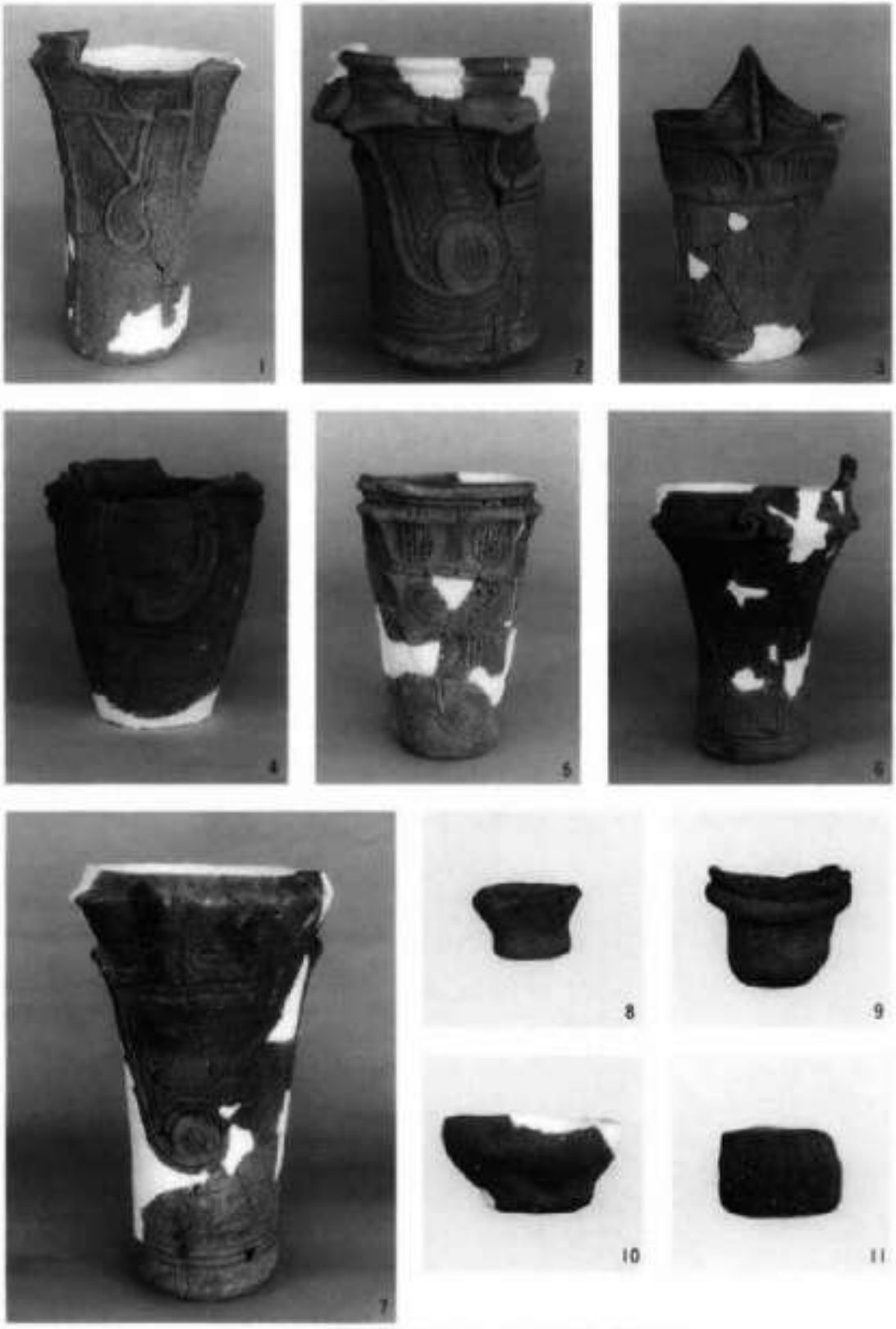
1. 34号住居址 炉址埋設土器　2.~3. 34号住居址 出土土器
4.~5. 35号住居址 出土土器　6. 37号住居址 出土土器



1.—8. 37号住居址 出土土器

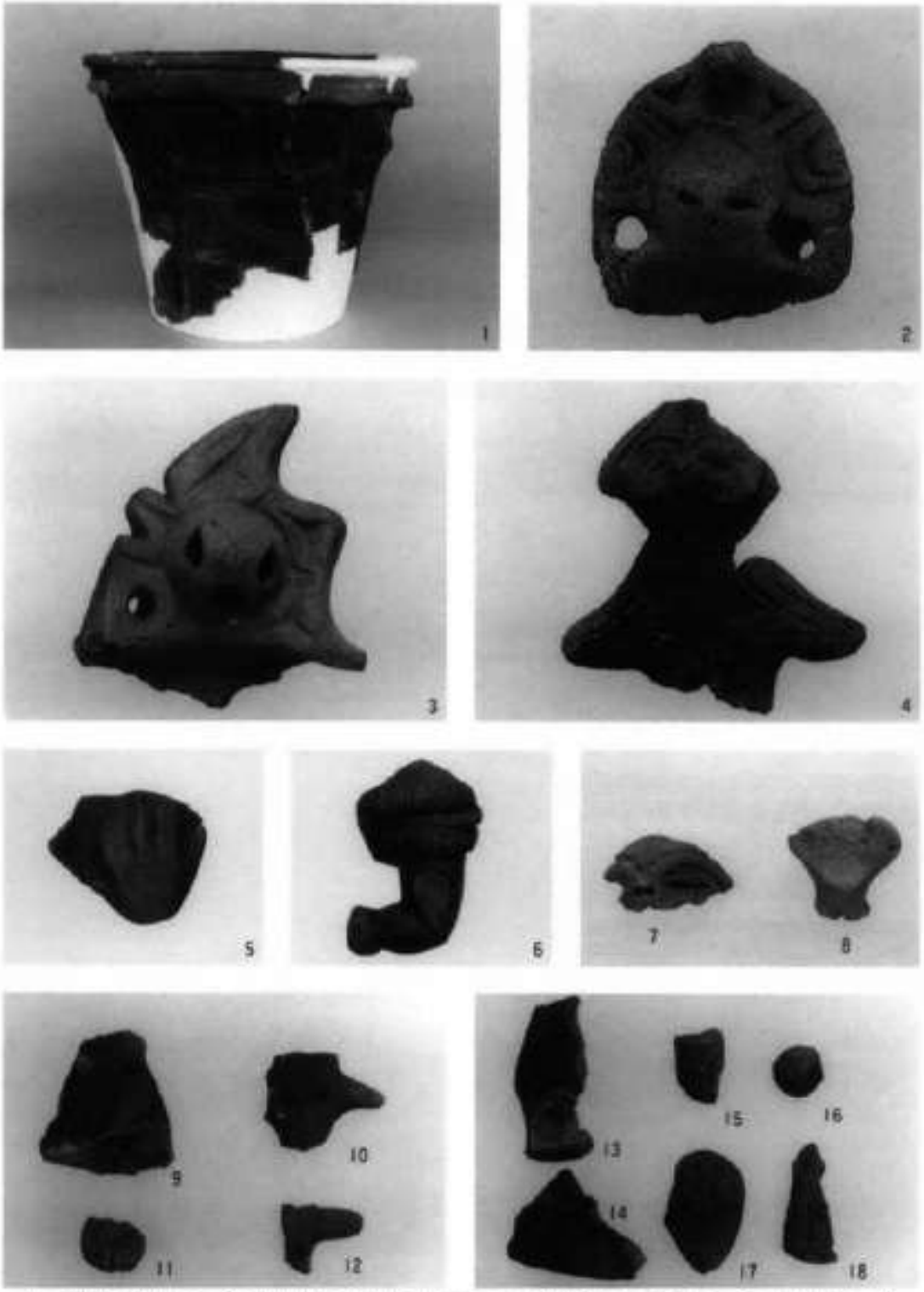


1.～5. 40号住居址 出土土器　6. 41号住居址 出土土器　7.～8. 特殊遺構 出土土器

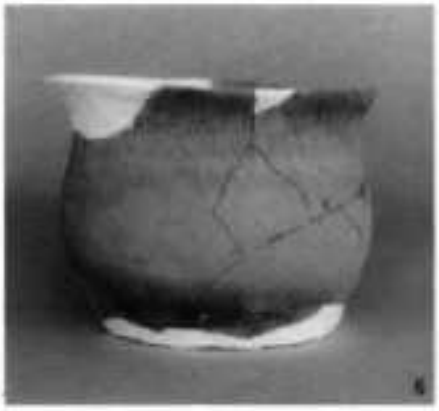


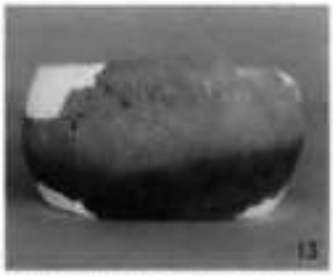
1.－7. 特殊遺構 出土土器　8.－11. 配石址 出土土器

図版30



1. 土坑27 出土土器　2. 25号住居址 出土顔面把手　3. 34号住居址 顔面把手　4. 34号住居址 出土土偶　5.～6. 土器廃棄場 出土土製品　7.～8. 土器廃棄場 出土土偶(頭部)　9.～11. 土器廃棄場 出土土偶（脚部）　12. 35号住居址 出土土偶（胸部）　13.～15. 32号住居址 出土土偶（脚部）　16. 34号住居址 出土土偶（脚部）　17.～18. 土器廃棄場 出土土偶（脚部）

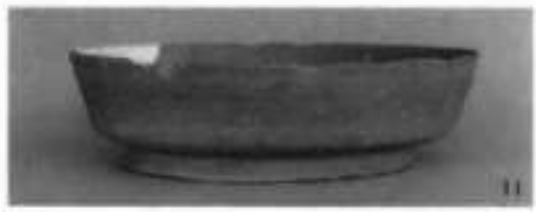




1. 4号住居址 炉址埋設土器　2. 4号住居址 出土土器　3.～4. 16号住居址 出土土器　5. 16号住居址出土土製品　6. 18号住居址 炉址埋設土器　7.～8. 18号住居址 出土土器　9. 19号住居址 炉址埋設土器　10.～11. 23号住居址 出土土器　12.～13. 23号住居址 炉址埋設土器

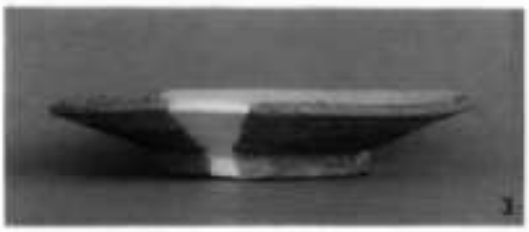
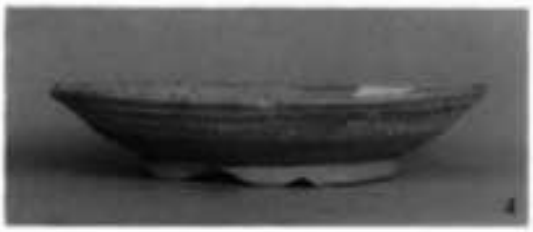
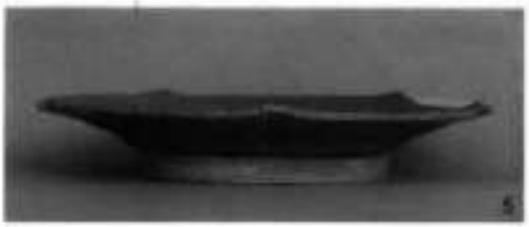
図版32

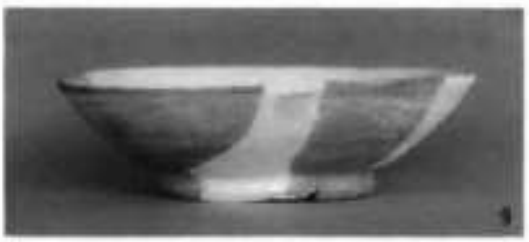
1. 1号住居址 出土土器 2～3. 6号住居址 出土土器 4. 8号住居址 出土土器 5. 8号住居址 出土転用硯 6. 9号住居址 出土土器 7. 11号住居址 出土土器 8～11. 11号住居址 出土陶器



1.～8. 11号住居址 出土陶器　9. 11号住居址 出土土器　10.～12. 12号住居址 出土土器

図版34

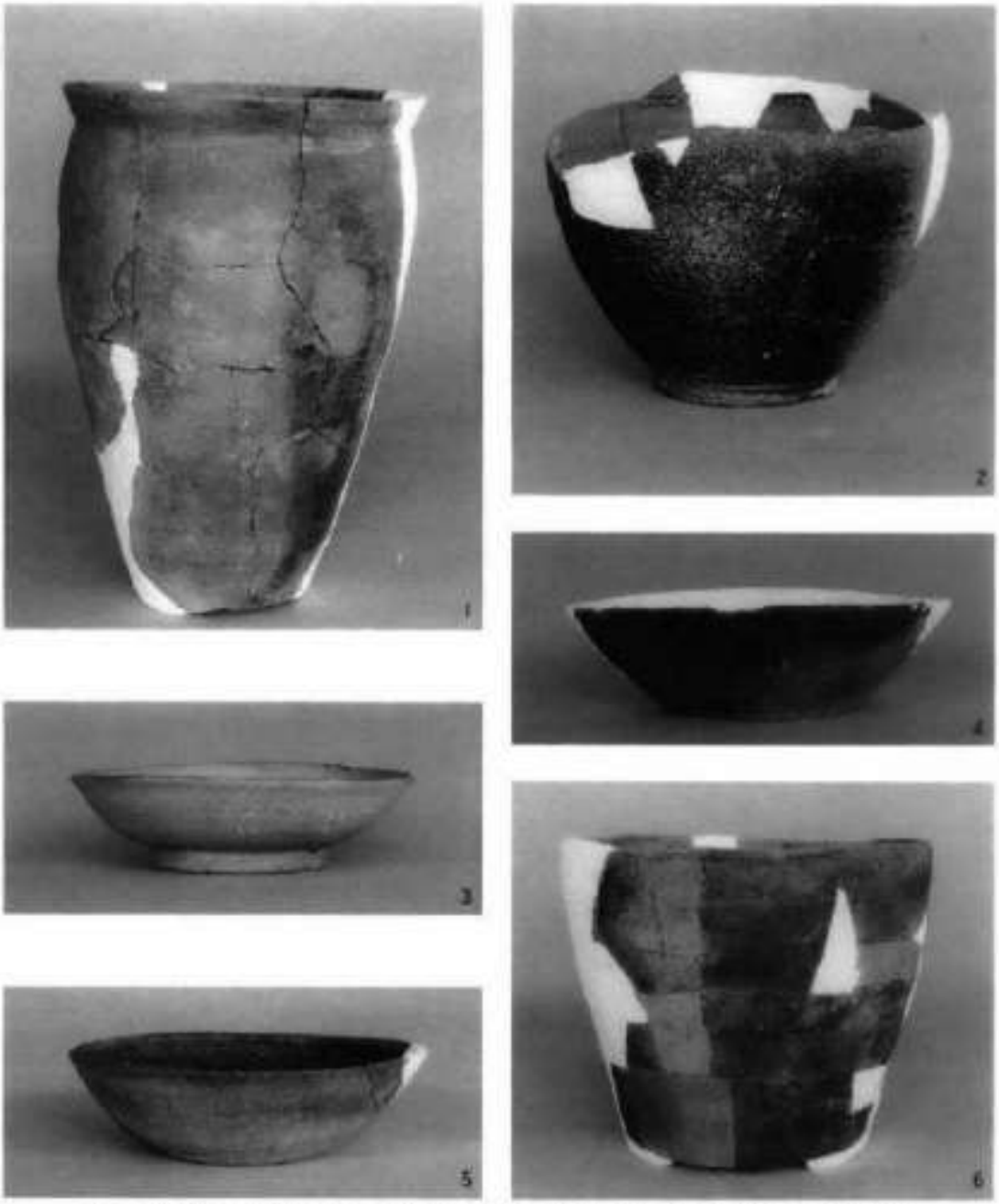






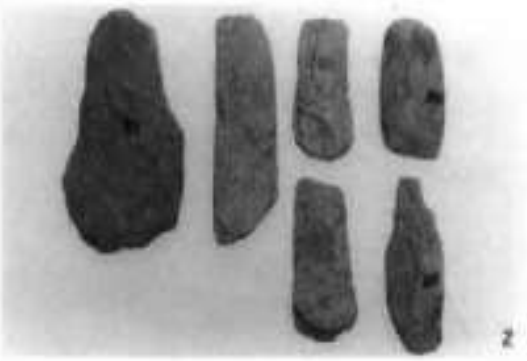
1. 15号住居址 出土土器　2.－11. 15号住居址 出土陶器

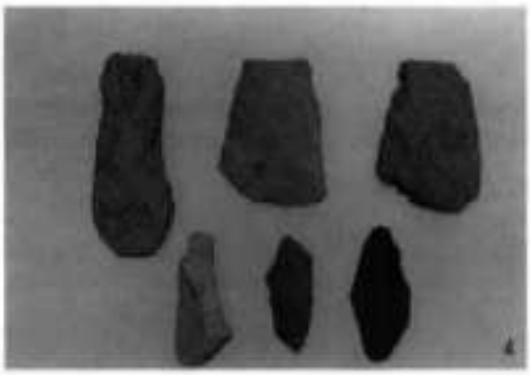
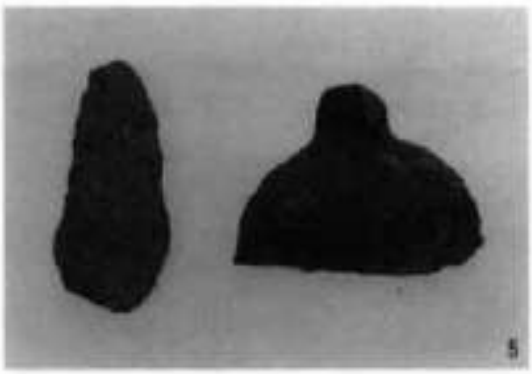
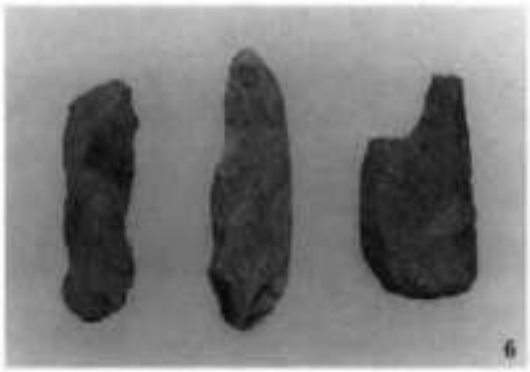
1.～2. 17号住居址 出土土器　3. 29号住居址 出土土器
4.～7. 21号住居址 出土土器　8.～11. 22号住居址 出土土器

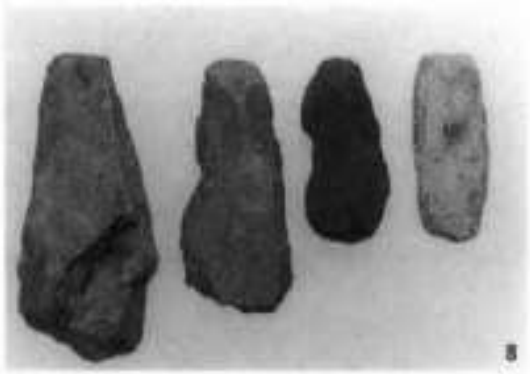
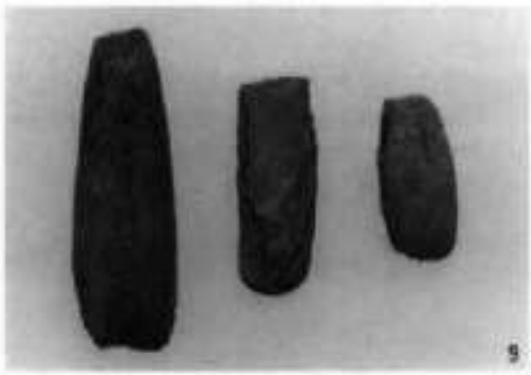
図版36



1.－2. 26号住居址 出土土器　3. 36号住居址 出土陶器　4.－6. 36号住居址 出土土器

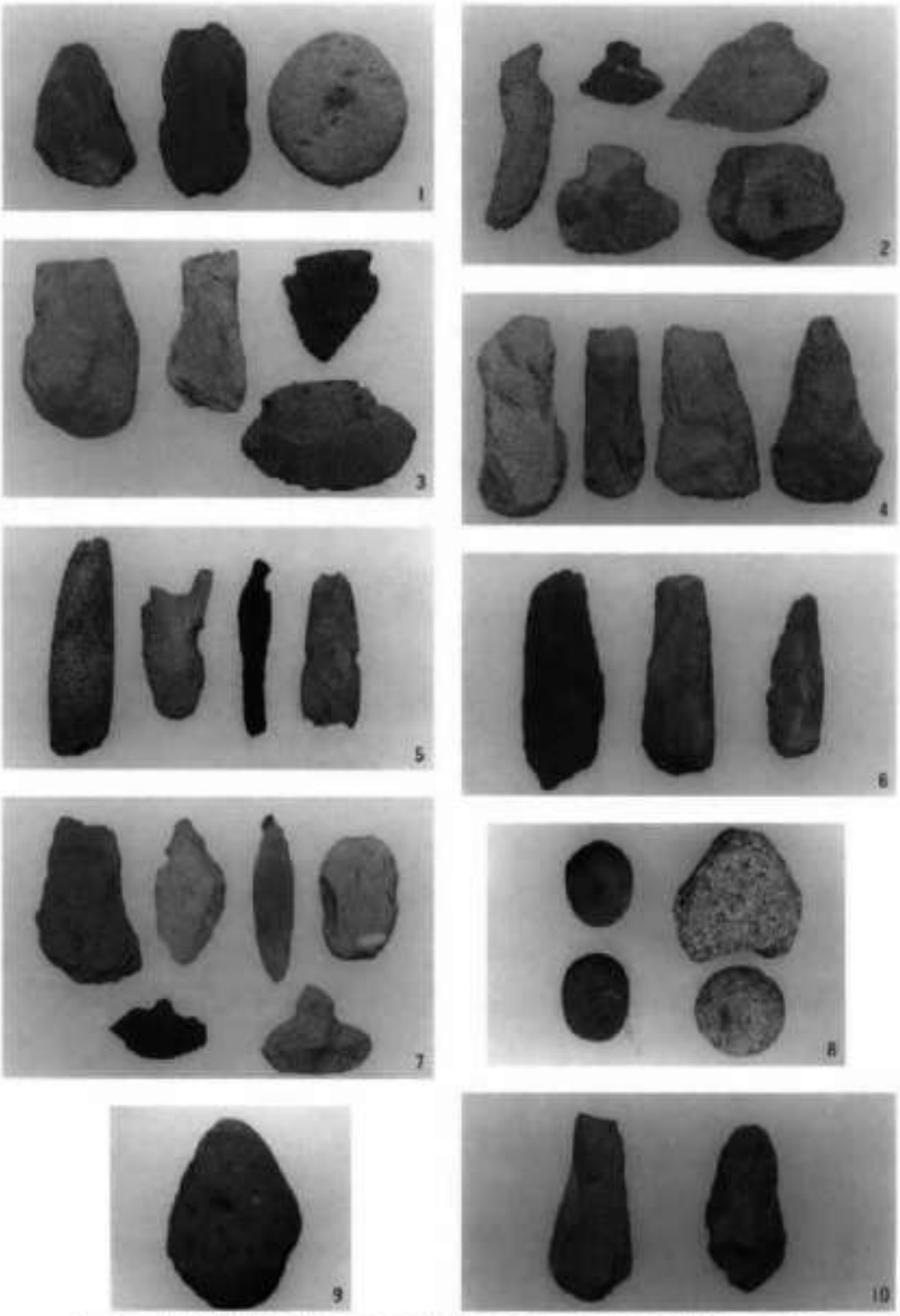


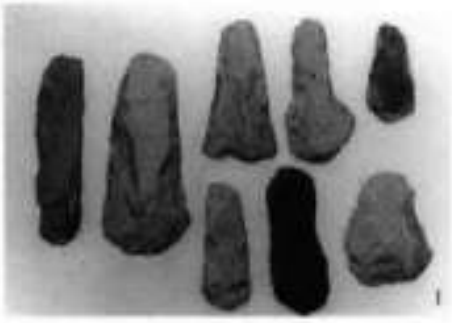



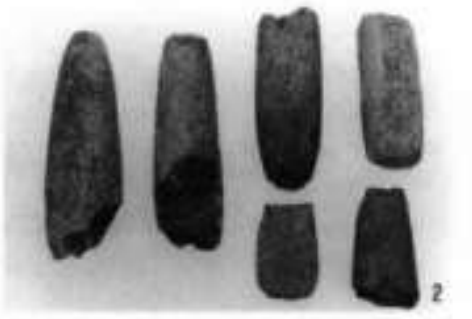
1. 5号住居址 出土石器　2. 13号住居址 出土石器　3. 24号住居址 出土石器
4. 25号住居址 出土石器　5. 27号住居址出土石器　6. 28号住居址 出土石器
7. 30号住居址 出土石器　8～9. 32号住居址 出土石器

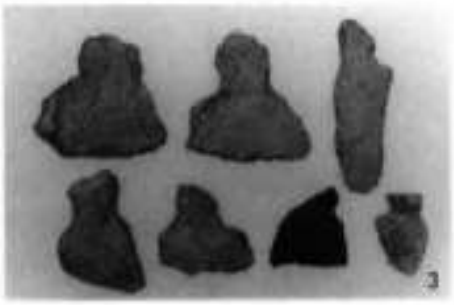
図版38

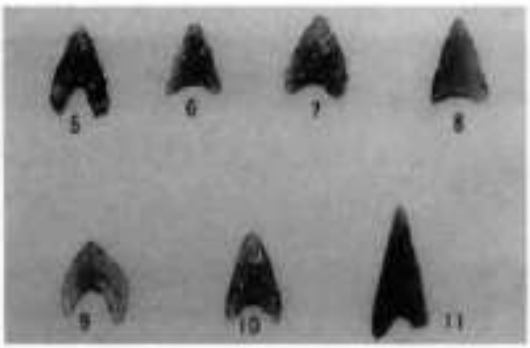


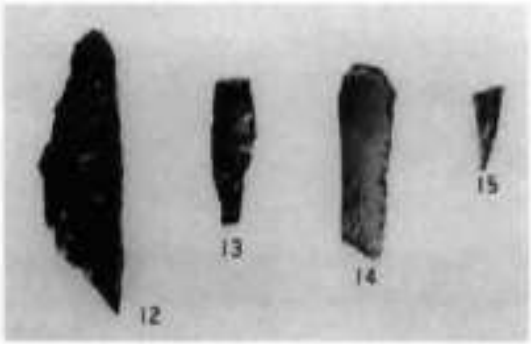
1.～2. 32号住居址 出土石器　3. 33号住居址 出土石器　4.～5. 34号住居址 出土石器
6. 35号住居址 出土石器　7.～8. 37号住居址 出土石器　9.～10. 41号住居址出土石器





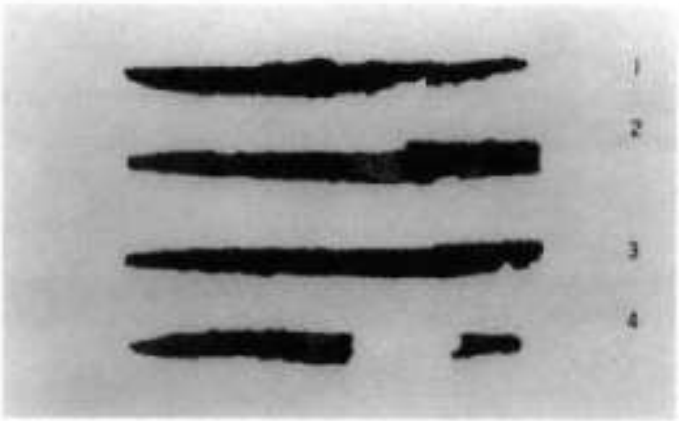


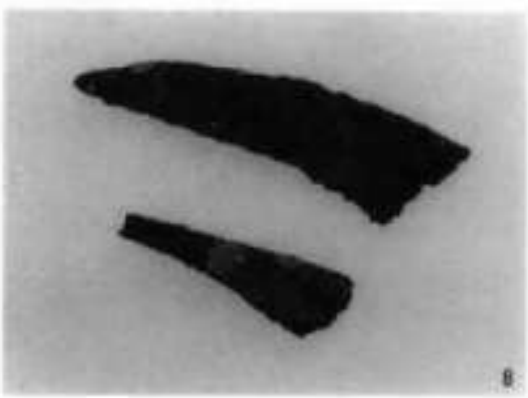


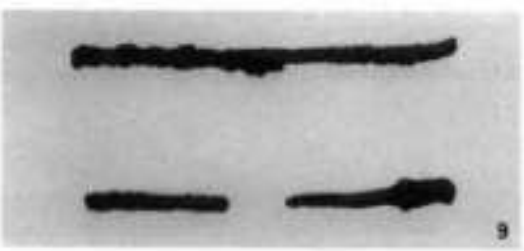


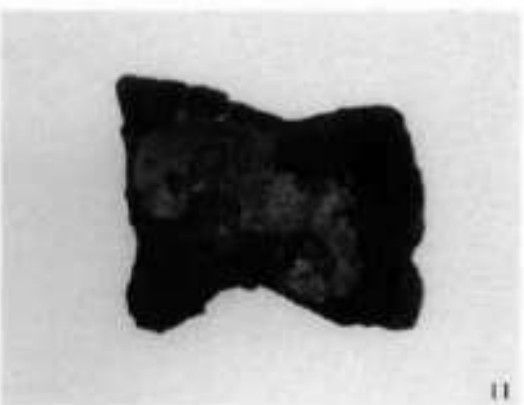
1－4. 土器廃棄場 出土石器　5. 27号住居址 出土石鏃　6. 29号住居址 出土石鏃　7. 41号住居址 出土石鏃　8－11. 土器廃棄場 出土石鏃　12. 23号住居址 出土不定形石器　13. 34号住居址 出土石鏃　14. 土器廃棄場 出土石匙　15. 土器廃棄場 出土不定形石器　16. 16号住居址 出土石器　17. 18号住居址 出土石器　18. 19号住居址 出土石鏃10　19. 23号住居址 出土石器

図版40









1. 12号住居址 出土鉄製品　2.～3. 36号住居址 出土鉄製品　4. 39号住居址 出土鉄製品　5. 11号住居址 出土鉄製品　6. 20号住居址 出土鉄製品　7. 6号住居址 出土鉄製品　8.～9. 遺構外 出土鉄製品　10. 調査地内 出土鉄滓　11. 19号住居址 出土鉄製品　12. 7号周溝墓 出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな	くぼうえのたいらいせき
書名	久保上ノ平遺跡
副書名	墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	南箕輪村埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	友松 諭
編集機関	南箕輪村教育委員会
所在地	〒399－45 長野県上伊那郡南箕輪村4840番地1 TEL (0265) 76－7007
発行年月日	1997年9月1日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
久保上ノ平遺跡 (くぼうえのたいらいせき)	長野県上伊那郡 南箕輪村(みなみみのわむら)1164- 1他7筆	20385	25	35° 53′ 28″	137° 58′ 59″	19940406 ～ 19940920	3,000㎡	墓地公園及び宅地造成に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保上ノ平	集落址	縄文 弥生 奈良・平安	縄文 竪穴住居址 18軒 特殊遺構 配石遺構 土器廃棄場 弥生 竪穴住居址 5軒 周溝墓 9基 奈良・平安 竪穴住居址 16軒	深鉢型土器 浅鉢型土器 ミニチュア土器 有孔鍔付土器 台付浅鉢型土器 手を表現した土器片 転用硯 器台土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 鉄器	縄文時代中期中葉の土器が配列された特殊な屋外遺構を検出した。また、住居址内より人体の全身が表現された有孔鍔付土器が出土する。 周溝墓9基を検出。

墓地公園及び宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

久保上ノ平遺跡

平成9年9月1日　発行

編　集　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

発　行　長野県上伊那郡南箕輪村教育委員会

印　刷　はおずき書籍株式会社